

global-active device

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

4050-1J-U06-10

ストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 2024 Hitachi, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2024年3月 (4050-1J-U06-10)

目次

はじめに.....	13
対象ストレージシステム.....	14
マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン.....	14
対象読者.....	14
マニュアルで使用する記号について.....	15
「Thin Image Advanced」の表記について.....	15
「容量削減機能が有効なボリューム」について.....	15
発行履歴.....	15
1.global-active device の概要.....	19
1.1 global-active device とは.....	20
1.2 GAD の目的.....	20
1.2.1 サーバ I/O の継続（ストレージシステムに障害発生時）.....	20
1.2.2 ストレージシステムの操作なしでのサーバのフェイルオーバー/フェイルバック.....	21
1.2.3 ストレージシステムの操作なしでのサーバの仮想マシンの移動.....	21
1.2.4 GAD の目的と必要なシステム構成.....	23
1.3 GAD と global storage virtualization.....	25
1.3.1 仮想 ID とは.....	25
1.4 GAD の状態管理.....	26
1.4.1 GAD 状態.....	26
1.4.2 GAD 状態の遷移.....	28
1.4.3 GAD のペア状態.....	28
1.4.4 GAD の中断タイプ.....	29
1.4.5 GAD の I/O モード.....	30
1.4.6 GAD 状態とペア状態および I/O モードとの関係.....	31
1.5 GAD とサーバ I/O.....	32
1.5.1 GAD 状態が二重化のときのサーバ I/O.....	32
1.5.2 GAD 状態が二重化中、Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しないときのサーバ I/O.....	33
1.5.3 GAD 状態が中断のときのサーバ I/O.....	34
1.5.4 GAD 状態がブロックのときのサーバ I/O.....	35
1.6 Quorum ディスクとサーバ I/O.....	35
1.6.1 Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成.....	36
(1) 障害時の業務継続可否.....	37
(2) 外部ストレージシステムの準備コスト.....	39
1.6.2 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出したときのサーバ I/O.....	39

1.6.3 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出しなかったときのサーバ I/O.....	40
1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O との データ二重化の動作.....	40
(1) GAD ペアに対するサーバからの I/O と GAD ペアのデータ二重化の動作.....	41
1.6.5 Quorum ディスクの状態.....	42
1.7 GAD のコンシステンシーグループ.....	43
1.7.1 コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを操作する.....	43
1.7.2 障害発生時にコンシステンシーグループ単位で GAD ペアを中断させる（協調サスペンド）.....	44
1.7.3 コンシステンシーグループのユースケース.....	45
(1) 一括フェイルオーバー.....	46
(2) 一貫性のあるバックアップデータからの業務再開.....	47
1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード.....	49
1.8.1 リモートパス障害時 IO 優先モードの要件と仕様.....	52
1.9 GAD の構成要素.....	52
1.10 GAD のコピーの種類.....	54
1.11 GAD の運用を開始するまでの流れ.....	55
2.global-active device の要件.....	59
2.1 GAD の要件.....	60
3.global-active device の計画.....	67
3.1 GAD を使用するためのストレージシステムの準備.....	68
3.1.1 キャッシュメモリの確保とシェアメモリの増設および減設.....	68
(1) シェアドメモリの増設の流れ.....	68
(2) シェアドメモリの減設の流れ.....	69
3.1.2 GAD のシステムオプションモード.....	69
3.1.3 システム詳細設定.....	73
3.2 GAD のシステム性能の計画.....	74
3.2.1 優先パス/非優先パスの設定.....	74
(1) ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定.....	74
(2) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定.....	75
3.3 GAD の物理パスの計画.....	76
3.3.1 GAD に必要な帯域量.....	76
3.3.2 GAD のファイバチャネル接続.....	76
3.3.3 GAD の接続形態.....	78
(1) 直結の接続形態.....	78
(2) スイッチを使用した接続形態.....	79
(3) チャネルエクステンダを使用した接続形態.....	80
3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項.....	81
(1) リモートパスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	81
(2) 物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	81
(3) ポートに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	82
(4) ネットワークの設定に関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	83
3.3.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項.....	83
(1) リモートパスに関する注意事項（ファイバチャネルを使用するとき）.....	83
3.4 GAD の Quorum ディスクの計画.....	85
3.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの設置.....	85
3.4.2 Quorum ディスクとリモート接続の関係.....	86
(1) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係（Quorum ディスクを共有していない場合）.....	88

(2) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係 (Quorum ディスクを共有している場合)	89
3.4.3 Quorum ディスクとコンシステンシーグループの関係.....	89
3.4.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムからの応答時間に関する注意事項.....	91
3.4.5 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項.....	91
3.5 GAD のペアの計画.....	92
3.5.1 差分データの管理.....	92
3.5.2 GAD の最大ペア数の制限.....	92
(1) シリンダ数を算出する.....	93
(2) ビットマップエリアを算出する.....	93
(3) 最大ペア数を算出する.....	94
3.5.3 ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループのボリュームをセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成する場合の注意事項.....	94
3.5.4 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項.....	95
3.5.5 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項.....	96
4.global-active device と他の機能の併用.....	99
4.1 GAD と他の機能との併用可否.....	100
4.2 GAD と Dynamic Provisioning との併用.....	102
4.2.1 DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量.....	103
4.2.2 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量拡張.....	103
4.3 GAD と ShadowImage/Thin Image とを併用したときの運用例.....	103
4.4 GAD と ShadowImage との併用.....	104
4.4.1 GAD と ShadowImage を併用するときの制限事項.....	105
4.4.2 GAD 状態と ShadowImage のペア操作可否の関係.....	106
4.4.3 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのプライマリボリュームを ShadowImage と併用している場合)	109
4.4.4 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのセカンダリボリュームを ShadowImage と併用している場合)	111
4.5 GAD と Thin Image との併用.....	113
4.5.1 GAD と Thin Image を併用するときの制限事項.....	114
4.5.2 GAD 状態と Thin Image のペア操作可否の関係.....	115
4.5.3 Thin Image Advanced のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのプライマリボリュームを Thin Image Advanced と併用している場合)	117
4.5.4 Thin Image Advanced のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのセカンダリボリュームを Thin Image Advanced と併用している場合)	118
4.6 GAD と Universal Replicator との併用.....	120
4.6.1 GAD と Universal Replicator のペア操作可否の関係.....	121
4.7 GAD と Data Retention Utility との併用.....	124
4.7.1 GAD 状態とアクセス属性による I/O 可否の関係.....	124
4.8 GAD と Volume Migration との併用.....	125
4.8.1 GAD と Volume Migration を併用するときの制限事項.....	126
4.8.2 GAD 状態と Volume Migration のペア操作可否の関係.....	126
4.8.3 Volume Migration のペア状態と GAD のペア操作可否の関係.....	128
4.9 GAD と LUN Manager との併用.....	130
4.10 GAD と Volume Shredder との併用.....	130
4.11 GAD とエクスポートツール 2 との併用.....	130
4.11.1 エクスポートツール 2 に計上される GAD ボリュームへの I/O 数.....	131
4.11.2 エクスポートツール 2 に計上されるポートへの I/O 数.....	132

5.global-active device の環境構築手順.....	135
5.1 システム構成例.....	136
5.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例.....	136
5.1.2 副サイトのストレージシステムの構成例.....	137
5.1.3 サーバの構成例.....	138
5.1.4 外部ストレージシステムの構成例.....	139
5.2 GAD の環境構築の流れ.....	139
5.3 初期状態.....	139
5.4 外部ストレージシステムを準備する.....	140
5.5 物理パスが接続されていることを確認する.....	140
5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする.....	141
5.7 コマンドデバイスを作成する.....	141
5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する.....	142
5.9 RAID Manager を起動する.....	143
5.10 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する.....	144
5.11 Quorum ディスクを作成する.....	146
5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する.....	146
5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する.....	149
5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する.....	151
5.12 副サイトのストレージシステムを設定する.....	153
5.12.1 リソースグループを作成する.....	154
(1) プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されている場合のリソースグループの作成例.....	156
5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する.....	157
5.12.3 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想 LDEV ID を削除する.....	158
5.12.4 リソースグループにセカンダリボリューム用の LDEV ID を予約する.....	159
5.12.5 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる.....	161
5.12.6 ホストグループを作成する.....	162
(1) ホストグループ ID が 0 のホストグループにホストモードを設定する.....	162
(2) ホストグループ ID が 1 以降のホストグループを作成する.....	162
5.12.7 プールを作成する.....	164
5.12.8 ボリュームを作成する.....	166
5.12.9 セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する.....	167
5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する.....	168
5.13.1 RAID Manager のインスタンスを停止する.....	169
5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する.....	169
5.13.3 RAID Manager のインスタンスを再起動する.....	170
5.14 ALUA モードを設定する.....	170
5.15 GAD ペアを作成する.....	171
5.15.1 副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認する.....	171
(1) プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID が副サイトの仮想ストレージマシンで表示されたときには.....	172
5.15.2 GAD ペアを作成する.....	173
5.16 セカンダリボリュームへの冗長パスを追加する.....	175
5.17 クロスパスを非優先に設定する.....	176

6.global-active device と Universal Replicator を併用するときの環境構築手順.....	177
6.1 システム構成例.....	178
6.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例.....	178
6.1.2 GAD の副サイトのストレージシステムの構成例.....	179
6.1.3 UR の副サイトのストレージシステムの構成例.....	180
6.1.4 サーバの構成例.....	181
6.2 GAD と UR を併用するときのペア作成の順序.....	182
6.3 GAD と UR を併用するときの環境構築手順の流れ.....	182
6.4 UR ペア作成前の状態.....	182
6.5 UR の副サイトを準備する.....	183
6.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする.....	184
6.7 UR の副サイトのストレージシステムにコマンドデバイスを作成する.....	185
6.8 デルタリシンク用 UR ペアを作成する.....	186
6.8.1 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する.....	186
6.8.2 RAID Manager を起動する.....	186
6.8.3 GAD の副サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する.....	187
(1) リモート接続を追加する.....	188
6.8.4 GAD の副サイトのストレージシステムを設定する.....	189
(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する.....	189
(2) ジャーナルボリュームを作成する.....	191
(3) ジャーナルを作成する.....	191
6.8.5 UR の副サイトのストレージシステムを設定する.....	192
(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する.....	192
(2) ジャーナルボリュームを作成する.....	194
(3) ジャーナルを作成する.....	194
(4) プールを作成する.....	195
(5) ボリュームを作成する.....	196
(6) ホストグループを作成する.....	196
(7) セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する.....	197
6.8.6 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する.....	197
(1) RAID Manager のインスタンスを停止する.....	197
(2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する.....	198
(3) RAID Manager のインスタンスを再起動する.....	199
6.8.7 デルタリシンク用 UR ペアを作成する.....	199
6.9 UR ペアを作成する.....	201
6.9.1 正サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する.....	201
(1) リモート接続を追加する.....	202
6.9.2 正サイトのストレージシステムを設定する.....	202
(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する.....	203
(2) ジャーナルボリュームを作成する.....	204
(3) ジャーナルを作成する.....	205
6.9.3 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する.....	205
(1) RAID Manager のインスタンスを停止する.....	206
(2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する.....	206
(3) RAID Manager のインスタンスを再起動する.....	207
6.9.4 UR ペアを作成する.....	207
6.10 運用を開始する.....	208
7.global-active device ペアの操作.....	211
7.1 GAD ペアの操作とは.....	212

7.2 GAD ペアの操作全般に関する注意事項.....	212
7.3 GAD ペアを作成する.....	212
7.4 GAD ペアを中断する.....	214
7.4.1 ペアが中断状態時に ALUA モードを変更する.....	215
7.5 GAD ペアを再同期する.....	215
7.6 GAD ペアを削除する.....	217
7.7 GAD ペアを強制的に削除する.....	218
7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する.....	218
7.8.1 適用ケース 1.....	220
7.8.2 適用ケース 2.....	221
7.8.3 適用ケース 3.....	223
7.9 優先して使用するパスの設定を変更する.....	225
7.10 UR と GAD を併用するときの GAD ペアの操作.....	225
7.10.1 デルタリシンクを実行する.....	225
(1) デルタリシンクに関する注意事項.....	227
(2) デルタリシンクが失敗したときには.....	227
7.10.2 GAD ペアを再同期する (UR と併用しているとき)	228
7.10.3 GAD ペアを削除する (UR と併用しているとき)	229
8.global-active device の障害リカバリ.....	231
8.1 GAD の障害の発生部位.....	233
8.2 GAD 使用時に発行される SIM.....	238
8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 (障害発生前)	239
8.4 サーバの障害から回復する.....	239
8.5 サーバとストレージシステム間の物理パスの障害から回復する.....	240
8.5.1 サーバと正サイトのストレージシステム間の物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	242
8.5.2 サーバと副サイトのストレージシステム間の物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	243
8.6 プライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する.....	244
8.6.1 プライマリボリューム (DP-VOL) の障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	245
8.6.2 プライマリボリューム (DP-VOL 以外) の障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	248
8.7 セカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する.....	251
8.7.1 セカンダリボリュームの障害 (DP-VOL) から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	252
8.7.2 セカンダリボリューム (DP-VOL 以外) の障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	255
8.8 プライマリボリュームのプール満杯から回復する.....	257
8.8.1 プライマリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	259
8.9 セカンダリボリュームのプール満杯から回復する.....	260
8.9.1 セカンダリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	262
8.10 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する.....	263
8.10.1 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	265

8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する....	267
8.11.1 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (Quorum ディスクにボリュームを設定する構成で、ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合).....	269
8.11.2 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成で、ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	271
8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する.....	272
8.12.1 正しい仮想 LDEV ID の値を設定する.....	279
8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する.....	280
8.14 正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する.....	285
8.14.1 正サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	286
8.15 副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する.....	289
8.15.1 副サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)	290
8.16 Quorum ディスクの障害から回復する.....	293
8.16.1 ペア状態が PAIR の場合に Quorum ディスクの障害から回復する手順例.....	294
8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する.....	299
(1) 新しい外部ストレージシステムと交換する.....	299
(2) Quorum ディスクの状態の Failed を解決する手順例.....	303
8.17 外部ストレージシステムの障害から回復する.....	305
8.18 その他の障害から回復する.....	306
8.18.1 その他の要因で GAD ペアが中断した場合の回復手順例.....	308
8.19 正サイトに発生した障害から回復する (外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合)	309
8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える.....	312
8.21 障害から回復して GAD ペアを再作成できない場合に GAD ペアを作成する.....	314
8.21.1 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方から仮想 LDEV ID が削除されている場合の GAD ペアの作成手順.....	314
8.21.2 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に仮想 LDEV ID が設定されている場合の GAD ペアの作成手順.....	316
8.22 複数の部位に障害が発生したときには.....	317

9.global-active device と Universal Replicator を併用するときの障害リカバリ..... 327

9.1 障害発生前の状態.....	328
9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	328
9.2.1 正サイトの障害から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	328
9.2.2 正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	331
9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える (UR と併用しているとき)	334
9.3 副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	335
9.3.1 副サイトの障害から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	335
9.3.2 副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)	337

9.4 正サイトおよび副サイトの障害から回復する手順例（UR と併用しているとき）	339
9.5 デルタリシンク用 UR ペアの障害から回復する手順例	340
9.6 Quorum ディスクの障害から回復する（UR と併用しているとき）	341
9.6.1 Quorum ディスクの障害から回復する手順例（サーバから GAD ペアのボリュームの一方にアクセスできる場合）	342
9.6.2 Quorum ディスクの障害から回復する手順例（サーバから GAD ペアのボリュームの両方にアクセスできない場合）	342
10.global-active device の保守運用	349
10.1 GAD ペアを維持したまま外部ストレージシステムを交換する	350
10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する	353
10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する	353
10.2.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張	357
(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方	357
(2) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方	359
(3) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方	360
(4) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件	362
(5) GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する	363
(6) GAD ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する	366
(7) GAD ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する	368
10.2.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング	371
(1) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順	371
(2) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ	372
11.global-active device で使用しているストレージシステムの計画停止	375
11.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする	376
11.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする	376
11.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする	376
11.2 副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする	377
11.2.1 副サイトのストレージシステムの電源をオフにする	377
11.2.2 副サイトのストレージシステムの電源をオンにする	377
11.3 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	378
11.3.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	378
11.3.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	379
11.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする（副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	379
11.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする（副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	380
11.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする（副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）	380
11.5 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする	381
11.5.1 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオフにする	381
11.5.2 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオンにする	381

11.6 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	382
11.6.1 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする.....	382
11.6.2 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする.....	383
11.7 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	384
11.7.1 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする.....	384
11.7.2 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする.....	385
11.8 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	386
11.8.1 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする.....	386
11.8.2 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする.....	387
12.global-active device と Universal Replicator を併用するときのストレージシステムの計画停止.....	389
12.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	390
12.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする.....	390
12.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする.....	390
12.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	391
12.2.1 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする.....	391
12.2.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする.....	392
12.3 UR の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする.....	393
12.3.1 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする.....	393
12.3.2 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする.....	394
12.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	394
12.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	395
12.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする（正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	395
12.5 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする（GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	396
12.5.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする（GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	396
12.5.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする（副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合）.....	397
13.global-active device の運用の終了.....	399
13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する.....	400
13.1.1 GAD ペアを削除する.....	400
13.1.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを別の用途で使用できるようにする.....	400
13.1.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを別の用途で使用できるようにする.....	401
13.2 使用したボリューム削除をする.....	402
13.2.1 GAD ペアを削除する.....	402
13.2.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを削除する.....	402

13.2.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを削除する.....	403
14.global-active device のトラブルシューティング.....	405
14.1 一般的なトラブルシューティング.....	406
14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング.....	407
14.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング.....	410
14.4 GAD 操作の報告 (SIM)	421
14.5 GAD ボリュームのピントラック回復手順.....	422
14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順.....	422
14.6.1 プライマリボリュームが正サイトにある場合.....	422
14.6.2 プライマリボリュームが副サイトにある場合.....	423
14.7 お問い合わせ先.....	423
付録 A RAID Manager コマンドリファレンス.....	425
A.1 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係.....	426
A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲.....	429
付録 B リモート接続オプション.....	431
B.1 RIO MIH 時間.....	432
B.2 往復応答時間.....	432
B.2.1 形成コピー応答時間とは.....	433
付録 C このマニュアルの参考情報.....	435
C.1 このマニュアルでの表記.....	436
C.2 このマニュアルで使用している略語.....	438
C.3 KB (キロバイト) などの単位表記について.....	439
用語解説.....	441
索引.....	457



はじめに

このマニュアルでは、global-active device の概要と使用方法について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン
- 対象読者
- マニュアルで使用する記号について
- 「Thin Image Advanced」の表記について
- 「容量削減機能が有効なボリューム」について
- 発行履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示すストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 20

- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

このマニュアルでは特に断りのない限り、上記モデルのストレージシステムを単に「ストレージシステム」または「本ストレージシステム」と称することがあります。

本ストレージシステムと接続する VSP E590, VSP E790, VSP E1090、および VSP 5000 シリーズには、オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルがあります。このマニュアルでは、オールフラッシュアレイモデルとハイブリッドフラッシュアレイモデルで接続条件等の差異がない場合は、オールフラッシュアレイモデルの名称を使って説明します。

オールフラッシュアレイモデル	ハイブリッドフラッシュアレイモデル
VSP E590	VSP E590H
VSP E790	VSP E790H
VSP E1090	VSP E1090H
VSP 5100, 5500	VSP 5100H, 5500H
VSP 5200, 5600	VSP 5200H, 5600H

VSP E990 は、オールフラッシュアレイモデルのみです。

マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン

このマニュアルは、次の DKCMAIN ファームウェアバージョンに適合しています。

A3-02-01-XX



メモ

- このマニュアルは、上記バージョンのファームウェアをご利用の場合に最も使いやすくなるよう作成されていますが、上記バージョン未満のファームウェアをご利用の場合にもお使いいただけます。
- 各バージョンによるサポート機能については、別冊の『バージョン別追加サポート項目一覧』を参照ください。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- UNIX[®]コンピュータまたは Windows[®]コンピュータを使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

このマニュアルに記載しているコマンドを実行して出力される表示例は、実際の表示と異なる場合があります。

「Thin Image Advanced」の表記について

このマニュアルでは、Thin Image Advanced のことを、Thin Image または TI と表記することがあります。

「容量削減機能が有効なボリューム」について

このマニュアルで「容量削減機能が有効なボリューム」と記載されている場合、特に断りのない限り、データ削減共有ボリュームおよび dedupe and compression により容量削減機能を有効に設定した仮想ボリュームのことを示します。

発行履歴

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4050-1J-U06-10	2024 年 3 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-02-01-XX <ul style="list-style-type: none">64Gbps のファイバチャネル CHB によるホスト接続およびリモート接続をサポートした。<ul style="list-style-type: none">1.9 GAD の構成要素2.1 GAD の要件3.3 GAD の物理バスの計画(1) リモートバスに関する注意事項 (ファイバチャネルを使用するとき)3 データセンター構成 (3DC) をサポートした。<ul style="list-style-type: none">4.6 GAD と Universal Replicator との併用6 global-active device と Universal Replicator を併用するときの環境構築手順7.7 GAD ペアを強制的に削除する7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 7.8.2 適用ケース 2 ◦ 7.8.3 適用ケース 3 ◦ 7.10 UR と GAD を併用するときの GAD ペアの操作 ◦ 9 global-active device と Universal Replicator を併用するときの障害リカバリ ◦ 10.2.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張 ◦ (1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方 ◦ (3) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方 ◦ (5) GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する ◦ 12 global-active device と Universal Replicator を併用するときのストレージシステムの計画停止 ◦ 14.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング ◦ 14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順 • dedupe and compression による容量削減機能をサポートした。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「容量削減機能が有効なボリューム」について • 物理パスに使用できないインタフェースを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 2.1 GAD の要件 • 正サイトまたは副サイトのストレージシステムでのコントローラボードが閉塞した場合のペア操作失敗に関する記載を追記した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 7.2 GAD ペアの操作全般に関する注意事項 • OpenVMS の記載を削除した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 2.1 GAD の要件 • VSP One B20 ストレージシステムの型名の表記を修正した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 5.10 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する ◦ 5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する ◦ 5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する ◦ 5.12.1 リソースグループを作成する ◦ (1) プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されている場合のリソースグループの作成例 ◦ B.1 RIO MIH 時間 • 通常パリティグループ、通常 VOL、DP-VOL 非サポートにより記載を修正した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 2.1 GAD の要件 ◦ 3.5.3 ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループのボリュームをセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成する場合の注意事項 ◦ 4.1 GAD と他の機能との併用可否 ◦ 4.2 GAD と Dynamic Provisioning との併用

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 5.12.7 プールを作成する • global-active device を使用した 3 データセンター構成 (3DC) が未サポートのため記載を修正および削除した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 2.1 GAD の要件 ◦ 4.6 GAD と Universal Replicator との併用 ◦ 6 global-active device と Universal Replicator を併用するときの環境構築手順 • 容量削減機能が有効なボリュームの場合の数を追記した。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 2.1 GAD の要件
4050-1J-U06-00	2024 年 1 月	新規 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-01-01-XX

global-active device の概要

global-active device (GAD) の概要について説明します。

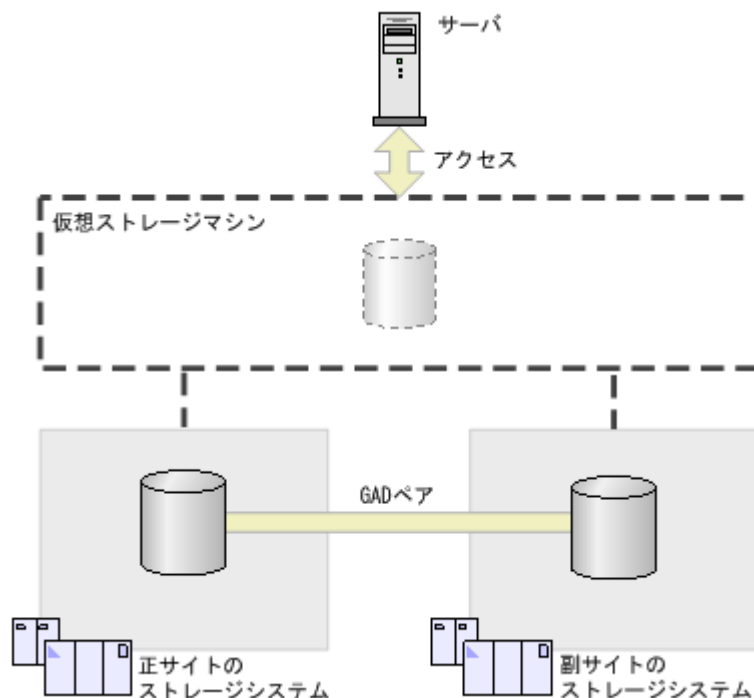
- 1.1 global-active device とは
- 1.2 GAD の目的
- 1.3 GAD と global storage virtualization
- 1.4 GAD の状態管理
- 1.5 GAD とサーバ I/O
- 1.6 Quorum ディスクとサーバ I/O
- 1.7 GAD のコンシステンシーグループ
- 1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード
- 1.9 GAD の構成要素
- 1.10 GAD のコピーの種類
- 1.11 GAD の運用を開始するまでの流れ

1.1 global-active device とは

global-active device (GAD) は、2 台のストレージシステムでボリュームのペアを作成し、同一のデータを保持するためのプログラムプロダクトです。GAD ペアのボリュームは、両方ともサーバからの I/O に使用できます。

GAD によって、次の目的を達成できます。

- サーバ I/O の継続 (ストレージシステムに障害発生時)
- ストレージシステムの操作なしでの、サーバのフェイルオーバー/フェイルバック
- ストレージシステムの操作なしでの、サーバの仮想マシンの移動



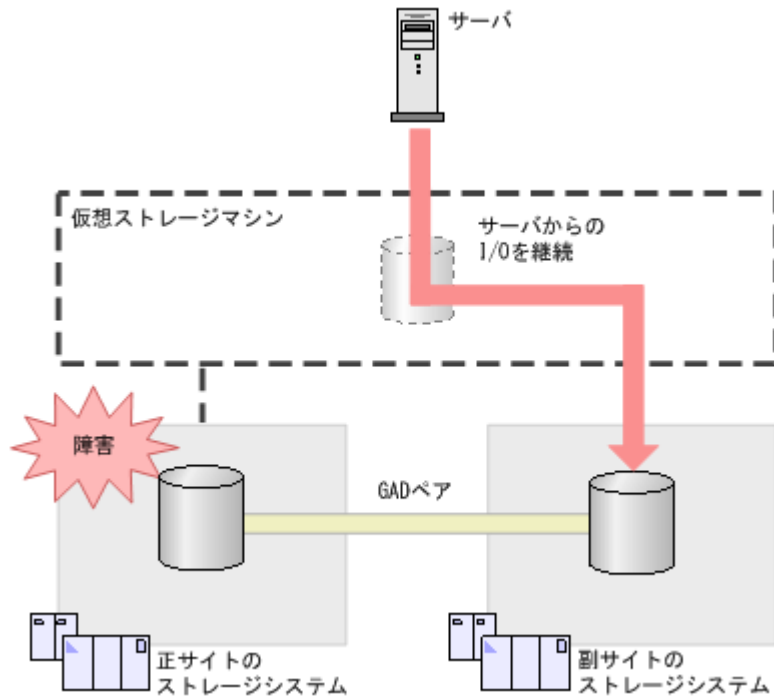
関連概念

- [1.2 GAD の目的](#)

1.2 GAD の目的

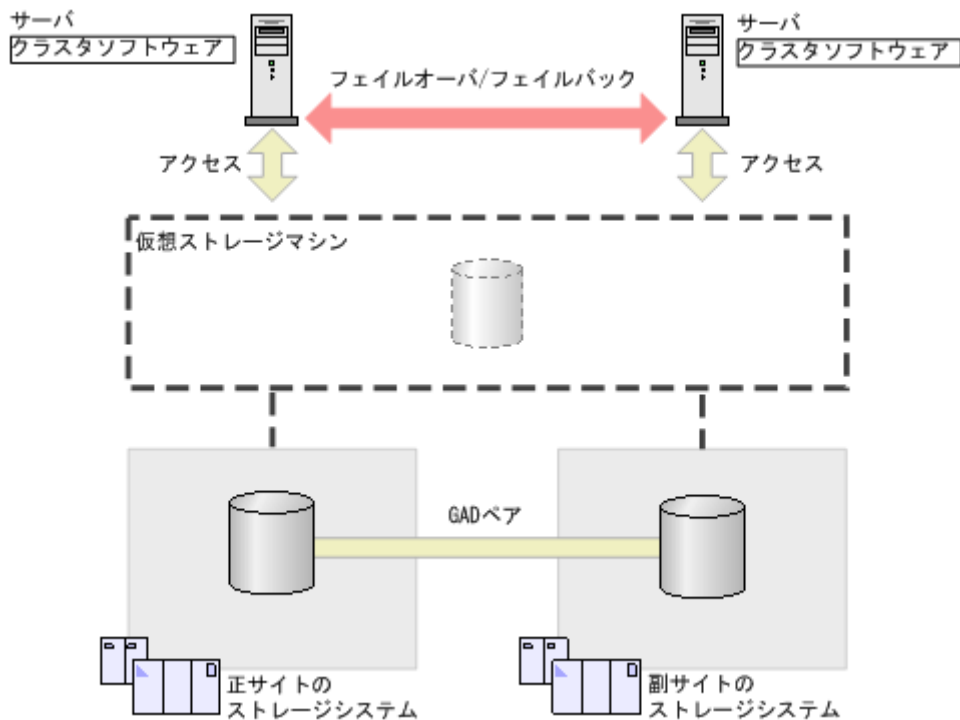
1.2.1 サーバ I/O の継続 (ストレージシステムに障害発生時)

GAD で使用している一方のストレージシステムに障害が発生したときに、もう一方のストレージシステムで、サーバからの I/O を継続できます。



1.2.2 ストレージシステムの操作なしでのサーバのフェイルオーバー/フェイルバック

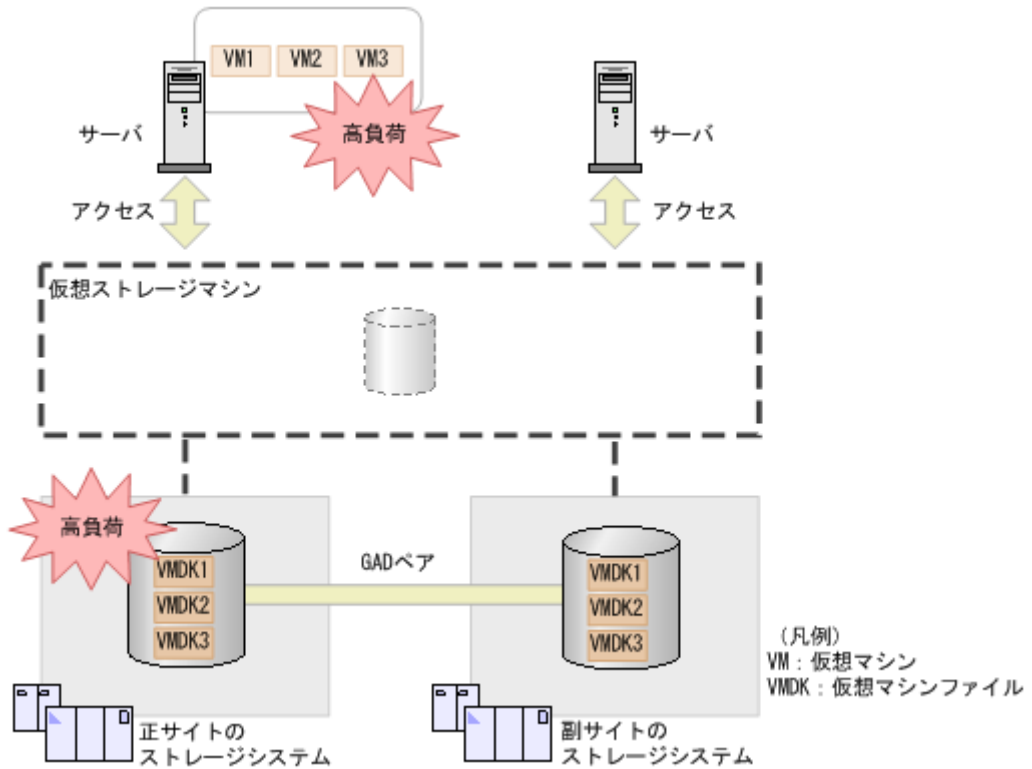
2 台のサーバを使用している場合、サーバのクラスタソフトウェアを使用して、フェイルオーバーおよびフェイルバックできます。ストレージシステムで GAD ペアの中断や再同期は不要です。



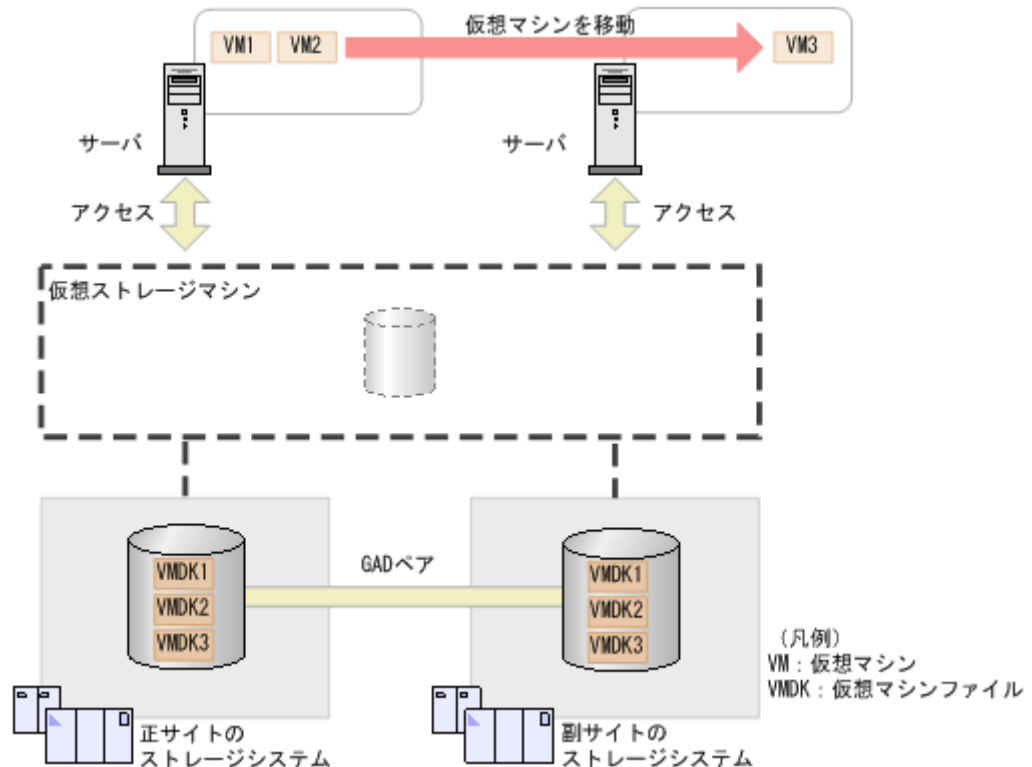
1.2.3 ストレージシステムの操作なしでのサーバの仮想マシンの移動

一方のサーバにある仮想マシンの負荷が高くなっているときに、ストレージシステムを操作しないで、仮想マシンだけをもう一方のサーバへ移動できます。

次の例では、正サイトのサーバにある仮想マシンの負荷が高くなっています。



そこで、サーバの仮想化機能を使用して、正サイトのサーバから副サイトのサーバへ、仮想マシン VM3 を移動させます。GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームには、同一のデータが格納されているため、ストレージシステムでのデータの移行は不要です。



1.2.4 GAD の目的と必要なシステム構成

次の表に示すとおり、GAD を使用する目的によって、必要なシステム構成が異なります。

目的	ソフトウェア		構成名
	マルチパスソフトウェア	クラスタソフトウェア	
サーバ I/O の継続 (ストレージシステムに障害発生時)	○	×	シングルサーバ構成
ストレージシステムの操作なしでのサーバのフェイルオーバー/フェイルバック	×	○	サーバクラスタ構成
ストレージシステムの操作なしでの仮想マシンの移動	×	○	サーバクラスタ構成
次の両方 • サーバ I/O の継続 (ストレージシステムに障害発生時) • ストレージシステムの操作なしでのサーバのフェイルオーバー/フェイルバック	○	○	クロスパス構成

(凡例)

○：必要

×：不要



注意

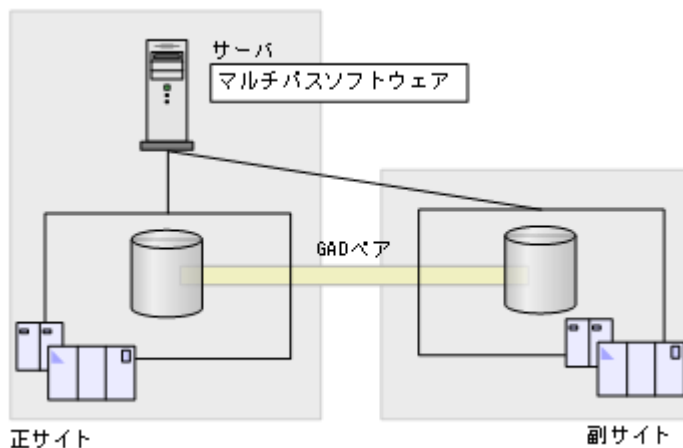
GAD ペアをコンシステンシーグループに登録する場合は、クロスパス構成を推奨します。次のどちらかの状態で、正サイトと副サイト間のパスに障害が発生し、二重化状態の GAD ペアが障害によって中断された場合、コンシステンシーグループ内の一部の GAD ペアは正サイトのサーバから、また一部の GAD ペアは副サイトサーバからだけアクセスできる状態になってしまうことがあります。

- コンシステンシーグループ内に二重化中状態の GAD ペアと二重化状態の GAD ペアが混在している
- コンシステンシーグループ内に中断状態の GAD ペアと二重化状態の GAD ペアが混在している

この場合、正サイトと副サイトのサーバの両方が、正サイトと副サイトの両方のボリュームにアクセスできるクロスパス構成を使用しているときは、GAD ペアへのアクセスを継続できます。しかし、クロスパス構成以外の構成で GAD を運用している場合、サーバからコンシステンシーグループ内の GAD ペアへアクセスできなくなります。

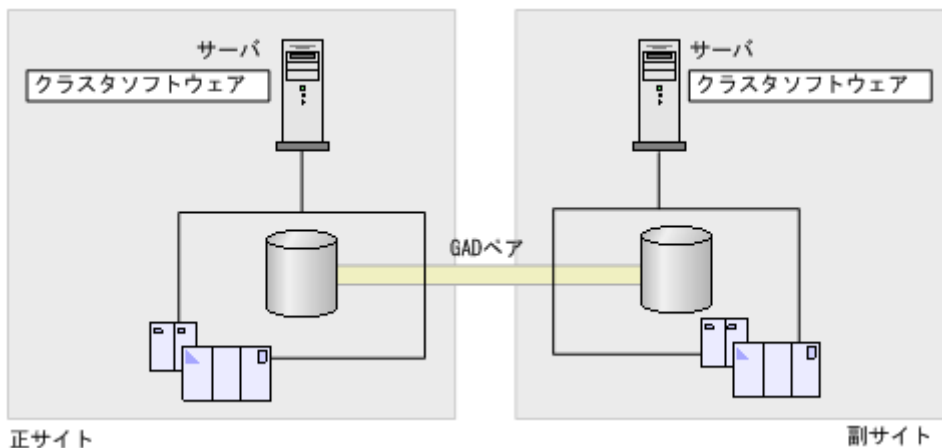
シングルサーバ構成

1 台のサーバを正サイトと副サイトのストレージシステムに接続します。一方のストレージシステムに障害が発生したときには、マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからの I/O を、もう一方のサイトへ切り替えられます。



サーバクラスタ構成

正サイトのサーバを正サイトのストレージシステムに、副サイトのサーバを副サイトのストレージシステムに接続します。クラスタソフトウェアを使用して、サーバをフェイルオーバーおよびフェイルバックできます。また、一方のサーバにある仮想マシンの負荷が高くなった場合は、もう一方のサーバに仮想マシンを移動し、負荷を分散できます。

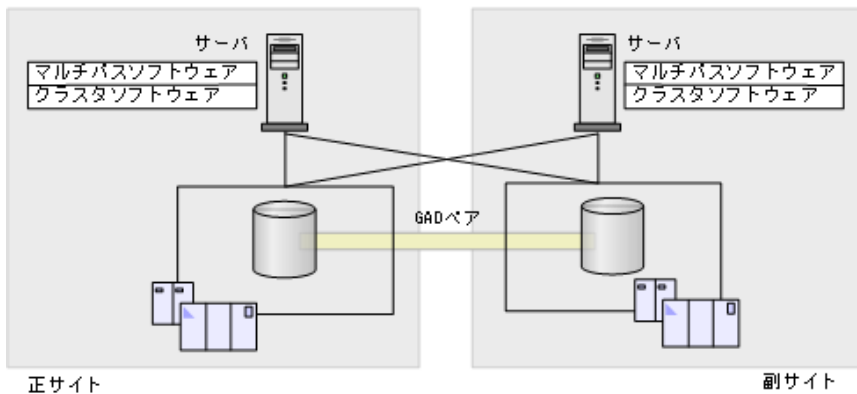


メモ

サーバクラスタ構成では、GAD ペアのリモートバス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」に設定することを推奨します。詳細は、「[1.8 GAD のリモートバス障害時 IO 優先モード](#)」を参照してください。

クロスパス構成

正サイトと副サイトのサーバを、それぞれ正サイトと副サイトのストレージシステムに接続します。一方のストレージシステムに障害が発生したときには、マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからの I/O を、もう一方のサイトへ切り替えられます。また、クラスタソフトウェアを使用して、サーバをフェイルオーバーおよびフェイルバックできます。



メモ

ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定をしているクロスパス構成では、GAD ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」に設定することを推奨します。詳細は、「[1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)」を参照してください。

関連概念

- [1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)

1.3 GAD と global storage virtualization

GAD は、global storage virtualization の機能を基盤として動作します。global storage virtualization は、仮想化を実現する機能です。サーバへ仮想情報を応答 (SCSI コマンドの Inquiry 応答) することで、複数のストレージシステムを 1 台の仮想ストレージマシンとしてサーバに認識させます。

Resource Partition Manager のライセンスをインストールすると、global storage virtualization の機能を使用できます。Resource Partition Manager については、『システム構築ガイド』を参照してください。

関連概念

- [1.3.1 仮想 ID とは](#)

1.3.1 仮想 ID とは

複数のストレージシステムを 1 台の仮想ストレージマシンとしてサーバに認識させるためには、次のリソースを仮想化し、仮想の識別情報 (仮想 ID) を設定します。global storage virtualization では、リソースグループ単位またはボリューム単位に、仮想 ID を設定できます。

サーバへ仮想情報の応答が必要なリソース	仮想 ID が設定されるリソース
シリアル番号	リソースグループ
モデル	リソースグループ
LDEV ID [※]	ボリューム
エミュレーションタイプ [※]	ボリューム
LUSE の LU 連結数 [※]	ボリューム
SSID [※]	ボリューム

注※

仮想 LDEV ID が削除されているボリュームは、サーバからの I/O を受け付けられません。なお、GAD のセカンダリボリュームとして使用するボリュームは、事前に仮想 LDEV ID を削除し、GAD 予約を割り当てておく必要があります。GAD ペアを作成するときに、プライマリボリュームの LDEV ID、エミュレーションタイプ、LUSE の LU 連結数、SSID と同じ値が、セカンダリボリュームの仮想情報として設定されます。また、GAD ペアを削除するときに、これらの仮想情報は初期化され、LDEV ID には GAD 予約が割り当てられます。

複数のリソースグループに、同一のシリアル番号およびモデルを仮想 ID として設定できます。

仮想 ID を設定できるリソースグループの最大数は、1,023 です (リソースグループ#0 を除きます)。ただし、1 台のストレージシステムで、リソースグループに設定できる仮想 ID の最大数 (種類数) は、15 種類です。

仮想 ID の設定については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

関連概念

- [1.3 GAD と global storage virtualization](#)

1.4 GAD の状態管理

GAD は、次の状態とモードによって管理されています。

- GAD 状態
GAD の状態です。ペア状態と I/O モードの組み合わせによって決まります。RAID Manager には表示されません。
- ペア状態
プライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態です。RAID Manager に表示されます。
- I/O モード
プライマリボリュームとセカンダリボリュームの I/O モードです。RAID Manager に表示されます。

関連概念

- [1.4.1 GAD 状態](#)
- [1.4.2 GAD 状態の遷移](#)
- [1.4.3 GAD のペア状態](#)
- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [1.4.6 GAD 状態とペア状態および I/O モードとの関係](#)
- [1.5 GAD とサーバ I/O](#)

1.4.1 GAD 状態

GAD には、次の 6 つの状態があります。これらの状態のことを、GAD 状態と呼びます。

GAD 状態	説明	データ二重化	コピーが完了した領域について更新されるボリューム	最新のデータがあるボリューム※
初期	GAD ペアを作成する前の状態です。	×	—	—
二重化中	二重化状態への遷移中です。 次の 2 種類の状態に分かれます。 <ul style="list-style-type: none"> • Quorum ディスクの準備中 • GAD ペアのプライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータのコピー中 	×	プライマリおよびセカンダリ	プライマリ
二重化	GAD ペアが正常に動作している状態です。	○	プライマリおよびセカンダリ	プライマリおよびセカンダリ
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	Quorum ディスクが閉塞していますが、データは二重化されています。 または、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成でデータが二重化されています。	○	プライマリおよびセカンダリ	プライマリおよびセカンダリ
中断	GAD ペアが中断している状態です。プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのどちらかだけに最新のデータがあり、サーバからの I/O も、最新のデータがあるボリュームに対してだけ実行されます。障害が発生したとき、またはペアを中断したときに、GAD 状態が中断に変わります。 また、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間で指定した時間を経過すると、GAD 状態が中断に変わります。	×	プライマリまたはセカンダリ	プライマリまたはセカンダリ
ブロック	サーバから GAD ペアのボリュームへの I/O を受け付けない状態です。 次の 2 種類の状態に分かれます。 <ul style="list-style-type: none"> • プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に最新のデータがあり、GAD ペアを強制削除すれば、どちらかのボリュームでサーバからの I/O を再開できる状態 • 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで障害が発生し、もう一方のボリュームもサーバからの I/O を停止している状態 複数の障害が同時に発生しているときに、GAD 状態がブロックに変わります。	×	なし	プライマリおよびセカンダリ

(凡例)

○ : データが二重化している

× : データが二重化していない

プライマリ : プライマリボリューム

セカンダリ : セカンダリボリューム

— : 非該当

注※

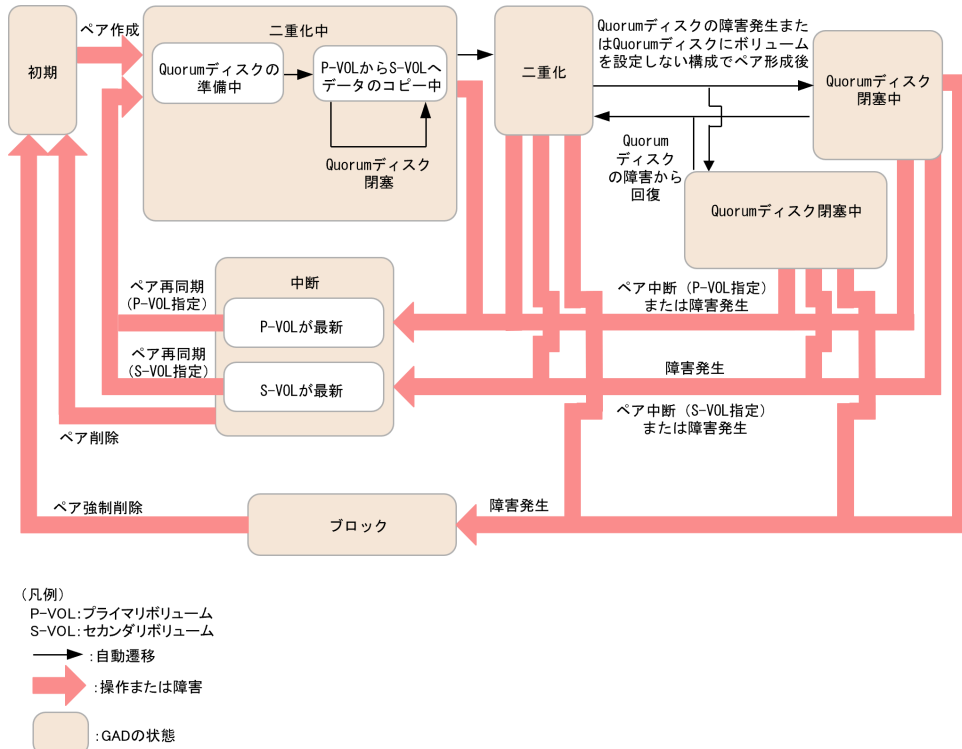
「プライマリまたはセカンダリ」の場合、ペア状態および I/O モードによって、どちらのボリュームが最新であるが異なります。

関連概念

- 1.4 GAD の状態管理
- 1.4.6 GAD 状態とペア状態および I/O モードとの関係

1.4.2 GAD 状態の遷移

GAD 状態は、ペア操作や障害によって変化します。GAD 状態の遷移を、次に示します。



プライマリボリュームを指定してペアを再同期すると、プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。セカンダリボリュームを指定してペアを再同期すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが入れ替わり、新しいプライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

プライマリボリュームを指定してペアを中断すると、プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。セカンダリボリュームを指定してペアを中断すると、セカンダリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

関連概念

- 1.4 GAD の状態管理

1.4.3 GAD のペア状態

ペア状態は、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つボリュームの状態です。

ペア状態	説明
RAID Manager での表示	
SMPL	GAD ペアを組んでいないボリュームです。
COPY	このボリュームは、形成コピーまたは GAD ペアの再同期中です（データのコピーをしない GAD ペアの作成を含む）。プライマリボリュームからセカンダリボリュームへ、データをコピーしています。また、最大形成コピー数を上回る数のペアに対して、形成コピーまたは再同期を行うと、データコピーの順番待ち状態となるペアができます。これらのペアでは、まだデータコピーが開始されていませんが、プライマリボリュームのペア状態は COPY となります。 なお、セカンダリボリュームのペア状態は、INIT/COPY となります。
INIT/COPY*	このボリュームは、形成コピーまたは GAD ペアを再同期するための、準備をしている状態です。RAID Manager の pairdisplay コマンドに -fe オプションを付けて実行すると、Status 列には「COPY」が表示され、D_Status 列には「INIT」が表示されます。
PAIR	このボリュームを使用して、GAD ペアが組まれています。データも二重化されています。
PSUS	このボリュームを使用している GAD ペアは、ペア中断操作によって中断されています。この状態はプライマリボリュームで表示されます。
PSUE	このボリュームを使用している GAD ペアは、障害によって中断されています。
SSUS	このボリュームを使用している GAD ペアは、ペア中断操作によって中断されています。セカンダリボリュームの更新は中止されています。この状態はセカンダリボリュームで表示されます。
SSWS	このボリュームを使用している GAD ペアは、ペア中断操作または障害によって中断されています。プライマリボリュームの更新は中止されています。この状態はセカンダリボリュームで表示されます。

注※

ペア状態の表示としては「COPY」が表示されます。

関連概念

- [1.4 GAD の状態管理](#)

1.4.4 GAD の中断タイプ

ペアが中断されている場合、pairdisplay コマンドを実行すると、中断タイプが 16 進数で表示されます。中断タイプの一覧と説明を次の表に示します。

表示	中断タイプ	適用対象	説明
0x03	Primary Volume by Operator	プライマリ	ユーザが、正サイトのストレージシステムからペアを中断しました。セカンダリボリュームの中断タイプは by MCU です。
0x04	Secondary Volume by Operator	プライマリ、セカンダリ	ユーザが、副サイトのストレージシステムからペアを中断しました。
0x05	by MCU	セカンダリ	副サイトのストレージシステムが、正サイトのストレージシステムからペアを中断する要求を受け取りました。プライマリボリュームの中断タイプは、Primary Volume by Operator または Secondary Volume by Operator です。

表示	中断タイプ	適用対象	説明
0x06	by RCU	プライマリ	正サイトのストレージシステムが、GAD ペアを中断させる原因となった副サイトのストレージシステムのエラーを検出しました。該当するセカンダリボリュームの中断タイプは、Secondary Volume Failure です。
0x08	Secondary Volume Failure	プライマリ、セカンダリ	正サイトのストレージシステムが、副サイトのストレージシステムとの通信中にエラーを、または更新コピー中に I/O エラーを検出しました。この場合、該当するセカンダリボリュームの中断タイプは通常 Secondary Volume Failure です。この中断タイプは、パスの数が、RAID Manager の raidcom rcu コマンドで表示される最小パス数を下回った場合にも表示されます。
0x09	MCU IMPL	プライマリ、セカンダリ	正サイトのストレージシステムが、IMPL 中に正サイトのストレージシステムの不揮発性メモリ内に有効な制御情報を見つけられませんでした。このような状況は、正サイトのストレージシステムに 48 時間以上電源が入らなかった場合にだけ起こります (例: 電源障害やバックアップバッテリーの放電)。
0x50	Initial Copy Failed	プライマリ、セカンダリ	形成コピーが完了する前に正サイトのストレージシステムがペアを中断しました。セカンダリボリュームとプライマリボリュームのデータは一致していません。

(凡例)

プライマリ : プライマリボリューム
セカンダリ : セカンダリボリューム

1.4.5 GAD の I/O モード

I/O モードは、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作を表しています。

I/O モード		読み取りの処理	書き込みの処理
このマニュアルでの表記	RAID Manager での表示※		
Mirror(RL)	L/M	読み取り要求を受けたストレージシステムのデータを、サーバに送信する	プライマリボリューム、セカンダリボリュームの順に、両方のボリュームへデータを書き込む
Local	L/L	読み取り要求を受けたストレージシステムのデータを、サーバに送信する	書き込み要求を受けたストレージシステムのボリュームにだけ、データを書き込む
Block	B/B	拒否 (Illegal request を応答)	拒否 (Illegal request を応答)

注※

RAID Manager では、「読み取りの処理/書き込みの処理」の形式で I/O モードが表示されます。L は Local、M は Mirror、B は Block を示します。

I/O モードが Block のボリュームに対する Report LUN コマンドや Inquiry コマンドには、LU 未定義の応答が返ります。よって、I/O モードが Block のボリュームは、サーバには認識されない、またはパス状態が閉塞の状態です。

関連概念

- 1.4 GAD の状態管理

1.4.6 GAD 状態とペア状態および I/O モードとの関係

GAD 状態と、ペア状態および I/O モードとの関係を次に示します。

GAD 状態	中断の契機	プライマリボリューム		セカンダリボリューム		最新のデータがあるボリューム
		ペア状態	I/O モード	ペア状態	I/O モード	
初期	—	SMPL	—	SMPL	—	—
二重化中	—	INIT	Mirror(RL)	INIT	Block	プライマリ
	—	COPY	Mirror(RL)	COPY	Block	プライマリ
二重化	—	PAIR	Mirror(RL)	PAIR	Mirror(RL)	プライマリおよびセカンダリ
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	—	PAIR	Mirror(RL)	PAIR	Mirror(RL)	プライマリおよびセカンダリ
中断	ペア操作	PSUS	Local	SSUS	Block	プライマリ
	障害	PSUE*	Local	PSUE	Block	プライマリ
		PSUE*	Local	SMPL	—	プライマリ
		PSUE*	Local	×	×	プライマリ
	ペア操作	PSUS	Block	SSWS	Local	セカンダリ
	障害	PSUE	Block	SSWS*	Local	セカンダリ
		SMPL	—	SSWS*	Local	セカンダリ
		×	×	SSWS*	Local	セカンダリ
ブロック	—	PSUE	Block	PSUE	Block	プライマリおよびセカンダリ
	—	PSUE	Block	×	×	プライマリおよびセカンダリ
	—	×	×	PSUE	Block	プライマリおよびセカンダリ

(凡例)

—：非該当

×：ストレージシステムの障害などによって、ペア状態や I/O モードを確認できない

注※

サーバから書き込みコマンドが発行されていない場合、障害部位によってはペア状態が PAIR になることもあります。

関連概念

- 1.4 GAD の状態管理
- 1.5 GAD とサーバ I/O

1.5 GAD とサーバ I/O

サーバから GAD のボリュームへの I/O の処理は、ボリュームの I/O モードによって管理されています。また、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの I/O モードの組み合わせは、GAD 状態によって異なります。ここでは、GAD 状態ごとに、サーバからの I/O の処理の流れを説明します。

1.5.1 GAD 状態が二重化のときのサーバ I/O

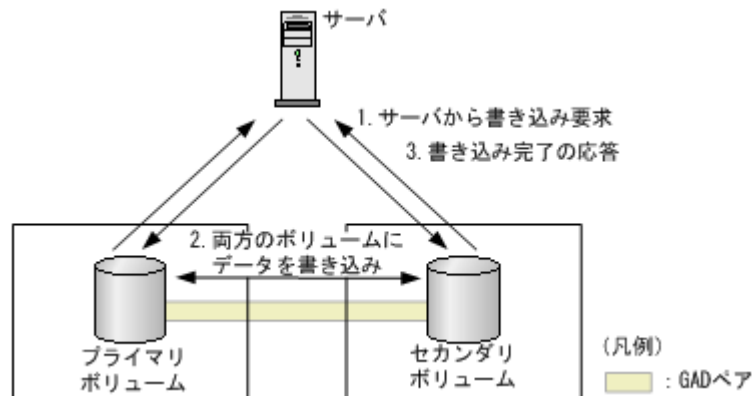
GAD 状態が二重化のときの I/O モード、およびサーバからの I/O の流れを次に示します。

I/O モード

- プライマリボリューム : Mirror(RL)
- セカンダリボリューム : Mirror(RL)

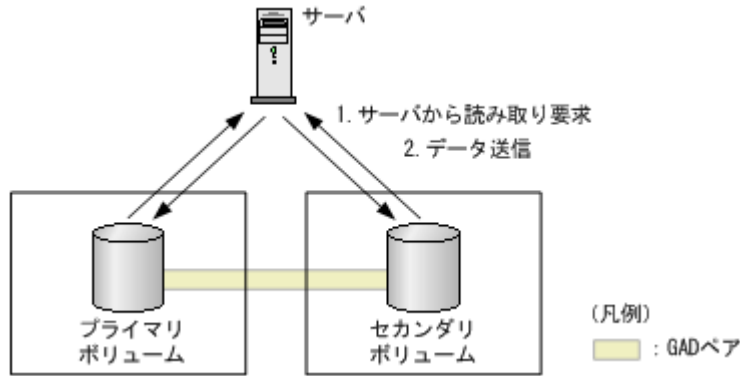
書き込み処理の流れ

サーバから GAD ペアのボリュームへ書き込みが発生すると、GAD ペアの両方のボリュームに書き込んでから、サーバへ書き込み完了を応答します。



読み取り処理の流れ

サーバから GAD ペアのボリュームへ読み取りが発生すると、サーバが接続しているボリュームからデータを読み取り、サーバへ送信します。正サイトと副サイトのストレージシステム間の通信は発生しません。



関連概念

- [1.4 GAD の状態管理](#)
- [1.5 GAD とサーバ I/O](#)

1.5.2 GAD 状態が二重化中、Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しないときのサーバ I/O

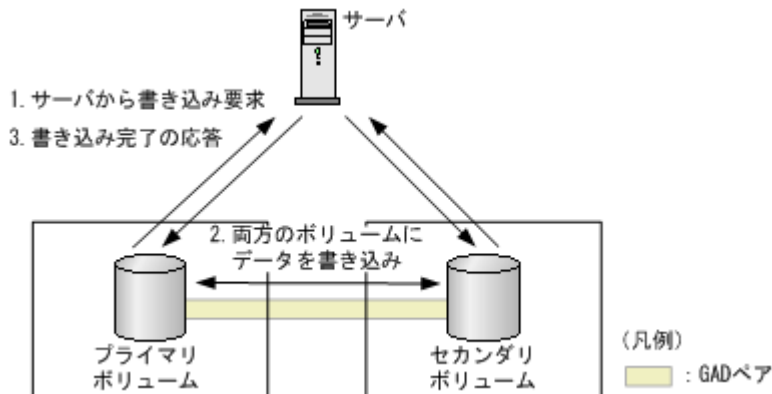
GAD 状態が二重化中、Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しないときの I/O モード、およびサーバからの I/O の流れを次に示します。

I/O モード

- プライマリボリューム : Mirror(RL)
- セカンダリボリューム : Mirror(RL)

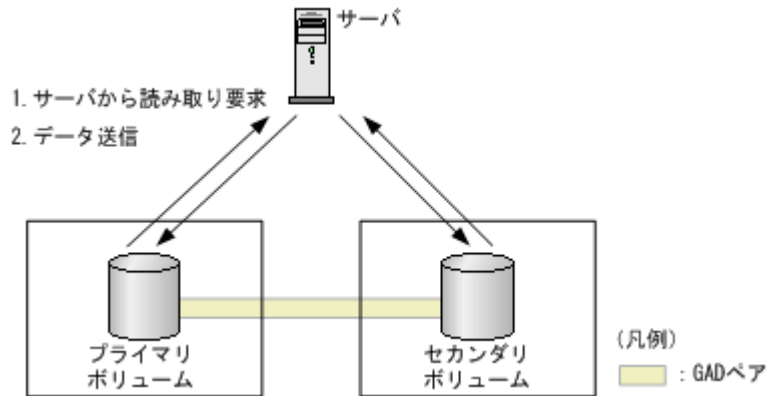
書き込み処理の流れ

サーバから GAD ペアのボリュームへ書き込みが発生すると、GAD ペアの両方のボリュームに書き込んでから、サーバへ書き込み完了を応答します。



読み取り処理の流れ

サーバから GAD ペアのボリュームへ読み取りが発生すると、GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームからデータを読み取り、サーバへ送信します。



関連概念

- [1.4 GAD の状態管理](#)
- [1.5 GAD とサーバ I/O](#)

1.5.3 GAD 状態が中断のときのサーバ I/O

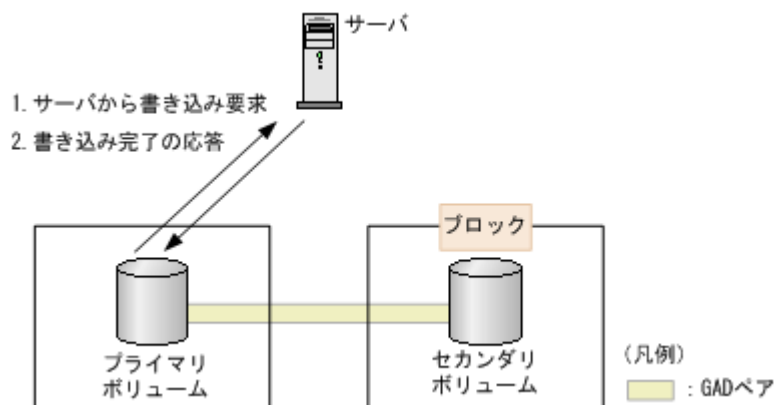
GAD 状態が中断のときの I/O モード、およびサーバからの I/O の流れを次に示します。

I/O モード

- プライマリボリュームのデータが最新の時
 - プライマリボリューム : Local
 - セカンダリボリューム : Block
- セカンダリボリュームのデータが最新の時
 - プライマリボリューム : Block
 - セカンダリボリューム : Local

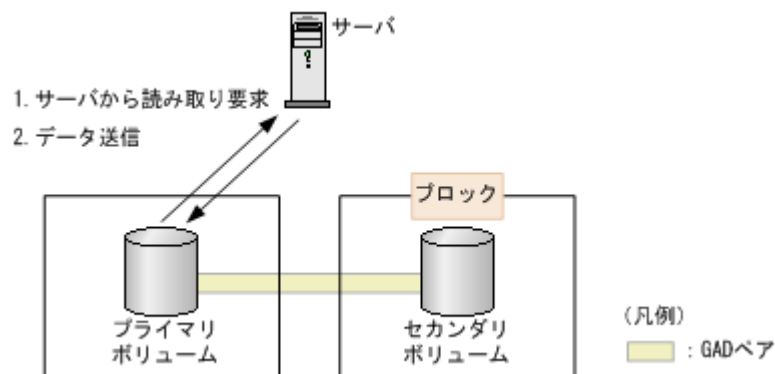
書き込み処理の流れ（プライマリボリュームのデータが最新の場合の例）

サーバから GAD ペアのボリュームへ書き込みが発生すると、GAD ペアのプライマリボリュームに書き込んでから、サーバへ書き込み完了を応答します。I/O モードが Block であるセカンダリボリュームは、サーバからの I/O は受け付けません。また、プライマリボリュームへ書き込まれたデータも、セカンダリボリュームには書き込まれません。



読み取り処理の流れ（プライマリボリュームのデータが最新のときの例）

サーバから GAD ペアのボリュームへ読み取りが発生すると、GAD ペアのプライマリボリュームからデータを読み取り、サーバへ送信します。正サイトと副サイトのストレージシステム間の通信は発生しません。



関連概念

- ・ [1.4 GAD の状態管理](#)
- ・ [1.5 GAD とサーバ I/O](#)

1.5.4 GAD 状態がブロックのときのサーバ I/O

GAD 状態がブロックのときの I/O モードを次に示します。

- ・ プライマリボリューム : Block
- ・ セカンダリボリューム : Block

GAD ペアの両方のボリュームへの I/O を受け付けていないため、ボリュームへのデータの書き込みや、データの読み取りは発生しません。

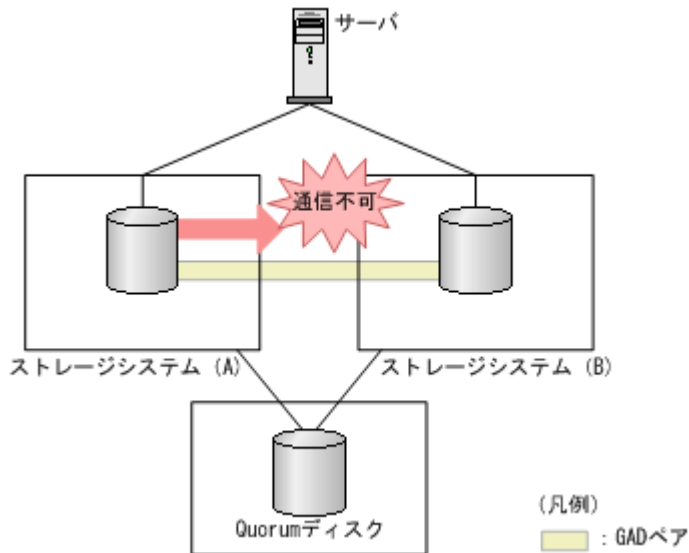
関連概念

- ・ [1.4 GAD の状態管理](#)
- ・ [1.5 GAD とサーバ I/O](#)

1.6 Quorum ディスクとサーバ I/O

Quorum ディスクは、パスやストレージシステムに障害が発生したときに、どちらのストレージシステムでサーバからの I/O を継続するのかを決定するボリュームです。Quorum ディスクには外部ストレージシステムのボリュームを使用しますが、Universal Volume Manager がサポートしているサーバであれば、サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用できます。

ストレージシステム間のパスを使用して正サイトと副サイトのストレージシステム間で通信できなくなった場合、各ストレージシステムは次のように動作します。



1. 通信できなくなったストレージシステム (A) が、通信できない状態であることを Quorum ディスクに書き込みます。
2. Quorum ディスクに通信できない状態であることを書き込まれたことを、もう一方のストレージシステム (B) が検出すると、ストレージシステム (B) は I/O の受付を停止します。
3. ストレージシステム (B) が、I/O を受け付けられない状態であることを Quorum ディスクに書き込みます。
4. ストレージシステム (A) は、ストレージシステム (B) が I/O を受け付けられない状態であることを検出すると、GAD ペアを中断して I/O を継続します。

ストレージシステム (A) が、通信できない状態であることを Quorum ディスクに書き込んでから 5 秒以内に、ストレージシステム (B) が I/O を受け付けられない状態であることを Quorum ディスクから検出しなかったときは、ストレージシステム (A) が、GAD ペアを中断して I/O を継続します。

なお、両方のストレージシステムが通信できない状態であることを、同時に Quorum ディスクに書き込んだ場合は、ストレージシステムのシリアル番号の小さい方を、通信できない状態であることを書き込んだストレージシステムとして見なします。

また、外部ストレージシステムのボリュームの用意が不要な Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成が作成できます。詳細は「[1.6.1 Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成](#)」を参照してください。

関連概念

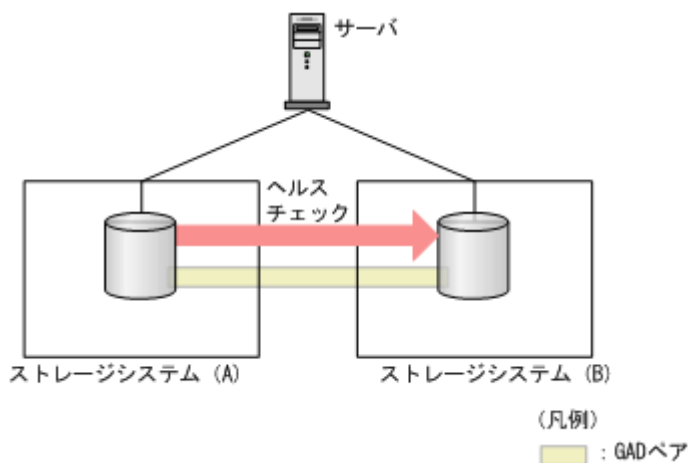
- [1.6.2 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出したときのサーバ I/O](#)
- [1.6.3 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出なかったときのサーバ I/O](#)
- [1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作](#)

1.6.1 Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成

Quorum ディスクには外部ストレージシステムの用意が必要です。そのため、データ移行時に一時的に GAD ペアを作成したい場合でも、外部ストレージシステムを用意しなければなりません。

そこで、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成にすれば、外部ストレージシステムを用意しなくても GAD ペア作成できます。ただし、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成では、パスやストレージシステム障害が発生したときのサーバからの I/O 継続性が低くなるため、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成にするか、外部ストレージを用意して Quorum ディスクにボリュームを設定する構成にするかは用途によって使い分けてください。

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の構成図は次のとおりです。



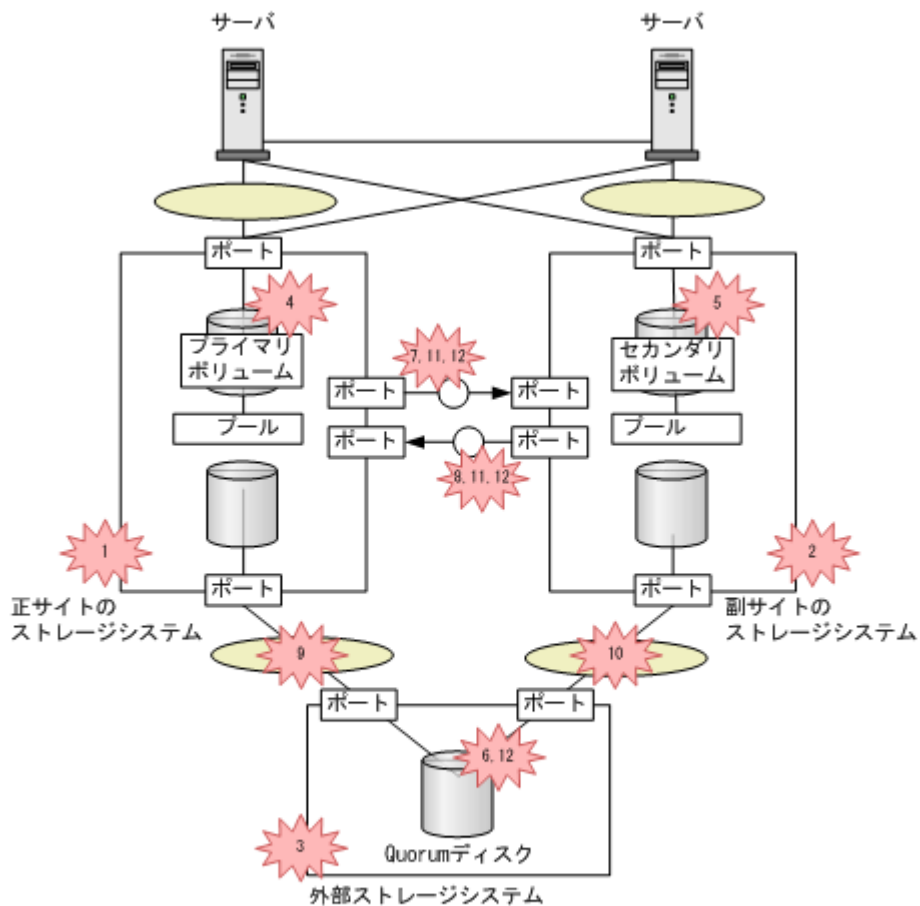
Quorum ディスクにボリュームを設定する構成と比較して、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成にした場合に不要となる構成要素と手順の詳細は次のとおりです。

- 外部ストレージシステム
- ストレージシステム(A)とストレージシステム(B)の外部ポート
- ストレージシステム(A)と外部ストレージシステム間のパスとスイッチ
- ストレージシステム(B)と外部ストレージシステム間のパスやスイッチ

Quorum ディスクにボリュームを設定する構成と Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の相違点は次のとおりです。

(1) 障害時の業務継続可否

次のとおり Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合、正サイトのストレージシステム障害で業務継続ができなくなります。そのため、一時的なデータ移行用途で使用することを想定しています。



(凡例)

○ : SAN ○ : スイッチ ☆ : 障害

P-VOL : プライマリボリューム S-VOL : セカンダリボリューム

番号	障害部位	業務継続可否	
		Quorum ディスクのボリュームを設定した構成	Quorum ディスクのボリュームを設定しない構成
1	正サイトのストレージシステム	○	×
2	副サイトのストレージシステム	○	○
3	外部ストレージシステム	○	—
4	プライマリボリューム	○	○
5	セカンダリボリューム	○	○
6	Quorum ディスク	○	—
7	正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパス	○	○
8	副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモートパス	○	○
9	正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク間のパス	○	—

番号	障害部位	業務継続可否	
		Quorum ディスクのボリュームを設定した構成	Quorum ディスクのボリュームを設定しない構成
10	副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク間のパス	○	—
11	次の障害が同時に発生した場合 <ul style="list-style-type: none"> 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパス 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモートパス 	○	○
12	次の障害が同時に発生した場合 <ul style="list-style-type: none"> 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパス 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモートパス Quorum ディスク 	×	—

(凡例)

- ：業務継続できる
- ×：業務継続できない
- ：該当なし

(2) 外部ストレージシステムの準備コスト

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合、外部ストレージシステムおよびパスの準備が不要となるため、準備コストを低減できます。

また、GAD 環境の構築手順の一部が不要になります。

1.6.2 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出したときのサーバ I/O

他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出したときは、検出したときの各ボリュームのペア状態によって、サーバからの I/O を継続するボリュームの判断方法が異なります。

ペア状態が PAIR の場合

GAD ペアのボリュームのペア状態が PAIR のときは、通信できない状態であることを書き込んだボリュームが、サーバからの I/O を継続します。

ペア状態が INIT/COPY の場合

どちらのストレージシステムが通信できない状態であることを書き込んだとしても、プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。セカンダリボリュームへの I/O は停止したままです。

ペアが中断している場合（ペア状態が PSUS、PSUE、SSWS または SSUS）

どちらのストレージシステムが通信できない状態であることを書き込んだとしても、I/O モードが Local のボリュームでサーバからの I/O を継続します。I/O モードが Block のボリュームへの I/O は停止したままです。

関連概念

- [1.6 Quorum ディスクとサーバ I/O](#)

1.6.3 他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを検出しなかったときのサーバ I/O

他のストレージシステムによる I/O 停止の書き込みを 5 秒以内に検出しなかった場合、基本的には通信できない状態であることを書き込んだストレージシステムのボリュームがサーバからの I/O を継続します。ただし、検出できなかったボリュームのペア状態と I/O モードによって、I/O が継続できるかどうか異なります。

ペア状態が PAIR の場合

サーバからの I/O を継続します。

ペア状態が INIT/COPY の場合

通信できない状態であることを書き込んだストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームのときは、プライマリボリュームはサーバからの I/O を継続します。セカンダリボリュームは I/O は停止したままです。

ペアが中断している場合（ペア状態が PSUS、PSUE、SSWS または SSUS）

通信できない状態であることを書き込んだストレージシステムのボリュームの I/O モードが Local のときは、サーバからの I/O を継続します。I/O モードが Block のボリュームの I/O は、停止したままです。

なお、I/O を受け付けない状態であることを Quorum ディスクに書き込むはずだったストレージシステムのボリュームは、ストレージシステムの障害が発生しているか、Quorum ディスクへアクセスできなくなっているため、サーバからの I/O は継続しません。

関連概念

- [1.6 Quorum ディスクとサーバ I/O](#)

1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作

Quorum ディスクに障害が発生した場合または Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合の、サーバからの I/O と GAD ペアのデータ二重化の動作について説明します。

Quorum ディスクの作成時に、LDEV を設定しないオプションを有効にし、作成した Quorum ID で GAD ペアを作成した場合

プライマリボリュームを閉塞してもセカンダリボリュームで業務を継続できます。

- Quorum ディスクが閉塞しても、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方で同一のデータを保持できます。

- ・ Quorum ディスクが閉塞しているときにプライマリボリュームの閉塞で業務が停止します。しかし GAD ペアを削除すればセカンダリボリュームで業務を継続できます。

(1) GAD ペアに対するサーバからの I/O と GAD ペアのデータ二重化の動作

GAD ペアに対するサーバからの I/O と GAD ペアのデータの二重化の動作について説明します。

ペア状態が PAIR のときに Quorum ディスクの閉塞を検知した場合またはペア状態が PAIR で Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合

正サイトと副サイトのストレージシステム間のリモートパスで通信します。プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームのペア状態と I/O モードは、PAIR (Mirror(RL)) を維持するため、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームでサーバからの I/O を継続します。また、正サイトと副サイトのストレージシステムの間のリモートパスを使用してデータ二重化を維持します。

ペア状態が INIT/COPY のときに Quorum ディスクの閉塞を検知した場合

プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。ただし、ペア状態が COPY になった直後に、Quorum ディスクの閉塞を検知した場合は、ペアが中断することがあります。

ペア状態が INIT/COPY のときに Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合、プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

ペアが中断しているとき (ペア状態が PSUS、PSUE、SSWS または SSUS) に Quorum ディスクの閉塞を検知した場合またはペア状態が中断しているときに Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合

I/O モードが Local のボリュームでサーバからの I/O を継続します。I/O モードが Block のボリュームへの I/O は停止したままです。また、データ二重化は中断したままです。

Quorum ディスクが閉塞したあとにリモートパスの切断を検知した場合または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成でリモートパスの切断を検知した場合

Quorum ディスクが閉塞したあとのリモートパスの切断、または Quorum ディスクでボリュームを設定しない構成でリモートパスの切断のタイミングでペアが中断し、プライマリボリュームのペア状態と I/O モードが PSUE (Local)、セカンダリボリュームのペア状態と I/O モードが PAIR (Block) に変わります。プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。ただし、Quorum ディスクが閉塞したあとまたは Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時に、リモートパスが切断されるタイミングによっては、GAD ペアが中断して、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームのペア状態と I/O モードが PSUE (Block) に変わることがあります。

セカンダリボリュームのペア状態と I/O モードが PAIR (Block) に変わるまでの間、データの読み取りで遅延が発生することがあります。遅延の影響を減らしたい場合は、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を短く設定すると、データの読み取りの遅延を最小限に抑えることができます。ただし、リモートパスが切断されてペアが中断されるまでの時間も短くなります。

早期にリモートパスの回復を図るため、リモートパスが切断されたあとにすぐペアを中断させたくない場合は、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を長く設定してください。ただし、サーバのタイムアウト時間よりも長く設定した場合、サーバでタイムアウトが発生するおそれがあります。

Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の推奨値を次に示します。

パス閉塞監視の設定値 (秒)	Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の推奨設定値 (秒)
40 (デフォルト)	40 (デフォルト)

パス閉塞監視の設定値（秒）	Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の推奨設定値（秒）
2～5	5*
6～25	6～25*
26～44	26～44
45	45

注※

MP 障害やパスの障害によって、リモートパスによる一時的な通信ができない場合、GAD ペアが中断するおそれがあります。これを回避する場合、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を、RIO MIH 時間よりも十分に大きい値にするか、25 秒以上に設定してください。ただし、データの読み取りが、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の設定値の時間まで遅延するおそれがあります。

パス閉塞監視時間の設定値は、`raidcom get remote_replica_opt` コマンドまたは `raidcom modify remote_replica_opt` コマンドで参照および編集できます。

Quorum 監視停止時における Read 応答保証時間の設定値は、`raidcom get quorum` コマンドまたは `raidcom modify quorum` コマンドで参照および編集できます。

RIO MIH 時間の設定値は、`raidcom get rcu` コマンドまたは `raidcom modify rcu` コマンドで参照および編集できます。

Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間は、パス閉塞監視と同じ時間を設定することを推奨します。セカンダリボリュームのペア状態と I/O モードが PSUE (Block) に変わるまでの間、データの読み取りの遅延を、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の設定値以内に抑えます。ただし、パス閉塞監視の設定値が 5 秒以下の場合、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を 5 秒に設定してください。

Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を 46 秒以上に設定すると、リモートパスの障害による GAD ペアの中断を回避しやすくなります。Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間を 46 秒以上に設定する場合、ホスト I/O のアプリケーションのタイムアウト時間が、設定値よりも大きいことを確認してください。また、リモートパスが複数あることを確認してください。リモートパスは 4 本以上あることを推奨します。ただし、データの読み取りが、Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間の設定値の時間まで遅延するおそれがあります。

1.6.5 Quorum ディスクの状態

Quorum ディスクには、次の 5 つの状態があります。

Quorum ディスクの状態	RAID Manager での表示	説明
Normal	NORMAL	Quorum ディスクが正常に稼働している状態です。
Transitioning	TRANSITIONING	Quorum ディスクの状態が遷移中です。
Blocked	BLOCKED	Quorum ディスクが閉塞している状態です。
Replacing	REPLACING	Quorum ディスクを交換中です。
Failed	FAILED	正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムが、それぞれ異なる Quorum ディスクに接続されている状態です。

Quorum ディスクの状態	RAID Manager での表示	説明
-	-	Quorum ディスクにボリュームを設定していない構成です。

GAD ペアを維持したまま、Quorum ディスクで使用している外部ストレージシステムを、別の新しい外部ストレージシステムに交換できます。その際、Quorum ディスクの状態を確認する必要があります。

Quorum ディスクの状態が Failed の場合、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムが、それぞれ異なる Quorum ディスクに接続されています。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムが、同じ Quorum ディスクに接続されるように外部ボリュームを指定して、再度 Quorum ディスクの交換を実施する必要があります。

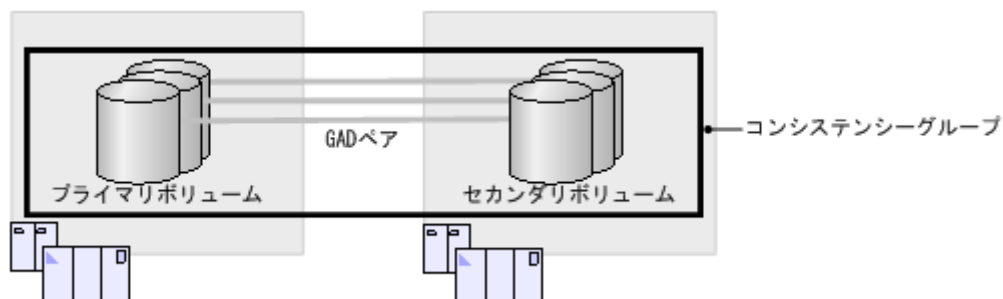
Quorum ディスクの状態は、RAID Manager の `raidcom get quorum` コマンドで確認できます。`raidcom get quorum` コマンドの詳細は、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合は、Quorum ディスクの状態が無効値「-」で表示されます。

関連概念

- [8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する](#)
- [10.1 GAD ペアを維持したまま外部ストレージシステムを交換する](#)

1.7 GAD のコンシステンシーグループ

コンシステンシーグループを使用すると、複数の GAD ペアを 1 つのグループとして管理できます。



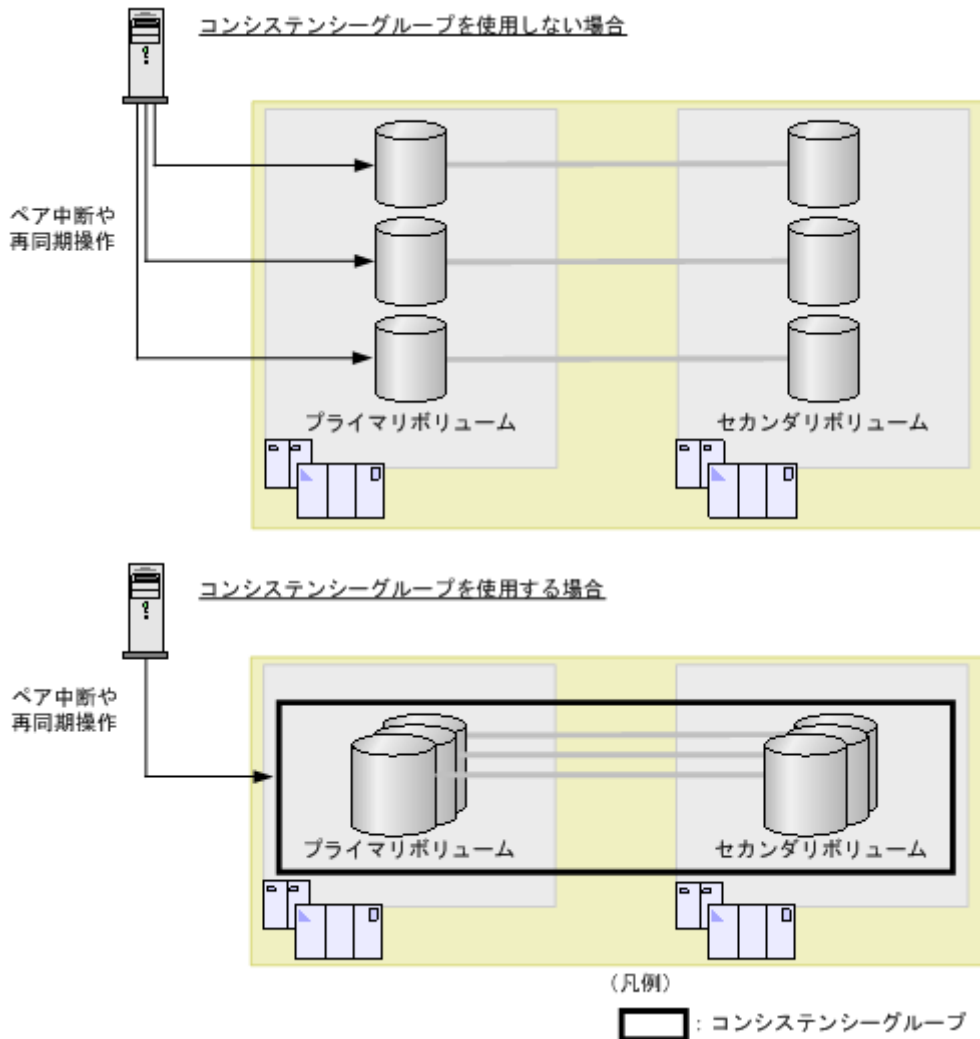
複数の GAD ペアをコンシステンシーグループに登録すると、次のことができるようになります。

- コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを操作する
- 障害発生時にコンシステンシーグループ単位で GAD ペアを中断させる（協調サスペンド）

1.7.1 コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを操作する

複数の GAD ペアをコンシステンシーグループに登録すると、コンシステンシーグループ単位に GAD ペアを再同期したり、中断したりできます。

1 回のペア再同期操作で、コンシステンシーグループに登録されているすべての GAD ペアを再同期できます。また、1 回のペア中断操作で、コンシステンシーグループに登録されているすべての GAD ペアを中断できます。



関連概念

- ・ [1.7 GAD のコンシステンシーグループ](#)

1.7.2 障害発生時にコンシステンシーグループ単位で GAD ペアを中断させる (協調サスペンド)

コンシステンシーグループ内の一部の GAD ペアが障害によって中断されると、その GAD ペアが登録されているコンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアが中断状態になります。これを、協調サスペンドと呼びます。障害が発生した場合にも、プライマリボリュームの I/O モードが Block に変わったときにはプライマリボリューム間で、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わったときにはセカンダリボリューム間で、データの一貫性が保証されます。



注意

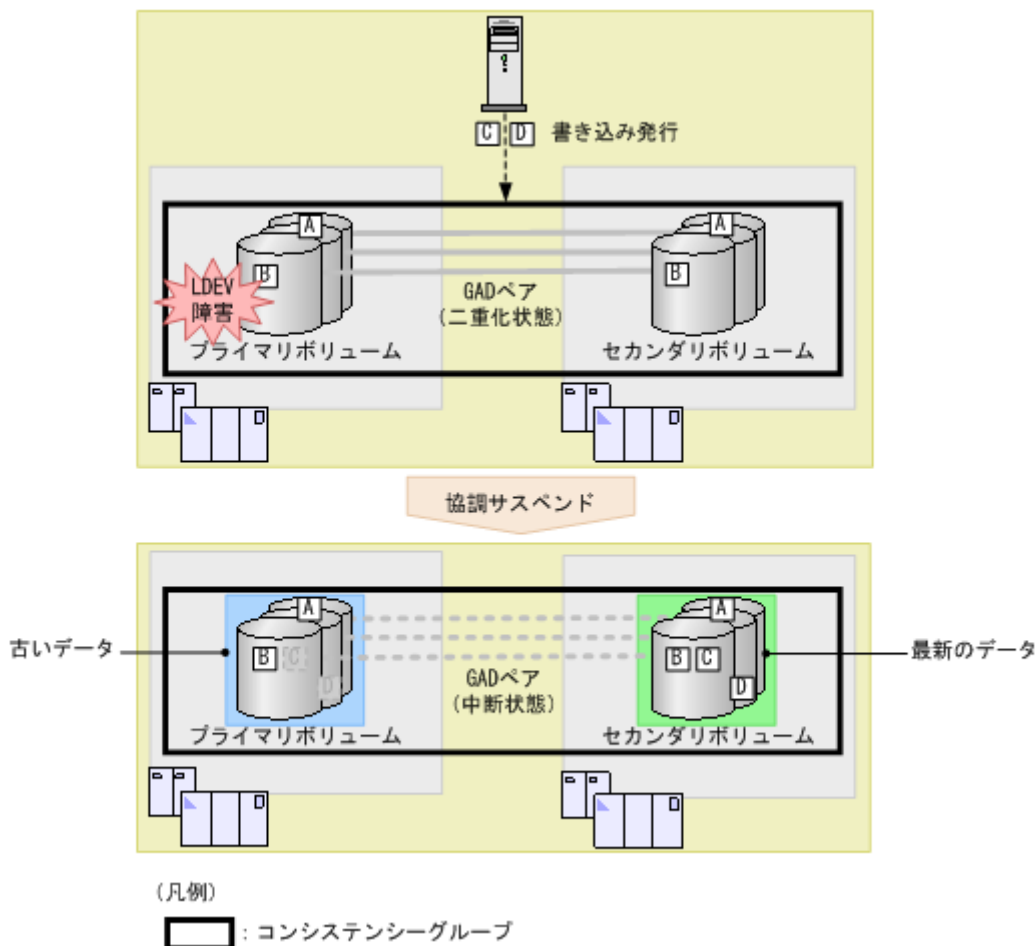
障害によっては、障害発生後、コンシステンシーグループ内の GAD ペアの I/O モードが Local または Block に統一されず、I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在する可能性があります。

その際は、「[14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順](#)」を参照して回復してください。

- ・ 一方のストレージシステムに、最新のデータがあるボリュームを集約する

一部のペアに障害が発生したときに、コンシステンシーグループに登録されているすべての GAD ペアが中断状態になると、最新のデータがあるボリュームが、正サイトまたは副サイトのストレージシステムに集約されます。

- GAD ペアの中断前後でデータの一貫性を保証する
コンシステンシーグループに登録されているすべての GAD ペアが中断状態になると、最新のデータがある正サイトまたは副サイトのボリュームだけが、サーバからの I/O を受領します。もう一方のサイトのボリュームは、障害が発生していないボリュームへの I/O であっても、サーバからの I/O の受領とデータの書き込み処理を停止します。これによって、サーバからの I/O を中断したサイトのボリュームで、中断前後のデータの一貫性が保証されます。



例えば、サーバが書き込みを A~D の順に発行し、ストレージシステムが書き込み B を受領したあとに、プライマリボリュームの LDEV 障害によってコンシステンシーグループに登録されているすべての GAD ペアが中断状態に変わったとします。この場合、GAD ペアが中断状態になる前にストレージシステムが受領した書き込み A と B は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームに書き込まれます。GAD ペアが中断状態に変わったあとにストレージシステムが受領した書き込み C と D は、セカンダリボリュームにだけに書き込まれます。

最新のデータがあるボリュームは、副サイトのストレージシステムに集約されています。

関連概念

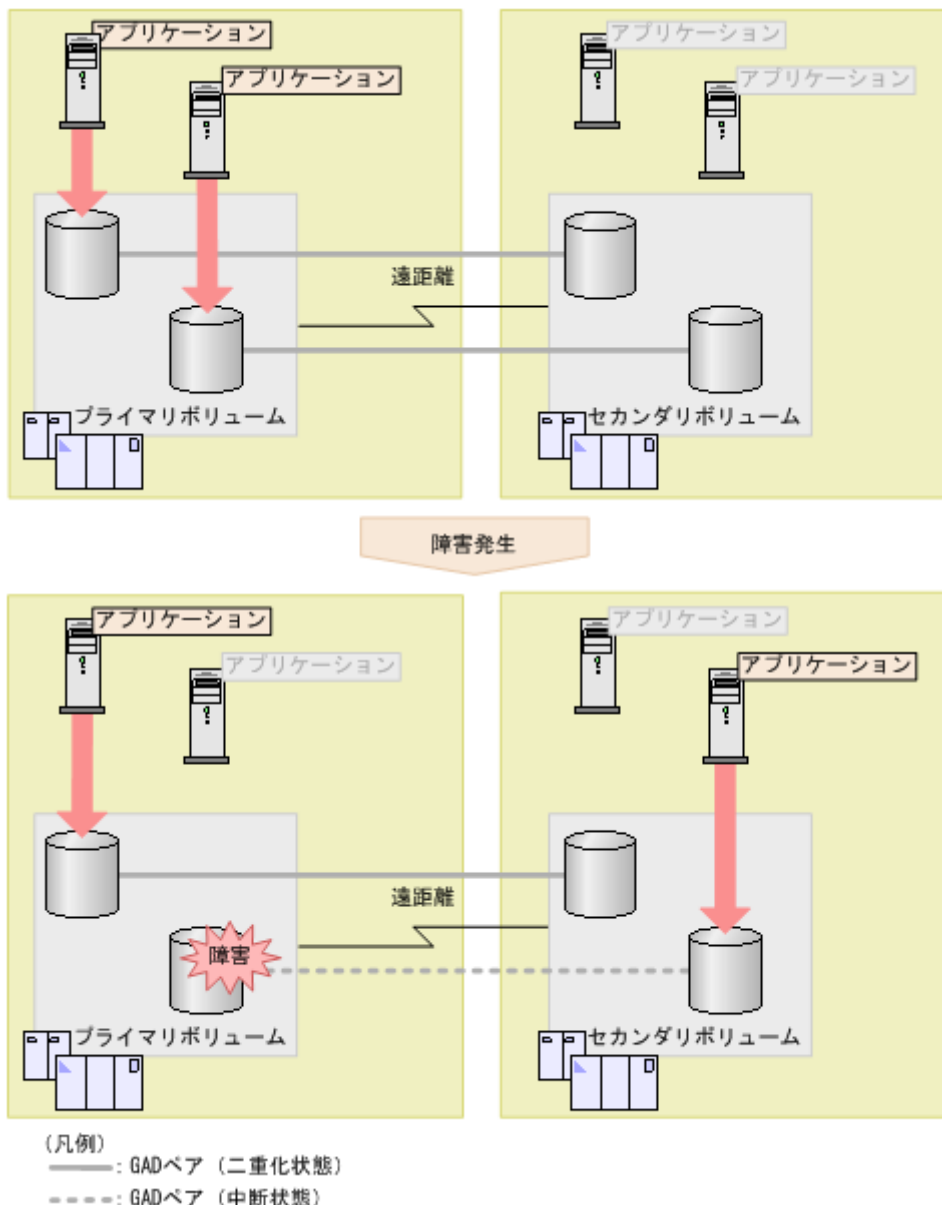
- [1.7 GAD のコンシステンシーグループ](#)

1.7.3 コンシステンシーグループのユースケース

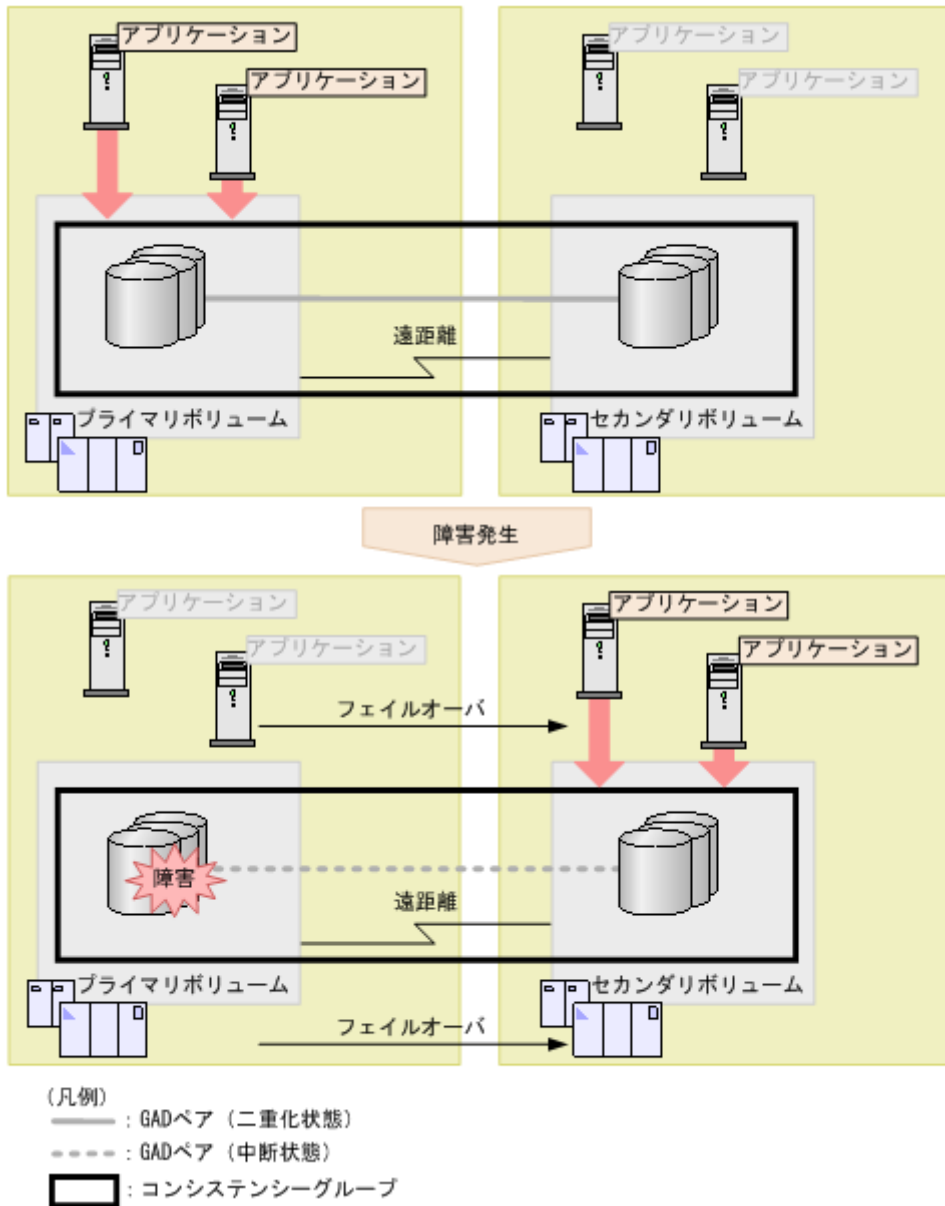
(1) 一括フェイルオーバー

コンシステンシーグループを使用すると、コンシステンシーグループ単位で GAD を遠隔サイトに一括でフェイルオーバーできます。

コンシステンシーグループを使用しない場合、障害が発生したボリュームにアクセスするアプリケーションだけが遠隔サイトにフェイルオーバーします。



コンシステンシーグループを使用する場合、障害が発生したときにコンシステンシーグループ内のボリュームにアクセスするすべてのアプリケーションを、GAD ペアと連動して遠隔サイトにフェイルオーバーさせられます。



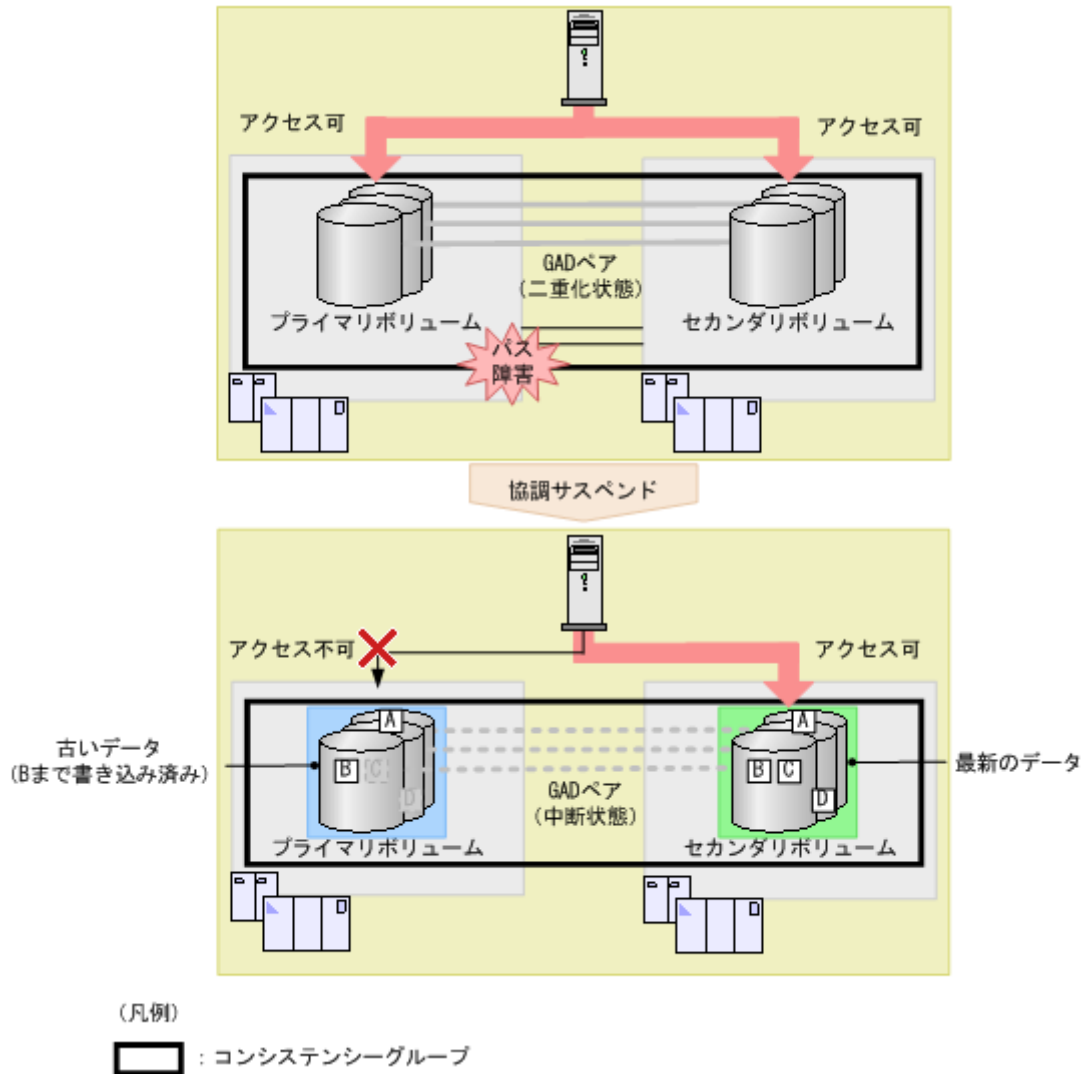
関連概念

- [1.7 GAD のコンシステンシーグループ](#)

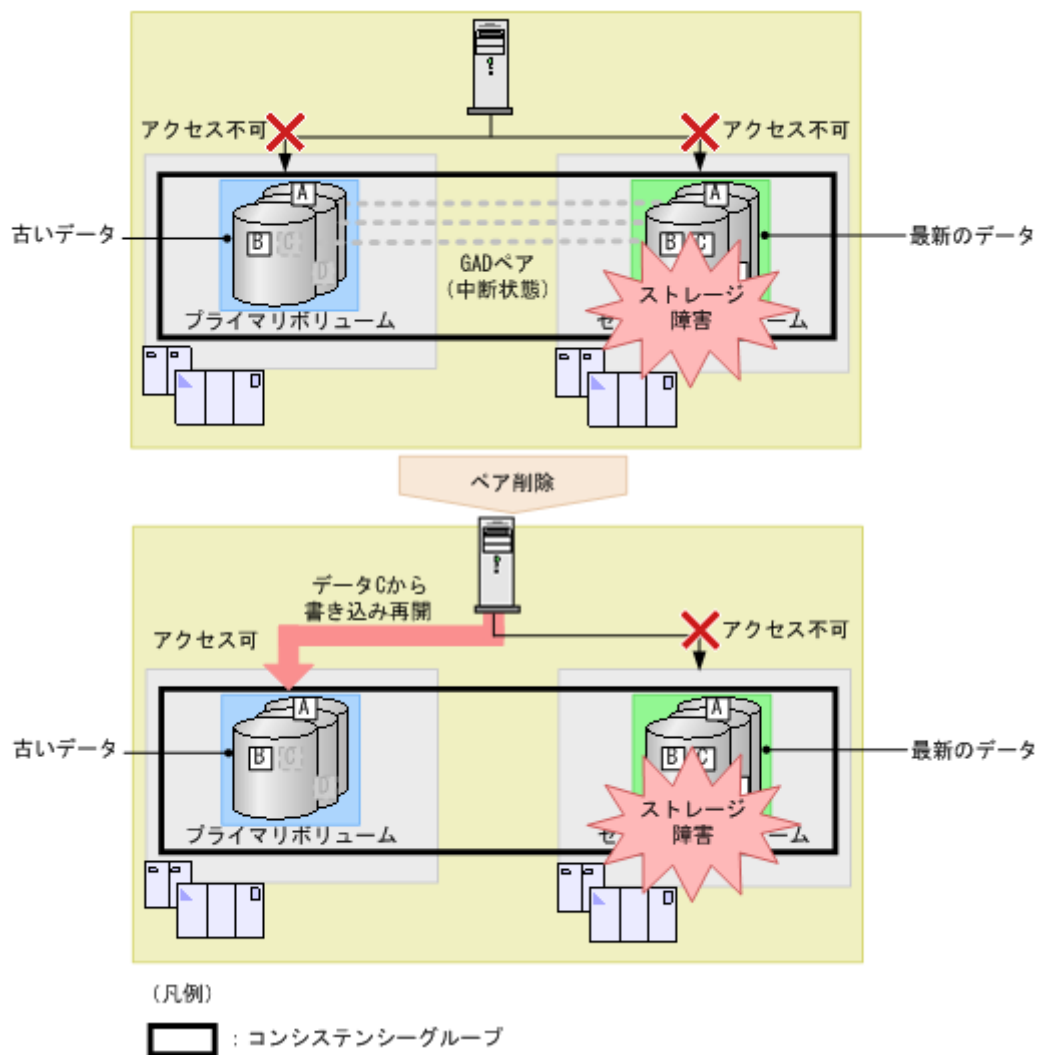
(2) 一貫性のあるバックアップデータからの業務再開

GAD ペアが中断状態になると、サーバからは最新のデータがある方のボリュームにだけ I/O が継続します。万が一 GAD ペアが中断状態のときに、最新のデータがある方のストレージシステムで障害が発生し、最新のデータにアクセスできなくなった場合は、一貫性があるデータ（古いデータ）を使用して、GAD ペアが中断状態に変わった時点から業務を再開できます。

例えば、プライマリボリュームへのパスの障害によって、GAD ペアが中断状態に変わったとします。この時点で、プライマリボリュームにはデータ B まで書き込まれていました。



その後、セカンダリボリュームがあるストレージシステムで障害が発生し、セカンダリボリュームの最新のデータにアクセスできなくなりました。この場合、GAD ペアを削除したあと、プライマリボリュームを使用して、書き込みデータ C の書き込み処理から業務を再開できます。

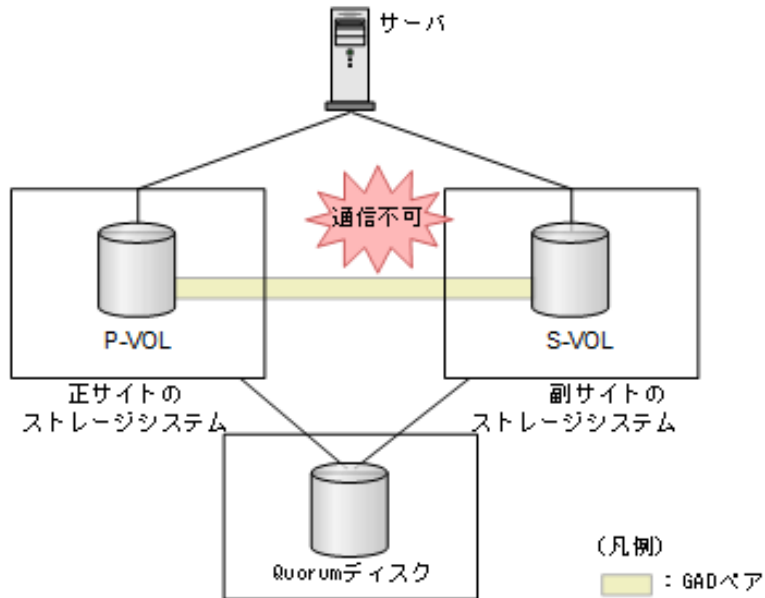


関連概念

- ・ [1.7 GAD のコンシステンシーグループ](#)

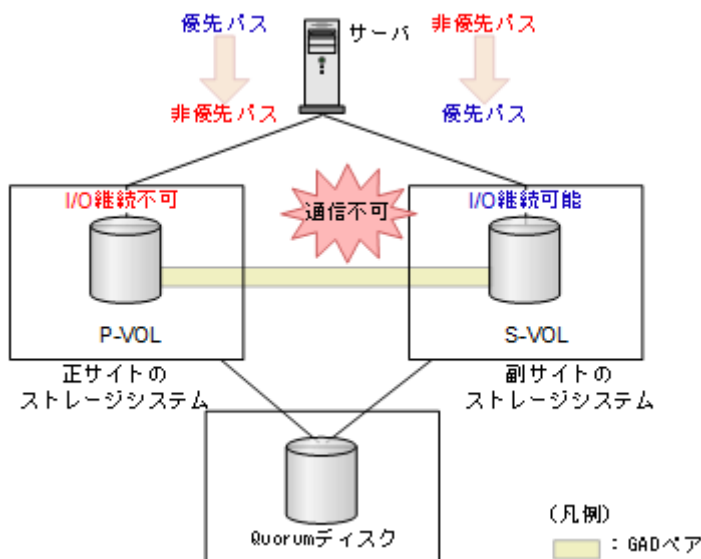
1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード

リモートパス障害時 IO 優先モードを設定すると、ストレージシステム間のリモートパスで障害が発生した際に、優先的にプライマリボリュームでサーバからの I/O を継続できるようになります。



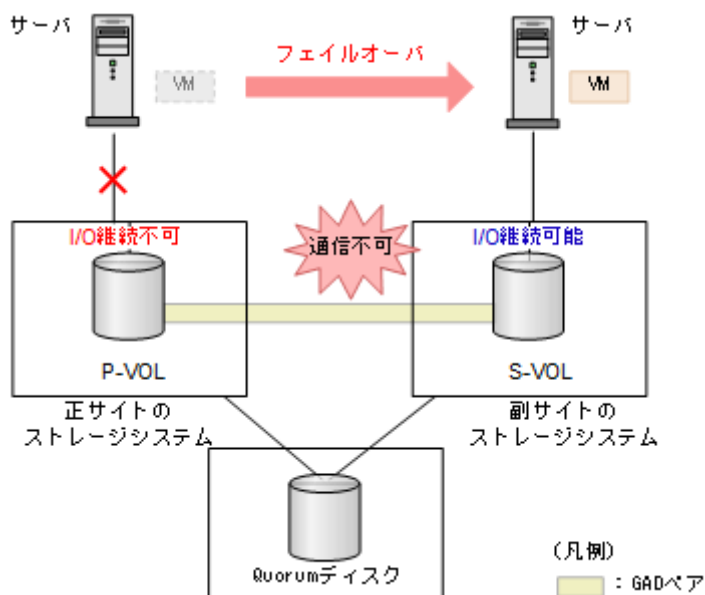
正サイトと副サイトのストレージシステム間のリモートパスで障害が起きると、GAD ペア間でデータの二重化ができなくなった場合、GAD ペアが中断されます。通常、リモートパスの障害により中断された GAD ペアは、サーバからの I/O を受領していたストレージシステム側のボリュームがサーバからの I/O を継続します。このとき、サーバからの I/O を継続するボリュームをユーザ側で選択できないため、次のような構成では、リモートパス障害時に意図しない優先パス/非優先パスの切り替えやフェイルオーバーが発生することがあります。リモートパス障害時 IO 優先モードを設定すると、リモートパス障害時でもプライマリボリュームでサーバ I/O を継続する動作となります。そのため、プライマリボリューム側のパスを優先パスに設定する、あるいはプライマリボリュームで業務を行うことで、意図しないパスの切り替えやフェイルオーバーを回避できます。

- ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定をしているクロスパス構成の場合
非優先パス側に、ユーザによる I/O とは非同期で発行される ALUA の I/O があるため、リモートパスの障害が発生した際に、非優先パス側のストレージシステムのボリュームがサーバからの I/O を継続することがあります。これにより意図しない優先パス/非優先パスの切り替わりが発生することがあります。



リモートパス障害時 IO 優先モードを設定すると、リモートパス障害時にプライマリボリューム側を優先パスに設定できるため、プライマリボリューム側のパスを優先パスに設定することで、意図しない優先パス/非優先パスの切り替わりを回避できます。

- サーバクラスタ構成の場合
スタンバイ側のサーバから、ユーザによる I/O とは非同期で発行されるヘルスチェックの I/O があるため、リモートパスの障害が発生した際に、スタンバイ側のサーバに接続されたストレージシステムのボリュームがサーバからの I/O を継続することがあります。これにより、意図しないフェイルオーバーが発生することがあります。



リモートパス障害時 IO 優先モードを設定すると、リモートパス障害時にプライマリボリュームでサーバ I/O が継続されるため、プライマリボリュームで業務を行うことで、意図しないフェイルオーバーを防げます。



注意

リモートパス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」に設定している場合に、プライマリボリュームにアクセスできないような障害（例：サーバからプライマリボリュームへのパス障害）が併発していると、アクセスロスとなることがあります。

関連概念

- [1.8.1 リモートパス障害時 IO 優先モードの要件と仕様](#)

1.8.1 リモートパス障害時 IO 優先モードの要件と仕様

リモートパス障害時 IO 優先モードの要件、仕様、および注意事項を次に示します。

リモートパス障害時 IO 優先モードの選択

リモートパス障害時 IO 優先モードは、次の 2 つのモードがあります。指定したモードにより、リモートパスの障害によって中断された GAD ペアに対するサーバからの I/O 動作が規定されます。

- 「無効」（デフォルト）：
サーバから I/O を受領していたストレージシステム側のボリュームが、サーバからの I/O を継続します。正サイトと副サイトの両方のストレージシステムでサーバからの I/O を受領していた場合は、いずれか片方のストレージシステムのボリュームがサーバからの I/O を継続します。リモートパス障害時 IO 優先モードがサポートされていないマイクロバージョンまたはファームウェアバージョンのストレージシステムの場合も、この動作となります。
- 「プライマリボリューム」：
プライマリボリュームで、優先的にサーバからの I/O を継続します。



メモ

- Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合、リモートパス障害時 IO 優先モードの設定に関わらず、プライマリボリュームがサーバからの I/O を継続できます。
- 同じコンシステンシーグループ内の GAD ペアに、異なるリモートパス障害時 IO 優先モードを設定できません。
- リモートパス以外にも障害部位がある場合（例：ストレージシステムの障害）、リモートパス障害時 IO 優先モードが「プライマリボリューム」に設定されていても、セカンダリボリュームがサーバからの I/O を継続することがあります。



注意

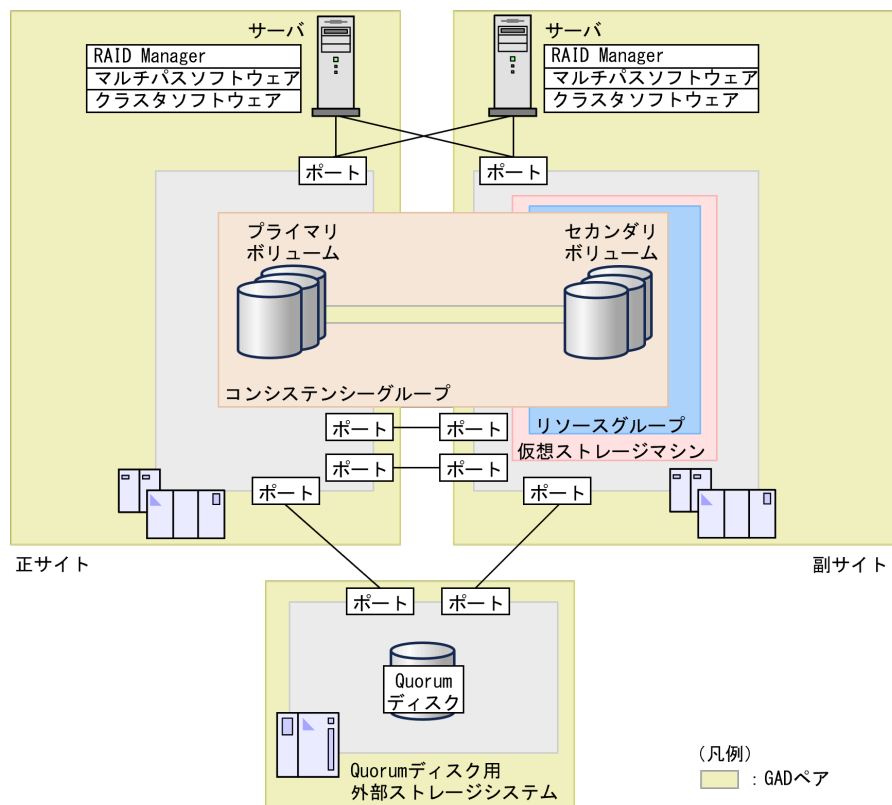
リモートパス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」に設定している場合に、プライマリボリュームにアクセスできないような障害（例：サーバからプライマリボリュームへのパス障害）が併発していると、アクセスロスとなることがあります。

リモートパス障害時 IO 優先モードの設定手順については、次を参照してください。

- リモートパス障害時 IO 優先モードを設定して新規ペアを作成する場合
「[7.3 GAD ペアを作成する](#)」の「[リモートパス障害時 IO 優先モードを設定してペアを作成する](#)」
- 既存ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードの設定を変更する場合
「[7.5 GAD ペアを再同期する](#)」の「[既存ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードを変更する](#)」

1.9 GAD の構成要素

GAD の構成要素を次に示します。



ストレージシステム

正サイトと副サイトの両方にストレージシステムを設置します。サポートしているストレージシステムの組み合わせは、機種、モデル、マイクロバージョンにより異なります。詳細は、「[2.1 GAD の要件](#)」を参照してください。Quorum ディスクを置く外部ストレージシステムも必要です。

ペアボリューム

GAD ペアは、1つのプライマリボリュームと、1つのセカンダリボリュームで構成されます。正サイトのストレージシステムで GAD ペアを作成した場合、正サイトのボリュームがプライマリボリューム、副サイトのボリュームがセカンダリボリュームです。

コンシステンシーグループ

複数の GAD ペアで構成されるグループです。コンシステンシーグループに GAD ペアを登録すると、コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを再同期したり、中断したりできます。

Quorum ディスク

Quorum ディスクは、パスやストレージシステムに障害が発生したときに、どちらのストレージシステムでサーバからの I/O を継続するのかを決めるために使われます。Quorum ディスクには外部ストレージシステムのボリュームを使用しますが、Universal Volume Manager がサポートしているサーバであれば、サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用できます。また、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成によって、Quorum ディスク用に外部ストレージシステムのボリュームを準備する必要がなくなります。詳細は「[1.6.1 Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成](#)」を参照してください。

仮想ストレージマシン

ストレージシステムの中に作成する、仮想的なストレージシステムです。GAD では、副サイトのストレージシステムの中に、正サイトのストレージシステムと同じモデルとシリアル番号を設定した仮想ストレージマシンを作成して、サーバから 1 台の仮想ストレージマシンとして見えるようにします。

仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成することもできます。仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成する場合は、正サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を、副サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンに割り当ててください。

パスとポート

サーバとストレージシステム間、および各ストレージシステム間を物理パスで接続します。

正サイトと副サイトのストレージシステムでデータの送受信ができるよう、リモート接続を追加します。ストレージシステム間の通信には、物理パスだけでなく、論理パス（リモートパスや外部パス）の設定も必要です。

ストレージシステム間のパスとして使用できるインターフェースは「[2.1 GAD の要件](#)」を参照してください。

マルチパスソフトウェア

マルチパスソフトウェアは、サーバからボリュームまでのパスを冗長化したり、パス間での負荷を分散したりするソフトウェアです。1 台のサーバで GAD 構成を組む場合や、2 台のサーバでクロスパス構成を組む場合に必要です。

クラスタソフトウェア

クラスタソフトウェアは、複数台のサーバで 1 つのシステムを構成し、あるサーバに障害が発生したときに別のサーバへ業務を切り替えられるソフトウェアです。2 台のサーバで GAD 構成を組む場合に必要です。

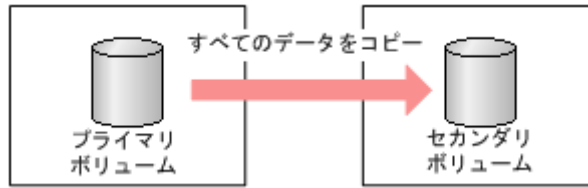
RAID Manager

ストレージシステムを CLI で操作するためのインターフェースです。サーバにインストールします。GAD の操作に使用します。

1.10 GAD のコピーの種類

GAD には、次の 2 種類のコピーがあります。

- 形成コピー
プライマリボリュームのすべてのデータをセカンダリボリュームへコピーし、両方のボリュームのデータを一致させます。GAD 状態を初期から二重化に変更するときに、使用します。



- 差分コピー
プライマリボリュームとセカンダリボリュームとの差分だけをコピーし、両方のボリュームのデータを一致させます。GAD 状態を中断から二重化に変更するときに、使用します。
GAD 状態が中断のときは、ストレージシステムがデータの更新位置を記録し、差分を管理します。



1.11 GAD の運用を開始するまでの流れ

GAD は、RAID Manager を使用して運用します。

GAD の運用を開始するまでの流れを次に示します。



このマニュアルでは、RAID Manager を使用して GAD ペアを作成する方法について説明します。

次の表では、RAID Manager を使用して GAD ペアを作成する流れに沿って、インタフェースごとの操作可否を説明します。

運用開始までの流れ		操作対象
ハードウェアの設置と接続		—
プログラムプロダクトのインストール		正サイト、副サイト
RAID Manager の起動	コマンドデバイス作成	正サイト、副サイト
	構成定義ファイルの作成と起動※	サーバ
正サイトと副サイトのストレージシステムを接続	リモート接続を追加	正サイト、副サイト
Quorum ディスクの作成	外部ボリュームを作成	正サイト、副サイト
	Quorum ディスクを設定	正サイト、副サイト

運用開始までの流れ		操作対象
副サイトのストレージシステムの 設定	仮想ストレージマシンを作成	副サイト
	セカンダリボリュームの仮想属性 に GAD 予約を割り当て	副サイト
	セカンダリボリュームを作成	副サイト
	セカンダリボリュームへ LU パス を設定	副サイト
RAID Manager の構成定義ファイルの更新※		サーバ
GAD ペアの作成		正サイト
セカンダリボリュームへ冗長パスを設定		サーバ

注※

構成定義ファイルは、テキストエディタなどを使用して作成してください。

global-active device の要件

global-active device (GAD) を使用するための要件について説明します。

□ 2.1 GAD の要件

2.1 GAD の要件

GAD を使用するための要件について説明します。

項目	要件
DKC エミュレーションタイプ	すべて。ただし、正サイトと副サイトのストレージシステムのエミュレーションタイプは同じであること。
VSP One B23、VSP One B26、VSP One B28 と接続できるストレージシステム	<ul style="list-style-type: none"> • VSP One B20 (全バージョン) • VSP 5000 シリーズ (90-09-23-XX/XX 以降) • VSP E シリーズ (93-07-22-XX/XX 以降) • VSP G150、G350、G370、G700、G900 および VSP F350、F370、F700、F900 (88-08-12-XX/XX 以降)
Quorum ディスク用外部ストレージシステムまたはサーバ	<ul style="list-style-type: none"> • Universal Volume Manager が使用できるストレージシステムまたはサーバであること。 • 正サイトと副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムを接続できる距離の最大値は 1,500km です。Universal Volume Manager の詳細については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。
global-active device	<p>正サイトと副サイトのストレージシステムに、global-active device のライセンスが必要です。</p> <p>次のライセンス容量制限が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用可能なライセンス容量を超過するペア作成はできません。 • GAD のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに仮想ボリュームを使用する場合は、仮想ボリュームに割り当てられるページの容量が GAD のライセンス容量としてカウントされます。ただし、容量削減機能が有効なボリュームの場合は、削減前の容量が global-active device ライセンス容量の対象になります。 • 実際のライセンス容量が利用可能なライセンス容量を超えると、ペア作成ができなくなります。さらに、ライセンス容量を超えてから 30 日を過ぎると、実行できるペア操作は、ペア中断とペア削除だけになります。
プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> • AIX • HP-UX • Red Hat Enterprise Linux • Solaris • SuSE Linux • VMware ESX • Windows Server <p>サポートバージョンについては、お問い合わせ先に連絡してください。</p>
物理パス	<ul style="list-style-type: none"> • 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスが必要です。 • 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続できる距離の最大値は 500km です (回線機器による遅延を含めた往復遅延時間の最大値は 20ms です)。ただし、100km 以上の距離を接続するには、次の条件をすべて満たす必要があります。100km 以上の構成を使用する場合は、お問い合わせ先に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ ファイバチャネルインタフェースで接続されている

項目	要件
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度が 1Gbps 以上である ◦ ホストモードオプション 51 が ON になっている • 物理パスに使用できるインタフェースを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ リンクスピードが 32Gbps、64Gbps のファイバーチャネル ◦ リンクスピードが 10Gbps の iSCSI <p>なお、FC-NVMe、NVMe/TCP およびリンクスピードが 25Gbps の iSCSI は未サポートです。</p> <p>物理パスに使用できるインタフェースのサポートバージョン(ファームウェアバージョン)は、「3.3 GAD の物理パスの計画」を参照してください。直結、スイッチ、またはチャネルエクステンダによる接続があります。「3.3.3 GAD の接続形態」を参照してください。</p>
シェアドメモリ	<p>GAD は、基本部のシェアドメモリだけで使用できます。シェアドメモリを増設すると、ペアを作成できる容量が拡張されます。シェアドメモリの増設と GAD 専用領域設定については、お問い合わせください。</p>
リモートパスとパスグループ	<p>正サイトと副サイトのストレージシステム間で双方向にリモートパスが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 台のストレージシステムに 64 個まで設定できます(TrueCopy および Universal Replicator で使用しているパスグループとの合計)。 • パスグループ単位に、リモートパスを設定します。 • 1 個のパスグループには、最大 8 本のパスが使用できます。 • パスグループ ID は 0~255 まで指定できます。 • GAD ペアを作成するときに、TrueCopy または Universal Replicator で使用するパスグループ ID と同じパスグループ ID を指定すると、TrueCopy または Universal Replicator と同じ物理パスを使用します。別の物理パスを用意し、別のパスグループ ID を指定して GAD ペアを作成すると、物理パスを分けられます。 • パスグループはペアを作成するときに指定する必要があります。ペアの再同期ではパスグループを変更できません。 • 同じ正サイトと副サイトのストレージシステムの組み合わせで、複数のパスグループも使用できます。
接続できるストレージシステム数	<p>1 台のストレージシステムから最大で 15 台のストレージシステムに対して GAD ペアを作成できます。</p>
SCSI コマンド	<ul style="list-style-type: none"> • SCSI-2 Reserve コマンドと SCSI-3 Persistent Reserve コマンド、VAAI コマンドをサポートしています。 • Windows Server 2012 の Thin Provisioning 機能をサポートしています。 • SCSI-3 Persistent Reserve 使用環境においては、I/O を実施するパス(ホストグループ)毎に、Reservation Key の登録が必要です。そのため、ホストから P-VOL と S-VOL の両方に I/O を実施する場合は、P-VOL と S-VOL の両方のパス(ホストグループ)に、Reservation Key の登録をしてください。登録された Reservation Key 情報は GAD ペア間で二重化されます。
仮想ストレージマシン	<ul style="list-style-type: none"> • 1 台のストレージシステム内に設定できる仮想ストレージの最大台数は 15 台です。 • 1 個の仮想ストレージマシンに設定できる最大ボリューム数は次のとおりです。

項目	要件						
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ VSP One B23 の場合：16,383 個 ◦ VSP One B26 の場合：32,767 個 ◦ VSP One B28 の場合：49,151 個 <ul style="list-style-type: none"> • 仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成することもできます。仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成する場合は、正サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を、副サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンに割り当ててください。 • 副サイトのストレージシステムのリソースグループ（仮想ストレージマシン）に、プライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がある場合は、GAD ペアを作成できません。ボリュームを未作成で、LDEV ID だけがある場合にも、仮想 LDEV ID の削除が必要です。 						
ペア数	<p>1 個の仮想ストレージマシンに作成できる GAD ペアの最大数は次のとおりです。なお、1 台のストレージシステム当たりの GAD ペアの最大数も同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて Dynamic Provisioning の仮想ボリューム（DP-VOL）または外部ボリュームを使用した場合 <ul style="list-style-type: none"> ◦ VSP One B23：16,382 個 ◦ VSP One B26：32,766 個 ◦ VSP One B28：49,150 個 • すべて容量削減機能が有効な仮想ボリュームを使用した場合 <ul style="list-style-type: none"> ◦ VSP One B23：16,382 個 ◦ VSP One B26：32,628 個 ◦ VSP One B28：32,628 個 <p>最大ペア数の算出方法は、「3.5.2 GAD の最大ペア数の制限」を参照してください。</p>						
ペアボリューム	<ul style="list-style-type: none"> • プライマリボリュームとセカンダリボリュームには、Dynamic Provisioning の仮想ボリューム（DP-VOL）、および外部ボリュームを使用できます。ただし、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの、ボリューム属性（raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR）が同じであること。異なるボリューム属性のボリューム間では、GAD ペアを作成できません。 • DP-VOL の場合、データダイレクトマップ属性が設定されているボリュームとデータダイレクトマップ属性が設定されていないボリューム間では、GAD ペアを作成できません。 • プライマリボリュームとセカンダリボリュームのエミュレーションタイプが OPEN-V であること。 • プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同じ容量であること。 • プライマリボリュームとセカンダリボリュームの最大容量は次のとおりです。 <table border="1" data-bbox="735 1675 1417 1899"> <thead> <tr> <th data-bbox="735 1675 1075 1736">ボリュームの種類</th> <th data-bbox="1075 1675 1417 1736">最大容量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="735 1736 1075 1818">DP-VOL</td> <td data-bbox="1075 1736 1417 1818">268,435,456MB (549,755,813,888block)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="735 1818 1075 1899">外部ボリューム</td> <td data-bbox="1075 1818 1417 1899">4,194,304MB (8,589,934,592block)</td> </tr> </tbody> </table>	ボリュームの種類	最大容量	DP-VOL	268,435,456MB (549,755,813,888block)	外部ボリューム	4,194,304MB (8,589,934,592block)
ボリュームの種類	最大容量						
DP-VOL	268,435,456MB (549,755,813,888block)						
外部ボリューム	4,194,304MB (8,589,934,592block)						

項目	要件																																				
	<ul style="list-style-type: none"> プライマリボリュームの T10 PI 属性とセカンダリボリュームの T10 PI 属性には、同じ値を設定する必要があります。 GAD ペアのボリュームを使用して、SAN ブートできます。 ファイバチャネル 32Gbps でホストに接続されたボリュームを、ペアボリュームとして使う global-active device 構成を、次に示すストレージシステムでサポートします。 <table border="1" data-bbox="735 398 1417 972"> <thead> <tr> <th colspan="2">接続元装置</th> <th colspan="2">接続先装置</th> </tr> <tr> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">VSP One B20</td> <td rowspan="4">全バージョン</td> <td>VSP One B20</td> <td>全バージョン</td> </tr> <tr> <td>VSP 5000 シリーズ</td> <td>90-09-23-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP E シリーズ</td> <td>93-07-22-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900</td> <td>88-08-12-XX/XX 以降</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、global-active device と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は、DKCMAIN プログラムバージョン A3-02-01-XX 以前で未サポートです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイバチャネル 64Gbps でホストに接続されたボリュームを、ペアボリュームとして使う global-active device 構成を、次に示すストレージシステムでサポートします。 <table border="1" data-bbox="735 1193 1417 1798"> <thead> <tr> <th colspan="2">接続元装置</th> <th colspan="2">接続先装置</th> </tr> <tr> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">VSP One B20</td> <td rowspan="4">A3-02-01-XX/XX 以降</td> <td>VSP One B20</td> <td>A3-02-01-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP 5000 シリーズ</td> <td>90-09-24-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP E シリーズ</td> <td>93-07-23-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900</td> <td>88-08-13-XX/XX 以降</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、global-active device と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は、DKCMAIN プログラムバージョン A3-02-01-XX 以前で未サポートです。</p>	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降	VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降	VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-08-12-XX/XX 以降	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	VSP One B20	A3-02-01-XX/XX 以降	VSP One B20	A3-02-01-XX/XX 以降	VSP 5000 シリーズ	90-09-24-XX/XX 以降	VSP E シリーズ	93-07-23-XX/XX 以降	VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-08-13-XX/XX 以降
接続元装置		接続先装置																																			
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																																		
VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン																																		
		VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降																																		
		VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降																																		
		VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-08-12-XX/XX 以降																																		
接続元装置		接続先装置																																			
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																																		
VSP One B20	A3-02-01-XX/XX 以降	VSP One B20	A3-02-01-XX/XX 以降																																		
		VSP 5000 シリーズ	90-09-24-XX/XX 以降																																		
		VSP E シリーズ	93-07-23-XX/XX 以降																																		
		VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-08-13-XX/XX 以降																																		

項目	要件																																
	<ul style="list-style-type: none"> 10Gbps iSCSI チャンネルボードのポートでホストに接続されたボリュームを、ペアボリュームとして使う global-active device 構成を、次に示すストレージシステムでサポートします。 <table border="1" data-bbox="735 282 1417 647"> <thead> <tr> <th colspan="2">接続元装置</th> <th colspan="2">接続先装置</th> </tr> <tr> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">VSP One B20</td> <td rowspan="3">全バージョン</td> <td>VSP One B20</td> <td>全バージョン</td> </tr> <tr> <td>VSP 5000 シリーズ</td> <td>90-09-23-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP E シリーズ</td> <td>93-07-22-XX/XX 以降</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、global-active device と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は未サポートです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 25Gbps iSCSI チャンネルボードのポートでホストに接続されたボリュームを、ペアボリュームとして使う global-active device 構成を次に示すストレージシステムでサポートします。 <table border="1" data-bbox="735 835 1417 1200"> <thead> <tr> <th colspan="2">接続元装置</th> <th colspan="2">接続先装置</th> </tr> <tr> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> <th>機種</th> <th>ファームウェアバージョン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">VSP One B20</td> <td rowspan="3">全バージョン</td> <td>VSP One B20</td> <td>全バージョン</td> </tr> <tr> <td>VSP 5000 シリーズ</td> <td>90-09-23-XX/XX 以降</td> </tr> <tr> <td>VSP E シリーズ</td> <td>93-07-22-XX/XX 以降</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、global-active device と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は未サポートです。</p> <ul style="list-style-type: none"> FC-NVMe または NVMe/TCP でホストに接続されたボリューム (Namespace) を、ペアボリュームとして使う global-active device 構成は未サポートです。 	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降	VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン	VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降	VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降
接続元装置		接続先装置																															
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																														
VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン																														
		VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降																														
		VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降																														
接続元装置		接続先装置																															
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																														
VSP One B20	全バージョン	VSP One B20	全バージョン																														
		VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降																														
		VSP E シリーズ	93-07-22-XX/XX 以降																														
Quorum ディスク	<ul style="list-style-type: none"> 1 台の正サイトまたは副サイトのストレージシステム当たり、最大 32 個の Quorum ディスクを設定できます。 Quorum ディスク ID には 0 から 31 の数値を使用できます。 1 個の Quorum ディスク当たりの作成できる GAD ペアの最大数は次のとおりです <ul style="list-style-type: none"> VSP One B23 の場合：16,382 個 VSP One B26 の場合：32,766 個 VSP One B28 の場合：49,150 個 Quorum ディスクの最小容量は、12,292MB (25,174,016block) です。 Quorum ディスクの最大容量に制限はありません。Universal Volume Manager の外部ボリュームの最大容量 (4TB) が適用されます。 外部ストレージシステムのボリュームだけでなく、Universal Volume Manager がサポートしているサーバであれば、サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用できます。Universal Volume Manager 																																

項目	要件
	<p>の詳細については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 個の外部ボリュームグループを、1 個の外部ボリュームにマッピングしてください。 VSP、HUS VM、および USP V/VM の High Availability Manager で Quorum ディスクとして使用しないでください。 外部ストレージシステムのボリュームは、T10 PI 属性が有効に設定されていないこと。 外部ストレージシステムのボリュームは、データダイレクトマップ属性が設定されていないこと。
コンシステンシーグループ	<ul style="list-style-type: none"> 1 台のストレージシステム内で使用できるコンシステンシーグループの最大数は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> VSP One B20 の場合：128 個 異なるストレージシステムのモデル同士で接続する場合のコンシステンシーグループの最大数は、小さいモデルの最大数と同じです。 コンシステンシーグループ ID に指定できる範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> VSP One B20 の場合：0~127 の間 異なるストレージシステムのモデル同士で接続する場合のコンシステンシーグループの範囲は、小さいモデルの範囲と同じです。 1 つのコンシステンシーグループに最大 8,192 個の GAD ペアを登録できます。 1 つのコンシステンシーグループ内の GAD ペアは、同じ Quorum ディスク ID を設定する必要があります。 1 つのコンシステンシーグループ内の GAD ペアは、同じ仮想ストレージマシン内に作成する必要があります。 同じコンシステンシーグループ ID であっても、ストレージシステムが物理的に異なる場合は、別のコンシステンシーグループとして扱われます。異なるストレージシステムで同じコンシステンシーグループ ID を使用できます。
ミラー	<p>ミラー ID は 0~3 まで指定できます。ミラー ID の指定を省略した場合、自動で 0 が指定されます。</p>
マルチパスソフトウェア	<p>1 台のサーバで GAD 構成を組む場合や、2 台のサーバでクロスパス構成を組む場合に必要です。 最新情報については、お問い合わせ先に連絡してください。</p>
クラスタソフトウェア	<p>2 台のサーバで GAD 構成を組む場合に必要です。 最新情報については、お問い合わせ先に連絡してください。</p>
インタフェース	<ul style="list-style-type: none"> RAID Manager GAD の操作に使用します。コマンドデバイスが必要です。 RAID Manager のセットアップと RAID Manager の使用についての情報は、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

global-active device の計画

ここでは、ストレージシステム、ペアボリューム、物理バス、その他 global-active device (GAD) の環境を構築するときに注意する必要がある点について説明します。

- 3.1 GAD を使用するためのストレージシステムの準備
- 3.2 GAD のシステム性能の計画
- 3.3 GAD の物理バスの計画
- 3.4 GAD の Quorum ディスクの計画
- 3.5 GAD のペアの計画

3.1 GAD を使用するためのストレージシステムの準備

GAD ペアを使用するストレージシステムには、次の準備が必要です。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムに、LAN を使用して管理ツールの操作端末を接続します。
- システムを構築するときに、ストレージシステムとサーバを接続して、ストレージシステムからセンス情報が報告できるようにします。正サイトおよび副サイトのストレージシステムに、それぞれサーバを接続します。副サイトのストレージシステムに専用のサーバを接続しない場合は、副サイトのストレージシステムと正サイトのサーバを接続してください。
- パワーシーケンスコントロールケーブルを使用している場合は、クラスタの電源選択スイッチを「ローカル」にセットして、正サイトのストレージシステムの電源がサーバから切られないようにします。また、GAD 動作中に副サイトのストレージシステムの電源が切られることがないことを確認します。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムの間に、物理パスを設置します。スイッチやチャンネルエクステンダも使用できます。

関連概念

- [3.1.1 キャッシュメモリの確保とシェアドメモリの増設および減設](#)
- [3.1.2 GAD のシステムオプションモード](#)

3.1.1 キャッシュメモリの確保とシェアドメモリの増設および減設

キャッシュメモリは GAD ペアの正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で動作できるようにしてください。もし動作できなければ、GAD ペアの作成は失敗します。ローカル作業による負荷だけでなく、リモートコピーによる作業負荷も十分にサポートできるように、副サイトのストレージシステムのキャッシュメモリを用意してください。

本ストレージシステムは、基本部のシェアドメモリだけで使用できます。シェアドメモリを増設すると、ペアを作成できる容量が拡張されます。なお、不要になったシェアドメモリは減設できます。

GAD ペアを使用している場合、シェアドメモリの増設および減設に必要な手順を説明します。

関連概念

- [3.1 GAD を使用するためのストレージシステムの準備](#)
- (1) [シェアドメモリの増設の流れ](#)
- (2) [シェアドメモリの減設の流れ](#)

(1) シェアドメモリの増設の流れ

シェアドメモリを増設する手順の流れを次に示します。

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、COPY 状態の GAD ペアで使用しているボリュームの場合は、PAIR 状態へ遷移するのを待つか、GAD ペアを中断します。
3. シェアドメモリを増設します。
シェアドメモリの増設は、保守員が実施します。
4. 手順 2 で GAD ペアを中断した場合は、GAD ペアを再同期します。

関連概念

- 3.1.1 キャッシュメモリの確保とシェアドメモリの増設および減設

(2) シェアドメモリの減設の流れ

シェアドメモリを減設する流れを次に示します。

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. シェアドメモリを減設します。
シェアドメモリの減設は、保守員が実施します。

関連概念

- 3.1.1 キャッシュメモリの確保とシェアドメモリの増設および減設

3.1.2 GAD のシステムオプションモード

GAD では、次のシステムオプションモードを用意しています。インストール時のストレージシステムでは OFF に設定されており、弊社担当者だけが変更できます。設定の変更については、お問い合わせください。

なお、GAD のシステムオプションモードは、TrueCopy のシステムオプションモードと共通です。

モード	説明
164	<p>インストール時は OFF に設定されています。キャッシュまたはシェアドメモリの片面障害時に、ホストからの書き込みがライトスルー動作で行われるのを抑止するかどうかを選択できます。ライトスルー動作では、データ保証のため、直接ドライブへ書き込みをするので、キャッシュライト時より I/O レスポンスが低下します。システムオプションモード 164 により、ライトスルー動作を抑止することで、I/O レスポンスを低下させずに、性能を維持できます。</p> <ul style="list-style-type: none">ON: キャッシュまたはシェアドメモリの二重障害時に、データ保証よりも I/O レスポンス等の性能維持を優先する場合に設定します。この設定は、ストレージシステム全体に適用されます。キャッシュまたはシェアドメモリの二重障害時に、データ消失のリスクがあるため、システム全体のデータを二重化しておく必要があります。OFF: キャッシュまたはシェアドメモリの二重障害時でも、確実にデータを保証したい場合に適用します。キャッシュまたはシェアドメモリの片面障害時に、データを保証するため、ライトスルー動作になります。ライトスルー動作により生じる、I/O レスポンス等の性能劣化を許容できるシステムを設計してください。 <p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none">システムオプションモード 164 を設定すると、GAD 以外の機能で使用しているボリュームや SMPL のボリュームも同じ動作となります。事前に他の機能への影響を確認してから、設定してください。
689	<p>インストール時は OFF に設定されています。副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上のとき、形成コピー動作を抑止するかどうかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none">ON: 副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上のとき、形成コピー動作を抑止し、形成コピー動作による副サイトのストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。OFF: 副サイトのストレージシステムでセカンダリボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上となっても、形成コピー動作を抑止しません。
784	<p>インストール時は ON に設定されています。RIO の MIH 時間を 5 秒に短縮します。正サイトと副サイトの両方が ON に設定されている状態で、GAD ペアの形成、または再同期を行うと、GAD ペ</p>

モード	説明
	<p>ア単位に有効となります。正サイトと副サイトのストレージシステムの間のリモートパスに障害を検出したときは、10秒経過すると、冗長パスでRIOをリトライします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: RIOのMIH時間を5秒に短縮します。 RIOのタイムアウト時間とABTS (Abort Sequence) のタイムアウト時間がそれぞれ5秒に短縮され、合わせて10秒経過すると、冗長パスでRIOをリトライします。また、GADペアの形成、または再同期の際に、データコピーが5秒以上遅延した場合は、ホストI/Oのレスポンス遅延を回避するため、GADペアの障害サスペンドが発生します。 OFF: RIOのMIH時間は副サイトのストレージシステムを登録したときに設定した時間です。デフォルトは15秒です。 RIOのタイムアウト時間とABTSのタイムアウト時間が経過すると、冗長パスでRIOをリトライします。 <p>システムオプションモード784がONの状態、GADペアの形成中、または再同期中に、障害サスペンドが発生した場合は、リモートパスの状態や装置の負荷状態を確認して、障害対策した後に再同期してください。システムオプションモード784は、1つのリモート接続内にあるすべてのリモートパスのポートタイプがFibreの場合だけサポートしています。1つのリモート接続内にあるリモートパスのポートタイプがすべてiSCSI、またはiSCSIとFibreが混在している場合はサポートしていません。</p>
1070	<p>インストール時はOFFに設定されています。コンシステンシーグループ単位でGADペアを中断または再同期するときに、コンシステンシーグループに登録されているすべてのペアの状態を変更するまでの時間を短縮します。</p> <p>コンシステンシーグループ単位でペアを中断または再同期するときは、ペアの操作に対してコマンドが応答したあとに、コンシステンシーグループに登録されているペアの状態が、一定周期で順に変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: システムオプションモード1070をOFFにするときよりも、各周期で多くのペアを処理します。コンシステンシーグループに登録されている、すべてのペアの状態の変更が完了するまでの時間を短くしますが、MP稼働率は増加します。 OFF: システムオプションモード1070をONにするときよりも、各周期で少ないペアを処理します。コンシステンシーグループに登録されているペアの状態を変更する処理によって、システムオプションモード1070をONにするときよりも、MP稼働率が増加しないようにします。 <p>コンシステンシーグループ単位のペア操作を頻繁に行う場合、かつ、ホストI/O性能の要件が求められないシステムの場合は、ONに設定して、コンシステンシーグループ単位のペア操作にかかる時間を短縮してください。ただし、コンシステンシーグループ単位のペア数が1,024を超える場合は、MP稼働率が高くなるため、許容できる場合のみONに設定してください。</p> <p>ホストI/O性能の要件が求められるシステムの場合は、OFFに設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> M-DKC <ul style="list-style-type: none"> 1,024 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 20% 2,048 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 30% 4,096 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 40% 8,192 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 60% R-DKC <ul style="list-style-type: none"> 1,024 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 40% 2,048 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 60% 4,096 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 90% 8,192 ペア/コンシステンシーグループ: MP稼働率 100% <p>コンシステンシーグループ単位でGADペアを中断または再同期する前のMP稼働率の状況や、実装されているMP数などの装置の構成によって、MP稼働率が異なることがあります。</p>
1080	<p>インストール時はOFFに設定されています。Quorumディスクに対するヘルスチェック処理が、15秒以内に成功しなかった場合、Quorumディスクは閉塞します。通常、ヘルスチェック処理は3</p>

モード	説明																				
	<p>秒でタイムアウトとなり、ABTS 処理を行った後でリトライされますが、ON に設定すると ABTS 処理のタイムアウト時間を変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON : ABTS 処理のタイムアウト時間が 15 秒に設定されます。ABTS 処理がタイムアウトになった場合、ヘルスチェック処理を冗長パスでリトライできないため、Quorum ディスクが閉塞します。 OFF : ABTS 処理のタイムアウト時間が 3 秒に設定されます。ABTS 処理がタイムアウトになった場合でも、ヘルスチェック処理を冗長パスでリトライできるため、Quorum ディスクの閉塞を回避できます。 <p>ABTS 処理がタイムアウトになると、ポート単位でログアウト処理が行われるため、同じパスで実行中のすべての処理が中断されます。そのため、Quorum ディスク用の外接バスを、ホスト I/O などの、ほかの用途でも併用している場合は、ヘルスチェック処理以外の I/O にも影響します。Quorum ディスク用の外接バスを、ホスト I/O などの、ほかの用途で併用している場合などに、このリスクを低減したい場合は、ON に設定してください。ただしパスに不具合が発生していると、冗長パスでヘルスチェック処理をリトライできずに Quorum ディスクが閉塞するリスクがあります。Quorum ディスクの閉塞を回避したい場合は、OFF に設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON : ヘルスチェックコマンドのタイムアウト時間が 3 秒に、ABTS のタイムアウト時間が 15 秒に設定されます。 ABTS が 12 秒以内に完了した場合、冗長パスでヘルスチェックをリトライすることで、Quorum ディスクの閉塞を回避します。ABTS が 12 秒以内に完了しない場合、Quorum ディスクが閉塞します。また、ABTS が 15 秒以内に完了した場合、同じパスで実行中の他のコマンドはリセットされません。ABTS が 15 秒以内に完了しない場合、同じパスで実行中の他のコマンドもリセットされます。 OFF : ヘルスチェックコマンドのタイムアウト時間が 3 秒に、ABTS のタイムアウト時間が 3 秒に設定されます。 ABTS が 3 秒以内に完了しなくても、冗長パスでヘルスチェックをリトライすることで、Quorum ディスクの閉塞を回避します。ABTS が 3 秒以内に完了した場合は、同じパスで実行中の他のコマンドはリセットされません。ABTS が 3 秒以内に完了しない場合、同じパスで実行中の他のコマンドもリセットされます。 																				
1198	<p>インストール時は OFF に設定されています。GAD ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、シェアドメモリ差分から階層差分に切り替えるために使用します。 このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。</p> <table border="1" data-bbox="464 1319 1417 1951"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1319 624 1384">SOM1198</th> <th data-bbox="624 1319 783 1384">SOM1199</th> <th data-bbox="783 1319 1098 1384">機能概要</th> <th data-bbox="1098 1319 1417 1384">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1384 624 1496">OFF</td> <td data-bbox="624 1384 783 1496">OFF</td> <td data-bbox="783 1384 1098 1496">差分管理方式を切り替えません。</td> <td data-bbox="1098 1384 1417 1496">システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1496 624 1675">ON</td> <td data-bbox="624 1496 783 1675">OFF</td> <td data-bbox="783 1496 1098 1675">4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。</td> <td data-bbox="1098 1496 1417 1675">システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1675 624 1854">OFF</td> <td data-bbox="624 1675 783 1854">ON</td> <td data-bbox="783 1675 1098 1854">4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。</td> <td data-bbox="1098 1675 1417 1854">システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1854 624 1951">ON</td> <td data-bbox="624 1854 783 1951">ON</td> <td data-bbox="783 1854 1098 1951">4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシ</td> <td data-bbox="1098 1854 1417 1951">システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差</td> </tr> </tbody> </table>	SOM1198	SOM1199	機能概要	備考	OFF	OFF	差分管理方式を切り替えません。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。	ON	OFF	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。	OFF	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。	ON	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシ	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差
SOM1198	SOM1199	機能概要	備考																		
OFF	OFF	差分管理方式を切り替えません。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。																		
ON	OFF	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。																		
OFF	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。																		
ON	ON	4TB 以下の TrueCopy、Universal Replicator、または GAD ペアの差分管理方式をシ	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差																		

モード	説明			
	SOM1198	SOM1199	機能概要	備考
			ェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	分管理方式を階層差分に切り替えます。
1199	<p>インストール時は OFF に設定されています。GAD ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えるために使用します。</p> <p>このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。</p>			
1201	<p>インストール時は OFF に設定されています。プライマリストレージまたはセカンダリストレージのどちらか一方と Quorum ディスク間の接続が切断された状態で、かつストレージ間の全リモートパスに障害が発生した場合に、ホストアクセス可能な状態で障害サスペンドするボリュームの制御を変更できます。</p> <p>プライマリストレージとセカンダリストレージの両方で設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: プライマリボリュームと Quorum ディスクの接続が切断されている場合は、セカンダリボリュームがホストアクセス可能、プライマリボリュームがホストアクセス不可の状態での障害サスペンドします。 セカンダリボリュームと Quorum ディスクの接続が切断されている場合は、プライマリボリュームがホストアクセス可能、セカンダリボリュームがホストアクセス不可の状態での障害サスペンドします。 両方のボリュームと Quorum ディスクの接続が切断されている場合は、プライマリボリュームがホストアクセス可能、セカンダリボリュームがホストアクセス不可の状態での障害サスペンドします。 OFF: プライマリボリュームがホストアクセス可能、セカンダリボリュームがホストアクセス不可の状態での障害サスペンドします。 <p>DKC で Quorum ディスクパスの障害後にリモートパス障害が続いて発生したケースで、正常な DKC 側で業務継続したい場合に適用します。プライマリサイトでメインの業務を行っているため、セカンダリサイトへのフェイルオーバーを発生させたくないなどの事情により、プライマリボリュームで業務を継続したい場合は、適用しないでください。</p>			
1254	<p>インストール時は OFF に設定されています。コピー先のボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。</p> <p>このオプションを使用した場合は、ストレージシステム全体的に一律機能が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: コピー先のボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 OFF: システムオプションモード 689 の設定に従います。 <p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『システム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。 			
1293	<p>インストール時は OFF に設定されています。キャッシュ片面閉塞状態で、GAD ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作を可能にするかどうかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: GAD ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作ができます。 OFF: GAD ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作はできません。 <p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> このオプションの有効時に、キャッシュ片面閉塞状態で、GAD ペアの形成コピーが動作した場合には、次の影響があります。 <ul style="list-style-type: none"> ドライブ負荷が上昇し、ホスト性能影響が発生する可能性があります。 形成コピー性能が、キャッシュが正常な状態に比べて低下する可能性があります。 形成コピー動作中は、閉塞したキャッシュの保守は実施できません。 			

モード	説明
	形成コピー中に、許容できないホスト性能影響が発生した場合や、閉塞したキャッシュの保守を実施する場合は、形成コピーを中断してください。

関連概念

- ・ [3.1 GAD を使用するためのストレージシステムの準備](#)

3.1.3 システム詳細設定

GAD で設定できるシステム詳細設定を次の表に示します。システム詳細設定は、RAID Manager の `raidcom modify user_system_opt` コマンドで設定できます。

システム詳細設定 No.	デフォルト	説明																														
5、6	OFF	<p>システム詳細設定 No.5 と No.6 の設定を変更すると、TrueCopy、Universal Replicator、または global-active device の新規ペアおよび既存ペアの差分管理方式を変更できます。</p> <p>システム詳細設定の No.5 と No.6 との組み合わせによる動作の違いは次の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">システム詳細設定</th> <th colspan="2">新規ペアの差分管理方式</th> <th colspan="2">既存ペアの差分管理方式</th> </tr> <tr> <th>No.5</th> <th>No.6</th> <th>シェアドメモリ差分</th> <th>階層差分</th> <th>階層差分からシェアドメモリ差分へ変更</th> <th>シェアドメモリ差分から階層差分へ変更</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>○</td> <td></td> <td>○¹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○¹</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td></td> <td>○</td> <td>—²</td> <td>—²</td> </tr> </tbody> </table> <p>注</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム詳細設定を設定後に再同期操作を行い、PAIR 状態に移移する際に既存ペアの差分管理方式が変更されます。 2. 既存ペアの差分管理方式は変更されません。シェアドメモリ差分のペアの場合は、再同期後もシェアドメモリ差分を、階層差分のペアの場合は、再同期後も階層差分を維持します。 <p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザ容量が 4,194,304MB より大きい DP-VOL を用いたペアに関しては、No.5 と No.6 の設定に関係なく、新規ペア作成時に、階層差分が適用されます。 ・ 正サイトと副サイトのストレージシステムで、システム詳細 No.5 と No.6 を同じ設定にしてください。 ・ システムオプションモード 1198、1199 を設定している場合は、システムオプションモード 1198、1199 の動作仕様が優先されます。「3.1.2 GAD のシステムオプションモード」を参照してください。 	システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式		No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更	OFF	OFF	○		○ ¹		ON	OFF		○		○ ¹	OFF	ON		○	— ²	— ²
システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式																												
No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更																											
OFF	OFF	○		○ ¹																												
ON	OFF		○		○ ¹																											
OFF	ON		○	— ²	— ²																											

3.2 GAD のシステム性能の計画

リモートコピー操作はサーバ、ならびに正サイトと副サイトのストレージシステムの I/O 性能に影響を与えるおそれがあります。GAD は、リモートコピー操作が性能に与える影響を最小に、コピー操作の効果を最大にしつつ、データの整合性を維持するために、次のオプションを提供しています。

- リモート接続オプション
- リモートレプリカオプション

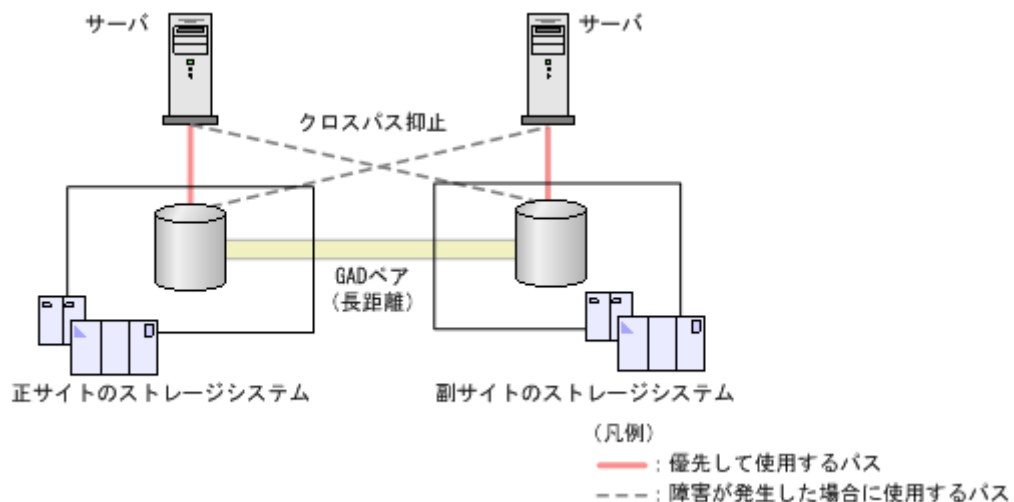
日立のサービスプロバイダが Write 作業負荷を分析し、コピー動作最適化を支援することもできます。収集する作業負荷データ (MB/s and IOPS) を参考に、帯域量、物理パス数、およびポート数を決定します。ボトルネックがあると、性能に深刻な影響を与えます。正確にサイズを測定すると、すべての作業負荷レベル以下でデータボトルネックなしに動作する物理パスを作成できます。

関連概念

- [3.2.1 優先パス/非優先パスの設定](#)
- [\(1\) ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定](#)
- [\(2\) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定](#)

3.2.1 優先パス/非優先パスの設定

GAD 構成でサーバとストレージシステムを接続する冗長パスで、短距離のストレートパスと長距離のクロスパスがある場合、パスによって I/O の性能に差が発生します。短距離のストレートパスを優先して I/O を発行するように設定することで、効率の悪い長距離のクロスパスへの I/O を抑止でき、システム全体として I/O の性能を向上できます。



関連概念

- [\(1\) ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定](#)
- [\(2\) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定](#)

(1) ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定

クロスパス構成の場合に、ALUA (Asymmetric Logical Unit Access) を使用すると、どのパスを優先的に使用してサーバからストレージシステムへ I/O を発行するかを指定できます。どのパスを優先的に使用してサーバからストレージシステムへ I/O を発行するかを指定するためには、ストレ

ージシステムで ALUA モードを有効にして、どのパスを優先して使用するかを設定する必要があります。この設定を、非対称アクセス状態と呼びます。

ストレージシステムで ALUA モードを設定後にサーバからボリュームを認識することで、サーバがどのパスに I/O を発行するかをコントロールできるようになります。なお、非対称アクセス状態の変更やパス障害が発生した場合に I/O を発行するパスの切り替えは、サーバがコントロールします。



注意

- サーバがすでに認識しているボリュームの ALUA 設定を変更する場合、サーバをシャットダウンしてから、ALUA 設定を変更してください。設定変更後にサーバを起動して、ボリュームを認識させることで、サーバに ALUA 設定の変更が認識されます。
- サーバがオンライン中に ALUA 設定を変更した場合、サーバが ALUA 設定の変更を認識しなかったり、異常動作をする可能性があります。



メモ

ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定では、GAD ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」に設定することを推奨します。詳細は、[「1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード」](#)を参照してください。

関連概念

- [1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)
- [1.2.4 GAD の目的と必要なシステム構成](#)
- [3.2 GAD のシステム性能の計画](#)
- [3.2.1 優先パス/非優先パスの設定](#)
- [\(2\) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定](#)

(2) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定

Hitachi Dynamic Link Manager (HDLM) の場合、ホストモードオプションを指定することで、ALUA を使用しなくても、通常時に使用するパス（優先パス）を指定できます。障害発生時に使用するパス（非優先パス）を指定するためには、ホストモードオプション 78 (The non-preferred path option) の設定が必要です。

例えば、クロスパス構成でサーバとストレージシステムを接続しているときは、正サイトのサーバと副サイトのストレージシステム、および副サイトのサーバと正サイトのストレージシステムの距離が離れているため、I/O の応答時間が長く掛かります。この場合、通常は正サイトのサーバと正サイトのストレージシステム、および副サイトのサーバと副サイトのストレージシステム間のパスを使用するように設定します。通常時に使用するように設定したパスに障害が発生した場合だけ、正サイトのサーバと副サイトのストレージシステム、および副サイトのサーバと正サイトのストレージシステム間のパスを使用するようにします。

ストレージシステムの設定を HDLM に反映すると、ホストモードオプション 78 を設定しているパスは、HDLM のパスの属性がノンオーナパスに変わります。ホストモードオプション 78 を設定していないパスは、HDLM のパスの属性がオーナパスに変わります。詳細は、バージョン 8.0.1 以降の HDLM のマニュアルを参照してください。

関連概念

- [1.2.4 GAD の目的と必要なシステム構成](#)
- [3.2 GAD のシステム性能の計画](#)
- [3.2.1 優先パス/非優先パスの設定](#)

- ・ (1) ALUA を使用した優先パス/非優先パスの設定

3.3 GAD の物理パスの計画

正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスは、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに送信される可能性のあるデータの総量を十分に管理できるようにしてください。なお、物理パスに使用できるインタフェースは、以下のとおりです。

正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスのインタフェース	機種	サポートバージョン (ファームウェアバージョン)
ファイバチャネル 32Gbps	VSP One B20	全バージョン
ファイバチャネル 64Gbps		A3-02-01-XX/XX 以降
iSCSI 10Gbps		全バージョン
iSCSI 25Gbps		未サポート
FC-NVMe 32Gbps		未サポート
FC-NVMe 64Gbps		未サポート
NVMe/TCP 100Gbps		未サポート

関連概念

- ・ [3.3.1 GAD に必要な帯域量](#)
- ・ [3.3.2 GAD のファイバチャネル接続](#)
- ・ [3.3.3 GAD の接続形態](#)
- ・ [3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)
- ・ [3.3.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項](#)

3.3.1 GAD に必要な帯域量

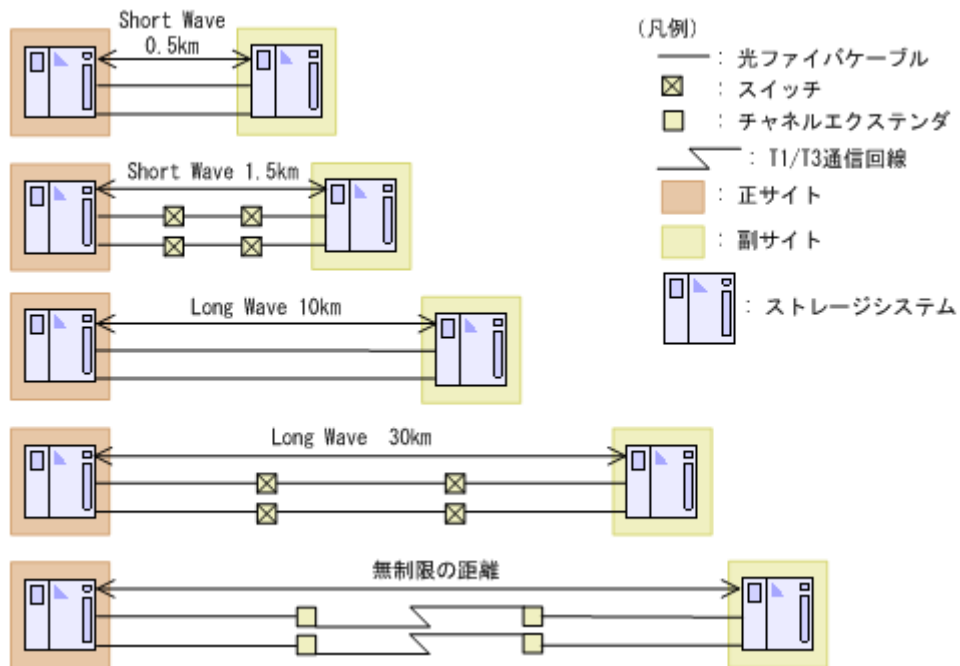
すべての作業負荷レベルのデータ転送に対処するため、十分な帯域が必要です。GAD システムに必要な帯域量は、サーバからプライマリボリュームに送信される I/O 量に基づいています。Write 作業負荷を測定して必要な帯域を決定してください。作業負荷データは、性能モニタリングソフトウェアを使って収集できます。

関連概念

- ・ [3.3 GAD の物理パスの計画](#)

3.3.2 GAD のファイバチャネル接続

Short Wave (オプティカルマルチモード) または Long Wave (オプティカルシングルモード) の光ファイバケーブルを使って、正サイトと副サイトのストレージシステムを接続します。正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離によって、次のとおり必要なケーブルおよびネットワーク中継機器が異なります。



ストレージシステム間の距離	ケーブルの種類	ネットワーク中継機器
～1.5km	Short Wave (オプティカルマルチモード)	0.5km～1.5km の場合は、スイッチが必要
1.5km～10km	Long Wave (オプティカルシングルモード)	特になし
10km～30km	Long Wave (オプティカルシングルモード)	スイッチが必要
30km 以上	通信回線	認可されたサードパーティー製のチャンネルエクステンダが必要

ファイバチャンネル接続でスイッチを使用する場合、本ストレージシステム用の特別な設定は不要です。

Long Wave では、10km まで直接接続（直結）をサポートしています。ただし、最高性能を発揮できる最大距離はリンクスピードによって異なります。リンクスピードと最高性能を発揮できる最大距離との関係を次の表に示します。

リンクスピード	最高性能を発揮できる最大距離
4Gbps	3km
8Gbps	2km
16Gbps	1km
32Gbps	0.6km
64Gbps	0.3km

シリアルチャンネルによる GAD 接続の可用性に関する最新情報は、お問い合わせください。

関連概念

- [3.3 GAD の物理パスの計画](#)

3.3.3 GAD の接続形態

GAD では、3 種類の接続形態がサポートされています。ポートおよびトポロジの設定には、`raidcom modify port` コマンドを使用します。

次のとおり双方向に物理パスを接続します。双方向の物理パスで、同じ接続形態を使用してください。

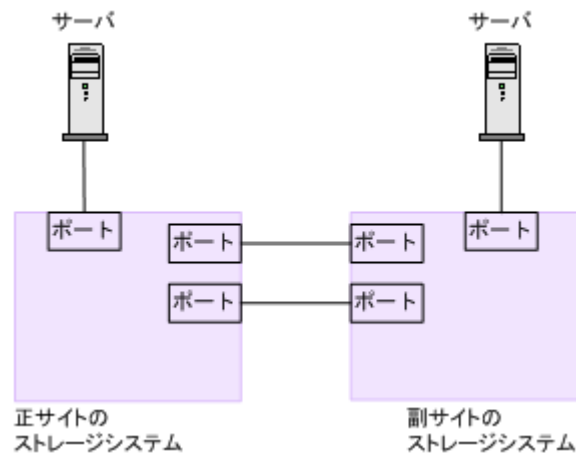
- 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへ
- 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへ

関連概念

- [3.3 GAD の物理パスの計画](#)
- (1) [直結の接続形態](#)
- (2) [スイッチを使用した接続形態](#)
- (3) [チャンネルエクステンダを使用した接続形態](#)

(1) 直結の接続形態

2 個のデバイスを直結します。



正サイトと副サイトのストレージシステムの間でオープンパッケージを使用している環境で、長距離（10km 以下の Long Wave）で直結構成の場合、次のホストモードオプションを設定すると、ストレージシステム間の I/O 応答時間が改善されることでホスト I/O の応答時間を改善できます。

- ホストモードオプション 51（Round Trip Set Up Option）



メモ

iSCSI で接続する場合、ホストモードオプションの設定は無効になります。

各ホストモードオプションについては、『システム構築ガイド』を参照してください。

なお、ストレージシステム間の接続に使用するパッケージ、プロトコル、およびホストモードオプション 51 の設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。

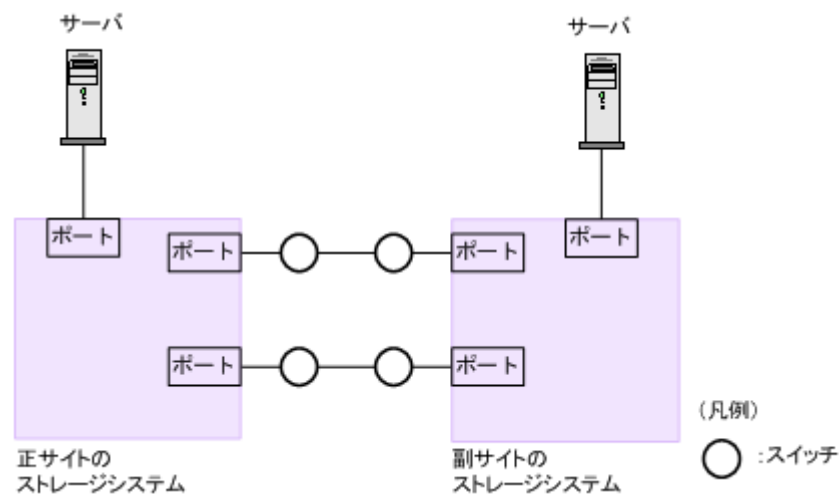
パッケージ名	プロトコル	ホストモード オプション 51 の設定	Fabric の設定	トポロジ	設定できるリ ンクスピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	OFF	OFF	FC-AL	<ul style="list-style-type: none"> 4Gbps 8Gbps
		ON	OFF	FC-AL	<ul style="list-style-type: none"> 4Gbps 8Gbps
		OFF	OFF	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps
		ON	OFF	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps
CHB(FC64G)	64GbpsFC	OFF	OFF	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps 64Gbps
		ON	OFF	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps 64Gbps

関連概念

- 3.3.3 GAD の接続形態

(2) スイッチを使用した接続形態

スイッチを使用して接続します。



一部のスイッチベンダーでは F ポートが必要です (例 : McData ED5000)。

正サイトと副サイトのストレージシステムの間にオープンパッケージを使用している環境で、長距離 (最大 500km 程度、かつ往復応答時間が 20ms 以下の場合) でスイッチ構成の場合、次のホストモードオプションを設定すると、ストレージシステム間の I/O 応答時間が改善されることでホスト I/O の応答時間を改善できます。

- ホストモードオプション 51 (Round Trip Set Up Option)



メモ

iSCSI で接続する場合、ホストモードオプションの設定は無効になります。

各ホストモードオプションについては、『システム構築ガイド』を参照してください。

なお、ストレージシステム間の接続に使用するパッケージ、プロトコル、およびホストモードオプション 51 の設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。

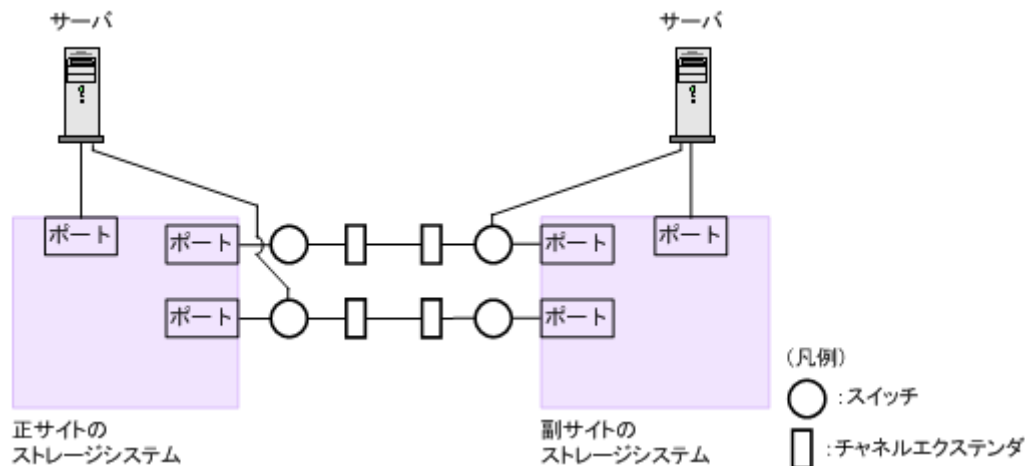
パッケージ名	プロトコル	ホストモード オプション 51 の設定	Fabric の設定	トポロジ	設定できるリンクスピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	OFF	ON	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 4Gbps 8Gbps 16Gbps 32Gbps
		ON	ON	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 4Gbps 8Gbps 16Gbps 32Gbps
CHB(FC64G)	64GbpsFC	OFF	ON	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps 64Gbps
		ON	ON	Point-to-Point	<ul style="list-style-type: none"> 16Gbps 32Gbps 64Gbps

関連概念

- 3.3.3 GAD の接続形態

(3) チャネルエクステンダを使用した接続形態

長距離（最大 500km 程度、かつ往復応答時間が 20ms 以下の場合）にわたってデバイスを接続するためには、チャネルエクステンダとスイッチを使用します。



Fabric を ON、トポロジを Point-to-Point に設定してください。



注意

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムをスイッチ経由でチャネルエクステンダ接続した状態で、複数のリモートコピーのパスを 1 か所にまとめた場合、構成およびスイッチのルーティングの設定によっては、特定のスイッチにデータ転送量が集中するおそれがあります。弊社のスイッチを使用する場合の構成およびルーティングの設定については、お問い合わせください。



注意

チャネルエクステンダがリモート I/O をサポートできることを確認してください。詳細についてはお問い合わせください。



メモ

- ・ 正サイトと副サイトの各ストレージシステムの間には、少なくとも 2 つの独立した物理パス（クラスタごとに 1 つ）を設定して、この重要な通信パスにハードウェア的な冗長性を持たせてください。
- ・ 4,000 個以上のペアを使用する場合は、物理パスへの負荷を分散するために、1 本の物理パスを使用するペアが 4,000 個以下となるように物理パスを分けてペアを作成することを推奨します。

関連概念

- ・ [3.3.3 GAD の接続形態](#)

3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項

iSCSI を使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

iSCSI に関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

関連概念

- ・ [3.3 GAD の物理パスの計画](#)
- ・ [3.3.3 GAD の接続形態](#)
- ・ (1) [リモートパスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）](#)
- ・ (2) [物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）](#)
- ・ (3) [ポートに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）](#)
- ・ (4) [ネットワークの設定に関する注意事項（iSCSI を使用するとき）](#)

(1) リモートパスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

リモートパスに iSCSI を使用する場合、パス閉塞監視の時間はデフォルトの 40（秒）のままにしてください。パス閉塞監視の時間を短くした場合、スイッチのスパニングツリーなどネットワーク上の遅延要因によって、パスが閉塞するおそれがあります。なお、パス閉塞監視は、RAID Manager の `raidcom modify remote_replica_opt` コマンドの `-path_blocked_watch` オプションで設定します。

関連概念

- ・ [3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)

(2) 物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

- ・ 同一パスグループにリモートパスを追加する場合、同一プロトコルでリモートパスを構成することを推奨します。ファイバチャネルと iSCSI が混在する構成は、性能に影響を与えることがあります。

- ホストとストレージシステム間の物理パス、およびストレージシステム間の物理パスでは、同一プロトコルを使用することを推奨します。
次の例のように、使用するプロトコルが混在する場合、ホストとストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間には、ストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間以上の値を設定してください。
 - ホストとストレージシステム間の物理パス：ファイバチャネル
 - ストレージシステム間の物理パス：iSCSI
- 10Gbps iSCSI チャネルボードのポートを使用して、ストレージシステム間を接続してください。25Gbps iSCSI チャネルボードは、ストレージシステム間の接続に使用できません。

関連概念

- [3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)

(3) ポートに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)

- iSCSI ポートのパラメータの設定を変更するときは、一時的に iSCSI の接続が切断され、その後再接続されます。システムへ影響がないように、I/O 負荷の低い時間帯にパラメータの設定を変更してください。
- ホストと接続している iSCSI ポートの設定を変更すると、ホストでログが出力されることがありますが、問題ありません。システムログを監視しているシステムでは、アラートが出力されるおそれがあります。アラートが出力された場合は、iSCSI ポートの設定を変更したあと、ホストが再接続されているかどうかを確認してください。
- ストレージシステム間の接続に iSCSI を使用している場合、同一のポートを使用してホストと接続しているときでも、`raidcom modify port -delayed_ack_mode` コマンドで、Delayed ACK (遅延 ACK) を無効にしてください。ホストから GAD ペアで使用しているボリュームの認識に時間が掛かることがあります。ボリュームが 2,048 個のときは、8 分掛かります。なお、Delayed ACK (遅延 ACK) はデフォルトで有効です。なお、Selective ACK (選択型 ACK) は有効のままにしてください。
- 長距離での接続など、ストレージシステム間の回線で遅延が発生する環境では、正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、iSCSI ポートのウィンドウサイズを 1,024KB まで変更できます。なお、iSCSI ポートのウィンドウサイズのデフォルトは 64KB です。
- iSCSI ポートはフラグメント処理 (パケットの分割処理) をサポートしていません。スイッチの最大送信単位 (MTU) の値が、iSCSI ポートの MTU の値より小さい場合、パケットが消失し、正常に通信できないおそれがあります。スイッチの MTU の値は iSCSI ポートの MTU 値以上の値を設定してください。MTU の設定および値に関しては、スイッチのマニュアルを参照してください。
なお、iSCSI ポートの MTU の値は 1500 以下に設定できません。MTU の値が 1500 未満の WAN 環境では、フラグメント処理によって分割されたデータを送受信できません。この場合、WAN 環境に合わせて WAN ルータの最大セグメントサイズ (MSS) を小さくしてから、iSCSI ポートに接続してください。または、MTU の値が 1500 以上の WAN 環境で使用してください。
- 仮想ポートモードを有効にした iSCSI ポートでリモートパスを使用する場合、iSCSI ポートの仮想ポート ID (0) のポート情報を使用してください。0 以外の仮想ポート ID を仮想ポートとして使用できません。
- 1 つのポートを、ホストとの接続 (Target 属性) とストレージシステムとの接続 (Initiator 属性) の両方に使用できます。ただし、ホストとストレージシステムのどちらかで障害が発生したときに、システムへの影響の範囲を軽減するには、ホストと接続するポートとストレージシステムと接続するポートを、別々の CHB に接続することを推奨します。

関連概念

- [3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)

(4) ネットワークの設定に関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

- iSCSI ポートに接続しているスイッチのポートでは、スパニングツリーの設定を無効にしてください。スイッチでスパニングツリー機能を有効にすると、リンクがアップまたはダウンするときに、ネットワーク上でパケットがループしなくなります。このときに、パケットが約 30 秒間遮断されるおそれがあります。スパニングツリーの設定を有効にする必要がある場合は、スイッチの Port Fast 機能を有効にしてください。
- ストレージシステム間のネットワーク経路で、iSCSI ポートの転送速度よりも転送速度が低い回線を使用した場合、パケットが消失し、回線品質が低下します。iSCSI ポートの転送速度と回線が、同一の転送速度となるシステム環境を構築してください。
- ストレージシステム間の回線の遅延はシステム環境によって異なるため、事前にシステムを検証して、最適な iSCSI ポートのウィンドウサイズの設定を確認してください。回線の遅延の影響が大きいと判断した場合は、WAN 最適化・高速化の装置の適用を検討してください。
- iSCSI を使用する場合、TCP/IP でパケットを送受信します。このため、パケットの量が通信回線の許容量を超えてしまったり、パケットの再送が発生することがあり、性能に大きく影響を与えるおそれがあります。性能を重視する重要なシステムの場合は、ファイバチャネルを使用してください。

関連概念

- [3.3.4 iSCSI を使用するときの注意事項](#)

3.3.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項

ファイバチャネルを使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

ファイバチャネルに関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

関連概念

- [3.3 GAD の物理パスの計画](#)
- [3.3.2 GAD のファイバチャネル接続](#)
- (1) [リモートパスに関する注意事項（ファイバチャネルを使用するとき）](#)

(1) リモートパスに関する注意事項（ファイバチャネルを使用するとき）

- リモートパスにファイバチャネル 32Gbps を使用して、ポートスピードに「Auto」を指定する場合、パス閉塞監視の時間を 10（秒）以上に指定してください。ポートスピードは、`raidcom modify port` コマンドで指定します。パス閉塞監視の時間は、`raidcom modify remote_replica_opt` コマンドで指定します。
- パス閉塞監視の時間を 9（秒）以内に指定したい場合は、ポートスピードに「Auto」以外を指定してください。なお、パス閉塞監視の時間が短いと、ネットワークの遅延やスピードネゴシエーションの時間の超過により、パスが閉塞する場合があります。
- ポートのトポロジ（Fabric, FC-AL, Point-to-point）の設定を変更する場合は、リモートパスを削除した後に変更してください。リモートパスの使用中に変更すると、ホストとストレージシステムでトポロジの設定が不一致となり、リモートパスが閉塞する場合があります。ポートのトポロジは、`raidcom modify port` コマンドで変更します。
- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合は注意事項を次に示します。

- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合、『システム構築ガイド』のストレージシステムのファイバチャネルポートにデータ転送速度を設定する際の注意事項を参照してください。
- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用し、ポートスピードを以下に設定した場合、パス閉塞監視時間の関係を次に示します。また、相手装置から本ストレージ装置へのリモートパスのパス閉塞監視時間も次の表を参考に設定してください。この際、本ストレージ装置側がファイバチャネルとして 64Gbps を使用しているならば、相手装置側のファイバチャネルが 64Gbps、32Gbps または 16Gbps かに関係なく次の表の値に設定してください。

ファイバチャネル 64Gbps のポートスピード設定値	パス閉塞監視時間	一時的な全パス障害時のリモートコピー機能への影響
64G 固定または 32G 固定または 16G 固定	35 秒未満 (非推奨)	リモートコピーペアが障害サスペンドする可能性あり
	35 秒以上 (推奨)	パス閉塞監視時間内にパスが回復し、リモートコピーペアは PAIR 状態を維持
Auto	— ※Auto の設定が非推奨	リモートコピーペアが障害サスペンドする可能性あり

パス閉塞監視時間が 35 秒未満の場合に、一時的な全パス障害で障害サスペンドする場合があります。

一時的な全パス障害で障害サスペンドさせたくない場合は、パス閉塞監視時間に 35 秒以上を設定してください。

- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合、ファイバスイッチ、エクステンダ、相手装置側の転送速度をすべて 64Gbps 固定で設定を統一してください。もし、転送速度 64Gbps に設定できないファイバスイッチ、エクステンダ、相手装置側がある場合は、本ストレージ装置側のポートスピードを”32G 固定”、または”16G 固定”に設定を統一してください。
- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合、間欠障害発生からの回復時間が 32Gbps より長くなります。間欠障害時のレスポンス性能を重視する場合は、ファイバチャネル 64Gbps は推奨しません。
- リモートパスで一部パスで障害が発生した際のホストへのレスポンスタイムへの影響を小さくしたい場合は、システムオプションモード 784 を ON に設定してください。これにより、リモートパス障害発生時、冗長パスへのパス切り替え時間を短縮し、ホストタイムアウト時間が短い環境においても、I/O を継続できます。ただし、システムオプションモード 784 を ON にした場合は、次の副作用があります。
 - パス切り替え先でもパス障害が発生した場合、ホストのタイムアウトが発生する可能性があります。
 - リモートパスが属するコントローラの MP ユニットが過負荷の場合、パス切り替えが遅くなり、ホストのタイムアウトが発生する可能性があります。
 - RCU から MCU に対してのチェックコンディションの報告など、RIO MIH 時間以外の要因で、リモートパスの I/O リトライが発生した場合、同一パスでリトライを実施します。当該パスでパス障害・回線遅延などによるリモートパスの I/O の応答遅延が定期的発生している状況 (5 秒を超えていない場合) では、同一パスでリトライし続けます。その結果、ホストのタイムアウトが発生する可能性があります。
 - システムオプションモード 784 を ON にした場合でも、ホストのタイムアウト時間が 10 秒以下に設定されている場合、ホストのタイムアウトが発生する可能性があります。

- ・ RIO MIH 時間は、ユーザが設定した値（デフォルト 15 秒、10～100 秒の間で設定可能）ではなく、5 秒固定に設定されます。RAID Manager で表示される RIO MIH 時間は、ユーザ設定値で表示されます。

関連概念

- ・ [3.3.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項](#)

3.4 GAD の Quorum ディスクの計画

正サイトと副サイトのストレージシステムとは別に、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを準備します。サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用する場合は、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを準備する必要はありません。ここでは、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置する場合について説明します。

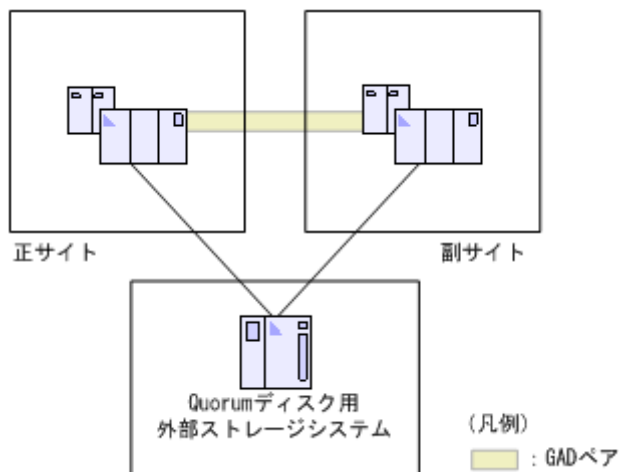
関連概念

- ・ [3.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの設置](#)
- ・ [3.4.2 Quorum ディスクとリモート接続の関係](#)
- ・ [3.4.3 Quorum ディスクとコンシステンシーグループの関係](#)
- ・ [3.4.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムからの応答時間に関する注意事項](#)
- ・ [3.4.5 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項](#)

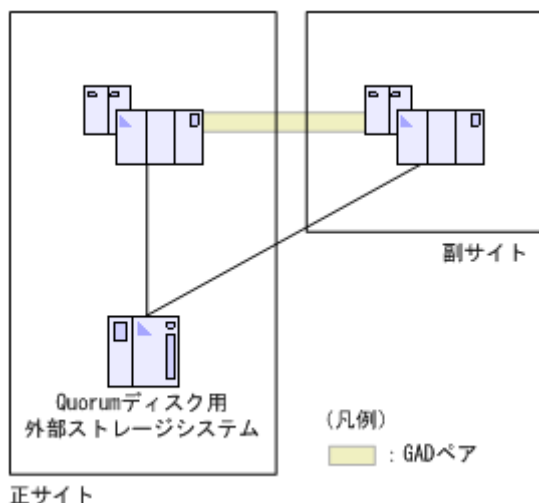
3.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの設置

外部ストレージシステムは、次の 2 か所に設置できます。

- ・ 正サイトと副サイト以外の場所に、Quorum ディスク用外部ストレージシステムを設置します（3 データセンター構成）。この場合、正サイト、副サイト、外部ストレージシステムの設置場所のどれか 1 つで障害が発生しても、サーバからの I/O を継続できます。



- 正サイトに Quorum ディスク用外部ストレージシステムを設置します (2 データセンター構成)。この場合、副サイトで障害が発生してもサーバからの I/O を継続できますが、正サイトで障害が発生した場合はサーバからの I/O が停止します。



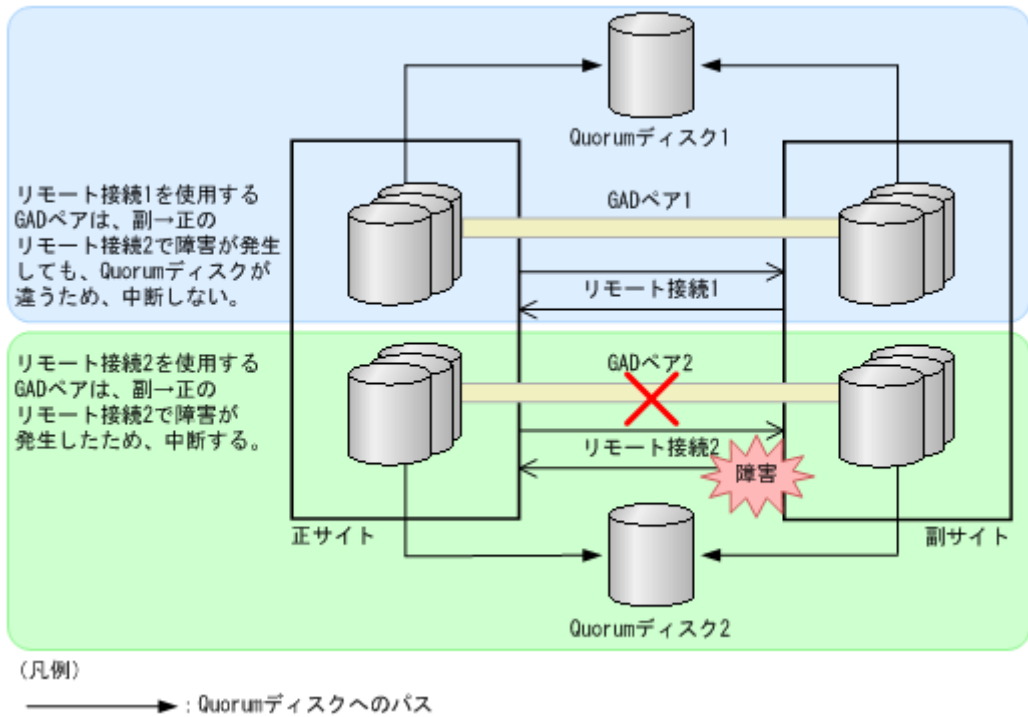
なお、副サイトには、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置できません。また、正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用の外部ストレージシステム間、または副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用の外部ストレージシステム間のリモートパスで iSCSI を利用した場合、1つのパス障害で Quorum ディスク閉塞が発生するおそれがあります。

関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)

3.4.2 Quorum ディスクとリモート接続の関係

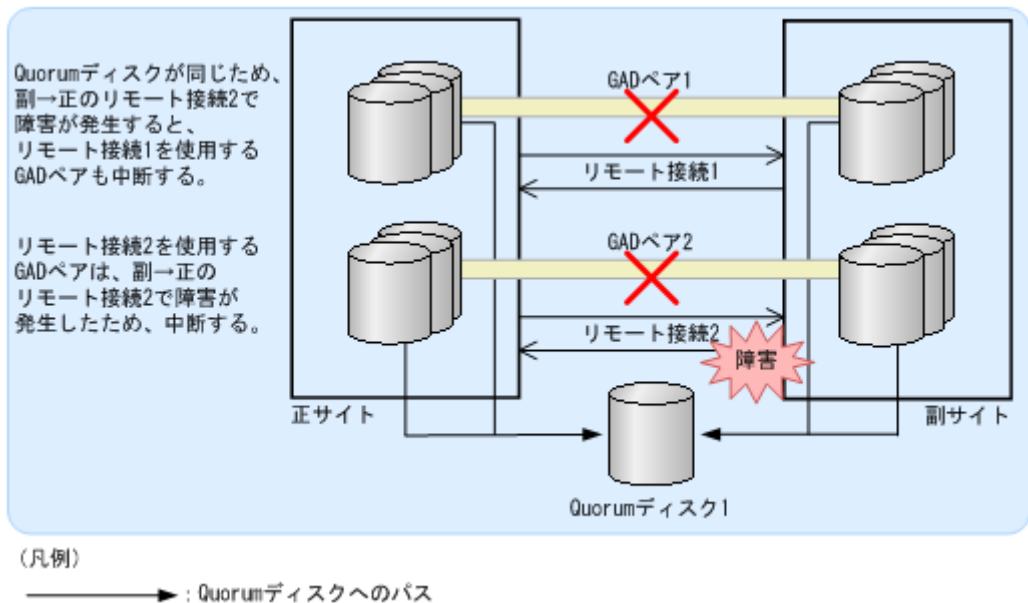
複数のリモート接続を使用する場合、1個のリモート接続の障害で他の正常なリモート接続を使用している GAD ペアが中断されないよう、リモート接続と同じ数の Quorum ディスクを用意することを推奨します。このとき、Quorum ディスク、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモート接続、および副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモート接続が、それぞれ1つになるように構成してください。



ヒント

多数のGADペアを1つのQuorumディスクで集約して管理したいとき、1つのQuorumディスクに対してリモート接続用の物理パスが8本よりも多く必要になる場合は、1つのQuorumディスクに対してリモート接続を2つ以上にした構成にすることもできます。

リモート接続で使用しているすべてのパスが閉塞した場合、GADペアはQuorumディスク単位で中断します。このため、次の図のようなQuorumディスクが1つだけの構成のときには、リモート接続2に障害が発生した場合、リモート接続1を使用するGADペアも中断します。また、正サイトのボリュームからQuorumディスクへのパスで障害が発生したり、副サイトのボリュームからQuorumディスクへのパスで障害が発生したりした場合にも、Quorumディスクを共用しているGADペアは中断します。

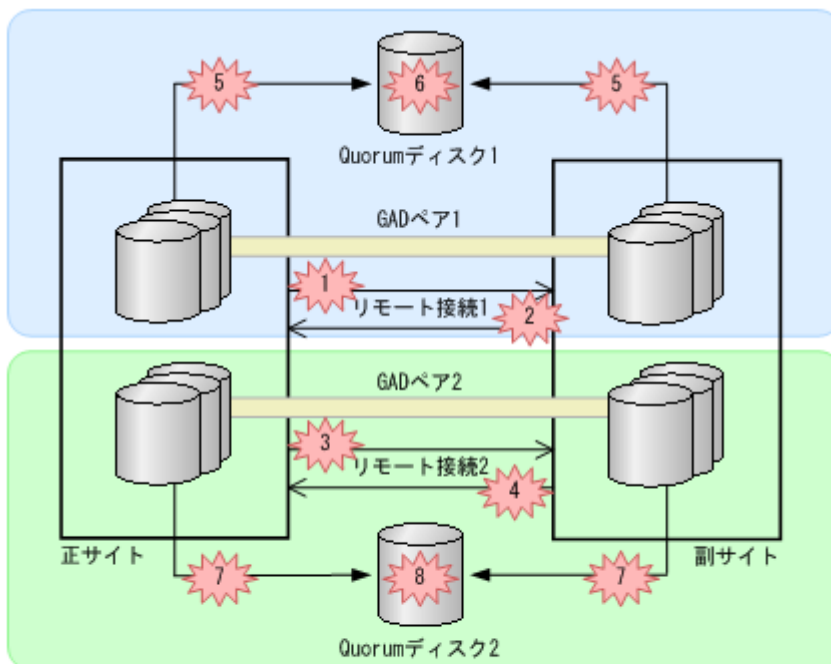


関連概念

- 3.4 GAD の Quorum ディスクの計画
- (1) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係 (Quorum ディスクを共有していない場合)
- (2) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係 (Quorum ディスクを共有している場合)

(1) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係 (Quorum ディスクを共有していない場合)

リモート接続と同じ数の Quorum ディスクを使用しているときには、障害が発生したリモート接続、Quorum ディスクまたは Quorum ディスクへのパスを使用している GAD ペアだけが中断されます。正常なリモート接続、Quorum ディスクおよび Quorum ディスクへのパスを使用している GAD ペアは、二重化を維持できます。障害が発生する可能性のある部位と、その障害によって中断する GAD ペアとの関係を次に示します。



(凡例)

→ : Quorumディスクへのパス

★ : 障害

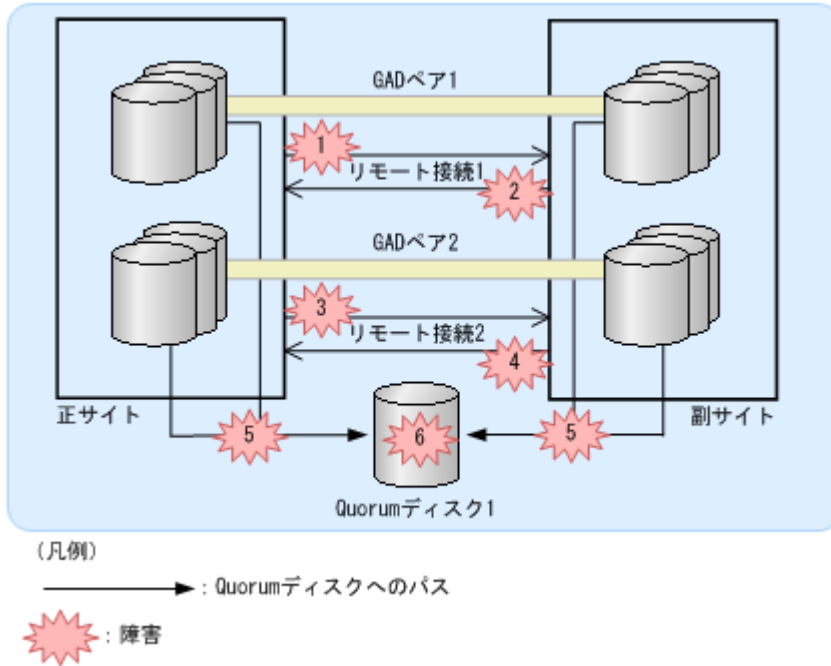
番号	障害の部位	GAD ペア 1	GAD ペア 2
1	正サイトから副サイトへのリモート接続 1	中断する	中断しない
2	副サイトから正サイトへのリモート接続 1	中断する	中断しない
3	正サイトから副サイトへのリモート接続 2	中断しない	中断する
4	副サイトから正サイトへのリモート接続 2	中断しない	中断する
5	Quorum ディスク 1 へのパス	中断しない	中断しない
6	Quorum ディスク 1	中断しない	中断しない
7	Quorum ディスク 2 へのパス	中断しない	中断しない
8	Quorum ディスク 2	中断しない	中断しない

関連概念

- 3.4.2 Quorum ディスクとリモート接続の関係

(2) 障害の部位と中断する GAD ペアとの関係 (Quorum ディスクを共有している場合)

複数のリモート接続で 1 個の Quorum ディスクを共有しているときは、次に示すとおり、障害の部位に関わらず、Quorum ディスクを共有しているすべての GAD ペアが中断されます。



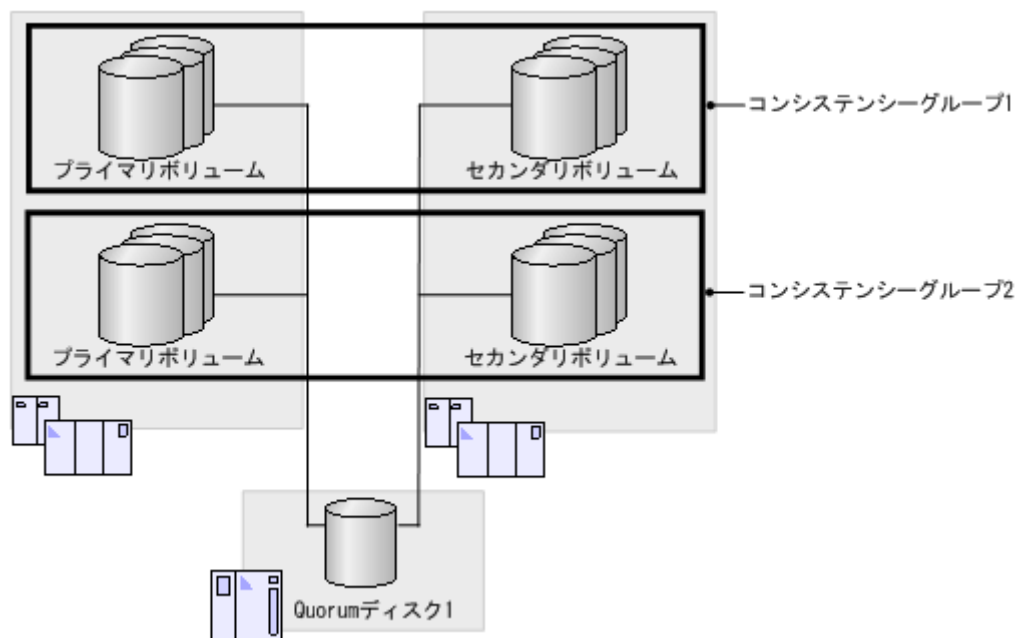
番号	障害の部位	GAD ペア 1	GAD ペア 2
1	正サイトから副サイトへのリモート接続 1	中断する	中断する
2	副サイトから正サイトへのリモート接続 1	中断する	中断する
3	正サイトから副サイトへのリモート接続 2	中断する	中断する
4	副サイトから正サイトへのリモート接続 2	中断する	中断する
5	Quorum ディスク 1 へのパス	中断しない	中断しない
6	Quorum ディスク 1	中断しない	中断しない

関連概念

- 3.4.2 Quorum ディスクとリモート接続の関係

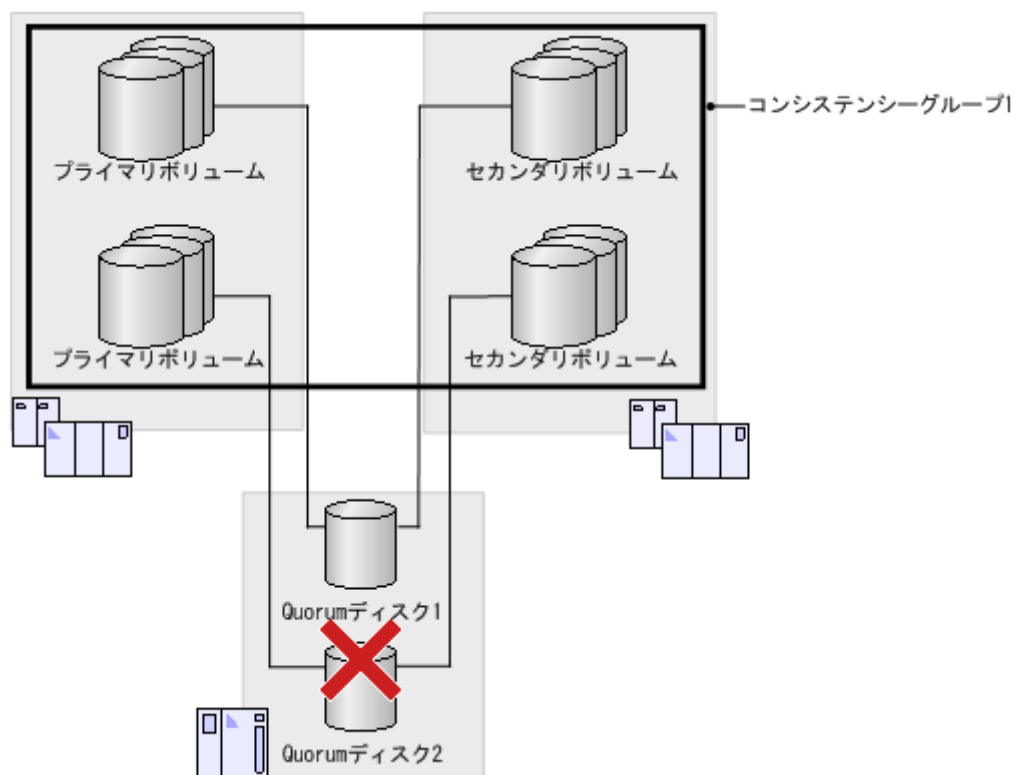
3.4.3 Quorum ディスクとコンシステンシーグループの関係

1 つの Quorum ディスクを、複数のコンシステンシーグループで共有できます。異なるコンシステンシーグループに登録する GAD ペアを作成するときに、同一の Quorum ディスク ID を指定できます。Quorum ディスク ID とコンシステンシーグループの関係は、Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合でも同じです。Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成は、Quorum ディスクのボリュームがありませんが、Quorum ディスク ID はあります。



GAD ペアの作成時、または再同期時に、コンシステンシーグループにペアを登録できます。ただし、登録先のコンシステンシーグループ内のペアと Quorum ディスク ID が異なるペアは登録できません。

1つのコンシステンシーグループに登録するペアは、同一の Quorum ディスクを使用する必要があります。1つのコンシステンシーグループ内のペアを作成するときに、異なる Quorum ディスク ID は指定できません。



関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)

3.4.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムからの応答時間に関する注意事項

Quorum ディスク用外部ストレージシステムからの応答時間が 1 秒以上遅延するような環境では、GAD ペアが障害によって中断するおそれがあります。正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、エクスポートツール 2 を使用して Quorum ディスクの応答時間を定期的に監視してください。応答時間が 100ms を超える場合は、次の観点で構成を見直してください。

- 外部ストレージシステムで、Quorum ディスク以外のボリュームの I/O 負荷が高い場合は、I/O 負荷を下げてください。
- 外部ストレージシステムで、キャッシュの負荷が高い場合は、キャッシュの負荷が高くなっている要因を取り除いてください。
- 外部ストレージシステムの保守を実施する場合、外部ストレージシステム全体の I/O 負荷を下げてください。または、外部ストレージシステムのマニュアルを参照し、なるべく I/O に影響を与えない設定で保守を実施してください。

関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)

3.4.5 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項

Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率が 70%を超えると、GAD ペアのボリュームに対する I/O の性能が低下したり、GAD ペアが障害によって中断したりすることがあります。正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、エクスポートツール 2 を使用して、Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率を定期的に監視してください。Write ペンディング率が 70%を超える場合は、次の観点で構成を見直してください。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムで I/O 負荷が高い場合は、I/O 負荷を下げてください。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムでキャッシュの負荷が高い場合は、次のどれかを実施してください。
 - I/O 負荷を下げる。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムの障害によって、一時的にキャッシュの Write ペンディング率が増加し、70%を超えることがあります。この場合でも GAD ペアのボリュームに対する I/O の性能が低下したり、GAD ペアが障害によって中断したりすることを避けるため、通常は Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率が 35%以下になるような構成にすることを推奨します。

関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)

3.5 GAD のペアの計画

GAD ペアの差分データの管理方法や、GAD ペアの最大数の算出方法、および GAD の構成に依存した、プライマリボリュームやセカンダリボリュームとして使用するボリュームに必要な要件について説明します。

関連概念

- [3.5.1 差分データの管理](#)
- [3.5.2 GAD の最大ペア数の制限](#)
- [3.5.3 ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループのボリュームをセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成する場合の注意事項](#)
- [3.5.4 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項](#)

3.5.1 差分データの管理

差分データはトラック単位のビットマップで管理されます。ペアが中断しているときに書き込み命令を受領したトラックが、差分ビットマップとして管理されます。

ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して GAD ペアを作成した場合、GAD ペアのボリュームが関連づけられているプールで差分データが管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,123,168,604,160 バイトごとに、プログラムプロダクトの構成に応じた差分管理データ用のプール容量（最大 4 ページ）が必要です。



メモ

プールで管理されている差分データ（ページ）は、次の手順で解放します。

1. ページを解放したい仮想ボリュームを使用しているすべてのペアを削除します。
2. システムオプションモード 755 を OFF にします。
システムオプションモード 755 を OFF にすると、ゼロデータページを破棄できるようになります。
3. 閉塞しているプールを回復します。
4. 仮想ボリュームのページを解放します。

RAID Manager の `raidcom modify ldev` コマンドを使用します。

ページの解放には時間が掛かることがあります。

なお、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して GAD ペアを作成したあとで、プールの容量不足によってプールで差分データを管理できないことがあります。この場合、GAD ペアを再同期するときには、プライマリボリュームのすべてのデータがトラック単位でセカンダリボリュームにコピーされます。

関連概念

- [3.5 GAD のペアの計画](#)

3.5.2 GAD の最大ペア数の制限

装置内のペアの最大数は、システム要件に記載されているモデルごとの値になります。しかし、ユーザの環境（ボリュームのサイズ）に応じて、ビットマップエリアの使用量が変わるため、最大ペア数がシステム要件に記載したモデルごとの値を下回る場合があります。ボリュームサイズから作成できる最大ペア数の算出する計算式について、説明します。

なお、ボリュームの容量がより大きい DP-VOL は、ビットマップエリアを使用しません。そのため、ボリュームの容量がより大きい DP-VOL を使用してペアを作成する場合、本ストレージシステムの最大ペア数は算出不要です。

関連概念

- [3.5 GAD のペアの計画](#)
- (1) シリンダ数を算出する
- (2) ビットマップエリアを算出する
- (3) 最大ペア数を算出する

(1) シリンダ数を算出する

最初に、論理ブロック数を算出します。論理ブロック数はボリュームの容量で単位はブロックです。

論理ブロック数 = ボリューム容量 (バイト) ÷ 512

シリンダ数は、次の計算式を使って求めます。

シリンダ数 = (↑ ((↑ (論理ブロック数 ÷ 512) ↑) ÷ 15) ↑)

関連概念

- [3.5.2 GAD の最大ペア数の制限](#)
- (2) ビットマップエリアを算出する

(2) ビットマップエリアを算出する

シリンダ数から、ビットマップエリアを算出します。

ビットマップエリア数 = (↑ ((シリンダ数 × 15) ÷ 122,752) ↑)

122,752 は、ビットマップエリア 1 つ当たりの差分量です。差分量の単位はビットです。



メモ

必要ビットマップエリア数は、ボリュームごとに計算してください。複数ボリュームのシリンダ数を足した値を使用して必要ビットマップエリア数を算出した場合、正しい算出結果が得られないおそれがあります。例として 10,017 シリンダと 32,760 シリンダの 2 つのボリュームを使用する場合を示します。以下の正しい計算方法で計算してください。

- 正しい計算方法
(↑ ((10,017 × 15) ÷ 122,752) ↑) = 2
(↑ ((32,760 × 15) ÷ 122,752) ↑) = 5
合計 7 ビットマップエリア
- 誤った計算方法
10,017 + 32,760 = 42,777 シリンダ
(↑ ((42,777 × 15) ÷ 122,752) ↑) = 6
合計 6 ビットマップエリア

関連概念

- [3.5.2 GAD の最大ペア数の制限](#)
- (1) シリンダ数を算出する
- (3) 最大ペア数を算出する

(3) 最大ペア数を算出する

次の値から、作成できる最大ペア数は算出します。

- ペア作成に必要なビットマップエリア数
- ストレージシステムで使用できるビットマップエリアの総数
 - VSP One B20 : 65,536 個

作成可能な最大ペア数は、ストレージシステムのビットマップエリア総数と必要ビットマップエリア数を使用して、次の計算式で求めます。

作成可能最大ペア数 = (↓ (ストレージシステムのビットマップエリア総数 ÷ 必要ビットマップエリア数) ↓)



メモ

使用するビットマップエリア数は、TrueCopy、Universal Replicator、および GAD で共用です。そのため、これらのプログラムプロダクトを併用する場合は、ストレージシステムのビットマップエリア総数 (65,536) から、それぞれのプロダクトに必要なビットマップエリア数を減算したあとで、上記計算式で GAD の作成可能最大ペア数を算出してください。なお、それぞれのプログラムプロダクトの必要ビットマップエリア数の算出方法は、対応するユーザガイドを参照してください。

すでに求めた必要ビットマップエリア数と、次の表に示すストレージシステムのビットマップエリア数で計算します。ストレージシステムのビットマップエリア数は、global-active device 用に増設したシェアドメモリの有無とモデルによって決定されます。

global-active device 用のシェアドメモリの増設状況	ストレージシステムのビットマップエリア数
	VSP One B23、VSP One B26 および VSP One B28
Base (増設シェアドメモリなし)	65,536 個
増設あり	65,536 個

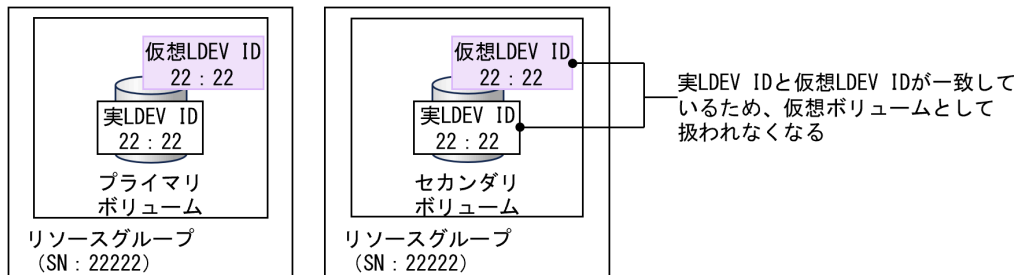
関連概念

- [3.5.2 GAD の最大ペア数の制限](#)
- [\(2\) ビットマップエリアを算出する](#)

3.5.3 ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループのボリュームをセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成する場合の注意事項

ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループのボリュームをセカンダリボリュームに指定して、GAD ペアを作成できます。この場合、プライマリボリュームには、セカンダリボリュームがあるストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループ (仮想ストレージマシン) のボリュームを指定する必要があります。

GAD ペアを作成すると、プライマリボリュームの仮想 LDEV ID がセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID にコピーされます。次の図では、コピーされたプライマリボリュームの仮想 LDEV ID と、セカンダリボリュームの実 LDEV ID が一致しています。ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つリソースグループ内にある、実 LDEV ID と仮想 LDEV ID が一致しているボリュームは、global storage virtualization 機能によって仮想化されたボリュームとして扱われません。



なお、プライマリボリュームの仮想情報をセカンダリボリュームにコピーした結果、次の例のように実エミュレーションタイプと仮想エミュレーションタイプが不一致となる場合は、GAD ペアを作成できません。

- コピーされるプライマリボリュームの仮想エミュレーションタイプが、セカンダリボリュームの実エミュレーションタイプと一致しない。
仮想エミュレーションタイプには、仮想 CVS 属性 (-cvs) を含みます。本ストレージシステムは LUSE をサポートしていないため、LUSE 構成 (*n) のボリュームも、プライマリボリュームには指定できません。

関連概念

- [3.5 GAD のペアの計画](#)

3.5.4 Quorum ディスクが割り当てられているストレージシステムの Write ペンディング率に関する注意事項

Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率が 70%を超えると、GAD ペアのボリュームに対する I/O の性能が低下したり、GAD ペアが障害によって中断したりすることがあります。正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、エクスポートツール 2 を使用して、Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率を定期的に監視してください。Write ペンディング率が 70%を超える場合は、次の観点で構成を見直してください。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムで I/O 負荷が高い場合は、I/O 負荷を下げてください。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムでキャッシュの負荷が高い場合は、次のどれかを実施してください。
 - I/O 負荷を下げる。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムの障害によって、一時的にキャッシュの Write ペンディング率が増加し、70%を超えることがあります。この場合でも GAD ペアのボリュームに対する I/O の性能が低下したり、GAD ペアが障害によって中断したりすることを避けるため、通常は Quorum ディスクが存在する正サイトと副サイトの、ストレージシステム単位の Write ペンディング率が 35%以下になるような構成にすることを推奨します。

関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)
- [3.5 GAD のペアの計画](#)

3.5.5 VSP 5000 シリーズと接続する場合の注意事項

本ストレージシステムと VSP 5000 シリーズを接続する場合、ペアを作成する際に、LU 番号および Namespace ID について次に示す制約があります。

ペア作成時の LU 番号の制約

DKCMAIN プログラムバージョン 90-02-0X-XX/XX 以降の VSP 5000 シリーズは、LU 番号を 0～4095 まで割り当てることができます。ただし接続元を DKCMAIN プログラムバージョン 90-02-0X-XX/XX 以降の VSP 5000 シリーズとした場合、LU 番号が 2048～4095 の LU と、本ストレージシステムの LU で、ペアを作成しないでください。本ストレージシステムに、ペアのサスペンドなどの障害が発生する可能性があります。



メモ

- 本ストレージシステムでは、次に示すとおり最大 2048 の LU パスを設定できます。
 - ファイバチャネルのポートにホストグループを設定する場合、1つのホストグループに 2048 までの LU パスを設定できます。また、ホストグループを介して 1つのポートに設定できる LU パス数も 2048 までです。
 - iSCSI のポートに iSCSI ターゲットを設定する場合、1つの iSCSI ターゲットに 2048 までの LU パスを設定できます。また、iSCSI ターゲットを介して 1つのポートに設定できる LU パス数も 2048 までです。
- 接続元が本ストレージシステム、接続先が VSP G150, G350, G370, G700, G900, VSP F350, F370, F700, F900, VSP E590, VSP E790, VSP E990, VSP E1090, VSP 5000 シリーズおよび本ストレージシステムで、ペアを作成する場合の LU 番号の制約を示します。

表 1 ペア作成時の LU 番号の制約

接続元装置	接続先装置		制約	
	機種	ファームウェアバージョン	ペアを作成できる LU 番号	1つのポートに設定できる LU パス数
VSP One B20 (全バージョン)	VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-08-12-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
	VSP E590, VSP E790, VSP E990, VSP E1090	93-07-22-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
	VSP 5100, 5200, 5500, 5600	90-09-23-XX/XX 以降	0～2047	0～2048
	VSP One B20	全バージョン	0～2047	0～2048

ペア作成時の Namespace ID の制約

VSP 5000 シリーズは、Namespace ID を 1～4096 まで割り当てることができます。ただし、VSP One B20 と VSP 5000 シリーズを接続する場合、Namespace ID が 2049～4096 の Namespace を使ってペアを作成しないでください。本ストレージシステムに、ペアのサスペンドなどの障害が発生する可能性があります。



メモ

接続元が本ストレージシステム、接続先が VSP E1090、VSP 5000 シリーズおよび本ストレージシステムで、ペアを作成する場合の Namespace ID の制約を次の表に示します。

表 2 ペア作成時の Namespace ID の制約

接続元装置	接続先装置		制約	
機種	機種	ファームウェアバージョン	ペアを作成できる Namespace ID	NVM サブシステムに作成できる Namespace 数
VSP One B20 (全バージョン)	VSP E1090	93-07-22-XX/XX 以降	1~2048	2048
	VSP 5000 シリーズ	90-09-23-XX/XX 以降	1~2048	2048
	VSP One B20	全バージョン	1~2048	2048

global-active device と他の機能の併用

global-active device (GAD) 以外の機能で使用するボリュームの中には、GAD のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームと併用できるものと、併用できないものがあります。ここでは、他の機能との併用について説明します。

- 4.1 GAD と他の機能との併用可否
- 4.2 GAD と Dynamic Provisioning との併用
- 4.3 GAD と ShadowImage/Thin Image とを併用したときの運用例
- 4.4 GAD と ShadowImage との併用
- 4.5 GAD と Thin Image との併用
- 4.6 GAD と Universal Replicator との併用
- 4.7 GAD と Data Retention Utility との併用
- 4.8 GAD と Volume Migration との併用
- 4.9 GAD と LUN Manager との併用
- 4.10 GAD と Volume Shredder との併用
- 4.11 GAD とエクスポートツール 2 との併用

4.1 GAD と他の機能との併用可否

GAD 以外の機能で使用するボリュームと、GAD のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを併用できるかどうかを次の表に示します。

なお、GAD 以外の各機能を使用するためには、それぞれの機能に対応したライセンスが必要です。

機能/ボリューム	GAD のプライマリボリュームとしての使用可否	GAD のセカンダリボリュームとしての使用可否	Quorum ディスクとしての使用可否
Dynamic Provisioning			
仮想ボリューム	○※1	○※1	×
プールボリューム	×	×	×
重複排除システムデータボリューム	×	×	×
ShadowImage			
プライマリボリューム	○	○	×
セカンダリボリューム	○	○	×
Thin Image Advanced ※2			
プライマリボリューム	○	○	×
セカンダリボリューム	×	×	×
TrueCopy			
プライマリボリューム	×	×	×
セカンダリボリューム	×	×	×
Universal Replicator			
プライマリボリューム	○※7	○※6、※7	×
セカンダリボリューム	×	×	×
ジャーナルボリューム	×	×	×
Universal Volume Manager			
外部ボリューム	○※1	○※1	○
Data Retention Utility			
アクセス属性が設定されたボリューム	○	○※3	×
Volume Migration			
ソースボリューム	○	○	×
ターゲットボリューム	×	×	×
Virtual LUN			
Virtual LUN ボリューム	○	○	○※4
LUN Manager			
LU パス定義されているボリューム	○	○	×
NVMe の Namespace に設定されているボリューム	×	×	×

機能/ボリューム	GAD のプライマリボリュームとしての使用可否	GAD のセカンダリボリュームとしての使用可否	Quorum ディスクとしての使用可否
LU パス定義されていない、または NVMe の Namespace に設定されていないボリューム	×	×	○
コマンドデバイス			
コマンドデバイス	×	×	×
リモートコマンドデバイス	×	×	×
Encryption License Key			
暗号化されたパリティグループのボリューム	○	○	外部ストレージシステムで暗号化されているボリュームを Quorum ディスクとして使用できる ※5

(凡例)

- : 使用できる
- × : 使用できない

注※1

プールボリュームに外部ボリュームを使用している Dynamic Provisioning の仮想ボリュームも、GAD のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できます。

注※2

Thin Image のノードボリュームおよびリーフボリュームについては、「プライマリボリューム」ではなく「セカンダリボリューム」の内容を参照してください。

注※3

セカンダリボリュームに Data Retention Utility の副 VOL 拒否属性が設定されると、RAID Manager から GAD ペアを操作する場合に制限が発生します。セカンダリボリュームの副 VOL 拒否属性を解除してから GAD ペアを操作してください。

注※4

1 個の外部ボリュームグループを 1 個の外部ボリュームにマッピングしている構成の外部ボリュームだけを、Quorum ディスクに設定できます。

注※5

外部ストレージシステムで暗号化されていない Quorum ディスクを、正サイトおよび副サイトの本ストレージシステムで暗号化できません。

注※6

デルタリシンク用 Universal Replicator ペアのプライマリボリュームとして使用します。

注※7

global-active device と Universal Replicator を連携する構成のサポートファームウェアバージョン、サポート機種は、「[2.1 GAD の要件](#)」を参照してください。

4.2 GAD と Dynamic Provisioning との併用

Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) は、GAD ペアのボリュームとして使用できます。また、容量削減機能が有効な仮想ボリュームは、GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できます。ただし、重複排除用システムデータボリュームは、GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できません。

容量削減機能が有効な仮想ボリュームに関する注意事項を次に示します。

- 容量削減機能によって圧縮または重複排除されているコピー元のボリュームのデータは、圧縮または重複排除を解消してから、コピー先のボリュームへコピーされます。また、容量削減機能は、コピーしたデータに対してすぐには実行されません。GAD ペアを作成したり再同期したりする前に、コピー先のボリュームの空き容量が、コピー元のボリュームに格納されている容量削減前の差分データの容量よりも多いかを確認してください。詳細は、『システム構築ガイド』を参照してください。
- 容量削減機能を使用したボリュームを使用して GAD ペアを作成すると、圧縮または重複排除されたデータをコピーするため、コピーの性能やホストの I/O 性能が低下する場合があります。
- 容量削減機能が有効な仮想ボリュームの管理情報は、プールに格納されるため、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで、ページの使用量やライセンス容量に差があることがあります。

割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして、global-active device ペアを作成する際の推奨手順

global-active device ペアを作成する際に、割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして使用する場合は、ペアを作成する前に、次に示す操作をしてください。

- セカンダリボリュームにするボリュームを LDEV フォーマットします。



注意

LDEV フォーマットせずにペア作成すると、初期化しながらコピーされるため、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。

- 次に示すユーザ要件に応じて、インラインモード/ポストプロセスモードを、セカンダリボリュームにするボリュームに対して設定します。

- ユーザ要件: I/O 性能への影響を抑えたい

設定内容	注意事項
ポストプロセスモード	ペアが作成されてから容量削減されるため、セカンダリボリューム用に、プライマリボリュームと同じ容量のプール容量の確保が必要です。

- ユーザ要件: 必要なプール容量を抑えたい

設定内容	注意事項
インラインモード	ポストプロセスモードと比較して、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。これらを抑えたい場合は、ポストプロセスモードの適用を検討してください。

関連概念

- [4.1 GAD と他の機能との併用可否](#)
- [4.2.1 DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量](#)
- [4.2.2 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量拡張](#)

4.2.1 DP-VOL 使用時のページ容量とライセンス容量

ボリューム容量のうち、割り当てられているページ容量だけが GAD のライセンス容量としてカウントされます。ただし、容量削減機能が有効なボリュームの場合は、削減前の容量が global-active device ライセンス容量の対象になります。

また、ページ解放などの操作を実施することで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのページ容量が変化し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの間でカウントされるページ容量またはライセンス容量が異なる場合があります。

関連概念

- [4.2 GAD と Dynamic Provisioning との併用](#)

4.2.2 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量拡張

GAD ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

DP-VOL の容量拡張の詳細については、「[10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

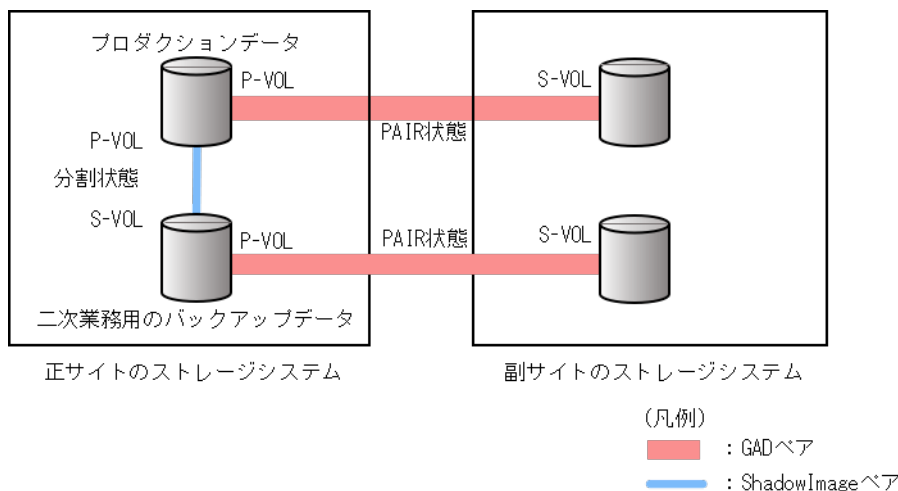
4.3 GAD と ShadowImage/Thin Image とを併用したときの運用例

GAD ペアと、ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアとでボリュームを共用したときの運用例を、次に示します。

- 業務で使用している GAD ペアのボリュームを、ShadowImage または Thin Image で複製します。複製したボリュームを、バックアップソフトウェアを使用してバックアップします。
- 業務で使用している GAD ペアのボリュームを、ShadowImage または Thin Image で複製します。複製したボリュームで、ほかの業務を実施します。
- GAD ペアを再同期するときに、ペア状態が COPY に変わるため、セカンダリボリュームの整合性がなくなります。再同期コピー中に正サイトのストレージシステムが故障する場合に備えて、整合性がある状態のセカンダリボリュームを、ShadowImage または Thin Image ペアで複製しておきます。
- ブロック状態の GAD ペアのデータは 2 重化されていませんが、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、それぞれ業務を継続できます。そのため、GAD ペアを強制削除する前に、整合性のあるデータを ShadowImage または Thin Image ペアで複製しておきます。
- ShadowImage ペアのセカンダリボリュームのデータ(二次業務用のバックアップデータ)を GAD ペアと連携して冗長化できます。

冗長化により、一方のストレージシステムに障害が発生しても、他方のストレージシステムで二次業務を継続できます。この構成にする場合は、Quorum ディスクにボリュームを設定する構成を推奨します。

この構成を組むと、運用中は、次の図に示すように、ShadowImage ペアが分割状態、GAD ペアが PAIR 状態となります。ShadowImage ペアのセカンダリボリュームのデータ(二次業務用のバックアップデータ)を更新する場合は、まず ShadowImage ペアのセカンダリボリュームと連携している GAD ペアを中断します。その後、ShadowImage ペアを再同期し、再度分割することで、セカンダリボリュームのデータがその時点での最新データに更新されます。セカンダリボリュームのデータの更新後は、中断した GAD ペアを再同期します。



4.4 GAD と ShadowImage との併用

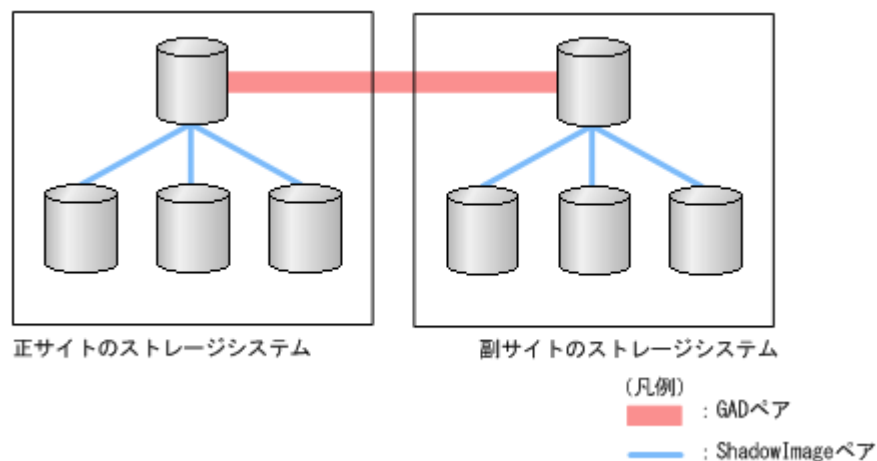
GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを、ShadowImage ペアのプライマリボリュームとして使用できます。



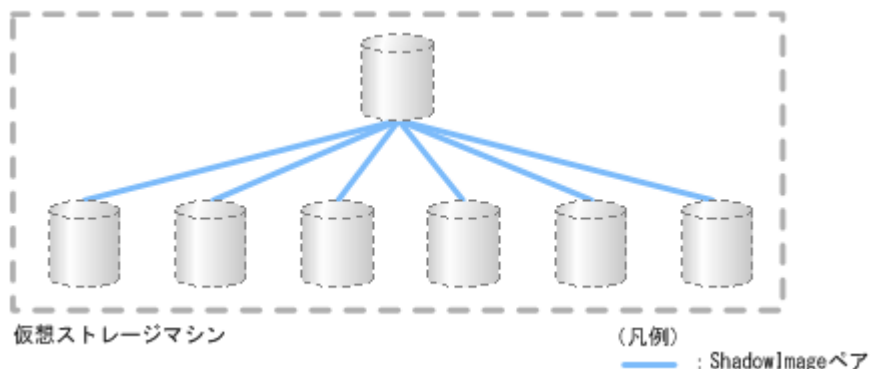
メモ

GAD ペアのボリュームを使用して ShadowImage ペアを作成するときは、仮想 LDEV ID ではなく実 LDEV ID を指定してください。

GAD のプライマリボリュームとセカンダリボリュームを使用して、ShadowImage ペアをそれぞれ 3 個まで作成できます。



サーバからは、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームは 1 個のボリュームに見えるため、サーバからは 1 個のボリュームに対して 6 個の ShadowImage ペアが作成されたように見えます。



作成した ShadowImage ペアのセカンダリボリュームを使用して、それぞれ 3 個のカスケードペアを作成できます。よって、1 個の GAD のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに対して、最大 9 個の ShadowImage ペアを作成できます。また、サーバから見て、1 個のボリュームに対して最大 18 個の ShadowImage ペアを作成できます。

ShadowImage ペアのコンシステンシーグループには、1 台のストレージシステム内のペアだけを登録できます。そのため、GAD ペアのプライマリボリュームを使用している ShadowImage ペアと、GAD ペアのセカンダリボリュームを使用している ShadowImage ペアは、同一のコンシステンシーグループには登録できません。

関連概念

- [4.4.1 GAD と ShadowImage を併用するときの制限事項](#)
- [4.4.2 GAD 状態と ShadowImage のペア操作可否の関係](#)
- [4.4.3 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 \(GAD ペアのプライマリボリュームを ShadowImage と併用している場合\)](#)
- [4.4.4 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 \(GAD ペアのセカンダリボリュームを ShadowImage と併用している場合\)](#)

4.4.1 GAD と ShadowImage を併用するときの制限事項

プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が削除されます。セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のプライマリボリュームの仮想 LDEV ID が削除されます。仮想 LDEV ID が削除されると、サーバはそのボリュームを認識できません。

GAD のボリュームを ShadowImage のボリュームとしても使用している場合は、ShadowImage のボリュームとしても使用しているボリュームの仮想 LDEV ID が削除される操作はできません。

関連概念

- [4.4 GAD と ShadowImage との併用](#)

4.4.2 GAD 状態と ShadowImage のペア操作可否の関係

表 3 ShadowImage のペア操作可否 (GAD 状態が初期のとき)

GAD のペア状態	仮想 LDEV ID	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
		読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
SMPL	あり	○	○	○	○	○	○	○
	なし	×	×	○	○	○	○	○
	なし (仮想属性が GAD 予約)	×	×	×	×	×	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

表 4 ShadowImage プライマリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否 (GAD 状態が二重化中のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
INIT/COPY	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×※1	○
	Block	セカンダリ	×	×	○	×※2	×※2	×※1、※3	○
COPY	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×※1	○
	Block	セカンダリ	×	×	○	×※2	×※2	×※1、※3	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

注※1

GAD ペアが中断していないため、操作できません。

注※2

セカンダリボリュームのデータが確定していないため、操作できません。

注※3

GAD ペアのコピー先と、ShadowImage ペアのコピー先のボリュームが同一になるため、操作できません。

表 5 ShadowImage セカンダリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否（GAD 状態が二重化中のとき）

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
INIT/COPY	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	×	×	×	×	○
	Block	セカンダリ	×	×	×	×	×	×	○
COPY	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	×	×	×	×	○
	Block	セカンダリ	×	×	×	×	×	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

表 6 ShadowImage プライマリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否（GAD 状態が二重化のとき）

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
PAIR	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×※	○
		セカンダリ	○	○	○	○	○	×※	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

注※

GAD ペアが中断していないため、および GAD ペアのコピー先と、ShadowImage ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

表 7 ShadowImage セカンダリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否 (GAD 状態が二重化のとき)

GAD のペア 状態	I/O モ ード	ペア位 置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取 り	書き込 み	ペア作 成	ペア分 割	ペア再 同期	リスト ア	ペア削 除/ペア 中断
PAIR	Mirror(RL)	プライマ リ	○	○	×	×	×	×	○
		セカンダ リ	○	○	×	×	×	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- ×

表 8 ShadowImage プライマリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否 (GAD 状態が中断のとき)

GAD のペア 状態	I/O モ ード	ペア位 置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取 り	書き込 み	ペア作 成	ペア分 割	ペア再 同期	リスト ア	ペア削 除/ペア 中断
PSUS	Local	プライマ リ	○	○	○	○	○	○	○
	Block	プライマ リ	×	×	○	○	○	×	○
PSUE	Local	プライマ リ	○	○	○	○	○	○	○
		プライマ リ	×	×	○	○	○	×	○
	セカンダ リ	×	×	○	○	○	×	○	
SSUS	Block	セカンダ リ	×	×	○	○	○	×	○
SSWS	Local	セカンダ リ	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- : 操作できる
- ×

表 9 ShadowImage セカンダリボリュームと GAD ペアボリューム併用時の ShadowImage のペア操作可否（GAD 状態が中断のとき）

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		ShadowImage のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
PSUS	Local	プライマリ	○	○	○	○	○	○*	○
	Block	プライマリ	×	×	×	×	×	×	○
PSUE	Local	プライマリ	○	○	○	○	○	○*	○
	Block	プライマリ	×	×	×	×	×	×	○
		セカンダリ	×	×	×	×	×	×	○
SSUS	Block	セカンダリ	×	×	×	×	×	×	○
SSWS	Local	セカンダリ	○	○	○	○	○	○*	○

（凡例）

- ：操作できる
- ×：操作できない

注※

Quick Restore 操作はできません。

関連概念

- ・ [4.4 GAD と ShadowImage との併用](#)

4.4.3 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係（GAD ペアのプライマリボリュームを ShadowImage と併用している場合）

表 10 GAD プライマリボリュームと ShadowImage プライマリボリューム併用時の GAD のペア操作可否

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPP	○	○	○	○	×※3	○	○	○
COPY	○	○	○	○	×※3	○	○	○
PAIR	○	○	○	○	×※3	○	○	○

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
PSUS/COPY	○	○	○	○	×※3	○	○	○
PSUS	○	○	○	○	×※3	○	○	○
CPRS	○	○	○	○	×※3	○	○	○
RCPY	×※4	—	—	○	×※3	○	×※4	×※4
PSUE	○	○	○	○	×※3	○	○	○

(凡例)

○：操作できる

×：操作できない

—：起こりえない

P-VOL：プライマリボリューム

S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のプライマリボリューム (ShadowImage のプライマリボリューム) の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※4

ShadowImage のリストアコピーを継続するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。

表 11 GAD プライマリボリュームと ShadowImage セカンダリボリューム併用時の GAD のペア操作可否

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPP	×	○	○	○	×	○	×	×
COPY	×	—	—	○	×	○	×	×
PAIR	×	—	—	○	×	○	×	×

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
PSUS/COPY	×	—	—	○	×	○	×	×
PSUS	○	○	○	○	×	○	○	○
CPRS	×	—	—	○	×	○	×	×
RCPY	×	—	—	○	×	○	×	×
PSUE	×	○	○	○	×	○	×	×

(凡例)

- ：操作できる
- ×
- ：起こりえない
- P-VOL：プライマリボリューム
- S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

関連概念

- ・ [4.4 GAD と ShadowImage との併用](#)

4.4.4 ShadowImage のペア状態と GAD のペア操作可否の関係（GAD ペアのセカンダリボリュームを ShadowImage と併用している場合）

表 12 GAD セカンダリボリュームと ShadowImage プライマリボリューム併用時の GAD のペア操作可否

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPP	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
COPY	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PAIR	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PSUS/COPY	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PSUS	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○

SIのペア状態	GADのペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL指定	S-VOL指定	P-VOL指定※1	S-VOL指定※2	強制削除	P-VOL指定	S-VOL指定
CPRS	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
RCPY	×※3、※5	—	—	×※4	○	○	×※5、※6	×※6
PSUE	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×：操作できない
- ：起こりえない
- P-VOL：プライマリボリューム
- S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

GAD ペアを作成するには、セカンダリボリュームとして使用するボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる必要があります。仮想属性に GAD 予約を割り当てたボリュームは仮想 LDEV ID が削除されるため、ShadowImage と併用しているボリュームを GAD ペアのセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成することはできません。

注※4

プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のセカンダリボリューム (ShadowImage のプライマリボリューム) の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※5

GAD ペアのコピー先と、ShadowImage ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

注※6

ShadowImage のリストアコピーを継続するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。

表 13 GAD セカンダリボリュームと ShadowImage セカンダリボリューム併用時の GAD のペア操作可否

SI のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPP	×	○	○	×	○	○	×	×
COPY	×	—	—	×	○	○	×	×
PAIR	×	—	—	×	○	○	×	×
PSUS/ COPY	×	—	—	×	○	○	×	×
PSUS	×	○	○	×	○	○	○	○
CPRS	×	—	—	×	○	○	×	×
RCPY	×	—	—	×	○	○	×	×
PSUE	×	○	○	×	○	○	×	×

(凡例)

- ：操作できる
- ×
- ：起こりえない
- P-VOL：プライマリボリューム
- S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

関連概念

- ・ [4.4 GAD と ShadowImage との併用](#)

4.5 GAD と Thin Image との併用

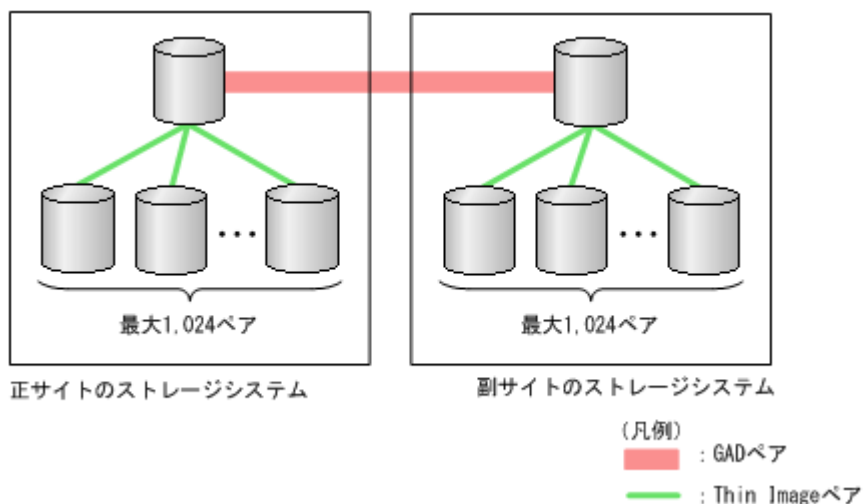
GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを、Thin Image ペアのプライマリボリュームとして使用できます。



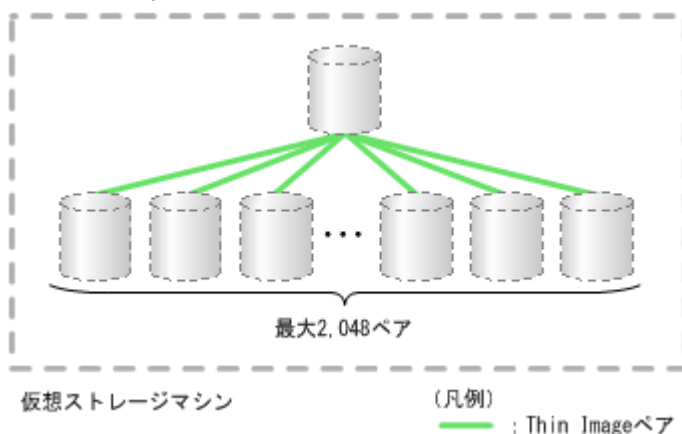
メモ

GAD ペアのボリュームを使用して Thin Image ペアを作成するときは、仮想 LDEV ID ではなく実 LDEV ID を指定してください。

GAD のプライマリボリュームとセカンダリボリュームを使用して、Thin Image ペアをそれぞれ 1,024 個まで作成できます。



サーバからは、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームは1個のボリュームに見えるため、サーバからは1個のボリュームに対して2,048個のThin Imageペアが作成されたように見えます。



Thin Image ペアのコンシステンシーグループやスナップショットグループには、1台のストレージシステム内のペアだけを登録できます。そのため、GAD ペアのプライマリボリュームを使用している Thin Image ペアと、GAD ペアのセカンダリボリュームを使用している Thin Image ペアは、同一のコンシステンシーグループやスナップショットグループには登録できません。

関連概念

- [4.5.1 GAD と Thin Image を併用するときの制限事項](#)
- [4.5.2 GAD 状態と Thin Image のペア操作可否の関係](#)

4.5.1 GAD と Thin Image を併用するときの制限事項

プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が削除されます。セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のプライマリボリュームの仮想 LDEV ID が削除されます。仮想 LDEV ID が削除されると、サーバはそのボリュームを認識できません。

GAD のボリュームを Thin Image のボリュームとしても使用している場合は、Thin Image のボリュームとしても使用しているボリュームの仮想 LDEV ID が削除される操作はできません。

関連概念

- 4.5 GAD と Thin Image との併用

4.5.2 GAD 状態と Thin Image のペア操作可否の関係

表 14 Thin Image のペア操作可否 (GAD 状態が初期のとき)

GAD のペア状態	仮想 LDEV ID	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
		読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除
SMPL	あり	○	○	○	○	○	○	○
	なし	×	×	○	○	○	○	○
	なし (仮想属性が GAD 予約)	×	×	×	×	×	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- ×

表 15 Thin Image のペア操作可否 (GAD 状態が二重化中のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除
INIT	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×※1	○
	Block	セカンダリ	×	×	×	×※2	×※2	×※1、※3	○
COPY	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×※1	○
	Block	セカンダリ	×	×	×	×※2	×※2	×※1、※3	○

(凡例)

- : 操作できる
- ×

注※1

GAD ペアが中断していないため、操作できません。

注※2

データのコピー中で、ボリュームのデータが確定していないため、操作できません。

注※3

GAD ペアのコピー先と、Thin Image ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

表 16 Thin Image のペア操作可否 (GAD 状態が二重化のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除
PAIR	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×*	○
		セカンダリ	○	○	○	○	○	×*	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

注※

GAD ペアが中断していないため、および GAD ペアのコピー先と、Thin Image ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

表 17 Thin Image のペア操作可否 (Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成のとき GAD ペアの GAD 状態が Quorum ディスク閉塞のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除/ペア中断
PAIR	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	○	○	○	×*	○
	Mirror(RL)	セカンダリ	○	○	○	○	○	×*	○

凡例

- : 操作できる
- × : 操作できない

注※

GAD ペアが中断していないため、および GAD ペアのコピー先と、Thin Image ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

表 18 Thin Image のペア操作可否 (GAD 状態が中断のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取り	書き込み	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	リストア	ペア削除
PSUS	Local	プライマリ	○	○	○	○	○	○	○
	Block	プライマリ	×	×	○	○	○	×	○

GAD のペア 状態	I/O モ ード	ペア位 置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取 り	書き込 み	ペア作 成	ペア分 割	ペア再 同期	リスト ア	ペア削 除
PSUE	Local	プライマ リ	○	○	○	○	○	○	○
		Block	×	×	○	○	○	×	○
	セカンダ リ	×	×	○	○	○	×	○	
SSUS	Block	セカンダ リ	×	×	○	○	○	×	○
SSWS	Local	セカンダ リ	○	○	○	○	○	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

表 19 Thin Image のペア操作可否 (GAD 状態がブロックのとき)

GAD のペア 状態	I/O モ ード	ペア位 置	サーバからの I/O		Thin Image のペア操作				
			読み取 り	書き込 み	ペア作 成	ペア分 割	ペア再 同期	リスト ア	ペア削 除
PSUE	Block	プライマ リ	×	×	○	○	○	×	○
		セカンダ リ	×	×	○	○	○	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

関連概念

- ・ [4.5 GAD と Thin Image との併用](#)

4.5.3 Thin Image Advanced のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのプライマリボリュームを Thin Image Advanced と併用している場合)

TI Advanced のペア 状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指 定	S-VOL 指 定	P-VOL 指 定※1	S-VOL 指 定※2	強制削除	P-VOL 指 定	S-VOL 指 定
CPPD	○	○	○	○	×※3	○	○	○
PAIR	○	○	○	○	×※3	○	○	○

TI Advanced のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
PSUP	○	○	○	○	×※3	○	○	×
CPYP	○	○	○	○	×※3	○	○	○
PSUS	○	○	○	○	×※3	○	○	○
CPRS	○	○	○	○	×※3	○	○	○
RCPY	×※4	—	—	○	×※3	○	×※4	×※4
SMPP	○	○	○	○	×※3	○	○	○
PSUE	○	○	○	○	×※3	○	○	○

(凡例)

○：操作できる

×：操作できない

—：起こりえない

P-VOL：プライマリボリューム

S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のプライマリボリューム (Thin Image Advanced のプライマリボリューム) の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※4

Thin Image Advanced のリストアコピーを継続するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。

4.5.4 Thin Image Advanced のペア状態と GAD のペア操作可否の関係 (GAD ペアのセカンダリボリュームを Thin Image Advanced と併用している場合)

TI Advanced のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
CPPD	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○

TI Advanced のペア 状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指 定	S-VOL 指 定	P-VOL 指 定※1	S-VOL 指 定※2	強制削除	P-VOL 指 定	S-VOL 指 定
PAIR	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PSUP	×※3	○	○	×※4	○	○	×	○
CPYP	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PSUS	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
CPRS	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
RCPY	×※3、※5	—	—	×※4	○	○	×※5、※6	×※6
SMPP	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○
PSUE	×※3	○	○	×※4	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×：操作できない
- ：起こりえない
- P-VOL：プライマリボリューム
- S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

GAD ペアを作成するには、セカンダリボリュームとして使用するボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる必要があります。仮想属性に GAD 予約を割り当てたボリュームは仮想 LDEV ID が削除されるため、Thin Image Advanced と併用しているボリュームを GAD ペアのセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成することはできません。

注※4

プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のセカンダリボリューム (Thin Image Advanced のプライマリボリューム) の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※5

GAD ペアのコピー先と、Thin Image Advanced ペアのコピー先のボリュームが同一であるため、操作できません。

注※6

Thin Image Advanced のリストアコピーを継続するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。

4.6 GAD と Universal Replicator との併用



メモ

GAD と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は、DKCMAIN プログラムバージョン A3-02-01-XX 以前で未サポートです。他の 3DC に関する記載についても未サポートとなります。

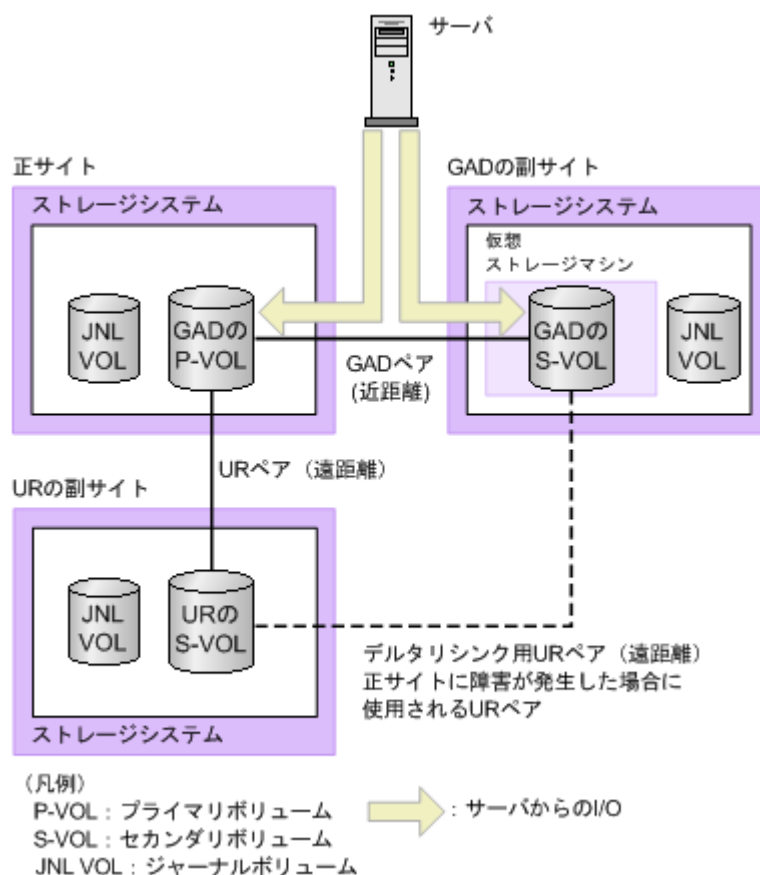
GAD を使用したシステムでは、サーバは正サイトと副サイトへ同時に I/O を発行し、近距離にある 2 つのストレージシステム間で同じデータを共有します。このため、一方のストレージシステムに障害が発生しても、他方のストレージシステムで業務を継続できます。大規模な災害によって正サイトと GAD の副サイトの両方が被災した場合は、GAD だけでデータを冗長化したシステムでは業務を継続できなくなります。GAD と Universal Replicator (UR) を組み合わせて 3 データセンター構成 (3DC) にすることで、正サイトと GAD の副サイトの両方が被災した場合でも、遠隔地にある UR の副サイトを利用できるため、業務を継続できます。

GAD と UR を併用するときは、次のようにシステムを構成します。

- GAD のセカンダリボリュームとして使用されているボリュームをデルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームに指定します。
- GAD のプライマリボリュームとして使用されているボリュームを UR ペアのプライマリボリュームに指定します。

UR ペアのセカンダリボリュームは 2 つのミラー ID を使用します。1 つは、UR ペアで、1 つはデルタリシンク用の UR ペアです。

次の図に GAD と UR を併用するときの構成を示します。GAD と UR を併用するときは、必ずこの構成にします。



GAD の副サイトから UR の副サイトへデルタリシンク用の UR ペアがあるため、正サイトで障害が発生したときには GAD の副サイトにあるジャーナルデータを使って UR ペアのセカンダリボリュームを同期できます。



メモ

- 正サイトおよび副サイトに複数のストレージシステムを配置して UR システムを構築している場合、その UR を使用して、GAD と UR との 3DC 構成は構築できません。
- TrueCopy と UR の 3DC マルチターゲット構成、3 つの UR サイトによる 3DC マルチターゲット構成、および 3 つの UR サイトによる 3DC カスケード構成の UR は、GAD と UR との 3DC 構成として併用できません。
- GAD と UR とを併用する場合、リモートコマンドデバイスは不要です。
- GAD と UR を併用する場合、先に GAD ペアを作成してから、UR ペアを作成してください。作成された UR ペアに対して、GAD ペアと併用できません。



メモ

GAD を使用して、UR ペアを維持したまま、正サイトと副サイトによる UR の環境を別の正サイトと副サイトへ移行できます。詳細は、関連概念を参照してください。

4.6.1 GAD と Universal Replicator のペア操作可否の関係

Universal Replicator (UR) のペア状態と GAD のペア操作可否の関係を次の表に示します。

UR のペア状態	GAD ペア操作対象の UR ペア属性	GAD のペア操作					
		ペア作成 ※1	ペア分割	ペア中断	ペア再同期		ペア削除
			P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL または S-VOL 指定
COPY	P-VOL	×	○	—	○	○	×※2
	S-VOL	×	×※3	—	×	—	×※2
PAIR	P-VOL	×	○	—	○	○	×※2
	S-VOL	×	×※3	—	×	—	×※2
PSUS	P-VOL	×	○	—	○	○	×※2
PSUE	P-VOL	×	○	—	○	○	×※2
	S-VOL	×	×※3	—	×	—	×※2
SSUS	S-VOL	×	×※3	—	×	—	×※2
SSWS	S-VOL	×	×※3	—	×	—	×※2
HOLD	P-VOL	×	—	○	—	—	×※2
	S-VOL	×	—	—	—	—	×※2
HLDE	P-VOL	×	—	○	—	—	×※2
	S-VOL	×	—	—	—	—	×※2

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない
- : 起こりえない
- P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

GAD と UR を併用する構成を構築する場合は、先に GAD ペアを作成してください。

注※2

GAD ペアを削除する場合は、先に UR ペアおよびデルタリシンク用 UR ペアを削除してください。

注※3

UR のセカンダリボリュームと GAD のプライマリボリュームの併用は、UR のセカンダリボリュームからバックアップするときだけです。この場合、GAD のプライマリボリュームが PSUS 状態であることが条件なのでペア分割は異常終了します。

GAD のペア状態と UR のペア操作可否の関係を次の表に示します。

GAD のペア状態	I/O モード	UR ペア操作対象の GAD ペアの属性	UR のペア操作				
			ペア作成	ペア分割	ペア中断	ペア再同期	
				P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定
INIT/COPY	Mirror(RL)	P-VOL	×	○	—	○※1	—
	Block	S-VOL	×	—	—	—	—
COPY	Mirror(RL)	P-VOL	×	○	—	○※1	—
	Block	S-VOL	×	—	—	—	—
PAIR	Mirror(RL)	P-VOL	○※2	○	—	○※1	—
		S-VOL	×	—	—	—	—
PSUS	Local	P-VOL	×	○	○※3	○※1	○※3
	Block	P-VOL	×	○	○※3	×	—
PSUE	Local	P-VOL	×	○	○※3	○※1	○※3
	Block	P-VOL	×	○	○※3	×	—
SSUS	Block	S-VOL	×	—	—	—	—
SSWS	Local	S-VOL	×	○	—	○	—

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない
- : 起こりえない
- P-VOL : プライマリボリューム
- S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

デルタリシンク用 UR ペアの状態が HLDE のときだけ操作できます。

注※2

GAD ペアと UR ペアの併用は、UR のセカンダリボリュームに指定したボリュームが、デルタリシンク用 UR ペアのセカンダリボリュームの場合だけです。

注※3

UR のセカンダリボリュームと GAD のプライマリボリュームの併用は、UR のセカンダリボリュームからバックアップするときだけです。

GAD のペア状態とデルタリシンク用 UR ペア操作可否の関係を次の表に示します。

GAD のペア状態	I/O モード	UR ペア操作対象の GAD ペアの属性	デルタリシンク用 UR のペア操作					
			デルタリシンク用 UR ペアの作成	デルタリシンク	ペア削除			
					P-VOL 指定	S-VOL 指定	デルタリシンク用 UR の P-VOL	デルタリシンク用 UR の S-VOL
INIT/COPY	Mirror(RL)	P-VOL	×	×※1	○	—	—	—
	Block	S-VOL	×	×※1	—	—	—	—
COPY	Mirror(RL)	P-VOL	×	×※1	○	—	—	—
	Block	S-VOL	×	×※1	—	—	—	—
PAIR	Mirror(RL)	P-VOL	×	×※1	○	—	—	—
		S-VOL	○	×※1	—	—	○※4	—
PSUS	Local	P-VOL	×	×※1	○	○※3	○※4	—
	Block	P-VOL	○※2	×※1	○	○※3	○※4	—
PSUE	Local	P-VOL	×	×※1	○	○※3	○※4	—
	Block	P-VOL	○※2	×※1	○	○※3	○※4	—
SSUS	Block	S-VOL	×	×※1	—	—	○※4	—
SSWS	Local	S-VOL	×	×※1	○	—	○※4	—

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない
- : 起こりえない
- P-VOL : プライマリボリューム
- S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

操作できません。ストレージシステムが自動で実施します。

注※2

正サイトで障害が発生したときに、デルタリシンク用 UR のセカンダリボリュームに指定したボリュームが、UR ペアのセカンダリボリュームの場合だけ操作できます。

注※3

UR のセカンダリボリュームと GAD のプライマリボリュームの併用は、UR のセカンダリボリュームからバックアップするときだけです。

注※4

デルタリシンク用 UR ペアを削除した場合、UR ペアも削除されます。

関連概念

- 4.6 GAD と Universal Replicator との併用

4.7 GAD と Data Retention Utility との併用

GAD は、Data Retention Utility で設定したアクセス属性に関わらず、ペアを作成できます。ただし、GAD 状態とアクセス属性の組み合わせによっては、サーバからの I/O がガードされることがあります。

GAD ペアを作成または再同期するときに、プライマリボリュームのアクセス属性がセカンダリボリュームにコピーされます。ただし、GAD 状態が二重化もしくは二重化中の場合にアクセス属性を変更するときは、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームの両方にアクセス属性を設定してください。

セカンダリボリュームに Data Retention Utility の副 VOL 拒否属性が設定されると、RAID Manager から GAD ペアを操作する場合に制限が発生します。セカンダリボリュームの副 VOL 拒否属性を解除してから GAD ペアを操作してください。

関連概念

- 4.7.1 GAD 状態とアクセス属性による I/O 可否の関係

4.7.1 GAD 状態とアクセス属性による I/O 可否の関係

GAD 状態とアクセス属性によって、サーバからの I/O が可能かどうかを次に示します。なお、ボリュームにアクセス属性を設定しても、GAD ペアのコピー（形成コピーや再同期）はアクセス属性によって制御されません。

GAD 状態	アクセス属性		サーバからの I/O	
	プライマリボリューム	セカンダリボリューム	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
二重化	Read/Write	Read/Write	正常終了	正常終了
	Read Only または Protect	Read/Write	アクセス属性に依存※	正常終了
	Read/Write	Read Only または Protect	正常終了	アクセス属性に依存※
	Read Only または Protect	Read Only または Protect	アクセス属性に依存※	アクセス属性に依存※
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	Read/Write	Read/Write	正常終了	正常終了
	Read Only または Protect	Read/Write	アクセス属性に依存※	正常終了
	Read/Write	Read Only または Protect	正常終了	アクセス属性に依存※
	Read Only または Protect	Read Only または Protect	アクセス属性に依存※	アクセス属性に依存※
二重化中 中断（プライマリボリュームの I/O モードが Local、セカンダリボリュームの	Read/Write	Read/Write	正常終了	拒否
	Read Only または Protect	Read/Write	アクセス属性に依存※	拒否

GAD 状態	アクセス属性		サーバからの I/O	
	プライマリボリューム	セカンダリボリューム	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
I/O モードが Block の場合)	Read/Write	Read Only または Protect	正常終了	拒否
	Read Only または Protect	Read Only または Protect	アクセス属性に依存※	拒否
中断 (プライマリボリュームの I/O モードが Block、セカンダリボリュームの I/O モードが Local の場合)	Read/Write	Read/Write	拒否	正常終了
	Read Only または Protect	Read/Write	拒否	正常終了
	Read/Write	Read Only または Protect	拒否	アクセス属性に依存※
	Read Only または Protect	Read Only または Protect	拒否	アクセス属性に依存※
ブロック	Read/Write	Read/Write	拒否	拒否
	Read Only または Protect	Read/Write	拒否	拒否
	Read/Write	Read Only または Protect	拒否	拒否
	Read Only または Protect	Read Only または Protect	拒否	拒否

注※

アクセス属性が Read Only の場合は、Read 可/Write 不可です。アクセス属性が Protect の場合は、Read 不可/Write 不可です。

関連概念

- [4.7 GAD と Data Retention Utility との併用](#)

4.8 GAD と Volume Migration との併用

Volume Migration は、負荷の高いドライブのボリュームを、負荷の低いドライブへオンラインで移動できます。

GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを、Volume Migration の移動元ボリュームに指定することで、負荷の高いドライブ内にある GAD ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを、負荷の低い他のドライブに移動できます。

関連概念

- [4.8.1 GAD と Volume Migration を併用するときの制限事項](#)
- [4.8.2 GAD 状態と Volume Migration のペア操作可否の関係](#)
- [4.8.3 Volume Migration のペア状態と GAD のペア操作可否の関係](#)

4.8.1 GAD と Volume Migration を併用するときの制限事項

- ・ 移動する GAD ペアをいったん分割してから、Volume Migration の移動元ボリュームに指定してください。
- ・ global-active device は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの、ボリューム属性 (raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR) が同じである必要があります。Volume Migration でボリュームを移動したあとに、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの組み合わせが、異なるボリューム属性にならないようにしてください。
- ・ GAD ペアのボリュームと ShadowImage ペアのボリュームを共有している場合、ShadowImage ペアの Quick Restore 中はソースボリュームにできません。Quick Restore が完了後に、Volume Migration の操作をしてください。
- ・ GAD と nondisruptive migration を併用している場合での Volume Migration の動作については、関連概念を参照してください
- ・ GAD と Volume Migration を併用する場合、先に GAD ペアを作成してから、Volume Migration を実行してください。Volume Migration を実行中のボリュームに対して GAD ペアを組むことはできません。

4.8.2 GAD 状態と Volume Migration のペア操作可否の関係

表 20 Volume Migration のペア操作可否 (GAD 状態が初期のとき)

GAD のペア状態	仮想 LDEV ID	サーバからの I/O		Volume Migration 操作	
		読み取り	書き込み	Volume Migration 移動プラン作成	Volume Migration 移動プランの取り消し
SMPL	あり	○	○	○	○
	なし	×	×	×	○
	なし (仮想属性が GAD 予約)	×	×	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

表 21 Volume Migration のペア操作可否 (GAD 状態が二重化中のとき)

GAD のペア状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Volume Migration 操作	
			読み取り	書き込み	Volume Migration 移動プラン作成	Volume Migration 移動プランの取り消し
INIT	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	×	○
	Block	セカンダリ	×	×	×	○

(凡例)

- ：操作できる
 ×：操作できない

表 22 Volume Migration のペア操作可否 (GAD 状態が二重化のとき)

GAD のペア 状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Volume Migration 操作	
			読み取り	書き込み	Volume Migration 移動プラン 作成	Volume Migration 移動プラン の取り消し
PAIR	Mirror(RL)	プライマリ	○	○	×	○
		セカンダリ	○	○	×	○

(凡例)

- ：操作できる
 ×：操作できない

表 23 Volume Migration のペア操作可否 (GAD 状態が中断のとき)

GAD のペア 状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Volume Migration 操作	
			読み取り	書き込み	Volume Migration 移動プラン 作成	Volume Migration 移動プラン の取り消し
PSUS/PSUE	Local	プライマリ	○	○	○	○
	Block	任意	×	×	○	○
SSUS	Block	セカンダリ	×	×	○	○
SSWS	Local	セカンダリ	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
 ×：操作できない

表 24 Volume Migration のペア操作可否 (GAD 状態がブロックのとき)

GAD のペア 状態	I/O モード	ペア位置	サーバからの I/O		Volume Migration 操作	
			読み取り	書き込み	Volume Migration 移動プラン 作成	Volume Migration 移動プラン の取り消し
PSUE	Block	プライマリ	×	×	○	○
		セカンダリ	×	×	○	○

(凡例)

- ：操作できる
 ×：操作できない

関連概念

- 4.8 GAD と Volume Migration との併用

4.8.3 Volume Migration のペア状態と GAD のペア操作可否の関係

表 25 Volume Migration のペア状態と GAD のペア操作可否の関係（GAD ペアのプライマリボリュームを Volume Migration と併用している場合）

Volume Migration のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPL	×※4	○※5	○※5	○	×※3	○	×	×
COPY	×※4	○※5	○※5	○	×※3	○	×	×
PSUS	×※4	○※5	○※5	○	×※3	○	×	×
PSUE	×※4	○※5	○※5	○	×※3	○	×	×

（凡例）

- ：操作できる
- ×：操作できない
- P-VOL：プライマリボリューム
- S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のプライマリボリューム（Volume Migration 対象ボリューム）の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※4

Volume Migration を実行するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。

注※5

Volume Migration を実行するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。そのため、ペア中断の操作はできますが、すでに GAD ペアは中断されているため、GAD ペアの状態は変化しません。

表 26 Volume Migration のペア状態と GAD のペア操作可否の関係（GAD ペアのセカンダリボリュームを Volume Migration と併用している場合）

Volume Migration のペア状態	GAD のペア操作							
	ペア作成	ペア中断		ペア削除			ペア再同期	
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定※1	S-VOL 指定※2	強制削除	P-VOL 指定	S-VOL 指定
SMPL	×※3	○※5	○※5	×※4	○	○	×	×
COPY	×※3	○※5	○※5	×※4	○	○	×	×
PSUS	×※3	○※5	○※5	×※4	○	○	×	×
PSUE	×※3	○※5	○※5	×※4	○	○	×	×

（凡例）

○：操作できる

×：操作できない

P-VOL：プライマリボリューム

S-VOL：セカンダリボリューム

注※1

GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE、かつ I/O モードが Local のときだけ、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※2

GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が SSWS、かつ I/O モードが Local のときだけ、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除できます。

注※3

GAD ペアを作成するには、セカンダリボリュームとして使用するボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる必要があります。仮想属性に GAD 予約を割り当てたボリュームは仮想 LDEV ID が削除されるため、Volume Migration 対象ボリュームを GAD ペアのセカンダリボリュームに指定して GAD ペアを作成することはできません。

注※4

プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除すると、GAD のセカンダリボリューム（Volume Migration 対象ボリューム）の仮想 LDEV ID が削除されるため、操作できません。

注※5

Volume Migration を実行するには、GAD ペアを中断させておく必要があります。そのため、ペア中断の操作はできますが、すでに GAD ペアは中断されているため、GAD ペアの状態は変化しません。

関連概念

- [4.8 GAD と Volume Migration との併用](#)

4.9 GAD と LUN Manager との併用

LU パスが設定されたボリュームを使用して、GAD ペアを作成します。GAD ペアのボリュームに LU パスを追加したり、削除したりできます。ただし、GAD ペアのボリュームには 1 本以上の LU パスの設定が必要であるため、最後の 1 本の LU パスは削除できません。

LU パスが設定されていないボリュームは、GAD ペアのボリュームとして使用できません。



注意

仮想属性が GAD 予約の LDEV が定義されているパスを削除する場合、一度にパスを削除する LDEV 数は、100 個以内にしてください。一度にパスを削除する LDEV 数が多大だと、パスの削除に失敗するおそれがあります。仮想属性が GAD 予約の LDEV が定義されているパスを含むポートに対する操作で、一度に指定するポート数は 1 ポートとしてください。仮想属性が GAD 予約の LDEV が定義されているパスを含むポートに対して、一度に複数のポートを指定して、ホストモードの変更、ホストグループの削除、コマンドデバイスの設定、トポロジの変更、AL-PA の変更、データ転送速度を変更すると、操作が失敗するおそれがあります。

4.10 GAD と Volume Shredder との併用

GAD ペアのボリュームおよび Quorum ディスクは、Volume Shredder を使用してデータを削除できません。

4.11 GAD とエクスポートツール 2 との併用

GAD ペアのボリュームおよび Quorum ディスクは、エクスポートツール 2 を使用して性能情報を収集できます。ただし、I/O が発行されるボリュームの種類や、そのボリュームの I/O モードによってエクスポートツール 2 に計上されるポートの I/O 数（書き込みおよび読み取りコマンド数）が異なります。

例えば GAD ペアの両方のボリュームの I/O モードが Mirror(RL)の場合、サーバからプライマリボリュームへ書き込み（Write コマンド）が 1 回あったときは、コマンドが経由する次のポートとボリュームのすべてに、性能情報が記録されます。

- 正サイトのストレージシステムにある、サーバと接続しているポート（Target 属性のポート）
- プライマリボリューム
- 正サイトのストレージシステムにある、副サイトのストレージシステムと接続しているポート（Initiator 属性のポート）
- 副サイトのストレージシステムにある、正サイトのストレージシステムと接続しているポート（RCU Target 属性のポート）
- セカンダリボリューム

また、GAD ペアの両方のボリュームの I/O モードが Mirror(RL)の場合、サーバからプライマリボリュームへ読み取り（Read コマンド）が 1 回あったときは、正サイトのストレージシステムの Target 属性のポートとプライマリボリュームに、性能情報が記録されます。

関連概念

- [4.11.1 エクスポートツール 2 に計上される GAD ボリュームへの I/O 数](#)
- [4.11.2 エクスポートツール 2 に計上されるポートへの I/O 数](#)

4.11.1 エクスポートツール 2 に計上される GAD ボリュームへの I/O 数

GAD を使用している場合、GAD 状態によってエクスポートツール 2 に計上される GAD ボリュームへの I/O 数（書き込みおよび読み取り）が、次の表のとおり異なります。

表 27 エクスポートツール 2 に計上される書き込み I/O 数

GAD 状態	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
二重化	次の合計値 <ul style="list-style-type: none"> サーバから GAD のプライマリボリュームへの書き込み数 GAD のセカンダリボリュームからプライマリボリュームへの RIO 数 	次の合計値 <ul style="list-style-type: none"> サーバから GAD のセカンダリボリュームへの書き込み数 GAD のプライマリボリュームからセカンダリボリュームへの RIO 数
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	サーバから GAD のプライマリボリュームへの書き込み数	次の合計値 <ul style="list-style-type: none"> サーバから GAD のセカンダリボリュームへの書き込み数 GAD のプライマリボリュームからセカンダリボリュームへの RIO 数
二重化中	サーバから GAD のプライマリボリュームへの書き込み数	GAD のプライマリボリュームからセカンダリボリュームへの RIO 数
中断（プライマリボリュームが最新）	サーバから GAD のプライマリボリュームへの書き込み数	計上されない※
中断（セカンダリボリュームが最新）	計上されない※	サーバから GAD のセカンダリボリュームへの書き込み数
ブロック	計上されない※	計上されない※

注※

サーバからの書き込みと読み取りは、Illegal Request でエラーになりますが、I/O 数として計上されることがあります。

表 28 エクスポートツール 2 に計上される読み取り I/O 数

GAD 状態	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
二重化	サーバから GAD のプライマリボリュームへの読み取り数	サーバから GAD のセカンダリボリュームへの読み取り数
Quorum ディスク閉塞	サーバから GAD のプライマリボリュームへの読み取り数	—※
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	サーバから GAD のプライマリボリュームへの読み取り数	サーバから GAD のセカンダリボリュームへの読み取り数
二重化中	サーバから GAD のプライマリボリュームへの読み取り数	計上されない※
中断（プライマリボリュームが最新）	サーバから GAD のプライマリボリュームへの読み取り数	計上されない※
中断（セカンダリボリュームが最新）	計上されない※	サーバから GAD のセカンダリボリュームへの読み取り数

GAD 状態	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
ブロック	計上されない※	計上されない※

注※

サーバからの書き込みと読み取りは、Illegal Request でエラーになりますが、I/O 数として計上されることがあります。

表 29 エクスポートツール 2 に計上される I/O 数とサーバ I/O 数の関係

GAD 状態	書き込み I/O 数	読み取り I/O 数
二重化	GAD のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへの書き込み数とほぼ同じ※	GAD のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームへの読み取り数の合計値と同じ
Quorum ディスク閉塞	GAD のプライマリボリュームへの書き込み数と同じ	GAD のプライマリボリュームへの読み取り数と同じ
Quorum ディスク閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成	GAD のプライマリボリュームへの書き込み数と同じ	GAD のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームへの読み取り数の合計値と同じ
二重化中	GAD のプライマリボリュームへの書き込み数と同じ	GAD のプライマリボリュームへの読み取り数と同じ
中断（プライマリボリュームが最新）	GAD のプライマリボリュームへの書き込み数と同じ	GAD のプライマリボリュームへの読み取り数と同じ
中断（セカンダリボリュームが最新）	GAD のセカンダリボリュームへの書き込み数と同じ	GAD のセカンダリボリュームへの読み取り数と同じ
ブロック	計上されない	計上されない

注※

サーバからの書き込みコマンドに対して、RIO は複数個に分割されて発行されることがあります。そのため、サーバからの書き込みコマンド数と一致しないことがあります。

関連概念

- [4.11 GAD とエクスポートツール 2 との併用](#)

4.11.2 エクスポートツール 2 に計上されるポートへの I/O 数

GAD を使用している場合、I/O 先のボリュームや、そのボリュームの I/O モードによってエクスポートツール 2 に計上されるポートの I/O 数（書き込みおよび読み取りコマンド数）が、次の表のとおり異なります。

I/O 先のボリュームの I/O モード	I/O 先のボリューム	正サイトのストレージシステム			副サイトのストレージシステム		
		Target 属性のポート	Initiator 属性のポート	RCU Target 属性のポート	Target 属性のポート	Initiator 属性のポート	RCU Target 属性のポート
Mirror(RL)	プライマリボリューム	書き込み数と読み取り数の合計値	書き込み数	—	—	—	書き込み数
	セカンダリボリューム	—	—	書き込み数	書き込み数と読み取り数の合計値	書き込み数	—
Local	プライマリボリューム	書き込み数と読み取り数の合計値	—	—	—	—	—
	セカンダリボリューム	—	—	—	書き込み数と読み取り数の合計値	—	—
Block	プライマリボリューム	書き込み数と読み取り数の合計値※	—	—	—	—	—
	セカンダリボリューム	—	—	—	書き込み数と読み取り数の合計値※	—	—

(凡例)

— : 計上されない

注※

サーバからの書き込みと読み取りは、Illegal Request でエラーになりますが、I/O 数としてカウントされることがあります。

関連概念

- [4.11 GAD とエクスポートツール 2 との併用](#)

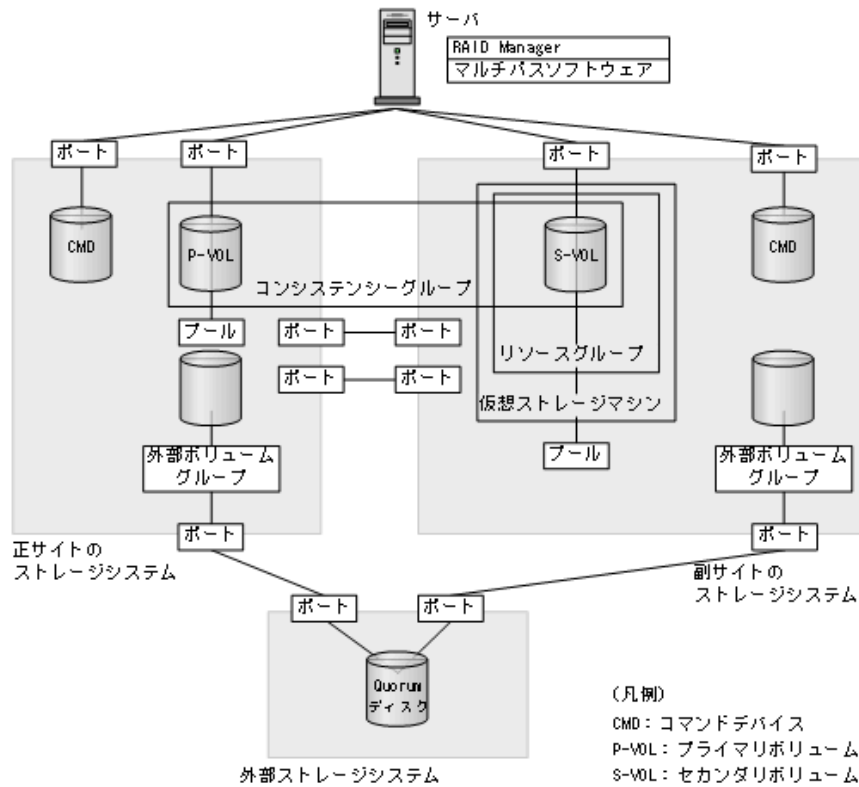
global-active device の環境構築手順

ここでは、正サイトで VSP One B28 を使用している状態で、副サイトに VSP One B28 を導入し、global-active device (GAD) ペアを作成するまでの手順を、例を使用して説明します。

- 5.1 システム構成例
- 5.2 GAD の環境構築の流れ
- 5.3 初期状態
- 5.4 外部ストレージシステムを準備する
- 5.5 物理バスが接続されていることを確認する
- 5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする
- 5.7 コマンドデバイスを作成する
- 5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する
- 5.9 RAID Manager を起動する
- 5.10 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する
- 5.11 Quorum ディスクを作成する
- 5.12 副サイトのストレージシステムを設定する
- 5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する
- 5.14 ALUA モードを設定する
- 5.15 GAD ペアを作成する
- 5.16 セカンダリボリュームへの冗長バスを追加する
- 5.17 クロスバスを非優先に設定する

5.1 システム構成例

ここで作成する GAD のシステム構成例を、次に示します。



関連概念

- ・ [5.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例](#)
- ・ [5.1.2 副サイトのストレージシステムの構成例](#)
- ・ [5.1.3 サーバの構成例](#)
- ・ [5.1.4 外部ストレージシステムの構成例](#)

5.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、正サイトのストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	411111

プライマリボリューム

実 LDEV ID	容量	ポート名	LU 番号
22:22	1,024,000block	CL1-A	0

リモート接続に使用するポート

- CL3-A
- CL4-A

Quorum ディスク用外部ボリューム

実 LDEV ID	ポート名	外部ボリュームグループ番号	パスグループ ID	LU 番号	Quorum ディスク ID
99:99	CL5-A	1-1	1	0	0

ペア

ペアの種類	ペアグループ名	デバイス名 (LDEV ID)	ミラー ID	コンシステンシーグループ ID
GAD ペア	oraHA	dev1 (22:22)	0	2

関連概念

- [5.1 システム構成例](#)

5.1.2 副サイトのストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、副サイトのストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	422222

プール

プール ID	プール名	プールボリューム			用途
		LDEV ID	パリティグループ	容量	
0	HA_POOL	77:77	13-4	100GB	GAD ペアのセカンダリボリューム

セカンダリボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量	ポート名	LU 番号
44:44	0	1,024,000block	CL1-C	0

ホストグループ

ホストグループ ID	ホストグループ名	用途
CL1-C-0	1C-G00	セカンダリボリューム用

リモート接続に使用するポート

- CL3-C
- CL4-C

Quorum ディスク用外部ボリューム

実 LDEV ID	ポート名	外部ボリュームグループ番号	パスグループ ID	LU 番号	Quorum ディスク ID
88:88	CL5-C	1-2	1	0	0

ペア

ペアの種類	ペアグループ名	デバイス名 (LDEV ID)	ミラー ID	コンシステンシーグループ ID
GAD ペア	oraHA	dev1 (44:44)	0	2

リソースグループ

リソースグループ名	仮想ストレージマシン	
	モデル	シリアル番号
HAGroup1	VSP One B28	411111

関連概念

- [5.1 システム構成例](#)

5.1.3 サーバの構成例

システム構成例のうち、サーバの構成例について説明します。

RAID Manager のインスタンスと構成定義ファイル

インスタンス番号	構成定義ファイル	用途
0	horcm0.conf	正サイトのストレージシステムの操作
1	horcm1.conf	副サイトのストレージシステムの操作
100	horcm100.conf	正サイトのストレージシステムの仮想ストレージマシン (シリアル番号 411111) 視点での操作
101	horcm101.conf	副サイトのストレージシステムの仮想ストレージマシン (シリアル番号 411111) 視点での操作

仮想ストレージマシン視点での操作とは、raidcom コマンドで指定するパラメータや raidcom コマンドによって表示されるオブジェクトの基準が仮想 ID で行われることを指します。本構成例では、正サイトのストレージシステムには、仮想ストレージマシンを定義していませんが、ストレージシステムと同じシリアル番号とモデルを持つ仮想ストレージマシンに対するイメージで操作できます。

関連概念

- [5.1 システム構成例](#)

5.1.4 外部ストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、外部ストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	433333

WWN

接続先のストレージシステム	WWN
正サイトのストレージシステム	50060e8007823520
副サイトのストレージシステム	50060e8007823521

関連概念

- [5.1 システム構成例](#)

5.2 GAD の環境構築の流れ

GAD の環境構築の流れを次に示します。

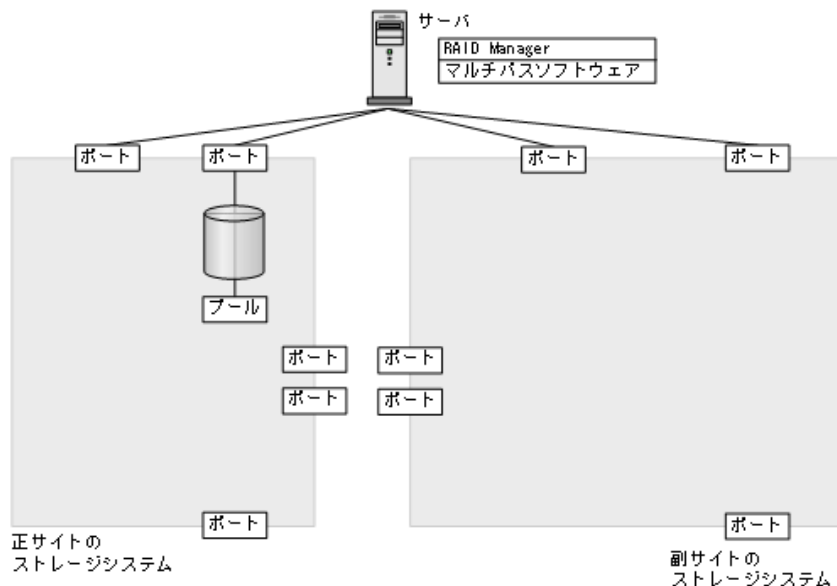
- [5.3 初期状態](#)
- [5.4 外部ストレージシステムを準備する](#)
- [5.5 物理バスが接続されていることを確認する](#)
- [5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする](#)
- [5.7 コマンドデバイスを作成する](#)
- [5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する](#)
- [5.9 RAID Manager を起動する](#)
- [5.10 正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する](#)
- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)
- [5.12 副サイトのストレージシステムを設定する](#)
- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [5.14 ALUA モードを設定する](#)
- [5.15 GAD ペアを作成する](#)
- [5.16 セカンダリボリュームへの冗長パスを追加する](#)
- [5.17 クロスパスを非優先に設定する](#)

5.3 初期状態

サーバ、および正サイトと副サイトのストレージシステムがあります。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムには、デフォルトでリソースグループ 0 があります。

- 正サイトのストレージシステムには、LU パスが定義された Dynamic Provisioning の仮想ボリュームがあります。このボリュームが、GAD ペアのプライマリボリュームです。
- サーバには、マルチパスソフトウェアがインストールされています。サーバから Dynamic Provisioning の仮想ボリュームへの I/O の有無は、GAD ペアの作成に影響しません。



5.4 外部ストレージシステムを準備する

Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置します。サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用する場合または Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合は、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置する必要はありません。

関連概念

- [3.4 GAD の Quorum ディスクの計画](#)
- [5.5 物理パスが接続されていることを確認する](#)

関連参照

- [2.1 GAD の要件](#)

5.5 物理パスが接続されていることを確認する

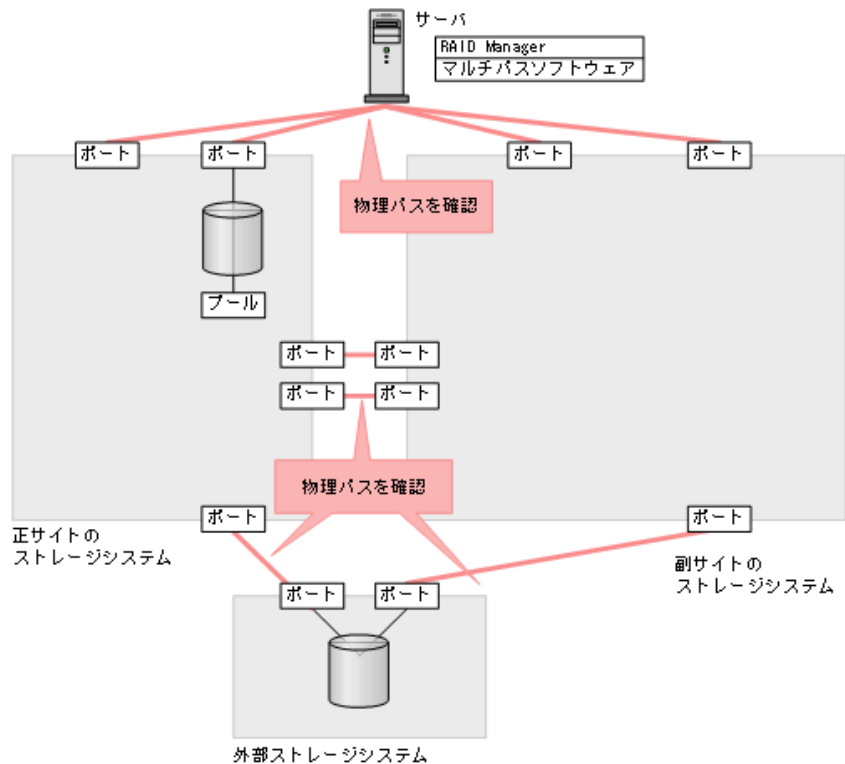
次の物理パスが接続されていることを確認します。

- 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パス (2 本以上)
- 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パス (2 本以上)
- 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステム間の物理パス (2 本以上)
- 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステム間の物理パス (2 本以上)
- サーバと正サイトのストレージシステム間の物理パス (2 本以上)
- サーバと副サイトのストレージシステム間の物理パス (2 本以上)



メモ

各ノード間は、2本以上の物理バスで接続することを強く推奨します。各ノードを1本の物理バスで接続した場合、物理バスやハードウェアで1か所でも障害が発生すると、予期しないサーバのフェイルオーバーが発生したり、GAD ペアが中断がしたりするおそれがあります。また、ストレージシステム間のバスを保守するときに、GAD ペアを中断する必要があります。



図では、ストレージシステム間の冗長バスを省略しています。

関連概念

- [5.4 外部ストレージシステムを準備する](#)
- [5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする](#)

5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする

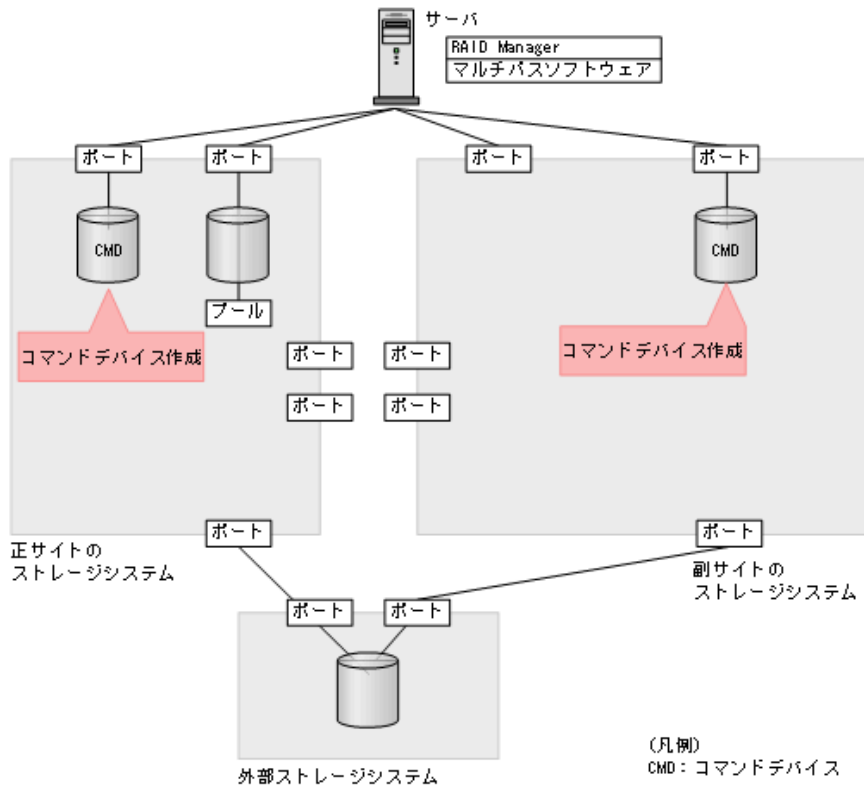
正サイトと副サイトのストレージシステムの両方に、GAD のライセンスをインストールします。ライセンスのインストールには、`raidcom add license` を使用します。

関連概念

- [5.5 物理バスが接続されていることを確認する](#)
- [5.7 コマンドデバイスを作成する](#)

5.7 コマンドデバイスを作成する

コマンドデバイスは、RAID Manager とストレージシステム間の通信に必要です。正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、リソースグループ 0 にコマンドデバイスを作成し、サーバから認識させます。コマンドデバイスの作成には、`raidcom modify ldev` コマンドを使用します。



メモ

この章では、In-Band 方式で RAID Manager を使用する手順を掲載しています。Out-of-Band 方式でも、GAD の環境を構築できます。

作業手順

1. 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方に、リソースグループ 0 に登録されている LDEV ID を指定して、コマンドデバイス用のボリュームを作成します。
2. 作成したボリュームをフォーマットします。
3. 作成したボリュームを、サーバに接続されているポートに定義します。
4. 作成したボリュームのコマンドデバイスを有効にし、かつコマンドデバイスのユーザ認証を有効に設定します（詳細は『システム構築ガイド』を参照）。
5. 必要に応じて、コマンドデバイスを定義するポートのトポロジと Fabric の設定を変更します。

関連概念

- [5.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする](#)
- [5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する](#)

5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する

RAID Manager の構成定義ファイルを作成します。Windows で構成定義ファイルを作成する例を次に示します。



メモ

HORCM_CMD にコマンドデバイスを指定する場合は、ストレージシステムの装置製番と LDEV 番号を含む形式で指定することを推奨します。

horcm0.conf (正サイトのストレージシステム操作)

```
HORCM_MON
#ip_address      service      poll(10ms)    timeout(10ms)
localhost        31000        -1            3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-411111-8738
```

horcm1.conf (副サイトのストレージシステム操作)

```
HORCM_MON
#ip_address      service      poll(10ms)    timeout(10ms)
localhost        31001        -1            3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-422222-17476
```

horcm100.conf (正サイトのストレージシステムの仮想ストレージマシン (シリアル番号 411111) 操作)

```
HORCM_MON
#ip_address service poll(10ms) timeout(10ms)
localhost 31100 -1 3000
HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-411111-8738

HORCM_VCMD
# redefine Virtual DKC Serial# as unitIDs411111
411111
```

horcm101.conf (副サイトのストレージシステムの仮想ストレージマシン (シリアル番号 411111) 操作)

```
HORCM_MON
#ip_address service poll(10ms) timeout(10ms)
localhost 31101 -1 3000
HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-422222-17476

HORCM_VCMD
# redefine Virtual DKC Serial# as unitIDs411111
411111
```

関連概念

- [5.7 コマンドデバイスを作成する](#)
- [5.9 RAID Manager を起動する](#)

5.9 RAID Manager を起動する

RAID Manager の構成定義ファイルを作成し、RAID Manager を起動します。



メモ

仮想ストレージマシン操作の構成定義ファイルは、GAD ペア作成前の仮想ストレージマシンの操作に使用します。ここでは、仮想ストレージマシンを操作しないため、仮想ストレージマシン操作のインスタンスは起動しません。



注意

既に GAD ペアの運用を行っている状態から、帯域不足などの理由でリモート接続を追加する場合は、リモート接続で未使用のポートを使用してください。
既にリモート接続で使用しているポートに、新たなリモート接続を追加した場合、運用中の GAD ペアへのホスト I/O が一時的に停止する可能性があります。

コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムのポート (CL3-A) から、副サイトのストレージシステムのポート (CL3-C) へ、パスグループ ID が 0 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 422222 M800 0 -mcu_port CL3-A -rcu_port CL3-C -IH0
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

3. 副サイトのストレージシステムのポート (CL4-C) から、正サイトのストレージシステムのポート (CL4-A) へ、パスグループ ID が 0 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 411111 M800 0 -mcu_port CL4-C -rcu_port CL4-A -IH1
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

ストレージシステム間の冗長パスは、`raidcom add rcu_path` を使用して追加します。なお、図では冗長パスを省略しています。

確認コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 422222 M800 0 -IH0
Serial# ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs  ...
422222 M8   0    -    -    RCU  F   0    CL3-A  CL3-C  NML_01  -
```

2. 副サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 411111 M800 0 -IH1
Serial# ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs  ...
411111 M8   0    -    -    RCU  F   0    CL4-C  CL4-A  NML_01  -
```

ストレージシステムのシリアル番号、モデル、およびポート名が正しいこと、ならびにパスの状態が正常であることを確認します。

関連概念

- [5.9 RAID Manager を起動する](#)
- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)

5.11 Quorum ディスクを作成する

Quorum ディスクは、障害が発生したときに、どちらのボリュームに最新のデータが格納されているかを判断するために使用します。

外部ストレージシステムのディスクを、正サイトと副サイトのストレージシステムにマッピングします。Quorum ディスクを作成するには、Universal Volume Manager を使用します。Universal Volume Manager の操作の詳細は、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。



メモ

Quorum ディスクに設定する外部ボリュームは、1 個の外部ボリュームグループを 1 個の外部ボリュームにマッピングする必要があります。



メモ

外部ストレージシステムのボリュームがフォーマット済みであることを確認してから、Quorum ディスクを作成してください。



メモ

Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスク用パスのポート、外部ボリュームグループ、外部ボリュームの作成が不要です。詳細は「[5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する](#)」を参照してください。

関連概念

- [5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する](#)
- [5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する](#)
- [5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する](#)

5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する

外部ストレージシステムのディスクを、正サイトと副サイトのストレージシステムにマッピングするために、外部ボリュームグループを作成します。

外部ボリュームグループの詳細は、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。



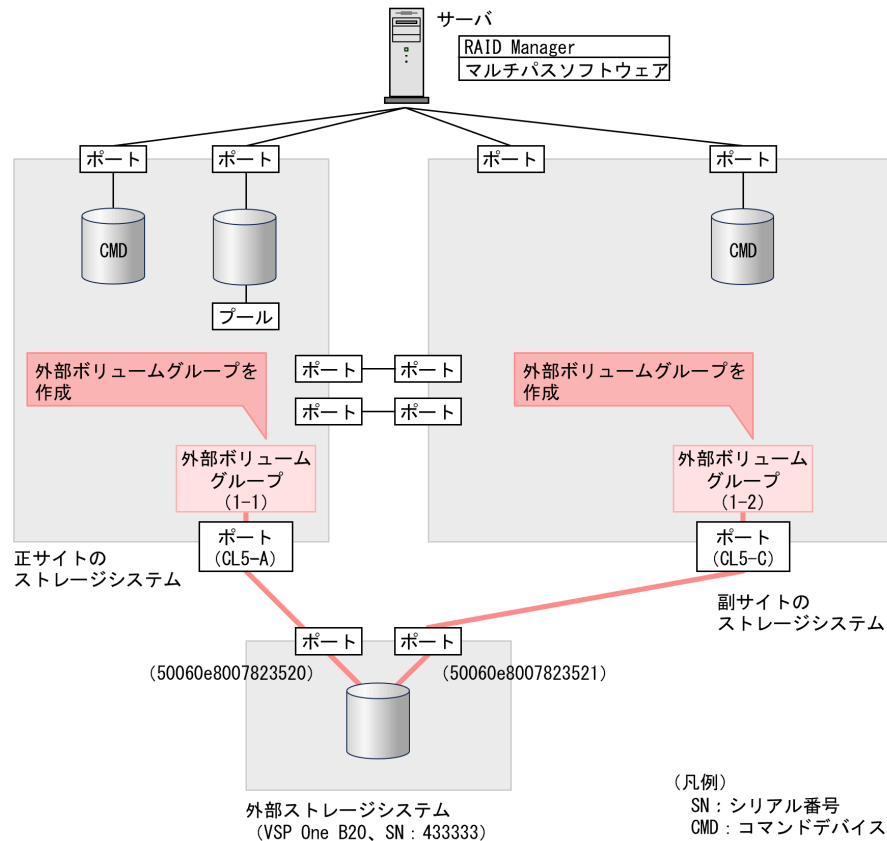
メモ

外部ストレージシステムのボリュームがフォーマット済みであることを確認してから、正サイトと副サイトのストレージシステムに外部ボリュームグループを作成してください。



メモ

正サイトと副サイトのストレージシステムで、同一の LU をマッピングしていることを確認してください。
`raidcom discover lun -port` コマンドで表示される `E_VOL_ID_C` の値 (外部ボリュームの SCSI Inquiry コマンドに含まれるボリューム識別子) が、正サイトと副サイトのストレージシステムで一致していることを確認してください。



コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムのポート (CL5-A) に接続されている、外部ストレージシステムのポート情報を探索します。

```
raidcom discover external_storage -port CL5-A -IH0
PORT      WWN          PM  USED  Serial#  VENDOR_ID  PRODUCT_ID
CL5-A     50060e8007823520  M  NO    433333   HITACHI    VSP Gx00
```

2. 正サイトのストレージシステムのポート (CL5-A) に接続されている、外部ストレージシステムのポート (50060e8007823520) に定義されている LU を表示します。

```
raidcom discover lun -port CL5-A -external_wwn 50060e8007823520 -IH0
PORT      WWN          LUN  VOL_Cap(BLK)  PRODUCT_ID  E_VOL_ID_C
CL5-A     50060e8007823520  0    61440000      OPEN-V      HITACHI
500308235AAAA
```

LU 番号を確認します。また、E_VOL_ID_C に表示される値を記録しておきます。

3. 正サイトのストレージシステムのポート (CL5-A) と接続している外部ストレージシステムのポート (50060e8007823520) に定義されている LU (0) をマッピングします。パスグループ ID に 1、外部ボリュームグループ番号に 1-1 を指定します。

```
raidcom add external_grp -path_grp 1 -external_grp_id 1-1 -port CL5-A
-external_wwn 50060e8007823520 -lun_id 0 -IH0
```

4. 正サイトのストレージで非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1      SSB2      ERR_CNT      Serial#      Description
00c3    -         -         0            411111      -
```

- 副サイトのストレージシステムのポート (CL5-C) に接続されている、外部ストレージシステムのポート情報を探索します。

```
raidcom discover external_storage -port CL5-C -IH1
PORT      WWN          PM  USED  Serial#  VENDOR_ID  PRODUCT_ID
CL5-C     50060e8007823521  M  NO    433333   HITACHI    VSP Gx00
```

- 副サイトのストレージシステムのポート (CL5-C) に接続されている、外部ストレージシステムのポート (50060e8007823521) に定義されている LU を表示します。

```
raidcom discover lun -port CL5-C -external_wwn 50060e8007823521 -IH1
PORT      WWN          LUN  VOL_Cap(BLK)  PRODUCT_ID  E_VOL_ID_C
CL5-C     50060e8007823521  0    61440000     OPEN-V      HITACHI
500308235AAAA
```

LU 番号を確認します。また、E_VOL_ID_C に表示される値が、手順 2 で記録しておいた値と同じであることを確認します。

- 副サイトのストレージシステムのポート (CL5-C) と接続している外部ストレージシステムのポート (50060e8007823521) に定義されている LU (0) をマッピングします。パスグループ ID に 1、外部ボリュームグループ番号に 1-2 を指定します。

```
raidcom add external_grp -path_grp 1 -external_grp_id 1-2 -port CL5-C
-external_wwn 50060e8007823521 -lun_id 0 -IH1
```

- 副サイトのストレージで非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -     -     0         422222   -
```

確認コマンド例

- 正サイトのストレージシステムで、外部ストレージシステムのボリュームへの外部パスの情報を表示します。

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH0
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT  WWN          PR LUN PHS
Serial#  PRODUCT_ID LB PM
1  1-1  NML E D  0 CL5-A  50060e8007823520  1  0 NML
433333  VSP Gx00  N  M
```

- 副サイトのストレージシステムで、外部ストレージシステムのボリュームへの外部パスの情報を表示します。

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT  WWN          PR LUN PHS
Serial#  PRODUCT_ID LB PM
1  1-2  NML E D  0 CL5-C  50060e8007823521  1  0 NML
433333  VSP Gx00  N  M
```

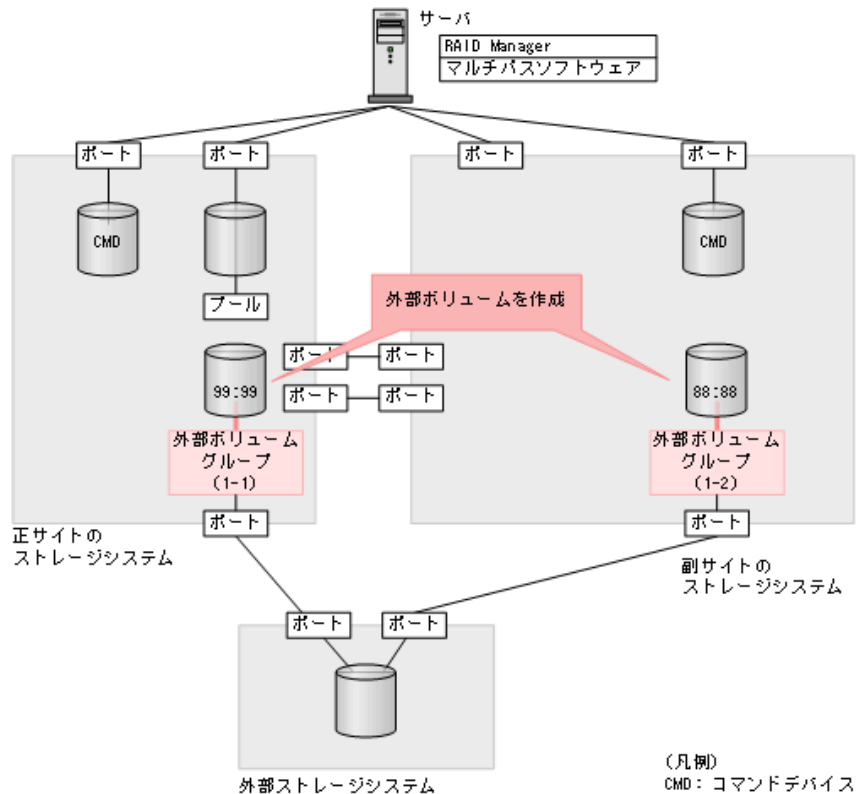
外部ストレージシステムのシリアル番号、モデル、WWN などが正しいこと、ならびにパスや外部ストレージシステムのボリュームの状態が正常であることを確認します。

関連概念

- 5.11 Quorum ディスクを作成する
- 5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する

5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する

外部ストレージシステムの容量を使用して、正サイトと副サイトのストレージシステムに、外部ストレージシステムのボリュームをマッピングした仮想ボリューム（外部ボリューム）を作成します。



コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムの外部ボリュームグループ (1-1) を指定して、LDEV ID が 0x9999 の外部ボリュームを作成します。外部ボリュームグループ内のすべての容量を割り当てます。

```
raidcom add ldev -external_grp_id 1-1 -ldev_id 0x9999 -capacity all -IH0
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0  
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description  
00c3     -         -         0         411111   -
```

3. 副サイトのストレージシステムの外部ボリュームグループ (1-2) を指定して、LDEV ID が 0x8888 の外部ボリュームを作成します。外部ボリュームグループ内のすべての容量を割り当てます。

```
raidcom add ldev -external_grp_id 1-2 -ldev_id 0x8888 -capacity all -IH1
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT     Serial#     Description
00c3     -         -         0           422222     -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x9999) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH0
Serial#   : 411111
LDEV      : 9999
SL        : 0
CL        : 0
VOL_TYPE  : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 61440000
NUM_PORT  : 0
PORTs     :
F_POOLID  : NONE
VOL_ATTR  : CVS : ELUN
E_VendorID : HITACHI
E_ProductID : OPEN-V
E_VOLID   :
4849544143484920353033303242363741414141000000000000000000000000000000
00
E_VOLID_C : HITACHI 500308235AAAA.....
NUM_E_PORT : 1
E_PORTS   : CL5-A-0 0 50060e8007823520
LDEV_NAMING :
STS       : NML
OPE_TYPE  : NONE
OPE_RATE  : 100
MP#       : 0
SSID      : 0007
RSGID     : 0
```

2. ボリューム (LDEV ID : 0x8888) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH1
Serial#   : 422222
LDEV      : 8888
SL        : 0
CL        : 0
VOL_TYPE  : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 61440000
NUM_PORT  : 0
PORTs     :
F_POOLID  : NONE
VOL_ATTR  : CVS : ELUN
E_VendorID : HITACHI
E_ProductID : OPEN-V
E_VOLID   :
4849544143484920353033303242363741414141000000000000000000000000000000
00
E_VOLID_C : HITACHI 500308235AAAA.....
NUM_E_PORT : 1
E_PORTS   : CL5-C-0 0 50060e8007823521
LDEV_NAMING :
STS       : NML
OPE_TYPE  : NONE
OPE_RATE  : 100
MP#       : 0
SSID      : 0005
RSGID     : 0
```

外部ボリュームの情報が正しいことを確認します。

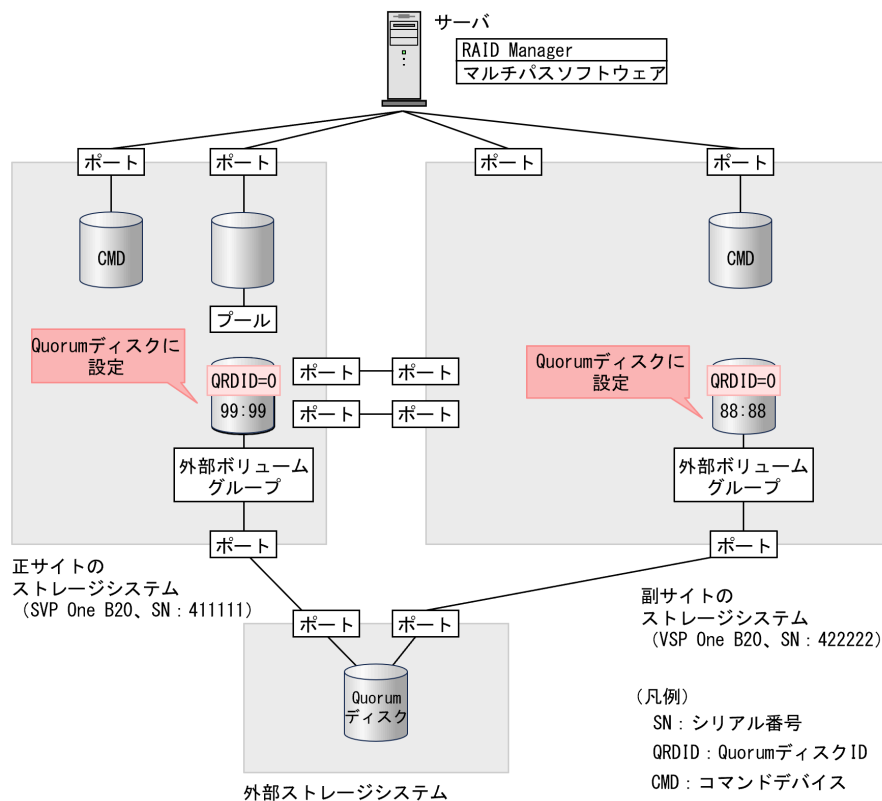
関連概念

- 5.11 Quorum ディスクを作成する
- 5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する
- 5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する

5.11.3 外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する

正サイトと副サイトのストレージシステムに作成した外部ボリュームを、Quorum ディスクに設定します。また、Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、`raidcom add quorum` コマンドで、Quorum ディスクを設定します。なお、`-ldev_id` オプションは指定しないでください。正サイトと副サイトのストレージシステムで、同じ Quorum ディスク ID を設定してください。

`raidcom modify ldev` コマンドの `-quorum_enable` オプションには、相手ストレージシステムのシリアル番号とモデルを指定します。



コマンド例

1. Quorum ディスク ID に 0 を指定して、正サイトのストレージシステムのボリューム (0x9999) を Quorum ディスクに設定します。GAD ペアを組むストレージシステムに、シリアル番号が 422222、モデルが VSP One B20 であるストレージシステムを指定します。`raidcom modify ldev` または、`raidcom add quorum` を使用します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合は、`raidcom add quorum` を使用してください。

```
raidcom modify ldev -ldev_id 0x9999 -quorum_enable 422222 M800  
-quorum_id 0 -IH0
```



メモ

GAD ペアの相手ストレージシステムが VSP 5000 シリーズの場合は、”5”+シリアル番号の形式で相手ストレージシステムを指定してください。例えば、相手ストレージシステムのシリアル番号が 22222 ならば、522222 を指定します。

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT     Serial#     Description
00c3     -         -         0           411111     -
```

3. Quorum ディスク ID に 0 を指定して、副サイトのストレージシステムのボリューム (0x8888) を Quorum ディスクに設定します。GAD ペアを組むストレージシステムに、シリアル番号が 411111、モデルが VSP One B20 であるストレージシステムを指定します。raidcom modify ldev または、raidcom add quorum を使用します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合は、raidcom add quorum を使用してください。

```
raidcom modify ldev -ldev_id 0x8888 -quorum_enable 411111 M800
-quorum_id 0 -IH1
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT     Serial#     Description
00c3     -         -         0           422222     -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x9999) の情報を表示します。raidcom get ldev または raidcom get quorum を使用します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合は、raidcom get quorum を使用してください。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH0
Serial#   : 411111
LDEV      : 9999
SL        : 0
CL        : 0
VOL_TYPE  : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 61440000
NUM_PORT  : 0
PORTs     :
F_POOLID  : NONE
VOL_ATTR  : CVS : ELUN : QRD
E_VendorID : HITACHI
E_ProductID : OPEN-V
E_VOLID   :
4849544143484920353033303242363741414141000000000000000000000000000000
00
E_VOLID_C : HITACHI 500308235AAAAA.....
NUM_E_PORT : 1
E_PORTS   : CL5-A-0 0 50060e80072b6750
LDEV_NAMING :
STS       : NML
OPE_TYPE  : NONE
OPE_RATE  : 100
MP#       : 0
SSID     : 0007
QRDID    : 0
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID    : M8
RSGID    : 0
```


2. ボリューム (LDEV ID: 0x8888) の情報を表示します。raidcom get ldev または raidcom get quorum を使用します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合は、raidcom get quorum を使用してください。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH1
Serial#   : 422222
LDEV     : 8888
SL       : 0
CL       : 0
VOL_TYPE : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 61440000
NUM_PORT : 0
PORTs    :
F_POOLID : NONE
VOL_ATTR : CVS : ELUN : QRD
E_VendorID : HITACHI
E_ProductID : OPEN-V
E_VOLID   :
4849544143484920353033303242363741414141000000000000000000000000000000
00
E_VOLID_C : HITACHI 500308235AAAA.....
NUM_E_PORT : 1
E_PORTS   : CL5-C-0 0 50060e80072b6760
LDEV_NAMING :
STS       : NML
OPE_TYPE  : NONE
OPE_RATE  : 100
MP#       : 0
SSID     : 0005
QRDID    : 0
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID    : M8
RSGID    : 0
```

Quorum ディスクに設定したボリュームの、次の値が正しいことを確認します。

- QRDID (Quorum ディスク ID)
- QRP_Serial# (GAD ペアを組むストレージシステムのシリアル番号)
- QRP_ID (GAD ペアを組むストレージシステムのモデル)

関連概念

- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)
- [5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する](#)
- [5.12 副サイトのストレージシステムを設定する](#)

5.12 副サイトのストレージシステムを設定する

副サイトのストレージシステムに、仮想ストレージマシンや GAD ペアのセカンダリボリュームを作成します。

仮想ストレージマシンの作成には、Resource Partition Manager を使用します。仮想ストレージマシン用に作成したリソースグループに、ホストグループ ID や LDEV ID などのリソースを追加します。リソースグループにはホストグループやボリュームの ID だけを追加し、予約しておくことができます。予約した ID を指定してホストグループやボリューム (実体) を作成し、GAD ペアで利用できるようにします。

関連概念

- [5.12.1 リソースグループを作成する](#)
- [5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する](#)
- [5.12.3 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想 LDEV ID を削除する](#)
- [5.12.4 リソースグループにセカンダリボリューム用の LDEV ID を予約する](#)
- [5.12.5 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる](#)
- [5.12.6 ホストグループを作成する](#)
- [5.12.7 プールを作成する](#)
- [5.12.8 ボリュームを作成する](#)
- [5.12.9 セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する](#)

5.12.1 リソースグループを作成する

プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同一のボリュームとしてサーバから認識させるためには、仮想情報として正サイトのストレージシステムのシリアル番号とモデルを使用して、リソースグループを作成します。

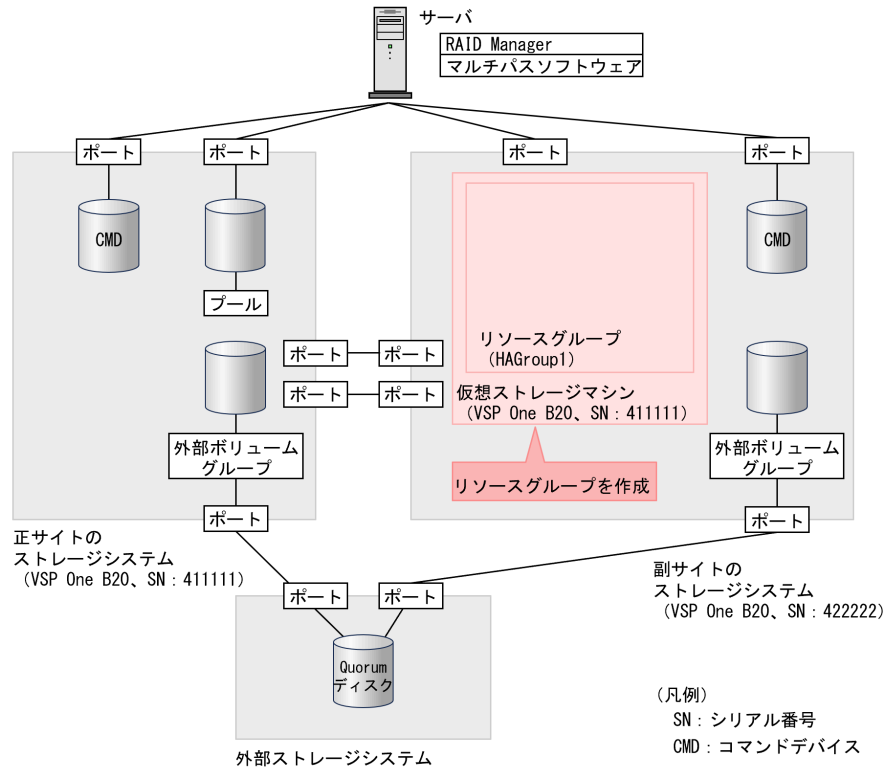


メモ

- プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されている場合は、プライマリボリュームが登録されている仮想ストレージマシンと同じモデルとシリアル番号の仮想ストレージマシンを、副サイトのストレージシステムに作成します。
- VSP One Block Administrator およびリクエストラインに **simple** を含む REST API のユーザには、すべてのリソースグループが割り当てられている必要があるため、割り当てられていないリソースがある場合、これらの管理ツールは使用できません。リソースグループが作成された環境で使用する場合、ユーザが属するユーザグループにすべてのリソースグループを割り当ててください。

同じ仮想情報を持つリソースグループの集合体を、仮想ストレージマシンと呼びます。仮想情報を指定してリソースグループを作成すると、指定した仮想情報を持つ仮想ストレージマシンに登録されます。指定した仮想情報を持つ仮想ストレージマシンがストレージシステム内にない場合は、リソースグループを作成したときに、自動的に仮想ストレージマシンが作成されます。

プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されていない場合の、リソースグループの作成手順例を次に示します。



コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムにあるリソースグループの情報を表示します。ペア作成対象となる正サイトのストレージシステム内の仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を確認します。

```
raidcom get resource -key opt -IH1
RS_GROUP RGID V_Serial# V_ID V_IF Serial#
meta_resource 0 411111 RH20M2 Y 411111
```

2. リソースグループ (HAGroup1) を作成します。仮想情報として、手順1で確認した正サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を設定します。

```
raidcom add resource -resource_name HAGroup1 -virtual_type 411111
RH20M2 -IH1
```

確認コマンド例

副サイトのストレージシステムにあるリソースグループの情報を表示します。

```
raidcom get resource -key opt -IH1
RS_GROUP          RGID  V_Serial#  V_ID  V_IF  Serial#
meta_resource     0      422222   RH20M2  Y     422222
HAGroup1         1      411111   RH20M2  Y     422222
```

すべてのリソースグループの情報が一覧で表示されます。作成したリソースグループのリソースグループ名、リソースグループ ID、仮想シリアル番号、および仮想モデルが正しいことを確認します。



メモ

リソースグループに設定した仮想情報を解除するには、リソースグループを削除する必要があります。

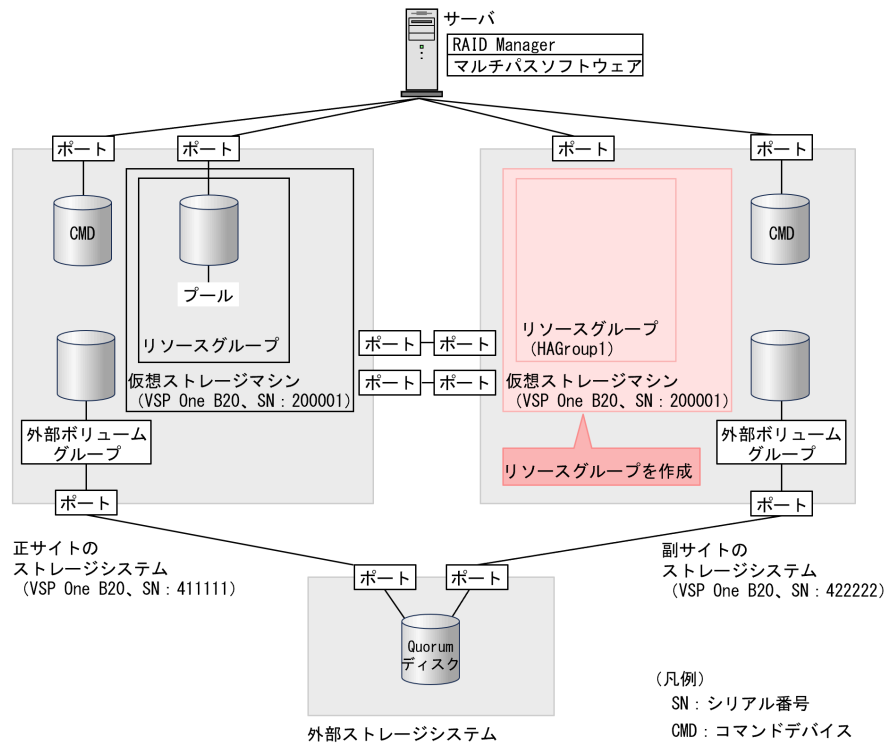
コマンド例: `raidcom delete resource -resource_name HAGroup1 -IH1`

関連概念

- 5.12 副サイトのストレージシステムを設定する
- (1) プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されている場合のリソースグループの作成例
- 5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する

(1) プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されている場合のリソースグループの作成例

仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成することもできます。仮想ストレージマシン内のボリューム同士で、GAD ペアを作成する場合は、正サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を、副サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンに割り当ててください。



コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムにあるリソースグループの情報を表示します。ペア作成対象となる正サイトのストレージシステム内の仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を確認します。

```
raidcom get resource -key opt -IH1  
RS_GROUP RGID V_Serial# V_ID V_IF Serial#  
meta_resource 0 411111 RH20M2 Y 411111  
HAGroup1 1 200001 M7 Y 411111
```

2. リソースグループ (HAGroup1) を作成します。仮想情報として、手順 1 で確認した正サイトのストレージシステム内にある仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号を設定します。

```
raidcom add resource -resource_name HAGroup1 -virtual_type 200001  
RH20M2 -IH1
```

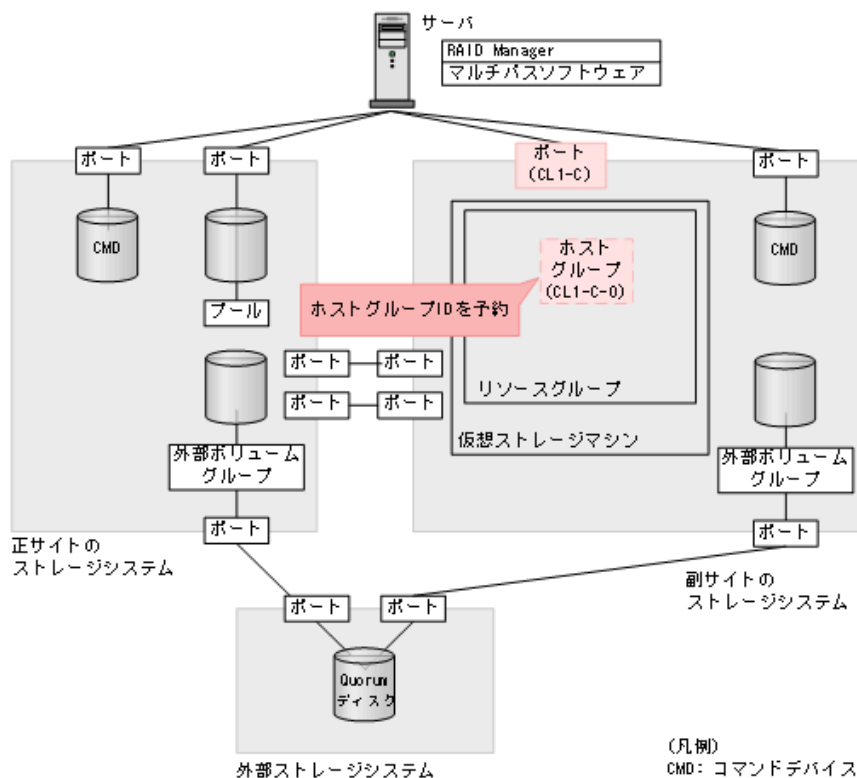
なお、次の手順以降では、プライマリボリュームが仮想ストレージマシンに登録されていない場合の例を記載しています。

関連概念

- 5.12.1 リソースグループを作成する

5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する

副サイトのストレージシステムのリソースグループに、セカンダリボリュームが使用するホストグループの ID を予約します。



コマンド例

リソースグループ (HAGroup1) に、ホストグループ ID (CL1-C-0) を予約します。

```
raidcom add resource -resource_name HAGroup1 -port CL1-C-0 -IH1
```

確認コマンド例

ポート (ポート名 : CL1-C) に設定されているホストグループの情報を表示します。

```
raidcom get host_grp -port CL1-C -resource 1 -IH1
PORT  GID  GROUP_NAME                               Serial#  HMD
HMO_BITS
CL1-C  0    1C-G00                                     422222  WIN
```

ポート名、ホストグループ ID、およびホストグループ名が正しいことを確認します。



メモ

実体が定義されていないホストグループをリソースグループに予約した場合、確認コマンドに `-key host_grp` オプションを指定すると、予約したホストグループを表示できます。確認コマンドの実行結果の例を次に示します。

```
raidcom get host_grp -port CL1-C -key host_grp -resource 1 -IH1
PORT  GID  GROUP_NAME          Serial#  HMD
HMO_BITS
CL1-C  0  1C-G00              422222  WIN
CL1-C  1  HAVo1               422222  WIN
CL1-C  2  -                   422222  -
CL1-C  3  -                   422222  -
CL1-C  4  -                   422222  -
CL1-C  5  -                   422222  -
```

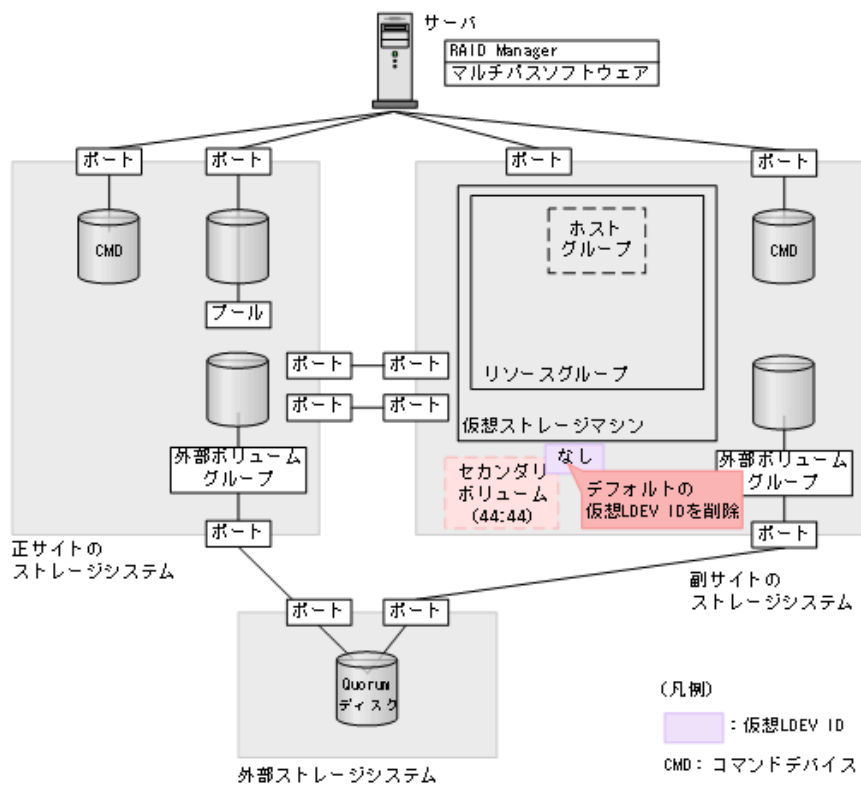
この例では、リソースグループ 1 に、ホストグループ ID が 0 から 5 までのホストグループが予約されています。ホストグループ ID が 0 と 1 のホストグループは、実体が定義されており、ホストグループ ID が 2 から 5 のホストグループは、リソースグループに予約されているだけで、実体が定義されていません。なお、ホストグループ ID が 6 から 254 のホストグループは、リソースグループ 1 に予約されていないため、表示されません。

関連概念

- [5.12.1 リソースグループを作成する](#)
- [5.12.3 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想 LDEV ID を削除する](#)
- [5.12.6 ホストグループを作成する](#)

5.12.3 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想 LDEV ID を削除する

仮想ストレージマシンに登録するボリュームの仮想 LDEV ID を、一時的に削除します。



コマンド例

ボリューム (0x4444) の仮想 LDEV ID を削除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x4444 -IH1
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
Serial#   : 422222
LDEV : 4444 VIR_LDEV : fffe
SL       : -
CL       : -
VOL_TYPE : NOT DEFINED
SSID     : -
RSGID    : 0
```

仮想 LDEV ID を削除したボリュームは、VIR_LDEV (仮想 LDEV ID) に「fffe」と表示されま
す。



メモ

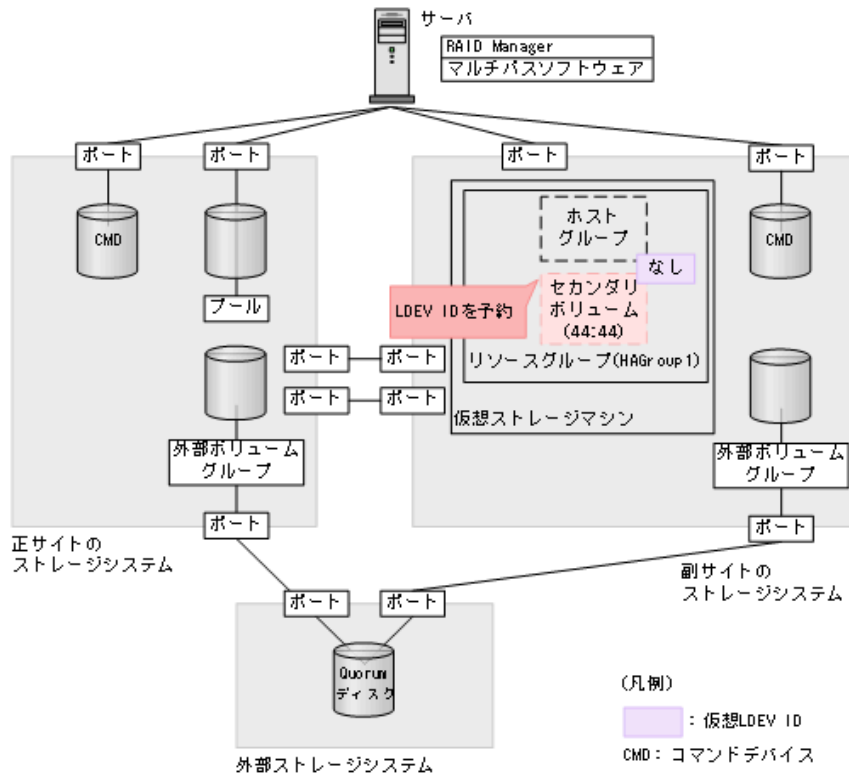
削除した仮想 LDEV ID を再設定するには、`raidcom map resource` コマンドを使用します (例: `raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x4444 -IH1`)。デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。仮想 LDEV ID を再設定したあとは、確認コマンドを使用して、実 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID が設定されていることを確認してください。

関連概念

- [5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する](#)
- [5.12.4 リソースグループにセカンダリボリューム用の LDEV ID を予約する](#)

5.12.4 リソースグループにセカンダリボリューム用の LDEV ID を予約する

作成したリソースグループに、GAD ペアのセカンダリボリュームとして使用するボリュームの LDEV ID を予約します。



コマンド例

リソースグループ (HAGroup1) に、LDEV ID (0x4444) を予約します。

```
raidcom add resource -resource_name HAGroup1 -ldev_id 0x4444 -IH1
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
Serial# : 422222
LDEV : 4444 VIR_LDEV : fffe
SL : -
CL : -
VOL_TYPE : NOT DEFINED
SSID : -
RSGID : 1
```

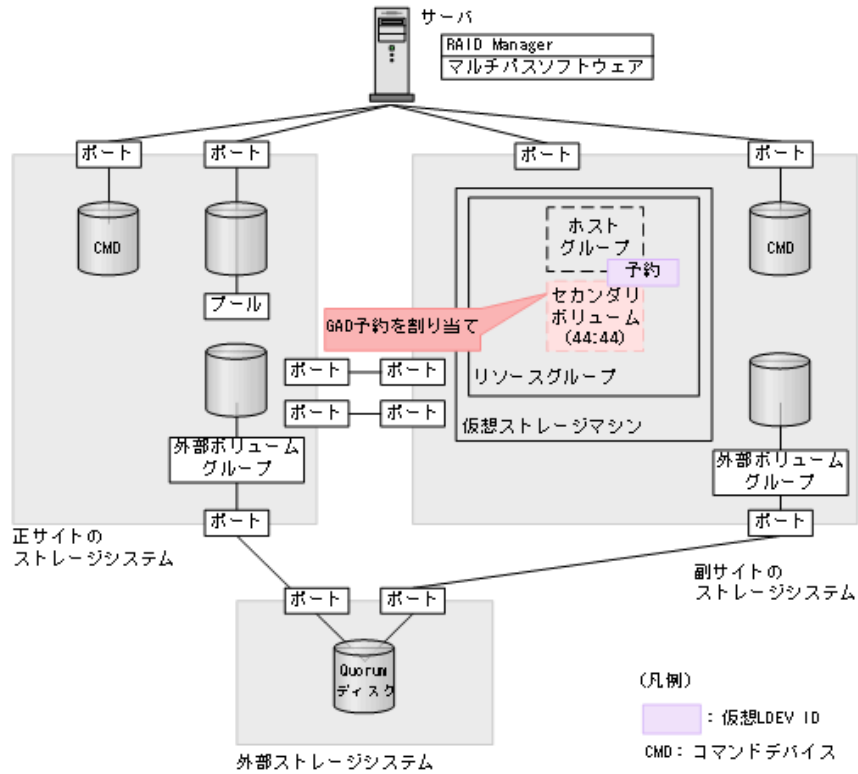
LDEV ID を予約したリソースグループの番号が、RSGID の値に表示されていることを確認します。

関連概念

- [5.12.3 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想 LDEV ID を削除する](#)
- [5.12.5 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる](#)

5.12.5 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる

GAD ペアを作成すると、セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID に、プライマリボリュームの LDEV ID と同じ値が設定されます。セカンダリボリュームに仮想 LDEV ID を設定するためには、あらかじめ仮想属性に GAD 予約を割り当てる必要があります。



コマンド例

LDEV ID (0x4444) の仮想属性に GAD 予約を割り当てます。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve -IH1
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
Serial# : 422222
LDEV : 4444 VIR_LDEV : ffff
SL : -
CL : -
VOL_TYPE : NOT DEFINED
SSID : -
RSGID : 1
```

仮想属性に GAD 予約を割り当てた LDEV ID は、VIR_LDEV (仮想 LDEV ID) に「ffff」と表示されます。



メモ

仮想属性に割り当てた GAD 予約を解除するには、`raidcom unmap resource` コマンドを使用します（例：`raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve -IH1`）。GAD 予約を解除したあとは、確認コマンドを使用して、`VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「ffff」と表示されることを確認してください。

関連概念

- [5.12.4 リソースグループにセカンダリボリューム用の LDEV ID を予約する](#)
- [5.12.6 ホストグループを作成する](#)

5.12.6 ホストグループを作成する

GAD ペアのセカンダリボリュームが使用するホストグループを作成します。ホストグループの作成要否は、セカンダリボリュームが使用するホストグループの ID によって異なります。

関連概念

- (1) [ホストグループ ID が 0 のホストグループにホストモードを設定する](#)
- (2) [ホストグループ ID が 1 以降のホストグループを作成する](#)

(1) ホストグループ ID が 0 のホストグループにホストモードを設定する

ホストグループ ID が 0 のホストグループは、最初から用意されています。ホストグループにホストモードを設定してください。

コマンド例（ホストモードを Windows にする場合）

```
raidcom modify host_grp -port CL1-C-0 -host_mode WIN -IH1
```

確認コマンド例

ポート（ポート名：CL1-C）に設定されているホストグループの情報を表示します。

```
raidcom get host_grp -port CL1-C -IH1
PORT  GID  GROUP_NAME          Serial#  HMD
HMO_BITS
CL1-C  0    1C-G00              422222  WIN
```

ホストモードが正しいことを確認します。

関連概念

- [5.12.6 ホストグループを作成する](#)

(2) ホストグループ ID が 1 以降のホストグループを作成する

ホストグループ ID が 1 以降のホストグループは、最初から用意されていません。そのため、GAD ペアのセカンダリボリュームが使用するホストグループを作成して、ホストモードを設定します。



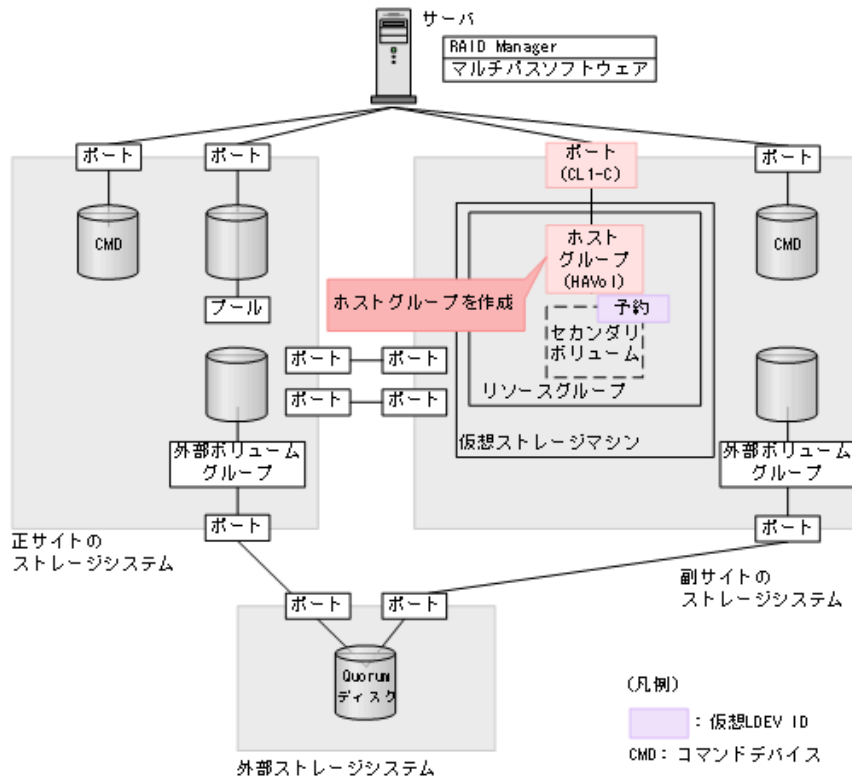
メモ

プラットフォームの異なる複数のサーバホストを 1 つのポートに接続する場合は、プラットフォームごとにホストグループを作成してください。



メモ

ホストグループを新たに作成した場合、作成したホストグループ ID をリソースグループに予約していないときは、作成したホストグループ ID をリソースグループに追加してください。



コマンド例 (CL1-C-1 を使用する場合)

1. ポート (CL1-C) に、ホストグループ ID が 1 のホストグループ (HAVol) を作成します。

```
raidcom add host_grp -port CL1-C-1 -host_grp_name HAVol -IH1
```

2. ホストグループにホストモードを設定します。
ホストモードを Windows に設定する例：

```
raidcom modify host_grp -port CL1-C-1 -host_mode WIN -IH1
```

3. 作成したホストグループ (CL1-C-1) をリソースグループ (HAGroup1) に予約します。

```
raidcom add resource -resource_name HAGroup1 -port CL1-C-1 -IH1
```

確認コマンド例

ポート (ポート名 : CL1-C) に設定されているホストグループの情報を表示します。

```
raidcom get host_grp -port CL1-C -IH1
PORT  GID  GROUP_NAME                               Serial#  HMD
HMO_BITS
CL1-C  0    1C-G00                                    422222  WIN
CL1-C  1    HAVol                                     422222  WIN
```

ポート名、ホストグループ ID、およびホストグループ名が正しいことを確認します。

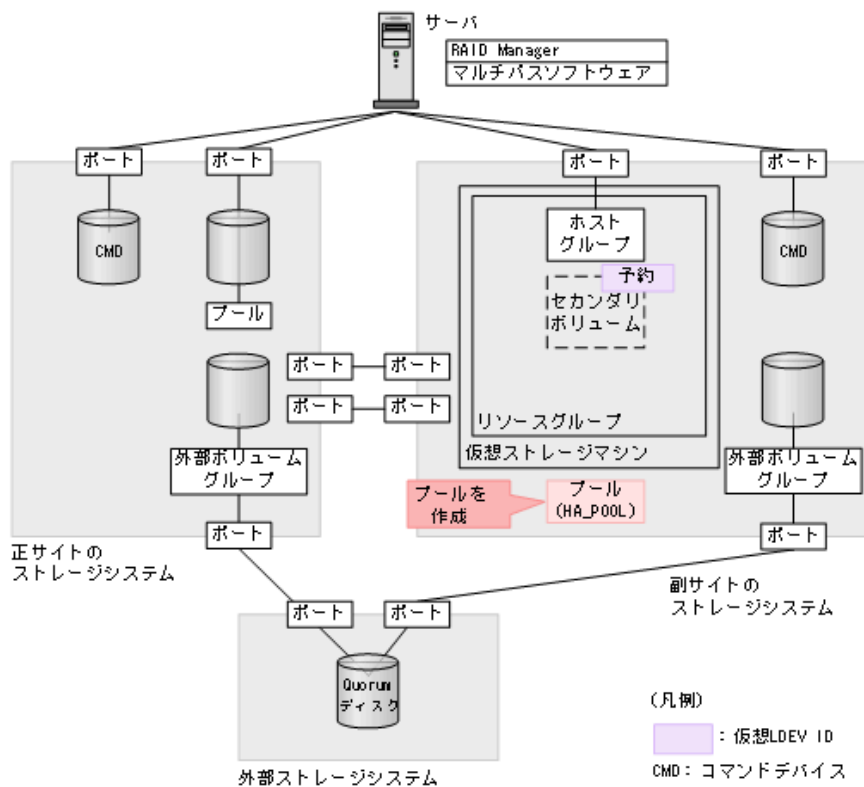
関連概念

- [5.12.2 リソースグループにホストグループ ID を予約する](#)

- 5.12.5 セカンダリボリューム用のボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てる
- 5.12.6 ホストグループを作成する
- 5.12.7 プールを作成する

5.12.7 プールを作成する

GAD ペアのセカンダリボリュームが使用する Dynamic Provisioning のプールを作成します。プールボリュームを作成したあとで、Dynamic Provisioning のプールを作成します。



コマンド例

1. パリティグループ (13-4) を指定して、LDEV ID が 0x7777 のボリューム (プールボリューム) を作成します。容量は 100GB です。

```
raidcom add ldev -ldev_id 0x7777 -parity_grp_id 13-4 -capacity 100G -IH1
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3    -         -         0         422222   -
```

3. ボリューム (0x7777) をクイックフォーマットします。

```
raidcom initialize ldev -operation qfmt -ldev_id 0x7777 -IH1
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3    -         -         0         422222   -
```

5. プールボリュームに 0x7777 を指定して、プール ID が 0 で、プール名が HA_POOL の Dynamic Provisioning 用プールを作成します。

```
raidcom add dp_pool -pool_id 0 -pool_name HA_POOL -ldev_id 0x7777 -IH1
```

6. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT     Serial#     Description
00c3     -         -         0           422222     -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x7777) がプール (プール ID : 0) のプールボリュームに設定されていることを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x7777 -fx -IH1
Serial#   : 422222
LDEV     : 7777
SL       : 0
CL       : 0
VOL_TYPE : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 209715200
NUM_LDEV : 1
LDEVs    : 7777
NUM_PORT : 0
PORTs    :
F_POOLID : 0
VOL_ATTR : CVS : POOL
RAID_LEVEL : RAID6
RAID_TYPE  : 6D+2P
NUM_GROUP : 1
RAID_GROUPS : 13-04
DRIVE_TYPE : DKR5E-J1R2SS
DRIVE_Capa : 2286717474
LDEV_NAMING :
STS       : NML
OPE_TYPE  : NONE
OPE_RATE  : 100
MP#       : 0
SSID      : 0007
RSGID     : 0
```

2. プールの容量を確認します。

```
raidcom get dp_pool -IH1
PID  POLS  U(%)  AV_CAP(MB)  TP_CAP(MB)  W(%)  H(%)  Num  LDEV#  LCNT
TL_CAP(MB)
000  POLN  0      98196       98196       70    80    1   30583
0    0      0
```

3. プール名を確認します。

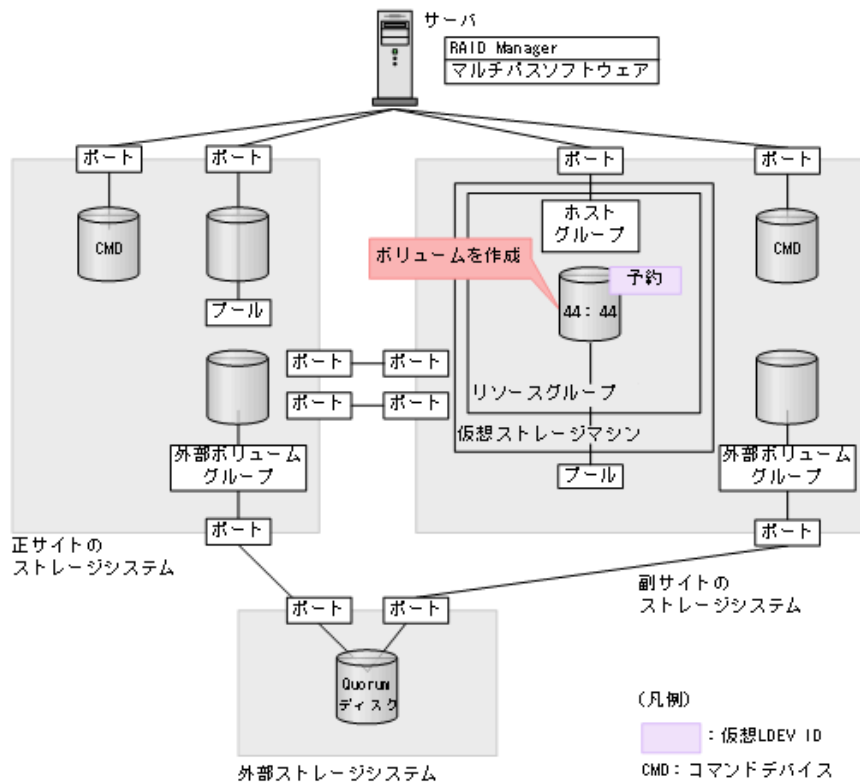
```
raidcom get pool -key opt -IH1
PID  POLS  U(%)  POOL_NAME  Seq#  Num  LDEV#  H(%)  VCAP(%)  TYPE  PM
000  POLN  0     HA_POOL    422222  1   30583  80    -         OPEN  N
```

関連概念

- [5.12.6 ホストグループを作成する](#)
- [5.12.8 ボリュームを作成する](#)

5.12.8 ボリュームを作成する

仮想属性に GAD 予約を割り当てた LDEV ID を指定して、ボリュームを作成します。このボリュームが、GAD ペアのセカンダリボリュームとして使用するボリュームです。プライマリボリュームと同じ容量で、ボリュームを作成します。



コマンド例

1. 正サイトのストレージシステムにある、GAD ペアのプライマリボリュームとして使用するボリュームの容量を確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH0
Serial#   : 411111
LDEV     : 2222
SL       : 0
CL       : 0
VOL_TYPE : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 1024000
NUM_PORT : 0
PORTs    :
F_POOLID : NONE
VOL_ATTR : CVS : HDP
B_POOLID : 0
LDEV_NAMING :
STS      : NML
OPE_TYPE : NONE
OPE_RATE : 100
MP#      : 0
SSID     : 0005
Used_Block(BLK) : 0
RSGID    : 0
```

2. プール ID が 0 の Dynamic Provisioning 用プールに、容量が 1,024,000block、LDEV ID が 0x4444 の仮想ボリューム (DP-VOL) を作成します。

```
raidcom add ldev -pool 0 -ldev_id 0x4444 -capacity 1024000 -IH1
```

3. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3     -           -         0         422222   -
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
Serial#   : 422222
LDEV : 4444 VIR_LDEV : ffff
SL : 0
CL : 0
VOL_TYPE : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 1024000
NUM_PORT : 0
PORTs :
F_POOLID : NONE
VOL_ATTR : CVS : HDP
B_POOLID : 0
LDEV_NAME :
STS : NML
OPE_TYPE : NONE
OPE_RATE : 100
MP# : 0
SSID : 0009
Used_Block(BLK) : 0
RSGID : 1
```

作成したボリュームが次の要件を満たしていることを確認します。

- 仮想属性に GAD 予約が割り当てられていること
- プライマリボリュームと同じ容量であること
- DP-VOL であること

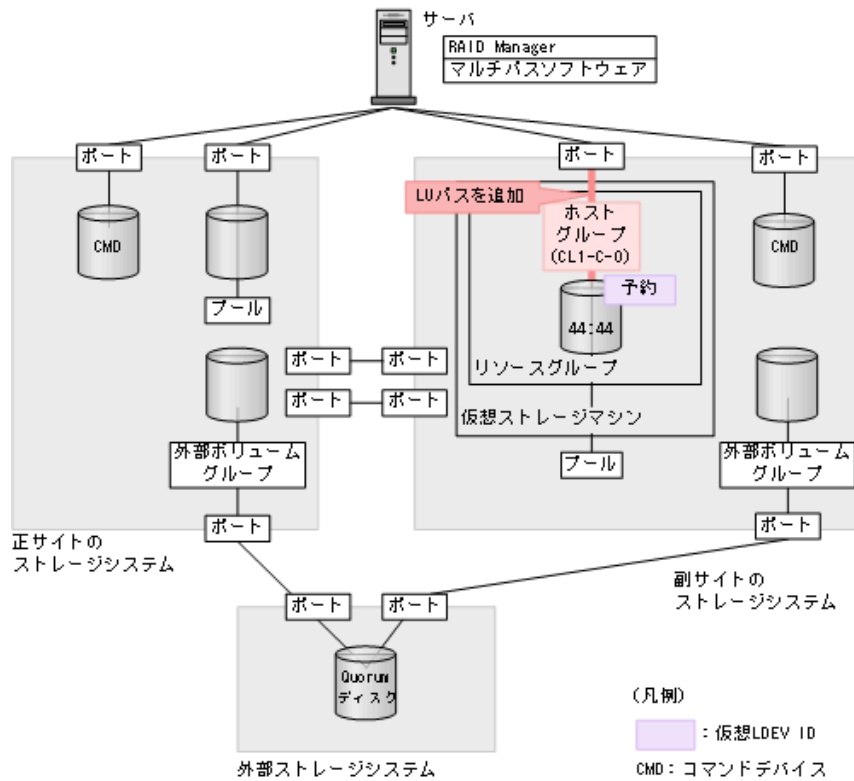
関連概念

- [5.12.7 プールを作成する](#)
- [5.12.9 セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する](#)

5.12.9 セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する

サーバと接続しているポートと、セカンダリボリューム用のボリュームとの間に、LU パスを追加します。

セカンダリボリューム用のボリュームには仮想 LDEV ID が設定されていないため、ここではサーバからは認識されていません。



コマンド例

ホストグループ (CL1-C-0) と LU (0) を指定して、セカンダリボリューム (0x4444) に LU パスを追加します。

```
raidcom add lun -port CL1-C-0 -lun_id 0 -ldev_id 0x4444 -IH1
```

確認コマンド例

ホストグループ (CL1-C-0) に定義されている LU パスの情報を表示します。

```
raidcom get lun -port CL1-C-0 -fx -IH1
PORT  GID  HMD          LUN  NUM    LDEV  CM   Serial#  HMO_BITS
CL1-C  0    WIN          0    1     4444  -    422222
```

関連概念

- [5.12.8 ボリュームを作成する](#)
- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)

5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する

GAD ペアを作成するには、RAID Manager の構成定義ファイルの更新が必要です。

関連概念

- [5.13.1 RAID Manager のインスタンスを停止する](#)
- [5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する](#)
- [5.13.3 RAID Manager のインスタンスを再起動する](#)

5.13.1 RAID Manager のインスタンスを停止する

構成定義ファイルを編集する前に、RAID Manager のインスタンスを停止します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 0 と 1 を終了します。

```
horcmshutdown 0 1
inst 0:
HORCM Shutdown inst 0 !!!
inst 1:
HORCM Shutdown inst 1 !!!
```

関連概念

- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する](#)

5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する

GAD ペアを作成するために、RAID Manager の構成定義ファイルを編集します。Windows で構成定義ファイルを編集する例を次に示します。



メモ

GAD ペアのボリュームは、仮想 LDEV ID ではなく実 LDEV ID で指定してください。

horcm0.conf (正サイトのストレージシステム操作用)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address      service      poll (10ms)   timeout (10ms)
localhost        31000        -1             3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-411111-8738

HORCM_LDEV
#GRP  DEV      SERIAL      LDEV#      MU#
oraHA dev1      411111      22:22      h0

HORCM_INST
#GPR  IP ADR      PORT#
oraHA localhost 31001
```

horcm1.conf (副サイトのストレージシステム操作用)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address      service      poll (10ms)   timeout (10ms)
localhost        31001        -1             3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-422222-17476

HORCM_LDEV
#GRP  DEV      SERIAL      LDEV#      MU#
oraHA dev1      422222      44:44      h0
```

HORCM_INST		
#GPR	IP ADR	PORT#
oraHA	localhost	31000

関連概念

- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [5.13.1 RAID Manager のインスタンスを停止する](#)
- [5.13.3 RAID Manager のインスタンスを再起動する](#)

5.13.3 RAID Manager のインスタンスを再起動する

構成定義ファイルを編集したら、RAID Manager のインスタンスを再起動します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 0 と 1 を起動します。

```
horcmstart 0 1
starting HORCM inst 0
HORCM inst 0 starts successfully.
starting HORCM inst 1
HORCM inst 1 starts successfully.
```

関連概念

- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する](#)
- [5.15.1 副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認する](#)

5.14 ALUA モードを設定する

クロスパス構成で、どのパスを優先して使用するかを指定する場合は、ALUA モードを有効にする必要があります。GAD ペアを作成する前に、プライマリボリュームの ALUA モードを有効にします。プライマリボリュームの ALUA モードを有効にすると、GAD ペア作成時にセカンダリボリュームの ALUA モードも有効になります。



メモ

クロスパス構成でない場合、ALUA モードの設定は不要です。

コマンド例

```
raidcom modify ldev -ldev_id 0x2222 -alua enable -IH0
```

確認コマンド例

ALUA モードが正しく設定されているか確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH0
Serial# : 411111
LDEV : 2222
SL : 0
CL : 0
VOL_TYPE : OPEN-V-CVS
VOL_Capacity(BLK) : 1024000
```

```
NUM_PORT : 0
PORTs :
F_POOLID : NONE
VOL_ATTR : CVS : HDP
B_POOLID : 0
LDEV_NAMING :
STS : NML
OPE_TYPE : NONE
OPE_RATE : 100
MP# : 0
SSID : 0005
Used_Block(BLK) : 0
ALUA : Enable
RSGID : 0
```

ALUA モード (ALUA) が有効 (Enable) に設定されていることを確認します。

関連概念

- [7.4 GAD ペアを中断する](#)

5.15 GAD ペアを作成する

副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認し、GAD ペアを作成します。

関連概念

- [5.15.1 副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認する](#)
- [5.15.2 GAD ペアを作成する](#)

5.15.1 副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認する

GAD ペアを作成する前に、正サイトのストレージシステムのシリアル番号とモデルを持つ副サイトの仮想ストレージマシンに、プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID がないことを確認します。プライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がある場合は、GAD ペアを作成できません。

仮想ストレージマシンを操作して、仮想 LDEV ID がないことを確認します。構成定義ファイルの HORCM_VCMD に仮想ストレージマシンを指定して、RAID Manager を起動します。

コマンド例 (Windows の場合)

1. 仮想 LDEV ID を確認するためのインスタンス (100 と 101) を起動します。

```
horcmstart 100 101
starting HORCM inst 100
HORCM inst 100 starts successfully.
starting HORCM inst 101
HORCM inst 101 starts successfully.
```

2. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID を確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH100
Serial# : 411111
LDEV : 2222
(略)
```

VIR_LDEV（仮想 LDEV ID）の情報は、LDEV（実 LDEV ID）の情報と同じ場合表示されません。出力例の仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。

3. 副サイトの仮想ストレージマシンにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がいないことを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -key front_end -cnt 1 -fx -IH101
```

構成定義ファイルの HORCM_VCMD に仮想ストレージマシンを指定しているときに、-cnt オプションを指定して raidcom get ldev コマンドを実行すると、-cnt オプションで指定した範囲にある仮想 LDEV ID が表示されます。

上記コマンドを実行しても仮想 LDEV ID の 0x2222 が表示されない場合は、プライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID（0x2222）が副サイトの仮想ストレージマシンにありません。



メモ

-key front_end オプションを指定して raidcom get ldev コマンドを実行すると、ボリューム単位のリスト形式でボリュームの情報を表示できます。

関連概念

- [5.8 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する](#)
- [5.13 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [\(1\) プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID が副サイトの仮想ストレージマシンで表示されたときには](#)
- [5.15.2 GAD ペアを作成する](#)

(1) プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID が副サイトの仮想ストレージマシンで表示されたときには

プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID が副サイトの仮想ストレージマシンで表示されたときは、GAD のシステム構築の計画に誤りがあるおそれがあります。システム構成を見直してください。

副サイトの仮想ストレージマシンにある LDEV ID が 0xfefe のボリュームに、プライマリボリュームの仮想 LDEV ID と同じ仮想 LDEV ID（0x2222）が割り当てられている場合の例を次に示します。

コマンド例

1. 副サイトの仮想ストレージマシンに、プライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID が割り当てられているかどうかを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -key front_end -cnt 1 -fx -IH101
Serial# LDEV# SL CL VOL_TYPE VOL_Cap(BLK) PID ATTRIBUTE Ports
PORT_No:LU#:GRPNAME ...
411111 2222 - - NOT DEFINED
```

副サイトの仮想ストレージマシンに、仮想 LDEV ID（0x2222）が割り当てられています。

2. 仮想 LDEV ID が 0x2222 のボリュームの実 LDEV ID を確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH101
Serial# : 411111 PHY_Serial# : 422222
LDEV : 2222 PHY_LDEV : fefe
SL : -
CL : -
```

```
VOL_TYPE : NOT DEFINED
SSID : -
RSGID : 1
```

この出力例では、実 LDEV ID が 0xfefe のボリュームに、仮想 LDEV ID の 0x2222 が割り当てられていることを確認できます。

3. GAD ペアのボリュームに仮想 LDEV ID (0x2222) を使用したい場合は、`raidcom unmap resource` コマンドを使用して、LDEV ID が 0xfefe のボリュームから仮想 LDEV ID (0x2222) の割り当てを解除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0xfefe -virtual_ldev_id 0x2222 -IH1
```

4. LDEV ID が 0xfefe のボリュームから仮想 LDEV ID (0x2222) の割り当てが解除されたことを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -key front_end -cnt 1 -fx -IH101
```

構成定義ファイルの `HORCM_VCMD` に仮想ストレージマシンを指定しているときに、`-cnt` オプションを指定して `raidcom get ldev` コマンドを実行すると、`-cnt` オプションで指定した範囲にある仮想 LDEV ID が表示されます。

上記コマンドを実行しても仮想 LDEV ID の 0x2222 が表示されない場合は、プライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID (0x2222) が副サイトの仮想ストレージマシんにありません。



メモ

仮想 LDEV ID の割り当てを解除したあとに、`-cnt` オプションを指定しないで `raidcom get ldev` コマンドを実行すると、次のエラーコードとメッセージが出力されます。

```
raidcom: [EX_EGPERM] Permission denied with the Resource Group
```

このエラーは、指定したリソースに対してアクセス権がないことを示しています。例では、仮想 LDEV ID (0x2222) の割り当てが解除されていて未定義のため、仮想ストレージマシンのユーザにアクセス権がありません。

仮想ストレージマシンを指定してコマンドを実行するとき (`HORCM_VCMD` を使用するとき) は、指定するリソースの実 ID と仮想 ID の両方が、ユーザに割り当てられている必要があります。なお、仮想ストレージマシンを指定しないとき (`HORCM_CMD` を使用するとき) は、指定するリソースの実 ID だけがユーザに割り当てられていれば、コマンドを実行できます。

関連概念

- [1.3.1 仮想 ID とは](#)
- [5.15.1 副サイトの仮想ストレージマシんにプライマリボリュームと同じ仮想 LDEV ID がないことを確認する](#)

5.15.2 GAD ペアを作成する

GAD ペアを作成します。GAD ペアを作成したら、ペア状態が `PAIR` になるのを待ちます。GAD ペアが `PAIR` 状態になると、セカンダリボリュームでもサーバからの I/O を受け付けられるようになります。

GAD ペアを作成すると、セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID に、プライマリボリュームの LDEV ID と同じ値が設定されます。なお、GAD ペアを削除すると、セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID は削除され、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。



メモ

副サイトのストレージシステムで、`Dynamic Provisioning` のプールの使用量に関する警告しきい値に対して、セカンダリボリュームの容量以上の空きがない状態で GAD ペアを作成すると、警告しきい値超過の `SIM (SIM=620xxx※)` が発生することがあります。GAD ペアを作成するときには、警告しきい値に対して、`Dynamic Provisioning` のプールの空き容量がセカンダリボリュームの容量以上あることを確認してください。

注※ `xxx` はプール ID を示します。



メモ

仮想 LDEV ID を確認するためのインスタンス（100 と 101）では、GAD ペアを作成できません。ストレージシステムを操作するためのインスタンス（0 と 1）を使用して、GAD ペアを作成してください。



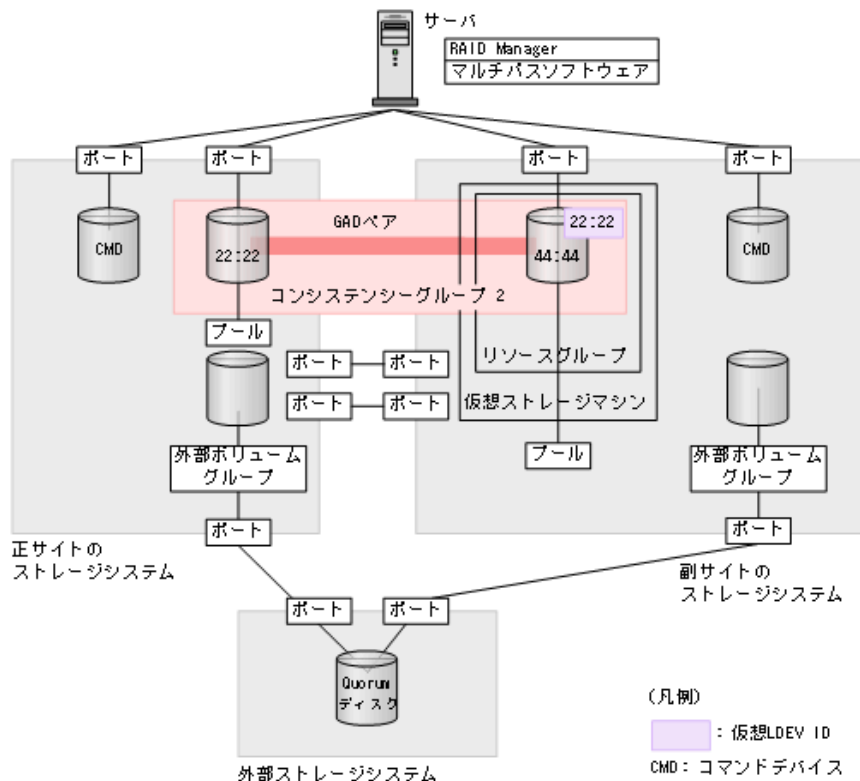
注意

- サーバがすでに認識しているボリュームの ALUA 設定を変更する場合、GAD ペア作成前にサーバをシャットダウンしてください。GAD ペア作成後にサーバを起動して、サーバにボリュームを認識させてください。
- サーバがオンライン中に ALUA 設定を変更した場合、サーバが ALUA 設定の変更を認識しなかったり、異常動作をする可能性があります。



メモ

ペア作成時、オプションとしてリモートパス障害時 IO 優先モードの設定ができます。詳細手順は、「[7.3 GAD ペアを作成する](#)」の「[リモートパス障害時 IO 優先モードを設定してペアを作成する](#)」を参照してください。



コマンド例

Quorum ディスク ID に 0、コンシステンシーグループ ID に 2 を指定して、GAD ペアを作成します。

```
paircreate -g oraHA -fg never 2 -vl -jq 0 -IH0
```

GAD ペアをコンシステンシーグループに登録する場合、**-fg** オプションを指定してペアを作成します。なお、コンシステンシーグループ ID の指定しないでペアを作成すると、ストレージシステム内で未使用のコンシステンシーグループ ID が自動的に割り当てられます。



メモ

コンシステンシーグループに登録しないで GAD ペアを作成する場合のコマンド例を次に示します。

```
paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -IH0
```




注意

サーバに Hitachi Dynamic Link Manager (HDLM) がインストールされており、かつ本ストレージシステムのホストグループにホストモードオプション 78 を設定している場合は、冗長パスを追加したあとに HDLM の `dlnkmgr refresh -gad` コマンドを実行して、ストレージシステムの設定を HDLM に反映してください。HDLM のコマンドの詳細は、HDLM のマニュアルを参照してください。

関連概念

- (2) HDLM を使用した優先パス/非優先パスの設定
- 5.15 GAD ペアを作成する

5.17 クロスパスを非優先に設定する

サーバから GAD ペアのセカンダリボリュームへの冗長パスを追加したあと、ホストグループに非対称アクセス状態を設定します。

クロスパス構成の場合に、初めて ALUA モードを有効にすると、クロスパスを含むサーバとストレージシステム間のすべてのパスが、優先して使用するパスに設定されています。そのため、クロスパスの非対称アクセス状態を非優先に設定する必要があります。クロスパスの非対称アクセス状態を非優先に設定することで、正サイトのサーバと正サイトのストレージシステム、および副サイトのサーバと副サイトのストレージシステムのパスを優先して使用できます。



メモ

クロスパス構成でない場合、非対称アクセス状態の設定は不要です。



メモ

非対称アクセス状態を設定する前に、ALUA モードを有効にしてください。

コマンド例

```
raidcom modify lun -port CL1-A-0 -lun_id all -asymmetric_access_state non_optimized -IH0
```

確認コマンド例

非対称アクセス状態が正しく設定されているか確認します。

```
raidcom get lun -port CL1-A-0 -key opt_page1 -fx -IH0
PORT  GID  HMD          LUN  NUM  LDEV  CM  Serial#  AL  AAS
CL1-A  0    LINUX/IRIX   0    1    2222  -    411111  E  AN
```

ALUA モード (AL) が有効 (E) に設定されていること、およびクロスパスの非対称アクセス状態 (AAS) が非優先 (AN) に設定されていることを確認します。

関連概念

- 7.9 優先して使用するパスの設定を変更する

global-active device と Universal Replicator を併用するときの環境構築手順

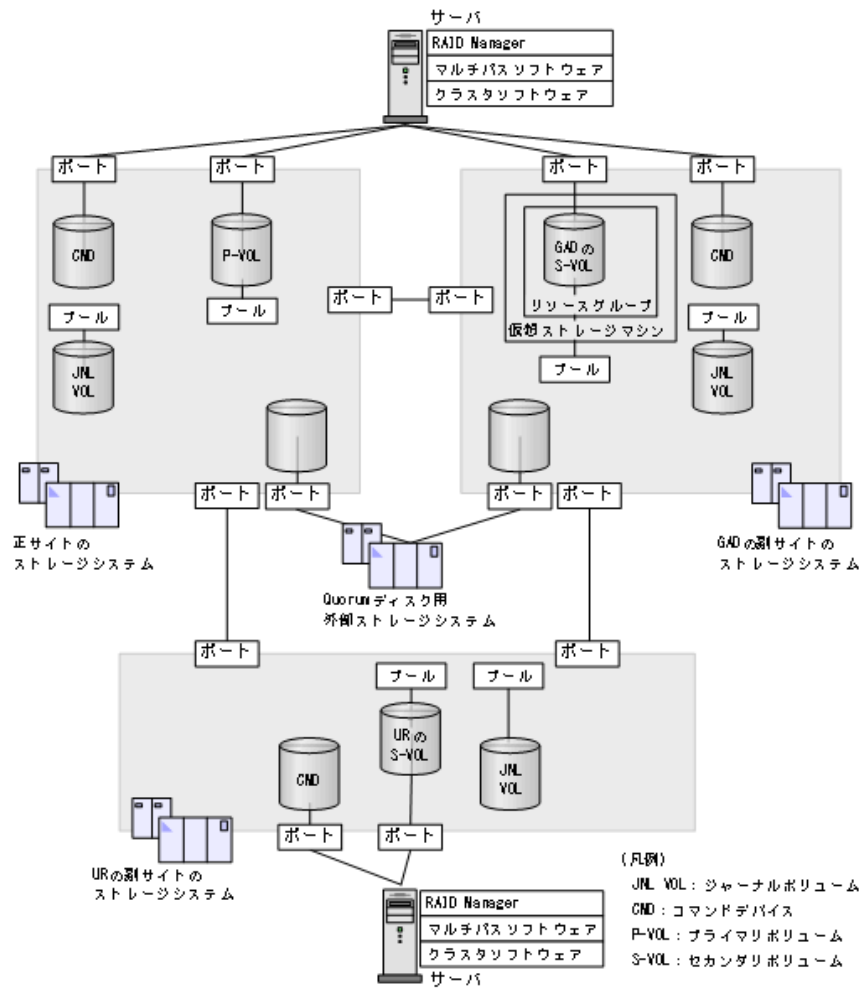
global-active device と Universal Replicator を連携した 3DC 構成は、DKCMAIN プログラムバージョン A3-02-01-XX 以前で未サポートです。本章および他の 3DC に関する記載についても未サポートとなります。

ここでは、global-active device (GAD) と Universal Replicator (UR) を併用するときの環境構築手順を、例を使用して説明します。Quorum ディスクには外部ストレージシステムのボリュームまたはサーバのディスクを使用します。ここでは、外部ストレージシステムのボリュームを Quorum ディスクとして使用する場合について説明します。

- 6.1 システム構成例
- 6.2 GAD と UR を併用するときのペア作成の順序
- 6.3 GAD と UR を併用するときの環境構築手順の流れ
- 6.4 UR ペア作成前の状態
- 6.5 UR の副サイトを準備する
- 6.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする
- 6.7 UR の副サイトのストレージシステムにコマンドデバイスを作成する
- 6.8 デルタリシンク用 UR ペアを作成する
- 6.9 UR ペアを作成する
- 6.10 運用を開始する

6.1 システム構成例

ここで作成するシステム構成例を、次に示します。



関連概念

- 6.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例
- 6.1.2 GAD の副サイトのストレージシステムの構成例
- 6.1.3 UR の副サイトのストレージシステムの構成例
- 6.1.4 サーバの構成例

6.1.1 正サイトのストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、正サイトのストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	411111

プール

プール ID	プール名	プールボリューム			用途
		LDEV ID	パリティグループ	容量	
1	PJNL_POOL	99:99	2-1	100GB	ジャーナル

プライマリボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量	ポート名	LU 番号
22:22	0	1,024,000block	CL1-A	1

ジャーナルボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量
88:88	1	30GB

リモート接続に使用するポート

ポート名	接続先ストレージシステムの設置場所
CL6-A	UR の副サイト

ペア

ペアの種類	ペアグループ名	デバイス名 (LDEV ID)	ミラー ID
UR ペア	oraREMOTE	dev2 (22:22)	1

関連概念

- ・ [6.1 システム構成例](#)

6.1.2 GAD の副サイトのストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、GAD の副サイトにあるストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	422222

プール

プール ID	プール名	プールボリューム			用途
		LDEV ID	パリティグループ	容量	
1	LJNL_POOL	99:99	2-1	100GB	ジャーナル

GAD ペアのセカンダリボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量	ポート名	LU 番号
44:44	0	1,024,000block	CL1-C	0

ジャーナルボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量
88:88	1	30GB

リモート接続に使用するポート

ポート名	接続先ストレージシステムの設置場所
CL6-C	UR の副サイト

ペア

ペアの種類	ペアグループ名	デバイス名 (LDEV ID)	ミラー ID
デルタリシンク用 UR ペア	oraDELTA	dev3 (44:44)	2

リソースグループ

リソースグループ名	仮想ストレージマシン	
	モデル	シリアル番号
HAGroup1	VSP G900	411111

関連概念

- ・ [6.1 システム構成例](#)

6.1.3 UR の副サイトのストレージシステムの構成例

システム構成例のうち、UR の副サイトにあるストレージシステムの構成例について説明します。

ストレージシステム

モデル	シリアル番号
VSP One B28	444444

プール

プール ID	プール名	プールボリューム			用途
		LDEV ID	パリティグループ	容量	
0	VOL_POOL	77:77	13-4	100GB	UR ペアのセカンダリボリューム
1	RJNL_POOL	99:99	2-1	100GB	ジャーナル

UR ペアのセカンダリボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量	ポート名	LU 番号
66:66	0	1,024,000block	CL1-A	1

ホストグループ

ホストグループ ID	ホストグループ名	用途
CL1-A-1	REMOTE	UR ペアのセカンダリボリューム

ジャーナルボリューム

実 LDEV ID	プール ID	容量
88:88	1	30GB

リモート接続に使用するポート

ポート名	接続先ストレージシステムの設置場所
CL6-A	正サイト
CL6-C	GAD の副サイト

ペア

ペアの種類	ペアグループ名	デバイス名 (LDEV ID)	ミラー ID
UR ペア	oraREMOTE	dev2 (66:66)	1
デルタリシンク用 UR ペア	oraDELTA	dev3 (66:66)	2

関連概念

- 6.1 システム構成例

6.1.4 サーバの構成例

システム構成例のうち、サーバの構成例について説明します。

正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

インスタンス番号	構成定義ファイル	用途
0	horcm0.conf	<ul style="list-style-type: none">GAD ペアの操作UR ペアの操作
1	horcm1.conf	<ul style="list-style-type: none">GAD ペアの操作デルタリシンク用 UR ペアの操作

UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

インスタンス番号	構成定義ファイル	用途
2	horcm2.conf	<ul style="list-style-type: none">UR ペアの操作

インスタンス番号	構成定義ファイル	用途
		・ デルタリシンク用 UR ペアの操作

関連概念

- ・ [6.1 システム構成例](#)

6.2 GAD と UR を併用するときのペア作成の順序

GAD と UR を併用するときは、次の順序でペアを作成します。

操作手順

1. GAD ペアを作成する。



メモ

GAD と UR を併用するときは、GAD ペアをコンシステンシーグループに登録してください。

2. デルタリシンク用 UR ペアを作成する。
3. UR ペアを作成する。

関連概念

- ・ [5.2 GAD の環境構築の流れ](#)

6.3 GAD と UR を併用するときの環境構築手順の流れ

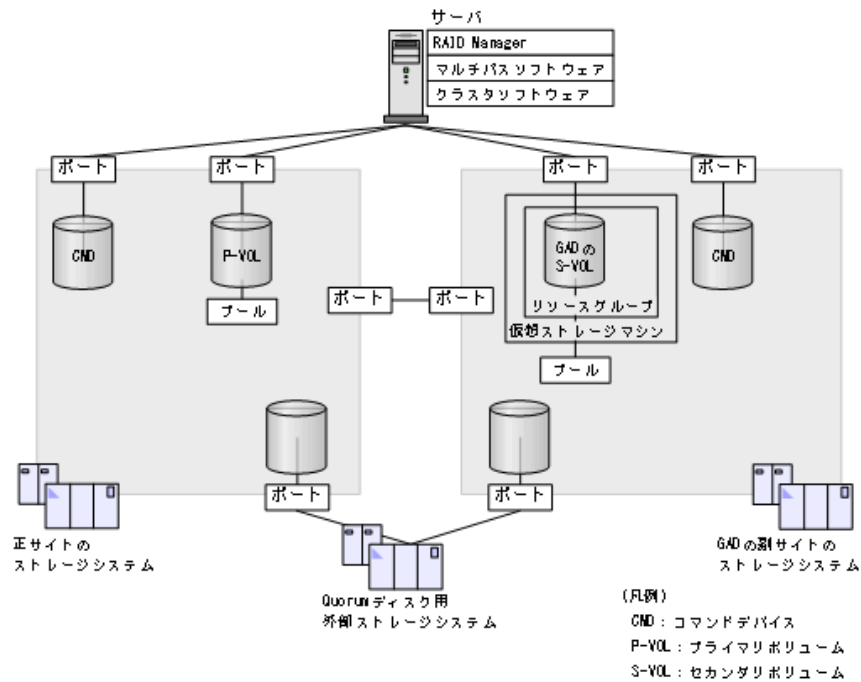
GAD ペアを作成済みのシステム構成に、デルタリシンク用 UR ペアおよび UR ペアの追加する手順の流れを次に示します。

- ・ [6.4 UR ペア作成前の状態](#)
- ・ [6.5 UR の副サイトを準備する](#)
- ・ [6.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする](#)
- ・ [6.7 UR の副サイトのストレージシステムにコマンドデバイスを作成する](#)
- ・ [6.8 デルタリシンク用 UR ペアを作成する](#)
- ・ [6.9 UR ペアを作成する](#)
- ・ [6.10 運用を開始する](#)

6.4 UR ペア作成前の状態

ここでは、GAD ペアを作成済みのシステム構成に、デルタリシンク用 UR ペアおよび UR ペアを追加する手順について説明します。

作成済みのシステム構成を次に示します。

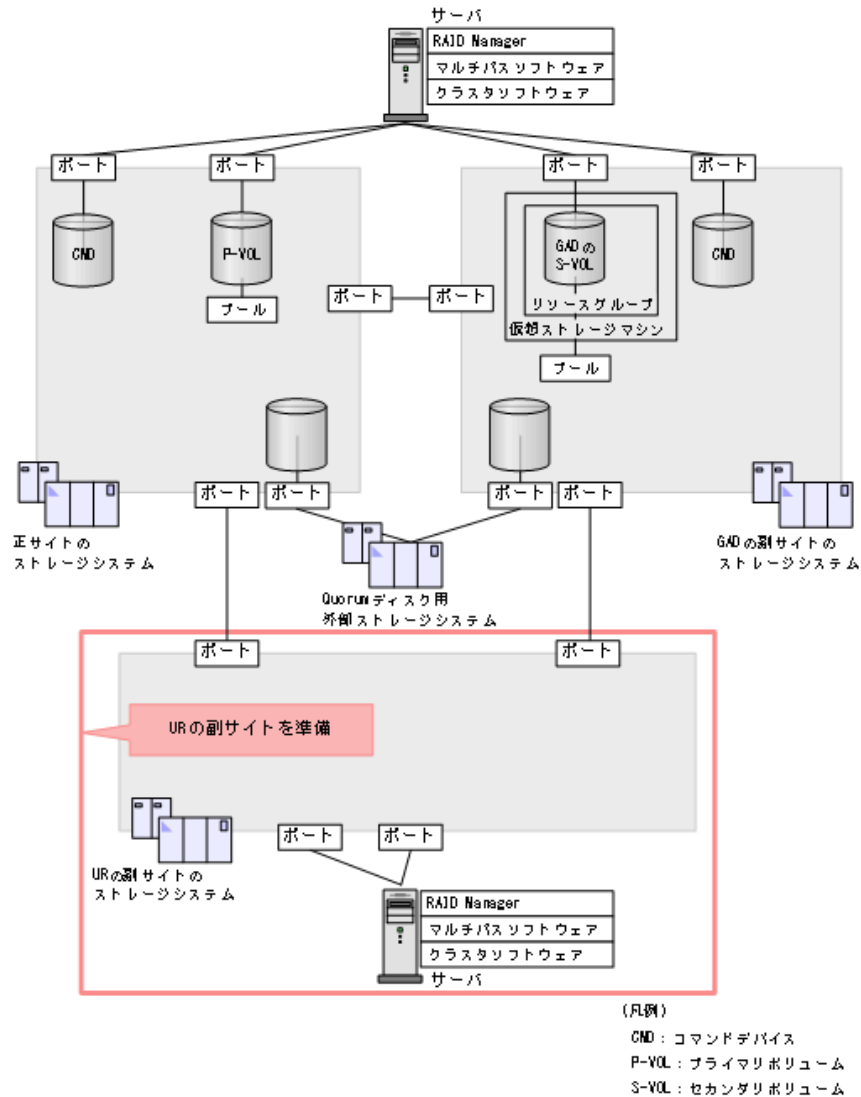


6.5 UR の副サイトを準備する

UR の副サイトのストレージシステムとサーバを設置します。GAD ペアを作成済みのストレージシステムやサーバと、UR の副サイトのストレージシステムを物理パスで接続します。

また、サーバに次のソフトウェアをインストールします。

- RAID Manager
- マルチパスソフトウェア
- クラスタソフトウェア



6.6 プログラムプロダクトのライセンスをインストールする

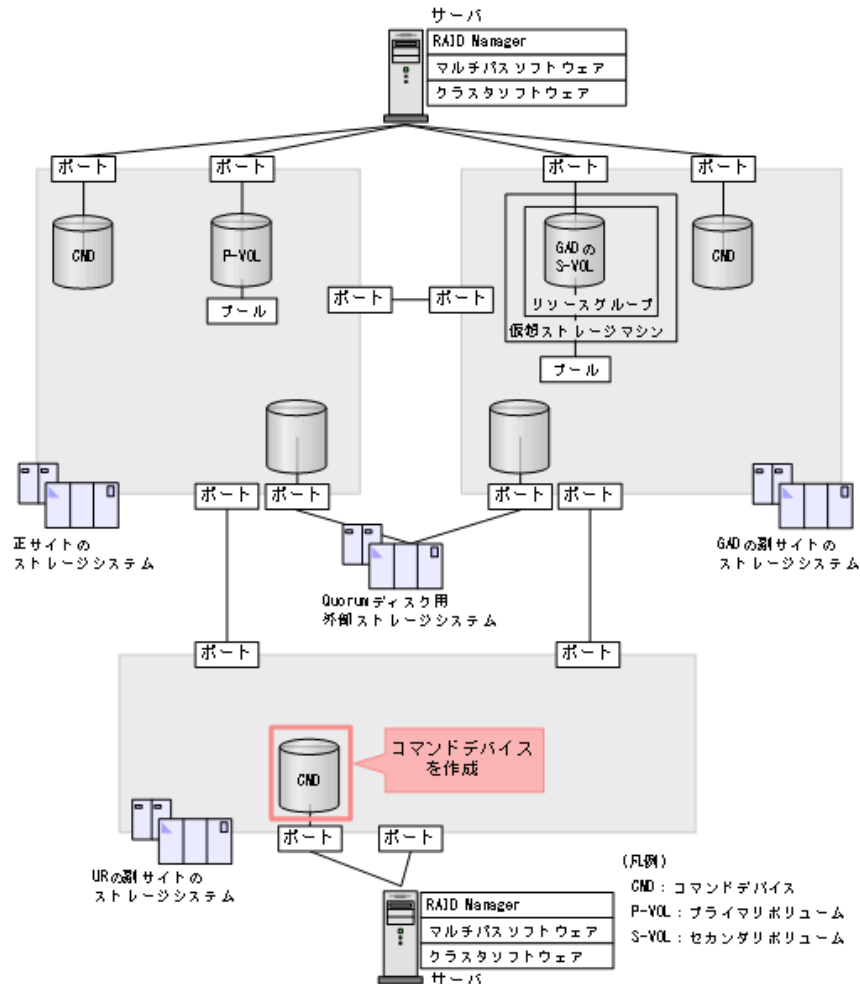
各サイトのストレージシステムに、プログラムプロダクトのライセンスをインストールします。ライセンスのインストールには、`raidcom add license` コマンドを使用します。

すべてのサイトのストレージシステムに、次のプログラムプロダクトのライセンスをインストールします。

- TrueCopy
- Universal Replicator
- Dynamic Provisioning
- Remote Replication Extended

6.7 UR の副サイトのストレージシステムにコマンドデバイスを作成する

UR の副サイトのストレージシステムにコマンドデバイスを作成し、サーバから認識させます。コマンドデバイスの作成には、`raidcom modify ldev` コマンドを使用します。



メモ

この章では、In-Band 方式で RAID Manager を使用する手順を掲載しています。Out-of-Band 方式でも、環境を構築できます。

作業手順

1. UR の副サイトで、`raidcom modify ldev` コマンドを使用して、コマンドデバイス用のボリュームを作成します。
2. 作成したボリュームをフォーマットします。
3. 作成したボリュームを、サーバに接続されているポートに定義します。
4. 作成したボリュームのコマンドデバイスを有効にし、かつコマンドデバイスのユーザ認証を有効に設定します『システム構築ガイド』を参照)。
5. 必要に応じて、コマンドデバイスを定義するポートのトポロジと Fabric の設定を変更します。

6.8 デルタリシンク用 UR ペアを作成する

GAD と UR を併用する場合、GAD ペアの次にデルタリシンク用 UR ペアを作成します。デルタリシンク用 UR ペアは、GAD の副サイトと UR の副サイトの間で作成します。

関連概念

- [6.8.1 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する](#)
- [6.8.2 RAID Manager を起動する](#)
- [6.8.3 GAD の副サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する](#)
- [6.8.4 GAD の副サイトのストレージシステムを設定する](#)
- [6.8.5 UR の副サイトのストレージシステムを設定する](#)
- [6.8.6 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する](#)
- [6.8.7 デルタリシンク用 UR ペアを作成する](#)

6.8.1 RAID Manager の構成定義ファイルを作成する

UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバで、RAID Manager の構成定義ファイルを作成します。Windows で構成定義ファイルを作成する例を次に示します。

horcm2.conf

```
HORCM_MON
#ip_address  service  poll (10ms)  timeout (10ms)
localhost    31002    -1          3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-444444-26214
```

6.8.2 RAID Manager を起動する

GAD の副サイトおよび UR の副サイトのストレージシステムを操作するための RAID Manager のインスタンスを起動します。

なお、この例でインスタンス 1 は、GAD ペアを作成するときに作成した構成定義ファイルを使用します。

コマンド例 (Windows の場合)

1. インスタンス 1 と 2 を起動します。

- GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 1
starting HORCM inst 1
HORCM inst 1 starts successfully.
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 2
starting HORCM inst 2
HORCM inst 2 starts successfully.
```

2. ユーザ名とパスワードを入力し、ユーザ認証を実施します。

- GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
raidcom -login <username> <password> -IH1
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
raidcom -login <username> <password> -IH2
```

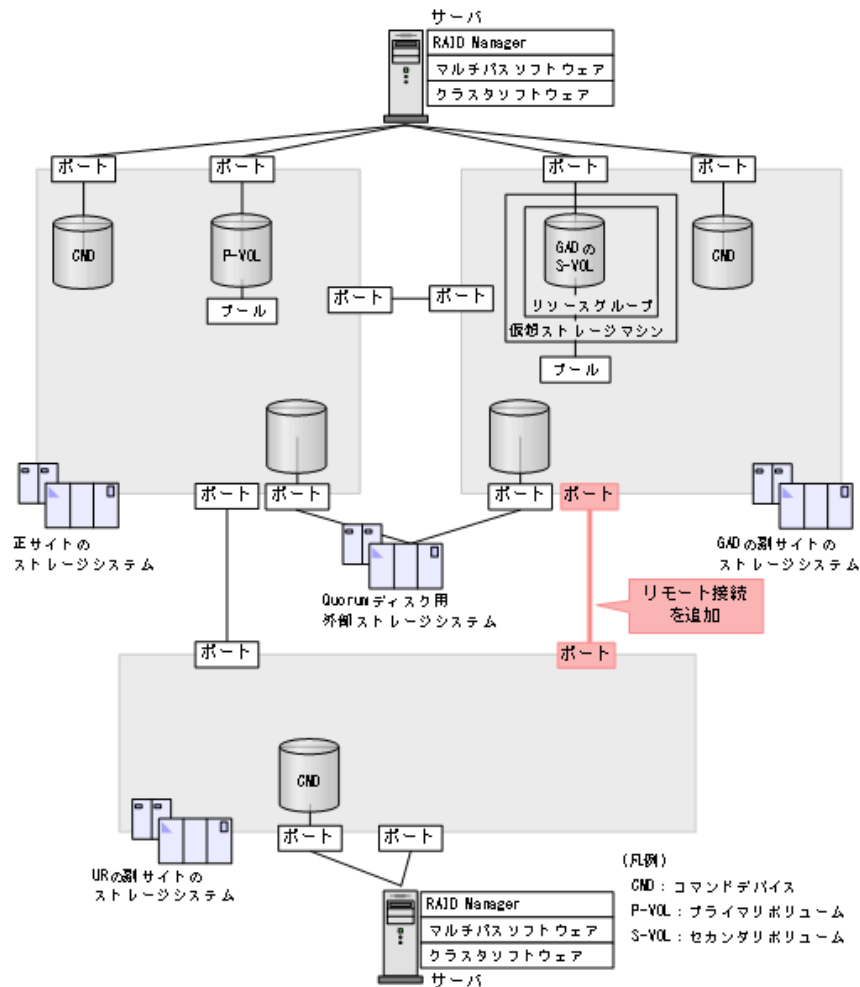
コマンド例では、コマンドごとに-IH オプションを使用してインスタンスを指定しています。インスタンスごとにシェルを起動して操作することもできます。インスタンスごとにシェルを起動して操作する場合、環境変数 HORCMINST にインスタンス番号を指定してから、コマンドを実行してください。

関連概念

- [5.13.2 RAID Manager の構成定義ファイルを編集する](#)

6.8.3 GAD の副サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する

GAD の副サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続するために、ポートの属性を設定し、2 台のストレージシステムの間にリモート接続を追加します。



関連概念

- (1) [リモート接続を追加する](#)

(1) リモート接続を追加する

GAD の副サイトと UR の副サイトのストレージシステム間に、双方向にリモート接続を追加します。なお、双方向のリモート接続で、同じパスグループ ID を指定してください。

コマンド例

- GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

- GAD の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-C) から、UR の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-C) へ、パスグループ ID が 1 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 444444 M800 1 -mcu_port CL6-C -rcu_port CL6-C -IH1
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

- UR の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-C) から、GAD の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-C) へ、パスグループ ID が 1 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 422222 M800 1 -mcu_port CL6-C -rcu_port CL6-C -IH2
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

ストレージシステム間の冗長パスは、`raidcom add rcu_path` コマンドを使用して追加します。

確認コマンド例

- GAD の副サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 444444 M800 1 -IH1
Serial#  ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs
444444   M8  0    -    -    RCU  F  1    CL6-C  CL6-C  NML_01  -
```

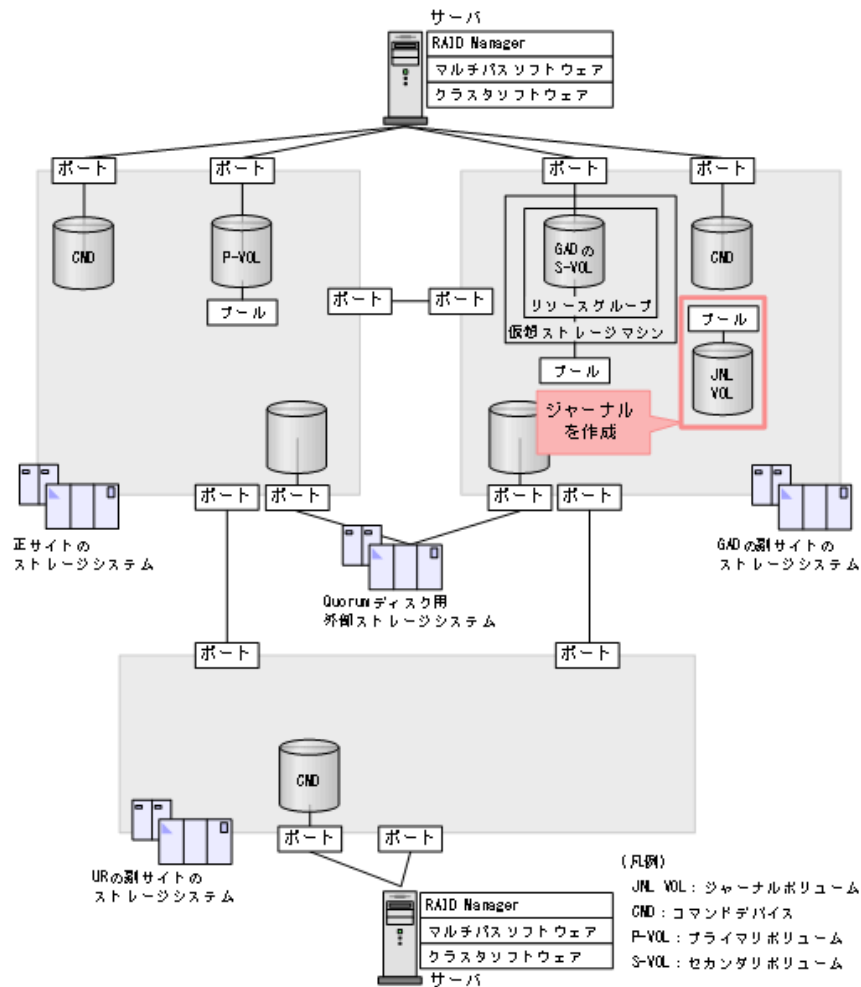
- UR の副サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 422222 M800 1 -IH2
Serial#  ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs
422222   M8  0    -    -    RCU  F  1    CL6-C  CL6-C  NML_01  -
```

ストレージシステムのシリアル番号、モデル、およびポート名が正しいこと、ならびにパスの状態が正常であることを確認します。

6.8.4 GAD の副サイトのストレージシステムを設定する

GAD の副サイトのストレージシステムに、ジャーナルを作成します。



関連概念

- (1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する
- (2) ジャーナルボリュームを作成する
- (3) ジャーナルを作成する

(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する

ジャーナルボリュームが使用する Dynamic Provisioning のプールを作成します。プールの作成にはプールボリュームが必要であるため、プールを作成する前にプールボリュームを作成します。

コマンド例

1. パリティグループ (2-1) を指定して、LDEV ID が 0x9999 のボリューム (プールボリューム) を作成します。容量は 100GB です。

```
raidcom add ldev -ldev_id 0x9999 -parity_grp_id 2-1 -capacity 100G -IH1
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

- ボリューム (0x9999) をクイックフォーマットします。

```
raidcom initialize ldev -operation qfmt -ldev_id 0x9999 -IH1
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

- プールボリュームに 0x9999 を指定して、プール ID が 1 で、プール名が LJNL_POOL の Dynamic Provisioning 用プールを作成します。

```
raidcom add dp_pool -pool_id 1 -pool_name LJNL_POOL -ldev_id 0x9999
-IH1
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

確認コマンド例

- ボリューム (LDEV ID : 0x9999) がプール (プール ID : 1) のプールボリュームに設定されていることを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH1
Serial# : 422222
LDEV : 9999
(略)
F_POOLID : 1
VOL_ATTR : CVS : POOL
(略)
```

- プールの容量を確認します。

```
raidcom get dp_pool -IH1
PID  POLS  U(%)  AV_CAP(MB)  TP_CAP(MB)  W(%)  H(%)  Num  LDEV#
LCNT  TL_CAP(MB)
001  POLN  0      98196      98196      70    80    1    39321
0      0
```

- プール名を確認します。

```
raidcom get pool -key opt -IH1
PID  POLS  U(%)  POOL_NAME  Seq#    Num  LDEV#  H(%)  VCAP(%)  TYPE
PM
001  POLN  0      LJNL_POOL  422222  1    39321  80    -        OPEN
N
```

(2) ジャーナルボリュームを作成する

ジャーナルボリュームとして使用する Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) を作成します。

コマンド例

1. プール ID が 1 の Dynamic Provisioning 用プールに、容量が 30GB、LDEV ID が 0x8888 の DP-VOL を作成します。

```
raidcom add ldev -pool 1 -ldev_id 0x8888 -capacity 30G -IH1
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH1
Serial# : 422222
LDEV : 8888
(略)
VOL_ATTR : CVS : HDP
(略)
```

(3) ジャーナルを作成する

デルタリシンク用 UR ペアが使用するジャーナルを作成します。

コマンド例

1. LDEV ID が 0x8888 のボリュームを指定して、ジャーナル ID が 0 のジャーナルを作成する。

```
raidcom add journal -journal_id 0 -ldev_id 0x8888 -IH1
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        422222  -
```

確認コマンド例

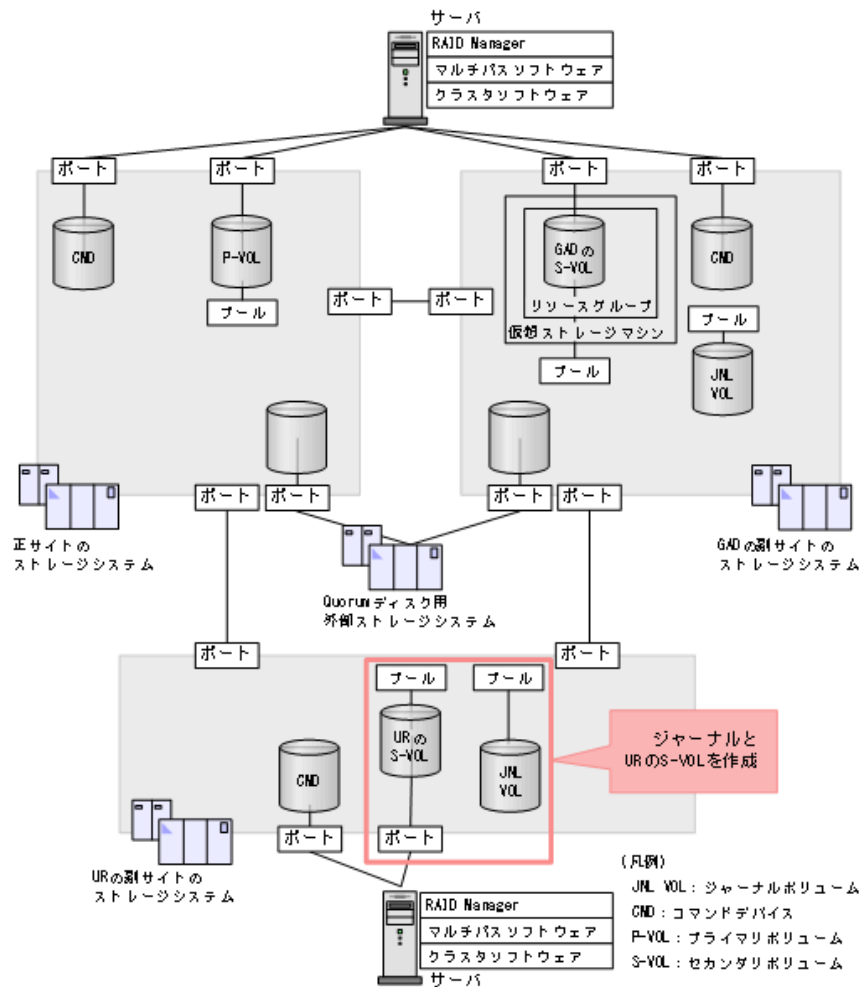
GAD の副サイトのストレージシステムにあるジャーナルの情報を表示します。

```
raidcom get journal -IH1
JID  MU  CTG  JNLS  AP  U(%)  Q-Marker  Q-CNT  D-SZ (BLK)  Seq#  Num
LDEV#
000  0  1    PJNN  4   21    43216fde  30     62914560    422222  1
34952
```

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) がジャーナル (ジャーナル ID : 0) に登録されていること、およびジャーナルの容量を確認します。

6.8.5 UR の副サイトのストレージシステムを設定する

UR の副サイトのストレージシステムに、ジャーナルと UR のセカンダリボリュームを作成します。



関連概念

- ・ (1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する
- ・ (2) ジャーナルボリュームを作成する
- ・ (3) ジャーナルを作成する
- ・ (4) プールを作成する
- ・ (5) ボリュームを作成する
- ・ (6) ホストグループを作成する
- ・ (7) セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する

(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する

ジャーナルボリュームが使用する Dynamic Provisioning のプールを作成します。プールの作成にはプールボリュームが必要であるため、プールを作成する前にプールボリュームを作成します。

コマンド例

1. パリティグループ (2-1) を指定して、LDEV ID が 0x9999 のボリューム (プールボリューム) を作成します。容量は 100GB です。

```
raidcom add ldev -ldev_id 0x9999 -parity_grp_id 2-1 -capacity 100G -IH2
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

3. ボリューム (0x9999) をクイックフォーマットします。

```
raidcom initialize ldev -operation qfmt -ldev_id 0x9999 -IH2
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

5. プールボリュームに 0x9999 を指定して、プール ID が 1 で、プール名が RJNL_POOL の Dynamic Provisioning 用プールを作成します。

```
raidcom add dp_pool -pool_id 1 -pool_name RJNL_POOL -ldev_id 0x9999 -IH2
```

6. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x9999) がプール (プール ID : 1) のプールボリュームに設定されていることを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH2
Serial# : 444444
LDEV : 9999
(略)
F_POOLID : 1
VOL_ATTR : CVS : POOL
(略)
```

2. プールの容量を確認します。

```
raidcom get dp_pool -IH2
PID  POLS  U(%)  AV_CAP(MB)  TP_CAP(MB)  W(%)  H(%)  Num  LDEV#
LCNT  TL_CAP(MB)
001  POLN  0      98196       98196       70    80    1    39321
0     0
```

3. プール名を確認します。

```
raidcom get pool -key opt -IH2
PID  POLS  U(%)  POOL_NAME  Seq#  Num  LDEV#  H(%)  VCAP(%)  TYPE
PM
```

(2) ジャーナルボリュームを作成する

ジャーナルボリュームとして使用する Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) を作成します。

コマンド例

1. プール ID が 1 の Dynamic Provisioning 用プールに、容量が 30GB、LDEV ID が 0x8888 の DP-VOL を作成します。

```
raidcom add ldev -pool 1 -ldev_id 0x8888 -capacity 30G -IH2
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH2
Serial#   : 444444
LDEV      : 8888
(略)
VOL_ATTR  : CVS : HDP
(略)
```

(3) ジャーナルを作成する

UR ペアおよびデルタリシンク用 UR ペアが使用するジャーナルを作成します。

コマンド例

1. LDEV ID が 0x8888 のボリュームを指定して、ジャーナル ID が 0 のジャーナルを作成する。

```
raidcom add journal -journal_id 0 -ldev_id 0x8888 -IH2
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

確認コマンド例

UR の副サイトのストレージシステムにあるジャーナルの情報を表示します。

```
raidcom get journal -IH2
JID  MU  CTG  JNLS  AP  U(%)  Q-Marker  Q-CNT  D-SZ (BLK)  Seq#  Num
LDEV#
000  0   1    PJNN  4   21    43216fde  30     62914560    422222  1
34952
```

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) がジャーナル (ジャーナル ID : 0) に登録されていること、およびジャーナルの容量を確認します。

(4) プールを作成する

UR ペアのセカンダリボリュームが使用する **Dynamic Provisioning** のプールを作成します。プールの作成にはプールボリュームが必要であるため、プールを作成する前にプールボリュームを作成します。

コマンド例

1. パリティグループ (13-4) を指定して、LDEV ID が 0x7777 のボリューム (プールボリューム) を作成します。容量は 100GB です。

```
raidcom add ldev -ldev_id 0x7777 -parity_grp_id 13-4 -capacity 100G -IH2
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH1
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3     -         -         0         444444   -
```

3. ボリューム (0x7777) をクイックフォーマットします。

```
raidcom initialize ldev -operation qfmt -ldev_id 0x7777 -IH2
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3     -         -         0         444444   -
```

5. プールボリュームに 0x7777 を指定して、プール ID が 0 で、プール名が VOL_POOL の Dynamic Provisioning 用プールを作成します。

```
raidcom add dp_pool -pool_id 0 -pool_name VOL_POOL -ldev_id 0x7777 -IH2
```

6. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE   SSB1     SSB2     ERR_CNT   Serial#   Description
00c3     -         -         0         444444   -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x7777) がプール (プール ID : 0) のプールボリュームに設定されていることを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x7777 -fx -IH2
Serial# : 444444
LDEV : 7777
(略)
F_POOLID : 0
VOL_ATTR : CVS : POOL
(略)
```

- プールの容量を確認します。

```
raidcom get dp_pool -IH2
PID  POLS  U(%)  AV_CAP(MB)  TP_CAP(MB)  W(%)  H(%)  Num  LDEV#
LCNT  TL_CAP(MB)
000  POLN   0     98196      98196       70    80    1    30583
0     0
```

- プール名を確認します。

```
raidcom get pool -key opt -IH2
PID  POLS  U(%)  POOL_NAME  Seq#    Num  LDEV#  H(%)  VCAP(%)  TYPE
PM
000  POLN   0     VOL_POOL   444444  0    30583  80    -         OPEN
N
```

(5) ボリュームを作成する

UR ペアのセカンダリボリュームとして使用するボリュームを作成します。

コマンド例

- プール ID が 0 の Dynamic Provisioning 用プールに、容量が 1,024,000block、LDEV ID が 0x6666 の DP-VOL を作成します。

```
raidcom add ldev -pool 1 -ldev_id 0x6666 -capacity 1024000 -IH2
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -     0         444444    -
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x6666) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x6666 -fx -IH2
Serial# : 444444
LDEV : 6666 VIR_LDEV : 6666
(略)
VOL_Capacity(BLK) : 41943040
(略)
VOL_ATTR : CVS : HDP
B_POOLID : 0
(略)
```

(6) ホストグループを作成する

UR ペアのセカンダリボリュームが使用するホストグループを作成します。また、必要に応じてホストモードを設定します。



メモ

ホストグループ ID が 0 のホストグループは、デフォルトであります。ホストグループ ID が 1 以降のホストグループを作成するときだけ、ホストグループの作成が必要です。

コマンド例

1. ポート (CL1-A) に、ホストグループ ID が 1 のホストグループ (REMOTE) を作成します。

```
raidcom add host_grp -port CL1-A-1 -host_grp_name REMOTE -IH2
```

2. 必要に応じて、ホストグループにホストモードを設定します。

ホストモードを Windows に設定する例：

```
raidcom modify host_grp -port CL1-A-1 -host_mode WIN -IH2
```

確認コマンド例

ポート (ポート名：CL1-A) に設定されているホストグループの情報を表示します。

```
raidcom get host_grp -port CL1-A -IH2
PORT  GID  GROUP_NAME  Serial#  HMD  HMO_BITS
CL1-A  0    1C-G00      4444444  WIN
CL1-A  1    REMOTE      4444444  WIN
```

ポート名、ホストグループ ID、およびホストグループ名が正しいことを確認します。

(7) セカンダリボリューム用のボリュームに LU パスを追加する

サーバと接続しているポートと、UR ペアのセカンダリボリュームとの間に、LU パスを追加します。

コマンド例

ホストグループ (CL1-A-1) と LU (1) を指定して、セカンダリボリューム (0x6666) に LU パスを追加します。

```
raidcom add lun -port CL1-A-1 -lun_id 1 -ldev_id 0x6666 -IH2
```

確認コマンド例

ホストグループ (CL1-A-1) に定義されている LU パスの情報を表示します。

```
raidcom get lun -port CL1-A-1 -fx -IH2
PORT  GID  HMD  LUN  NUM  LDEV  CM  Serial#  HMO_BITS
CL1-A  1    WIN  1    1    6666  -   4444444
```

6.8.6 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する

デルタリシンク用 UR ペアを作成するには、RAID Manager の構成定義ファイルの更新が必要です。

関連概念

- (1) RAID Manager のインスタンスを停止する
- (2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する
- (3) RAID Manager のインスタンスを再起動する

(1) RAID Manager のインスタンスを停止する

構成定義ファイルを編集する前に、RAID Manager のインスタンスを停止します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 1 と 2 を終了します。

- GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmshutdown 1
inst 1:
horcmshutdown inst 1 !!!
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmshutdown 2
inst 2:
horcmshutdown inst 2 !!!
```

(2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する

デルタリンク用 UR ペアを作成するために、RAID Manager の構成定義ファイルを編集します。Windows で構成定義ファイルを編集する例を次に示します。



メモ

ボリュームは、仮想 LDEV ID ではなく実 LDEV ID で指定してください。

horcm1.conf (GAD の副サイトのストレージシステム操作用)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address  service  poll (10ms)  timeout (10ms)
localhost    31001    -1           3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-422222-17476

HORCM_LDEV
#GRP  DEV  SERIAL  LDEV#  MU#
oraHA  dev1  422222  44:44  h0
oraDELTA  dev3  422222  44:44  h2

HORCM_INST
#GRP  IP ADR  PORT#
oraHA  localhost  31000

HORCM_INSTP
#dev_group  ip_address  service  pathID
oraDELTA  localhost  31002  1
```

horcm2.conf (UR の副サイトのストレージシステム操作用)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address  service  poll (10ms)  timeout (10ms)
localhost    31002    -1           3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-444444-26214

HORCM_LDEV
#GRP  DEV  SERIAL  LDEV#  MU#
oraHA  dev1  444444  66:66  h0
oraDELTA  dev3  444444  66:66  h2
```

```
HORCM_INSTP
#dev_group ip_address service pathID
oraDELTA localhost 31001 1
```

(3) RAID Manager のインスタンスを再起動する

構成定義ファイルを編集したら、RAID Manager のインスタンスを再起動します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 1 と 2 を起動します。

- GAD の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 1
starting HORCM inst 1
HORCM inst 1 starts successfully.
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 2
starting HORCM inst 2
HORCM inst 2 starts successfully.
```

6.8.7 デルタリシンク用 UR ペアを作成する

GAD の副サイトのストレージシステム操作のインスタンスで、デルタリシンク用 UR ペアを作成します。

ボリュームを共有する GAD ペアとデルタリシンク用 UR ペアとでは、異なるミラー ID を指定します。

6.9 UR ペアを作成する

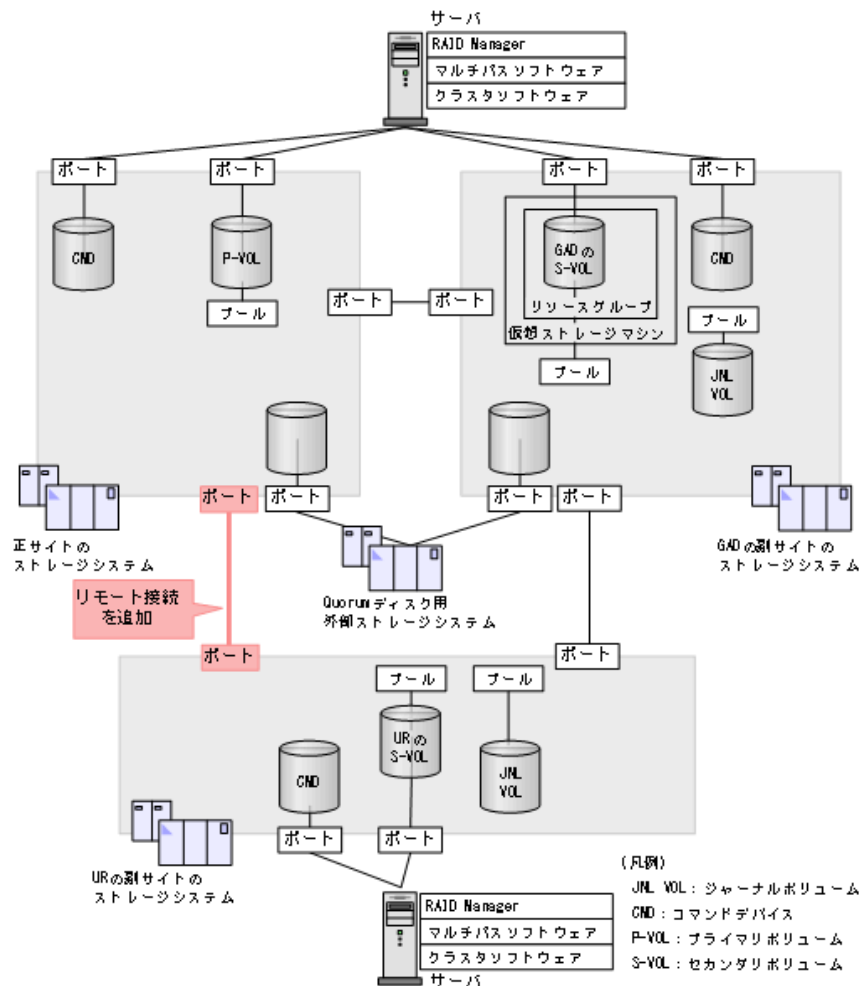
デルタリシンク用の UR ペアの作成が完了したら、正サイトと UR の副サイトのストレージシステムの間で、UR ペアを作成します。

関連概念

- 6.9.1 正サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する
- 6.9.2 正サイトのストレージシステムを設定する
- 6.9.3 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する
- 6.9.4 UR ペアを作成する

6.9.1 正サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続する

正サイトと UR の副サイトのストレージシステムを接続するために、ポートの属性を設定し、2 台のストレージシステムの間でリモート接続を追加します。



関連概念

- (1) リモート接続を追加する

(1) リモート接続を追加する

正サイトと UR の副サイトのストレージシステム間に、双方向にリモート接続を追加します。なお、双方向のリモート接続で、同じパスグループ ID を指定してください。

コマンド例

- 正サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

- GAD の正サイトのストレージシステムのポート (CL6-A) から、UR の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-A) へ、パスグループ ID が 2 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 444444 M800 2 -mcu_port CL6-A -rcu_port CL6-A -IH0
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

- UR の副サイトのストレージシステムのポート (CL6-A) から、GAD の正サイトのストレージシステムのポート (CL6-A) へ、パスグループ ID が 2 のリモート接続を追加します。

```
raidcom add rcu -cu_free 411111 M800 2 -mcu_port CL6-A -rcu_port CL6-A -IH2
```

- 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH2
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        444444  -
```

ストレージシステム間の冗長パスは、`raidcom add rcu_path` コマンドを使用して追加します。

確認コマンド例

- 正サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 444444 M800 2 -IH0
Serial#  ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs
444444   M8  0    -    -    RCU  F  2    CL6-A  CL6-A  NML_01  -
```

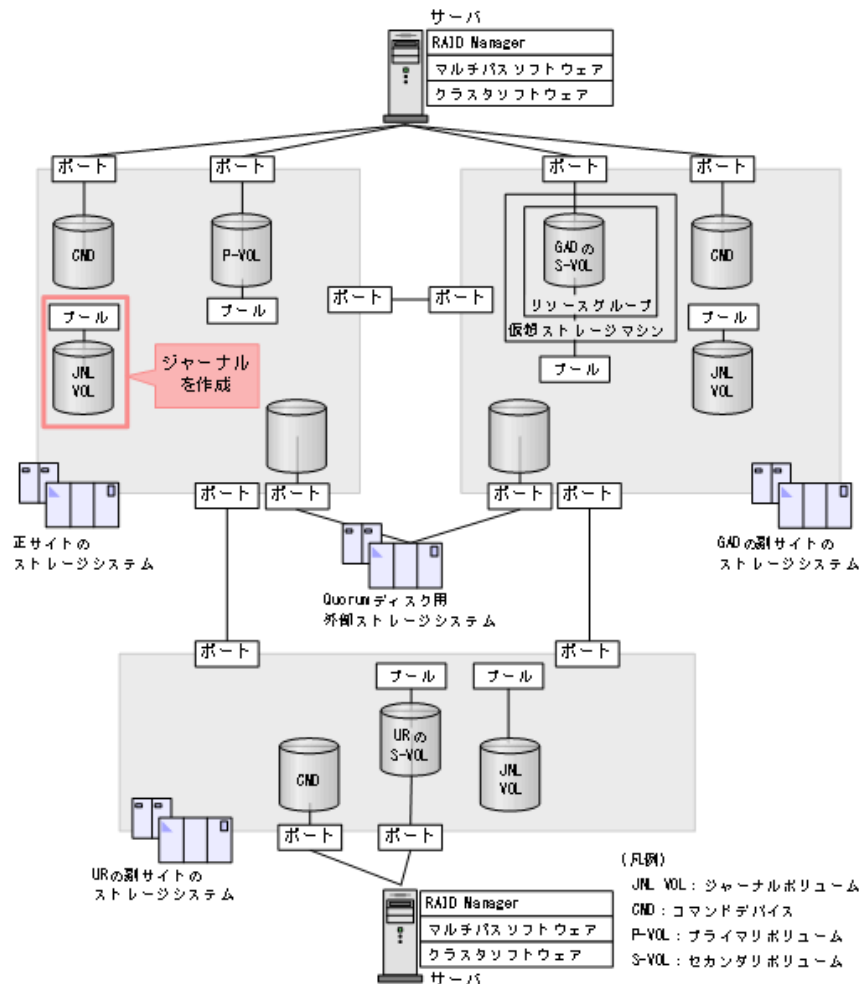
- UR の副サイトのストレージシステムで、リモート接続の情報を表示します。

```
raidcom get rcu -cu_free 411111 M800 2 -IH2
Serial#  ID  PID  MCU  RCU  M/R  T  PNO  MPORT  RPORT  STS_CD  SSIDs
411111   M8  0    -    -    RCU  F  2    CL6-A  CL6-A  NML_01  -
```

ストレージシステムのシリアル番号、モデル、およびポート名が正しいこと、ならびにパスの状態が正常であることを確認します。

6.9.2 正サイトのストレージシステムを設定する

正サイトのストレージシステムに、ジャーナルを作成します。



関連概念

- (1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する
- (2) ジャーナルボリュームを作成する
- (3) ジャーナルを作成する

(1) ジャーナルボリューム用のプールを作成する

ジャーナルボリュームが使用する Dynamic Provisioning のプールを作成します。プールの作成にはプールボリュームが必要であるため、プールを作成する前にプールボリュームを作成します。

コマンド例

1. パリティグループ (2-1) を指定して、LDEV ID が 0x9999 のボリューム (プールボリューム) を作成します。容量は 100GB です。

```
raidcom add ldev -ldev_id 0x9999 -parity_grp_id 2-1 -capacity 100G -IH0
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

3. ボリューム (0x9999) をクイックフォーマットします。

```
raidcom initialize ldev -operation qfmt -ldev_id 0x9999
-IH0
```

4. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

5. プールボリュームに 0x9999 を指定して、プール ID が 1 で、プール名が PJNL_POOL の Dynamic Provisioning 用プールを作成します。

```
raidcom add dp_pool -pool_id 1 -pool_name PJNL_POOL -ldev_id 0x9999
-IH0
```

6. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

確認コマンド例

1. ボリューム (LDEV ID : 0x9999) がプール (プール ID : 1) のプールボリュームに設定されていることを確認します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH0
Serial# : 411111
LDEV : 9999
(略)
F_POOLID : 1
VOL_ATTR : CVS : POOL
(略)
```

2. プールの容量を確認します。

```
raidcom get dp_pool -IH0
PID  POLS  U(%)  AV_CAP(MB)  TP_CAP(MB)  W(%)  H(%)  Num  LDEV#
LCNT  TL_CAP(MB)
001  POLN  0      98196      98196      70    80    1    39321
0      0
```

3. プール名を確認します。

```
raidcom get pool -key opt -IH0
PID  POLS  U(%)  POOL_NAME  Seq#    Num  LDEV#  H(%)  VCAP(%)  TYPE
PM
001  POLN  0      PJNL_POOL  411111  1    39321  80    -         OPEN
N
```

(2) ジャーナルボリュームを作成する

ジャーナルボリュームとして使用する Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) を作成します。

コマンド例

1. プール ID が 1 の Dynamic Provisioning 用プールに、容量が 30GB、LDEV ID が 0x8888 の DP-VOL を作成します。

```
raidcom add ldev -pool 1 -ldev_id 0x8888 -capacity 30G -IH0
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

確認コマンド例

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH0
Serial#   : 411111
LDEV      : 8888
(略)
VOL_ATTR  : CVS : HDP
(略)
```

(3) ジャーナルを作成する

UR ペアが使用するジャーナルを作成します。

コマンド例

1. LDEV ID が 0x8888 のボリュームを指定して、ジャーナル ID が 0 のジャーナルを作成する。

```
raidcom add journal -journal_id 0 -ldev_id 0x8888 -IH0
```

2. 非同期コマンドの処理が正常終了したことを確認します。

```
raidcom get command_status -IH0
HANDLE  SSB1  SSB2  ERR_CNT  Serial#  Description
00c3    -    -    0        411111  -
```

確認コマンド例

正サイトのストレージシステムにあるジャーナルの情報を表示します。

```
raidcom get journal -IH0
JID  MU  CTG  JNLS  AP  U(%)  Q-Marker  Q-CNT  D-SZ (BLK)  Seq#  Num
LDEV#
000  0    1    PJNN  4   21    43216fde  30     62914560    411111  1
34952
```

ボリューム (LDEV ID : 0x8888) がジャーナル (ジャーナル ID : 0) に登録されていること、およびジャーナルの容量を確認します。

6.9.3 RAID Manager の構成定義ファイルを更新する

UR ペアを作成するには、RAID Manager の構成定義ファイルの更新が必要です。

関連概念

- (1) RAID Manager のインスタンスを停止する
- (2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する
- (3) RAID Manager のインスタンスを再起動する

(1) RAID Manager のインスタンスを停止する

構成定義ファイルを編集する前に、RAID Manager のインスタンスを停止します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 0 と 2 を終了します。

- 正サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmshutdown 0
inst 0:
horcmshutdown inst 0 !!!
```

- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmshutdown 2
inst 2:
horcmshutdown inst 2 !!!
```

(2) RAID Manager の構成定義ファイルを編集する

UR ペアを作成するために、RAID Manager の構成定義ファイルを編集します。Windows で構成定義ファイルを編集する例を次に示します。



メモ

ボリュームは、仮想 LDEV ID ではなく実 LDEV ID で指定してください。

horcm0.conf (正サイトのストレージシステム操作用)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address  service  poll(10ms)  timeout(10ms)
localhost    31000      -1          3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-411111-8738

HORCM_LDEV
#GRP      DEV    SERIAL  LDEV#  MU#
oraHA     dev1   411111  22:22  h0
oraREMOTE dev2   411111  22:22  h1

HORCM_INST
#GPR      IP ADR    PORT#
oraHA     localhost 31001

HORCM_INSTP
#dev_group ip_address  service  pathID
oraREMOTE  localhost  31002    2
```

horcm2.conf (UR の副サイトのストレージシステム操作)

太字部分を追記します。

```
HORCM_MON
#ip_address  service  poll(10ms)  timeout(10ms)
localhost    31002    -1          3000

HORCM_CMD
¥¥.¥CMD-444444-26214

HORCM_LDEV
#GRP  DEV  SERIAL  LDEV#  MU#
oraDELTA  dev3  444444  66:66  h2
oraREMOTE dev2  444444  66:66  h1

HORCM_INST
#GPR  IP ADR  PORT#
oraDELTA  localhost  31001

HORCM_INSTP
#dev_group  ip_address  service  pathID
oraREMOTE  localhost  31000    2
```

(3) RAID Manager のインスタンスを再起動する

構成定義ファイルを編集したら、RAID Manager のインスタンスを再起動します。

コマンド例 (Windows の場合)

インスタンス 0 と 2 を起動します。

- 正サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 0
starting HORCM inst 0
HORCM inst 0 starts successfully.
```

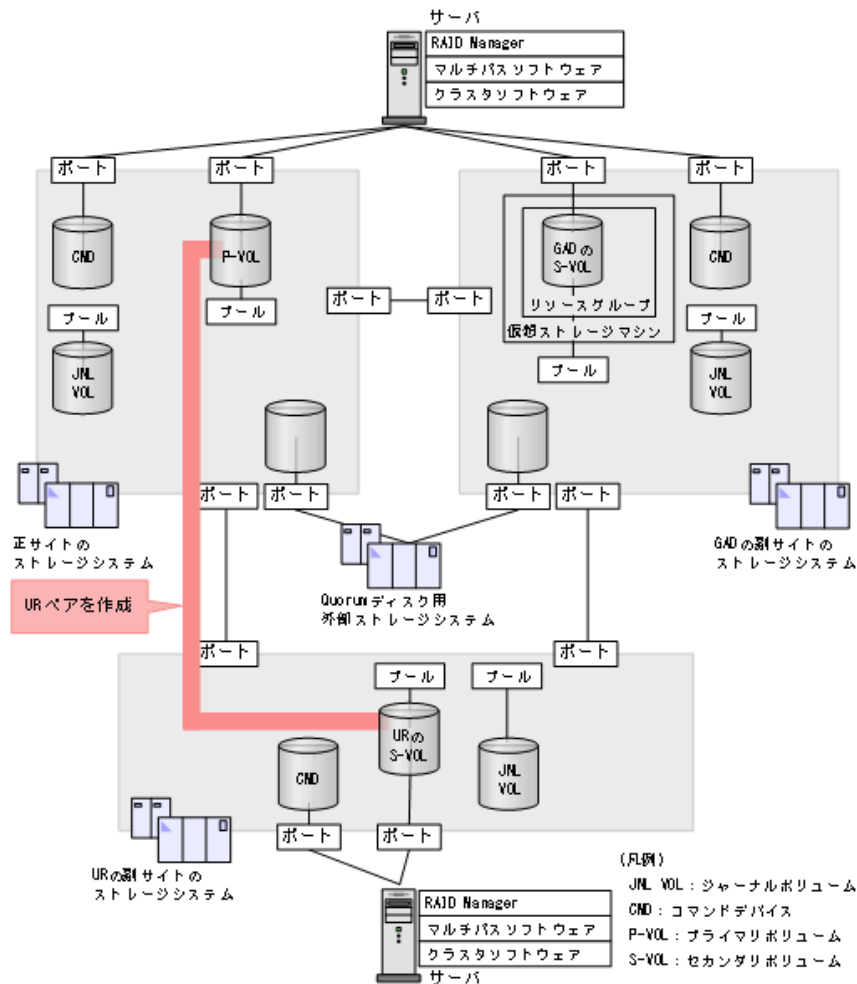
- UR の副サイトのストレージシステムに接続しているサーバ

```
horcmstart 2
starting HORCM inst 2
HORCM inst 2 starts successfully.
```

6.9.4 UR ペアを作成する

正サイトのストレージシステム操作のインスタンスで、UR ペアを作成します。

ボリュームを共有する GAD ペアおよびデルタリシンク用 UR ペアと UR ペアでは、異なるミラー ID を指定します。



コマンド例

ジャーナル ID に 0 を指定して、UR ペアを作成します。

```
paircreate -g oraREMOTE -f async -vl -jpl 0 -js 0 -IH0
```

確認コマンド例

UR ペアの作成が完了したことを確認します。

```
pairdisplay -g oraREMOTE -fxce -IH0
Group      PairVol (L/R)  (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraREMOTE dev2 (L)  (CL1-A-1, 0, 1) 411111 2222. P-VOL
PAIR      ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - -
oraREMOTE dev2 (R)  (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL
PAIR      ASYNC ,0 2222 - 0 0 - - - - -
```

6.10 運用を開始する

サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。

サーバが I/O を発行すると、システム構成に関する情報が 3 台のストレージシステムへ通知されます。デルタリシンク用 UR ペアの状態が、PSUE から PSUS に変わります。ミラーの状態は PJNS のままです。ペア状態とミラー状態を確認したら、障害を通知する SIM が発生していないことも確認します。

確認コマンド例

1. GAD の副サイトのストレージシステム操作のインスタンスで、デルタリシンク用 UR ペアの状態が PSUS であることを確認します。

```
pairdisplay -g oraDELTA -fxce -IH1
Group      PairVol(L/R)  (Port#,TID, LU),Seq#,  LDEV#.P/S,
Status,Fence, %,  P-LDEV#  M  CTG  JID  AP  EM  E-Seq#  E-LDEV#  R/W
oraDELTA  dev3(L)        (CL1-A-1, 0, 1) 422222 4444. P-VOL PSUS
ASYNC ,0  6666        -  0    0    -    -    -    -    -    -/-
oraDELTA  dev3(R)        (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL SSUS
ASYNC ,0  4444        -  0    0    -    -    -    -    -    -/-
```

2. GAD の副サイトのストレージシステム操作のインスタンスで、デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が PJNS であることを確認します。

```
pairdisplay -g oraDELTA -v jnl -IH1
JID  MU  CTG  JNLS  AP  U(%)  Q-Marker  Q-CNT  D-SZ (BLK)  Seq#  Num
LDEV#
000  1   1    PJNS  4   21    43216fde  30     512345      62500  1
39321
```

3. 障害を通知する SIM が発生していないことを確認します。

global-active device ペアの操作

ここでは、global-active device (GAD) ペアの操作について説明します。

- 7.1 GAD ペアの操作とは
- 7.2 GAD ペアの操作全般に関する注意事項
- 7.3 GAD ペアを作成する
- 7.4 GAD ペアを中断する
- 7.5 GAD ペアを再同期する
- 7.6 GAD ペアを削除する
- 7.7 GAD ペアを強制的に削除する
- 7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する
- 7.9 優先して使用するパスの設定を変更する
- 7.10 UR と GAD を併用するときの GAD ペアの操作

7.1 GAD ペアの操作とは

作成した GAD ペアを、中断したり、再同期したり、削除したりします。GAD ペアの操作の種類と、対応する RAID Manager のコマンドを次に示します。

GAD ペアの操作	RAID Manager のコマンド
ペア作成	paircreate
ペア中断	pairsplit
ペア再同期	pairresync
ペア削除	pairsplit

各コマンドの詳細は、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

7.2 GAD ペアの操作全般に関する注意事項

GAD ペアの操作全般に関する注意事項を次に示します。

- LU パスの設定を解除したボリュームは、ペア操作およびペア状態の確認ができません。操作対象またはペア状態の確認対象のボリュームには、あらかじめ LU パスを設定してください。
- ファームウェアの交換処理中は、ペア操作ができません。ファームウェアの交換処理が完了していることを確認してからペア操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。
- エラーが発生したなどの理由によって、ファームウェアの交換処理が中断されていると、ペア操作ができません。ファームウェアの交換処理が正常に完了していることを確認してから、ペア操作をしてください。ただし、RAID Manager からは、ファームウェアの交換処理中でも、ペア操作ができます。
- GAD ペアが二重化中のときに次の状態が継続すると、GAD ペアの二重化よりも更新 I/O を優先させるために、GAD ペアが中断されることがあります。
 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームが属する MP ユニット内のプロセス稼働率が 70%以上
 - 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームに対する更新 I/O の流入量が多い
 - 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 65%以上GAD ペアを作成または再同期するときは、各サイトのストレージシステムの負荷状況を考慮してください。
- GAD ペアを作成または再同期する場合、正サイトまたは副サイトのストレージシステムでコントローラボードが閉塞していると、ペア操作が失敗する可能性があります。閉塞している場合には、コントローラボードを回復させてからペア操作を実施してください。

7.3 GAD ペアを作成する

正サイトと副サイトのストレージシステムのボリュームを使用して、GAD ペアを作成します。

コンシステンシーグループを使用するときは、ペアを作成するときにオプションを指定して、GAD ペアをコンシステンシーグループに登録します。

前提条件

- セカンダリボリュームとして使用するボリュームの仮想属性に GAD 予約が割り当て済みであること。



メモ

raidcom get ldev コマンドで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量 (block 数) が同じであることを確認してください。



メモ

ALUA モードが有効に設定されている状態で GAD ペアを作成する場合、GAD ペア作成後にサーバを再起動してください。

コマンド例

```
paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -IH0
```

リモートパス障害時 IO 優先モードを設定してペアを作成する

リモートパス障害時 IO 優先モードを設定して、GAD ペアを作成する手順を次に示します。リモートパス障害時 IO 優先モードを設定したペアを作成する場合は、ペアを作成するときにオプションを指定します。

リモートパス障害時 IO 優先モードの機能詳細は、「[1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)」を参照してください。

前提条件

リモートパス障害時 IO 優先モードを設定したペアを作成する場合は、通常のペア作成の前提条件に加え、次の前提条件も満たすようにしてください。

- 作成するペアをコンシステンシーグループに登録する場合、コンシステンシーグループ内の既存ペアすべてに、作成するペアと同じリモートパス障害時 IO 優先モードを設定しておくこと

コマンド例

リモートパス障害時 IO 優先モードが、「プライマリボリューム」のペアを作成する場合：

```
paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -pr pvol -IH0
```

リモートパス閉塞時 IO 優先モードが「無効」のペアを作成する場合：

```
paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -IH0
```

コンシステンシーグループ 2 (CTG ID : 2) に、リモートパス障害時 IO 優先モードが「プライマリボリューム」のペアを作成する場合：

```
paircreate -g oraHA -fg never 2 -vl -jq 0 -pr pvol -IH0
```

確認コマンド例

PR 列を参照して、リモートパス障害時 IO 優先モードが設定されていることを確認します。

```
pairdisplay -g oraHA -fcxe
Group   PairVol (L/R) (Port#, TID, LU), Seq#, LDEV#. P/S, Status, Fence,   %, P-
LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P PR
oraHA   dev1 (L)      (CL1-A-0, 0, 0) 411111 60.P-VOL PAIR NEVER ,
100    60 - - 0 1 -           - - L/M AA S N P
oraHA   dev1 (R)      (CL1-C-0, 0, 0) 422222 60.S-VOL PAIR NEVER ,
100    60 - - 0 1 -           - L/M AA S N P
```

PR 列：リモートパス障害時 IO 優先モードが表示されます。

P：プライマリボリューム

D：無効

リモートパス障害時 IO 優先モードをサポートしていないストレージシステムでは、「-」（ハイフン）が表示されます。

関連概念

- [1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)

7.4 GAD ペアを中断する

GAD ペアを中断するには、次の 2 種類の方法があります。

- プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断する
プライマリボリュームで I/O が継続されます。
- セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断する（スワップサスペンド）
セカンダリボリュームで I/O が継続されます。

コンシステンシーグループに登録されているペアを中断する場合、そのペアが登録されているコンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアを中断することもできます。

コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを中断すると、中断操作が完了したあとに、GAD ペアの状態が中断状態に変わります。中断操作を実施したあとに、コンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアが中断状態に変わったことを確認してください。コンシステンシーグループに登録されている GAD ペアの数が多い場合は、コンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアが中断状態に変わるまでに、数分掛かることもあります。数分待っても GAD ペアが中断状態に変わらないときは、何らかの障害によって GAD ペアの状態遷移が失敗しているおそれがあります。



注意

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断する前に、Quorum ディスクが正常かどうか、確認することを推奨します。Quorum ディスクが閉塞している状態でセカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断する場合、GAD ペア中断時に副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスで障害が発生すると、GAD 状態がブロックになるおそれがあります。

コマンド例

```
pairsplit -g oraHA -IH0
```

関連タスク

- [7.4.1 ペアが中断状態時に ALUA モードを変更する](#)

7.4.1 ペアが中断状態時に ALUA モードを変更する

GAD ペアが中断状態の場合、ALUA モードを変更できます。GAD ペアの再同期前にプライマリボリュームの ALUA モードを有効にすると、GAD ペアを再同期するときに、セカンダリボリュームの ALUA モードも有効になります。

前提条件

- サーバで ALUA を使用できる設定になっていること。

操作手順

1. サーバをシャットダウンします。
2. GAD ペアを中断します。

```
pairsplit -g oraHA -IH0
```

3. ALUA モードを有効にします。

```
raidcom modify ldev -ldev_id 0x2222 -alua enable -IH0
```

4. GAD ペアを再同期します。

```
pairresync -g oraHA -IH0
```

5. サーバを起動します。



注意

- サーバがすでに認識しているボリュームの ALUA 設定を変更する場合、サーバをシャットダウンしてから、ALUA 設定を変更してください。設定変更後にサーバを起動して、ボリュームを認識させることで、サーバに ALUA 設定の変更が認識されます。
- サーバがオンライン中に ALUA 設定を変更した場合、サーバが ALUA 設定の変更を認識しなかったり、異常動作をする可能性があります。

関連概念

- [7.4 GAD ペアを中断する](#)

7.5 GAD ペアを再同期する

中断している GAD ペアを再同期します。GAD ペアを再同期するには、次の 2 種類の方法があります。

- プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する
プライマリボリュームのデータをセカンダリボリュームにコピーして、ペアを再同期します。
- セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する（スワップリンク）
プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。新しいプライマリボリュームのデータをセカンダリボリュームへコピーして、ペアを再同期します。



メモ

プライマリボリュームのペア状態が PSUE、かつセカンダリボリュームのペア状態が PAIR のときに GAD ペアを再同期すると、ペアの再同期が失敗します。プライマリボリュームのペア状態が PSUE、セカンダリボリュームのペア状態が PAIR のときは、次の手順で GAD ペアを再同期します。

1. セカンダリボリュームを指定して、GAD ペアを中断します（スワップサスペンド）。
セカンダリボリュームのペア状態が PSUE に変わります。
2. プライマリボリュームを指定して、GAD ペアを再同期します。
プライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が PAIR に変わります。

コンシステンシーグループに登録されているペアを再同期する場合、そのペアが登録されているコンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアを再同期することもできます。また、コンシステンシーグループに登録されていないペアを再同期するときに、コンシステンシーグループに登録できます。

コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを再同期すると、再同期操作が完了したあとに、GAD ペアの状態が二重化中状態または二重化状態に変わります。再同期操作を実施したあとに、コンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアが二重化中状態または二重化状態に変わったことを確認してください。コンシステンシーグループに登録されている GAD ペアの数が多く場合は、コンシステンシーグループ内のすべての GAD ペアが二重化中状態または二重化状態に変わるまでに、数分掛かることもあります。数分待っても、GAD ペア状態が二重化中状態または二重化状態にならないときは、何らかの障害によって GAD ペアの状態遷移が失敗しているおそれがあります。

前提条件

- GAD ペアが中断していること。

コマンド例

```
pairresync -g oraHA -IH0
```

既存ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードを変更する

既存ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードの設定を変更する手順を次に示します。既存ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードの設定を変更する場合、リモートパス障害時 IO 優先モードのオプションを指定して、ペアを再同期します。

リモートパス障害時 IO 優先モードの機能詳細は、「[1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)」を参照してください。



メモ

コンシステンシーグループに所属している GAD ペアのリモートパス障害時 IO 優先モードを変更する場合は、コンシステンシーグループに所属するすべてのペアが同じモードとなるように、コンシステンシーグループ全体に対して、リモートパス障害時 IO 優先モードの変更をしてください。コンシステンシーグループ単位の設定方法は、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

コマンド例

リモートパス障害時 IO 優先モードを「無効」から「プライマリボリューム」に切り替えてペアを再同期する場合のコマンド例：

```
pairresync -g oraHA -pr pvol -IH0
```


リモートパス障害時 IO 優先モードを「プライマリボリューム」から「無効」に切り替えてペアを再同期する場合のコマンド例：

```
pairresync -g oraHA -pr disable -IH0
```

確認コマンド例

PR 列を参照して、リモートパス障害時 IO 優先モードが設定されていることを確認します。

```
pairdisplay -g oraHA -fcxe
Group PairVol (L/R) (Port#, TID, LU), Seq#, LDEV#. P/S, Status, Fence, %, P-
LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P PR
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 60.P-VOL PAIR NEVER ,
100 60 - - 0 1 - - L/M AA S N P
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 60.S-VOL PAIR NEVER ,
100 60 - - 0 1 - - L/M AA S N P
```

PR 列：リモートパス障害時 IO 優先モードが表示されます。

P：プライマリボリューム

D：無効

関連概念

- [1.8 GAD のリモートパス障害時 IO 優先モード](#)

7.6 GAD ペアを削除する

GAD ペアを削除すると、そのペアについてのすべてのコピー操作を停止してプライマリボリュームとセカンダリボリュームを単一のボリュームへと変更します。なお、ボリュームのデータは削除されません。

GAD ペアを削除するには、次の 2 種類の方法があります。

- プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除する
プライマリボリュームで I/O が継続されます。
- セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除する
セカンダリボリュームで I/O が継続されます。

I/O を継続しない方のボリュームは仮想 LDEV ID が削除され、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。指定するボリュームの条件を次に示します。

指定するボリューム	指定するボリュームの条件
プライマリボリューム	<ul style="list-style-type: none">• ペア状態：PSUS または PSUE• I/O モード：Local
セカンダリボリューム	<ul style="list-style-type: none">• ペア状態：SSWS• I/O モード：Local

サーバによっては、GAD ペアの削除により仮想 LDEV ID が削除されたボリュームに対して I/O を発行すると、アクセスロスとなることがあります。

GAD ペアを削除する前に、サーバ側で、I/O モードが Block のボリュームへのホストパスをオフラインにしてください。



メモ

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断している場合、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除します。プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断している場合、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除します。

GAD ペアを削除すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータが同期しなくなります。データが同期していない状態で同じ仮想 LDEV ID を持つボリュームが重複してサーバに見えてしまうことを防ぐために、I/O を継続しないボリュームの仮想 LDEV ID は削除されます。仮想 LDEV ID が削除され、仮想属性に GAD 予約が割り当てられると、サーバはそのボリュームを認識できなくなります。

GAD ペアを削除したあとに再度 GAD ペアを作成する場合、GAD ペアを削除したときに指定したボリュームがあるストレージシステムから、GAD ペアを再作成してください。例えば、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを削除した場合、正サイトのストレージシステムから GAD ペアを再作成します。セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを削除した場合は、副サイトのストレージシステムから GAD ペアを再作成します。

前提条件

- GAD ペアが中断していること。
- I/O を継続しないボリューム (I/O モードが Block のボリューム) へのホストパスを、サーバ側でオフラインにしておくこと。

コマンド例

```
pairsplit -g oraHA -S -IH0
```

7.7 GAD ペアを強制的に削除する

障害などにより、GAD ペアのペア状態が回復できなくなった場合、GAD ペアを強制的に削除することにより、ペア状態を回復することができます。ただし、本マニュアルの操作手順に、GAD ペアの強制削除として記載されている場合以外は、削除しないでください。誤って削除すると、データ不正などの問題を引き起こす可能性があります。

本マニュアルの操作手順の記載されている場合以外の状況で削除したい場合は、トラブルシューティング手順で指示されていない場合に、GAD ペアを強制的に削除したい場合は、お問い合わせください。



メモ

GAD ペアと UR ペアがボリュームを共有している場合に、GAD ペアを強制的に削除する場合は、UR ペアおよびデルタリンク用 UR ペアを先に削除してください。

7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する



注意

障害によりホストアクセスができなくなった GAD ペアの、ホストアクセスを強制的に回復する操作です。

- 誤って使用した場合、データ不整合など深刻な問題を引き起こす可能性があります。
- 誤って使用した場合や、操作が異常終了した場合は、お問い合わせ先に連絡してください。

適用ケース

この操作を適用できる障害ケースを次に示します。

- この操作は、これらの障害ケースのみに有効です。これらの障害ケースに該当しない場合は、絶対に使用しないでください。
- 各ケースの障害内容の詳細と回復手順は、リンク先を参照してください。
- この操作でホストアクセスを強制的に回復した後、GAD ペアは再同期による回復が可能です。

ケース	障害内容
7.8.1 適用ケース 1	ストレージシステムの障害により、P-VOL と S-VOL 両方ともペア状態が PSUE、I/O モードが Block になり、業務が停止している。
7.8.2 適用ケース 2	ストレージシステムの障害により、業務が停止している。 障害が発生しているサイトの P-VOL（または S-VOL）は、ペア状態や I/O モードが確認できず、障害復旧までに時間を要する。 S-VOL（または P-VOL）は、I/O モードが Block で中断されていて、業務が再開できない。
7.8.3 適用ケース 3	ストレージシステムの障害により、業務が停止している。 障害が発生しているサイトの P-VOL（または S-VOL）は、I/O モードが Local で中断された状態であったが、障害によりアクセスできない状態となり、障害復旧までに時間を要する。 S-VOL（または P-VOL）は、I/O モードが Block で中断されていて、業務が再開できない。

操作の種類と各ペア状態および I/O モードでの操作可否

次の 2 種類の操作が可能です。

- I/O モードが Block で中断されている GAD ペアに対して、I/O モードを Block から Local に強制的に切り替える
- I/O モードが Local で中断されている GAD ペアに対して、I/O モードを Local から Block に強制的に切り替える

各ペア状態、I/O モードに対する I/O モード強制変更の操作可否を示します。

ペア状態	I/O モード	操作可否	
		1. I/O モードを Block から Local に切り替える操作	2. I/O モードを Local から Block に切り替える操作
PAIR	不問	×	×
COPY	不問	×	×
PSUS	Local	—	○
	Block	○	—
SSUS	Local	—	○
	Block	○	—
SSWS	Local	—	○
	Block	○	—
PSUE	Local	—	○
	Block	○	—

ペア状態	I/O モード	操作可否	
		1. I/O モードを Block から Local に切り替える操作	2. I/O モードを Local から Block に切り替える操作
SMPL	不問	×	×

(凡例)

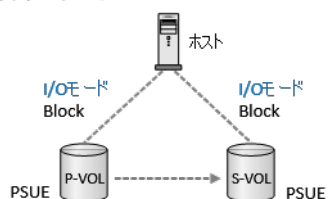
- : 操作可能
- ×
- : 状態変化なし (操作は正常終了)

GAD ペアを UR ペアと併用している環境での注意事項

- 前述の 1. の操作により、GAD ペアのセカンダリボリュームの I/O モードを Block から Local に切り替えた場合、コンシステンシーグループ内の全ペアの I/O モードが切り替わると、自動でデルタリシンクが実行されます。
デルタリシンクについては、「[7.10.1 デルタリシンクを実行する](#)」を参照してください。
- ただし、自動実行されるデルタリシンクは正常終了しません。UR ペアのペア状態が PSUE になるため、UR ペアも再同期による回復が必要です。なお、この UR ペアの再同期では、形成コピー(ペア形成時と同様の、全データコピー)が行われます。
詳細は、「[7.10.1 デルタリシンクを実行する](#)」の「[\(2\) デルタリシンクが失敗したときには](#)」を参照してください。

7.8.1 適用ケース 1

障害時の状態



ストレージシステムの障害により、プライマリボリューム (以下 P-VOL) とセカンダリボリューム (以下 S-VOL) 両方ともペア状態が PSUE、I/O モードが Block になり、業務が停止している。



メモ

障害発生時に、ホストからの書き込み要求に対して、チェック応答が返された場合は、書き込まれたデータは保証されません。

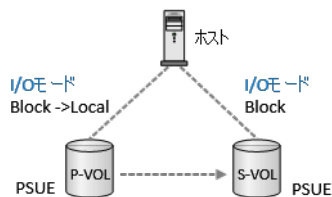
障害回復の流れ

1. P-VOL の I/O モードを Local に切り替えて、業務を再開します。

P-VOL がインスタンス 0 の場合

```
pairsplit -g oraHA -iomd local -IH0
```

P-VOL の I/O モードが Block から Local に強制的に切り替わり、業務を再開できます。

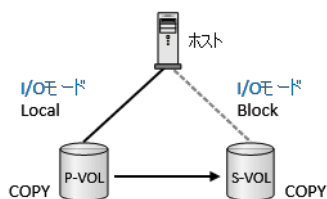


2. その後、P-VOL を指定して GAD ペアを再同期することで、GAD ペアの状態が回復します。



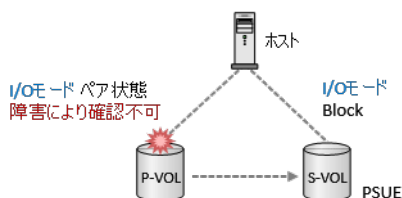
メモ

障害時の状態によっては、ペアを再同期した際に、形成コピー（ペア形成時と同等の、全データコピー）が行われることがあります。



7.8.2 適用ケース 2

障害時の状態



ストレージシステムの障害により、業務が停止している。

障害が発生しているサイトの P-VOL^{※1} は、ペア状態や I/O モードが確認できず、障害復旧までに時間を要する。

S-VOL^{※2} は、I/O モードが Block で中断されていて、業務が再開できない。

注※1

P-VOL で説明しますが、S-VOL の場合も同様です。

注※2

S-VOL で説明しますが、P-VOL の場合も同様です。

ただし、P-VOL の場合、GAD ペアと UR ペアを併用している環境では、既にデルタリシンクが動作済の場合があります。

その場合、先に UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアを削除してから、下記の方法で GAD ペアを回復してください。

その後、UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアを再形成してください。

障害回復の流れ

1. S-VOL の I/O モードを Local に切り替えて、業務を再開します。

S-VOL がインスタンス 1 の場合

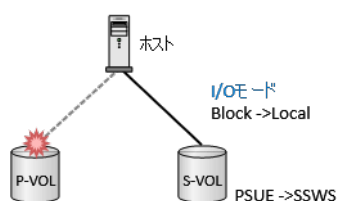
```
pairsplit -g oraHA -iomd local -IH1
```

S-VOL の I/O モードが Block から Local に強制的に切り替わり、業務を再開できます。S-VOL のペア状態が PSUE から SSWS に変わります。



メモ

ただし、データは GAD ペアが中断された時点のデータであるため、最新のデータではない場合があります。

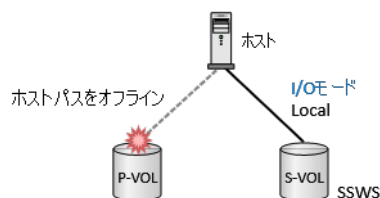


2. 障害が発生しているサイトの復旧作業を開始する前に、ホストから P-VOL へのホストパスをオフラインにします。



注意

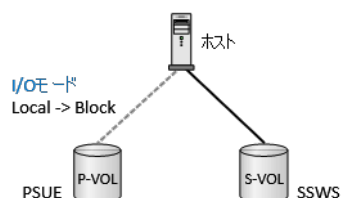
必ずオフラインにしてください。障害発生前に P-VOL の I/O モードが Local となっていた場合に、ホストがスプリットブレインを起こすおそれがあるためです。



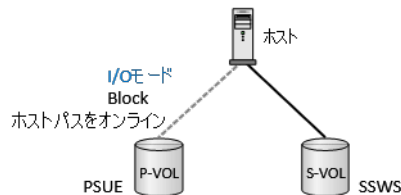
3. 障害回復後に、P-VOL の I/O モードが Local で中断されていた場合は、ホストから P-VOL を認識させる前に、P-VOL の I/O モードを Local から Block に強制的に切り替えます。

P-VOL がインスタンス 0 の場合

```
pairsplit -g oraHA -iomd block -IH0
```



4. オフラインにしたホストパスを、オンラインに変更します。

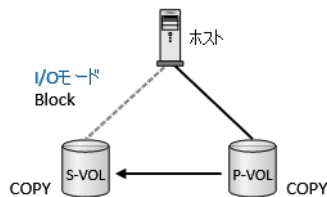


5. その後、業務を再開した S-VOL を指定して再同期することで、GAD ペアの状態が回復できます。



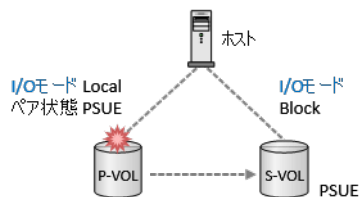
メモ

障害時の状態によっては、ペアを再同期した際に、形成コピー（ペア形成時と同等の、全データコピー）が行われることがあります。



7.8.3 適用ケース 3

障害時の状態



ストレージシステムの障害により、業務が停止している。

障害が発生しているサイトの P-VOL^{※1} は、I/O モードが Local で中断された状態であったが、ストレージシステムの障害によりアクセスできない状態となり、障害復旧までに時間を要する。

S-VOL^{※2} は、I/O モードが Block で中断されていて、業務が再開できない。なお、図ではペア状態が PSUE となっていますが、PSUS/SSUS/SSWS（オペレーションにより中断された状態）の場合も該当します。

注※1

P-VOL で説明しますが、S-VOL の場合も同様です。

注※2

S-VOL で説明しますが、P-VOL の場合も同様です。

ただし、P-VOL の場合、GAD ペアと UR ペアを併用している環境では、既にデルタリシンクが動作済の場合があります。

その場合、先に UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアを削除してから、下記の方法で GAD ペアを回復してください。

その後、UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアを再形成してください。

障害回復の流れ

1. S-VOL の I/O モードを Local に切り替えて、業務を再開します。

S-VOL がインスタンス 1 の場合

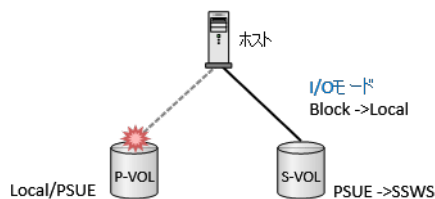
```
pairsplit -g oraHA -iomd local -IH1
```

S-VOL の I/O モードが Block から Local に強制的に切り替わり、業務を再開できます。S-VOL のペア状態が PSUE から SSWS に変わります。



メモ

ただし、データは GAD ペアが中断された時点のデータであるため、最新のデータではない場合があります。

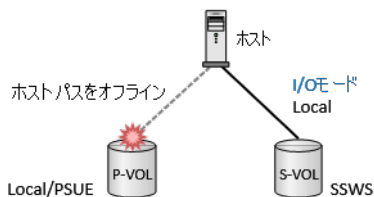


2. 障害が発生しているサイトの復旧作業を開始する前に、ホストから P-VOL へのホストパスをオフラインにします。



注意

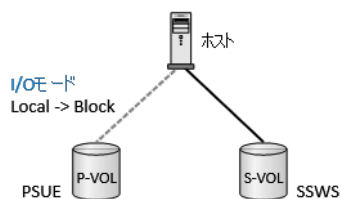
必ずオフラインにしてください。ホストがスプリットブレインを起こすおそれがあるためです。



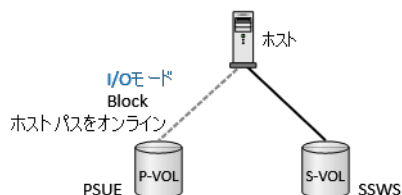
3. 障害回復後に、ホストから P-VOL を認識させる前に、P-VOL の I/O モードを Local から Block に強制的に切り替えます。

P-VOL がインスタンス 0 の場合

```
pairsplit -g oraHA -iomd block -IH0
```



4. オフラインにしたホストパスを、オンラインに変更します。

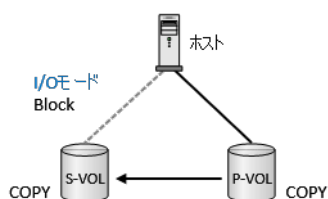


5. その後、業務を再開した S-VOL を指定して再同期することで、GAD ペアの状態が回復できます。



メモ

障害時の状態によっては、ペアを再同期した際に、形成コピー（ペア形成時と同等の、全データコピー）が行われることがあります。



7.9 優先して使用するパスの設定を変更する

優先して使用するパスの指定に必要な非対称アクセス状態の設定は、GAD ペアの状態に関係なく変更できます。また、I/O 中でも変更できます。



メモ

ストレージシステムと接続しているサーバの OS の種類によっては、非対称アクセス状態の変更を認識しないことがあります。非対称アクセス状態の設定どおりにパスが接続されない場合、サーバの OS が非対称アクセス状態の変更を認識していないおそれがあります。この場合、サーバ側からデバイスを再認識させてください。

コマンド例

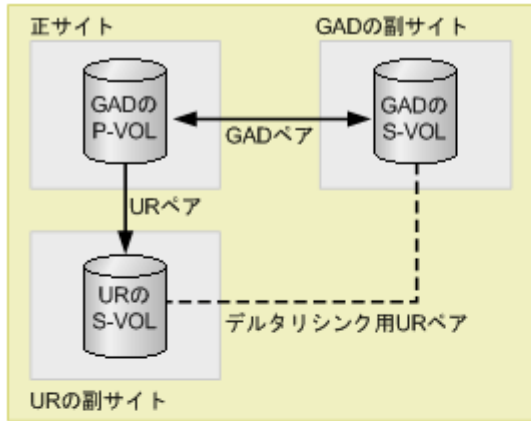
```
raidcom modify lun -port CL1-A-0 -lun_id all -asymmetric_access_state non_optimized -IH0
```

7.10 UR と GAD を併用するときの GAD ペアの操作

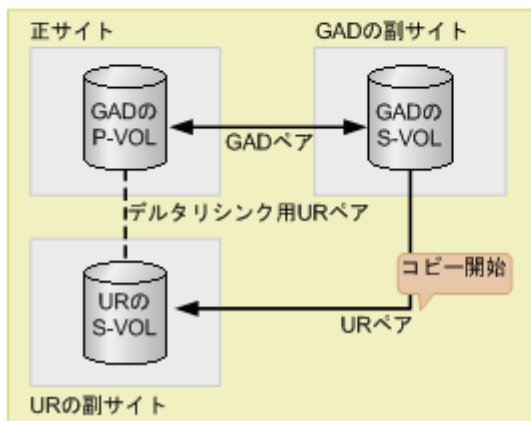
ここでは、GAD ペアと Universal Replicator (UR) ペアとがボリュームを共有するときに、注意が必要な GAD ペアの操作について説明します。

7.10.1 デルタリシンクを実行する

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断（スワップサスペンド）すると、GAD ペアのセカンダリボリュームのペア状態が、PAIR から SSWS に変わります。ペア状態が SSWS に変わると、デルタリシンク用 UR ペアが UR ペアに変わり、GAD のセカンダリボリュームから UR のセカンダリボリュームへコピーが始まります。これをデルタリシンクと呼びます。



デルタリシンクの実行



(凡例)
P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム
→ : コピーの向き

前提条件

- ペア状態およびミラー状態が次のとおりであること。

ペアの種類	ペア状態		ミラー状態	
	P-VOL	S-VOL	マスタジャーナル	リストアジャーナル
GAD ペア	PAIR	PAIR	非該当	非該当
UR ペア	PAIR	PAIR	PJNN	SJNN
デルタリシンク用 UR ペア	PSUS	SSUS	PJNS	SJNS

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム

- UR ペアのすべての差分データが、正サイトのジャーナルに格納されていること。
- UR ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリューム間でデータを転送できる状態であること。
- UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアのセカンダリボリュームの数が同じであること。
- GAD の副サイトと UR の副サイトの間のリモートパスに障害が発生していないこと。
- UR ペアを作成したあとで、サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2分程度 I/O を発行し続けていること。

```
pairsplit -g oraHA -RS -IH1
```

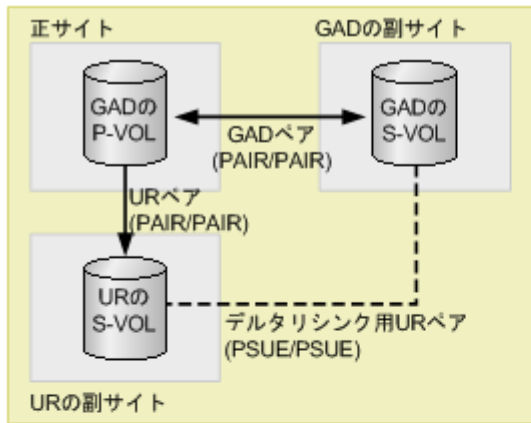
(1) デルタリシンクに関する注意事項

デルタリシンクに関する注意事項を次に示します。

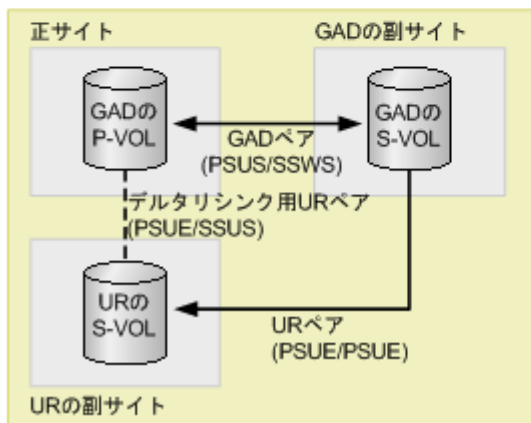
- UR ペアがサスペンドされ長期にわたって再同期されないときなどに、ジャーナルデータがリストアジャーナルボリュームの容量の 70%を超えることがあります。ジャーナルデータが容量の 70%を超えると、古いジャーナルデータは自動的に削除されます。古いジャーナルデータが削除されると、リストアジャーナルボリュームにジャーナルデータをコピーするだけでは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを完全に同一にできなくなり、デルタリシンクは失敗します。デルタリシンクが失敗した場合は、UR ペアを再同期してください。
- ジャーナルデータがジャーナルボリュームの 70%を超えなくても、次のような場合にはジャーナルデータが破棄される、または破棄されるおそれがあります。
 - GAD ペアを再同期してから、プライマリボリュームを更新した場合
 - 正サイトと UR 副サイトのストレージシステム間の UR ペアを再同期してから、プライマリボリュームを更新した場合
 - プライマリボリュームの更新が遅延して、リトライ処理が発生した場合
 - GAD ペアのセカンダリボリュームの更新が遅延した場合
- デルタリシンクを実行したにも関わらず、デルタリシンク用 UR ペアの状態が変わらない場合は、デルタリシンクの要件が満たされていないおそれがあります。GAD ペア、UR ペア、デルタリシンク用 UR ペアのペア状態が前提条件を満たしていることを確認してください。

(2) デルタリシンクが失敗したときには

デルタリシンクが失敗すると、デルタリシンク用 UR ペアが UR ペアに変わります。ただし各ペアのペア状態は、次の図のように変わります。



デルタリシンク失敗

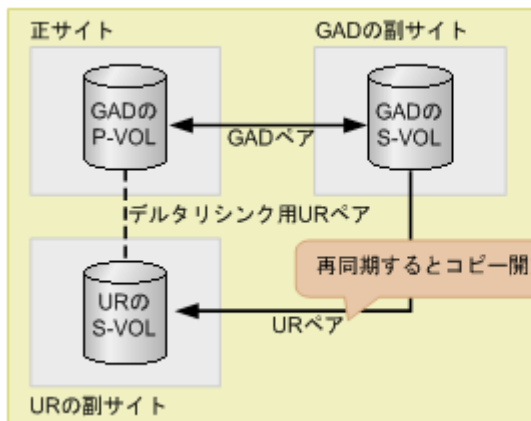


(凡例)
P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム
(xx/xx) :
プライマリボリュームのペア状態/
セカンダリボリュームのペア状態
→ : コピーの向き

デルタリシンクが失敗した場合は、次の2点を確認してください。

- ・ システム構成が、GAD と UR を併用するときの要件を満たしていること。
- ・ システムに障害要因がないこと。

デルタリシンクが失敗したあとには、UR ペアの再同期が必要です。UR ペアを再同期すると、GAD ペアのセカンダリボリュームのデータが UR ペアのセカンダリボリュームへ形成コピーされます。



(凡例)
P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム
→ : コピーの向き

7.10.2 GAD ペアを再同期する (UR と併用しているとき)

セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期 (スワップリシンク) するときには、次の条件を満たしている必要があります。

前提条件

- ペア状態が次のとおりであること。

ペアの種類	ペア状態	
	プライマリボリューム	セカンダリボリューム
GAD ペア	PSUS	SSWS
UR ペア	PSUE または PAIR	PSUE または PAIR
デルタリシンク用 UR ペア	条件なし	条件なし

- スワップリシンク後の GAD ペアのセカンダリボリュームと同じボリュームを共有する UR ペアが、デルタリシンク用 UR ペアであること。

コマンド例

```
pairresync -g oraHA -swaps -IH1
```

7.10.3 GAD ペアを削除する（UR と併用しているとき）

GAD と UR を併用している場合、次の順序でペアを削除します。

1. UR ペアを削除する。
2. デルタリシンク用 UR ペアを削除する。
3. GAD ペアを中断する。
4. GAD ペアを削除する。

手順 1 で、誤って UR ペアより先にデルタリシンク用 UR ペアを削除すると、UR ペアが障害によって分割されることがあります。

なお、GAD ペアを強制的に削除する場合も、UR ペアおよびデルタリシンク用 UR ペアを先に削除してください。

global-active device の障害リカバリ

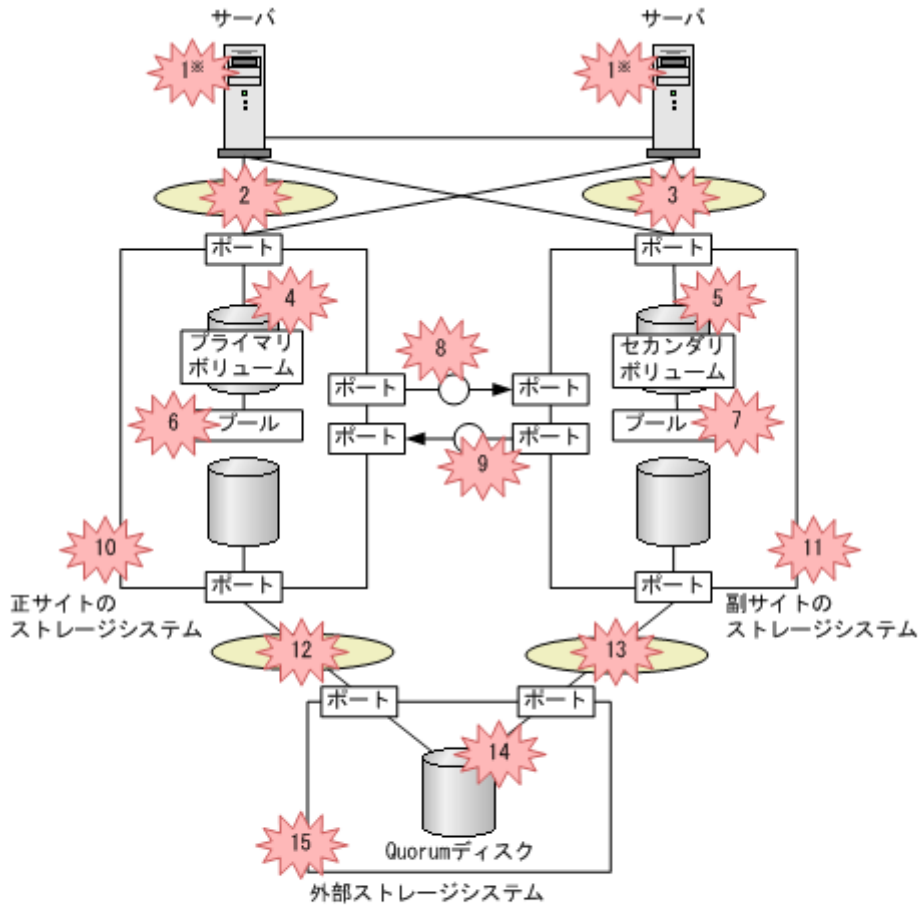
ここでは、global-active device (GAD) の障害の部位や、GAD を使用しているときに発行される SIM について説明します。また、回復手順についても説明します。Quorum ディスクには外部ストレージシステムのボリュームまたはサーバのディスクを使用します。ここでは、外部ストレージシステムのボリュームを Quorum ディスクとして使用している場合について説明します。

- 8.1 GAD の障害の発生部位
- 8.2 GAD 使用時に発行される SIM
- 8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）
- 8.4 サーバの障害から回復する
- 8.5 サーバとストレージシステム間の物理パスの障害から回復する
- 8.6 プライマリボリュームの障害（LDEV 閉塞）から回復する
- 8.7 セカンダリボリュームの障害（LDEV 閉塞）から回復する
- 8.8 プライマリボリュームのプール満杯から回復する
- 8.9 セカンダリボリュームのプール満杯から回復する
- 8.10 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する
- 8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する
- 8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する
- 8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する
- 8.14 正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する

- 8.15 副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理バスの障害から回復する
- 8.16 Quorum ディスクの障害から回復する
- 8.17 外部ストレージシステムの障害から回復する
- 8.18 その他の障害から回復する
- 8.19 正サイトに発生した障害から回復する (外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合)
- 8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える
- 8.21 障害から回復して GAD ペアを再作成できない場合に GAD ペアを作成する
- 8.22 複数の部位に障害が発生したときには

8.1 GAD の障害の発生部位

GAD の障害の発生部位を次に示します。



(凡例)

○ : SAN ○ : スイッチ ☆ : 障害

P-VOL : プライマリボリューム S-VOL : セカンダリボリューム

※どちらか一方のサーバに障害が発生しても、もう一方のサーバでプライマリボリュームとセカンダリボリュームへのI/Oを継続できます。

表 30 GAD の障害の発生部位

番号	障害の部位	発生する可能性のあるSIMのリファレンスコード		GAD ボリュームへのアクセス可否※1		回復手順の参照先
		正サイトのストレージシステム	副サイトのストレージシステム	P-VOL	S-VOL	
1	サーバ	なし (正常)	なし (正常)	○	○	8.4 サーバの障害から回復する

番号	障害の部位		発生する可能性のあるSIMのリファレンスコード		GAD ボリュームへのアクセス可否※1		回復手順の参照先
			正サイトのストレージシステム	副サイトのストレージシステム	P-VOL	S-VOL	
2	サーバとストレージシステム間のパス	サーバと正サイトのストレージシステム間のパス	なし（正常）	なし（正常）	×	○※2	8.5 サーバとストレージシステム間の物理パスの障害から回復する
3		サーバと副サイトのストレージシステム間のパス	なし（正常）	なし（正常）	○※3	×	8.5 サーバとストレージシステム間の物理パスの障害から回復する
4	GAD ペアのボリューム	プライマリボリューム	<ul style="list-style-type: none"> • 3a0xxx • db8xxx • db9xxx • dbaxxx • dbbxxx • dd1xyy • dfaxxx • dfbxxx • ef8xxx • ef9xxx 	• dd1xyy	×	○※2	8.6 プライマリボリュームの障害(LDEV閉塞)から回復する
5		セカンダリボリューム	<ul style="list-style-type: none"> • dd1xyy • 3a0xxx • db8xxx • db9xxx • dbaxxx • dbbxxx • dd1xyy • dfaxxx • dfbxxx • ef8xxx • ef9xxx 	<ul style="list-style-type: none"> • 3a0xxx • db8xxx • db9xxx • dbaxxx • dbbxxx • dd1xyy • dfaxxx • dfbxxx • ef8xxx • ef9xxx 	○※3	×	8.7 セカンダリボリュームの障害(LDEV閉塞)から回復する
6	GAD ペアのプール※4	プライマリボリュームのプール	<ul style="list-style-type: none"> • 62axxx • dd1xyy 	• dd1xyy	×	○※2	8.8 プライマ

番号	障害の部位		発生する可能性のある SIM のリファレンスコード		GAD ポリユー ムへのアクセス 可否※1		回復 手順 の参 照先
			正サイトの ストレージ システム	副サイトの ストレージ システム	P- VOL	S- VOL	
							リポリ ューム のプー ル満杯 から回 復する
7		セカンダリポリユー ムのプール	<ul style="list-style-type: none"> • dd1xyy 	<ul style="list-style-type: none"> • 62axxx • dd1xyy 	○※3	×	8.9 セ カンダ リポリ ューム のプー ル満杯 から回 復する
8	ストレージシステム 間のバス	正サイトのストレ ージシステムから副サ イトのストレージシ ステムへのリモート バス	<ul style="list-style-type: none"> • 2180xx • dd0xyy 	<ul style="list-style-type: none"> • dd3xyy 	○※3	×	8.10 正 サイト のスト レージ システ ムから 副サイ トのスト レー ジシス テムへ の物理 バスの 障害か ら回復 する
9		副サイトのストレ ージシステムから正サ イトのストレージシ ステムへのリモート バス	<ul style="list-style-type: none"> • dd3xyy 	<ul style="list-style-type: none"> • 2180xx • dd0xyy 	×	○※2	8.11 副 サイト のスト レージ システ ムから 正サイ トのスト レー ジシス テムへ の物理 バスの 障害か ら回復 する
10	ストレージシステム	正サイトのストレ ージシステム	障害の種類 による※5	<ul style="list-style-type: none"> • 2180xx • dd0xyy 	×	○※2	8.12 正 サイト

番号	障害の部位		発生する可能性のある SIM のリファレンスコード		GAD ポリユー ムへのアクセス 可否※1		回復 手順 の参 照先
			正サイトの ストレージ システム	副サイトの ストレージ システム	P- VOL	S- VOL	
				<ul style="list-style-type: none"> dd3xyy 			のスト レー ジ システ ムの障 害から 回復す る
11		副サイトのストレージシステム	<ul style="list-style-type: none"> 2180xx dd0xyy dd3xyy 	障害の種類による※5	○※3	×	8.13 副 サイト のスト レー ジ システ ムの障 害から 回復す る
12	Quorum ディスク	正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク間のパス	<ul style="list-style-type: none"> 21d0xx 21d2xx dd2xyy def0zz ef5xyy efd000 ff5xyy 	<ul style="list-style-type: none"> dd2xyy 	○※3	○※2	8.14 正 サイト のスト レー ジ システ ムから Quoru m ディ スク用 外部ス トレー ジシス テムへ の物理 パスの 障害か ら回復 する
13		副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク間のパス	<ul style="list-style-type: none"> dd2xyy 	<ul style="list-style-type: none"> 21d0xx 21d2xx dd2xyy def0zz ef5xyy efd000 ff5xyy 	○※3	○※2	8.15 副 サイト のスト レー ジ システ ムから Quoru m ディ スク用 外部ス トレー ジシス テムへ の物理

番号	障害の部位	発生する可能性のある SIM のリファレンスコード		GAD ボリュームへのアクセス可否※1		回復手順の参照先
		正サイトのストレージシステム	副サイトのストレージシステム	P-VOL	S-VOL	
						パスの障害から回復する
14	外部ストレージシステムにある Quorum ディスク	<ul style="list-style-type: none"> • 21d0xx • 21d2xx • dd2xyy • def0zz • ef5xyy • efd000 • ff5xyy 	<ul style="list-style-type: none"> • 21d0xx • 21d2xx • dd2xyy • def0zz • ef5xyy • efd000 • ff5xyy 	○※3	○※2	8.16 Quorum ディスクの障害から回復する
15	外部ストレージシステム	<ul style="list-style-type: none"> • 21d0xx • 21d2xx • d2xyy • def0zz • ef5xyy • efd000 • ff5xyy 	<ul style="list-style-type: none"> • 21d0xx • 21d2xx • dd2xyy • def0zz • ef5xyy • efd000 • ff5xyy 	○※3	○※2	8.17 外部ストレージシステムの障害から回復する

(凡例)

- : アクセスできる
- × : アクセスできない
- P-VOL : プライマリボリューム
- S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

VSP One B20 を構成するハードウェア（ドライブ、キャッシュ、CHB、DKB、MPB など）は冗長化されています。冗長化されているハードウェアの一部で障害が発生しても、GAD ペアが障害によって中断したり、GAD ボリュームへアクセスできなくなったりすることはありません。また、次のパスを冗長化すると、ハードウェアの一部で障害が発生しても GAD ペアが障害によって中断したり、GAD ボリュームへアクセスできなくなったりすることはありません。

- サーバと正サイトおよび副サイトのストレージシステム間の物理パス
- 正サイトおよび副サイトのストレージシステムと外部ストレージシステム間の物理パス
- 正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パス

注※2

セカンダリボリュームのペア状態が COPY、SSUS または PSUE で、I/O モードが Block の状態から障害が発生した場合は、アクセスできません。ペア状態が PAIR または SSWS の状態から障害が発生した場合は、アクセスできます。

注※3

プライマリボリュームのペア状態が PSUS または PSUE で、I/O モードが Block の状態から障害が発生した場合は、アクセスできません。
ペア状態が PAIR、PSUS、または PSUE で、I/O モードが Mirror(RL)または Local の状態から障害が発生した場合は、アクセスできます。

注※4

GAD ペアのプールが満杯になったことで発生した障害です。

注※5

障害（例えば、全キャッシュ障害、全 MP 障害、ストレージシステム自体の障害）の種類に応じた SIM が発生します。障害によって SIM を参照できないこともあります。

関連概念

- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)

8.2 GAD 使用時に発行される SIM

GAD を使用しているときに発行される SIM を次に示します。なお、次の表に示すすべての SIM は、ストレージシステムに記録されます。

SIM のリファレンスコード	SIM の説明
2180xx	リモートコピー論理パス閉塞(障害状態のため)
21d0xx	外部ストレージシステム接続パス閉塞
21d2xx	外部ストレージシステム接続パスレスポンスタイムアウト閾値オーバ
3a0xyy	LDEV 閉塞(マイクロコード要因)
62axxx	DP プール実使用率満杯
db8xxx	LDEV 閉塞(パス 0 側) (ドライブポート閉塞による)
db9xxx	LDEV 閉塞(パス 0 側) (ドライブポート閉塞による)
dbaxxx	LDEV 閉塞(パス 1 側) (ドライブポート閉塞による)
dbbxxx	LDEV 閉塞(パス 1 側) (ドライブポート閉塞による)
dd0xyy	GAD にて使用中ボリュームがサスペンド(リモートコピー接続の回復不能障害)
dd1xyy	GAD にて使用中ボリュームがサスペンド(ボリューム障害)
dd2xyy	GAD にて使用中ボリュームがサスペンド(内部エラー障害)
dd3xyy	P-VOL と S-VOL の状態が不一致
dee0zz	Quorum ディスク回復
def0zz	Quorum ディスク閉塞
dfaxxx	LDEV 閉塞(パス 0 側) (ドライブポート閉塞による)
dfbxxx	LDEV 閉塞(パス 1 側) (ドライブポート閉塞による)
ef5xyy	外部ストレージシステム Write 処理異常終了
ef8xxx	LDEV 閉塞(ドライブ閉塞による)
ef9xxx	LDEV 閉塞(ドライブ閉塞による)
efd000	外部ストレージシステム接続デバイス閉塞

SIM のリファレンスコード	SIM の説明
ff5xyy	外部ストレージシステム Read 処理異常終了

関連概念

- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.22 複数の部位に障害が発生したときには](#)

8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）

障害発生後の GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先は、障害発生前の状態によって異なります。

ここでは、サーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先を、ペア状態および I/O モードごとに示します。次節以降では、これらのペア状態および I/O モードごとに、障害発生後のサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先を説明します。

ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

8.4 サーバの障害から回復する

サーバが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否※		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※

プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへアクセスできるすべてのサーバに障害が発生した場合は、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへはアクセスできません。

SIM

- 正サイトのストレージシステム : なし
- 副サイトのストレージシステム : なし

障害回復手順

1. サーバの障害を回復します。
2. サーバから GAD ボリュームへのパスを回復します。

関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)

8.5 サーバとストレージシステム間の物理パスの障害から回復する

SIM が発行されていないにも関わらず、サーバからペア状態が PAIR の GAD ペアの片方のボリュームへアクセスできない場合は、サーバとストレージシステム間の物理パスに障害が発生しているおそれがあります。

サーバとストレージシステム間の物理パスが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否※		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※

プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへアクセスできるすべてのサーバに障害が発生した場合は、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへはアクセスできません。

SIM

- 正サイトのストレージシステム : なし
- 副サイトのストレージシステム : なし

障害回復の流れ

1. サーバとストレージシステム間の物理パスの障害を回復します。
2. サーバから GAD ボリュームへのパスを回復します。

関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- [8.5.1 サーバと正サイトのストレージシステム間の物理パスの障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)
- [8.5.2 サーバと副サイトのストレージシステム間の物理パスの障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

8.6 プライマリボリュームの障害（LDEV 閉塞）から回復する

LDEV 閉塞によってプライマリボリュームが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	×	×	なし※1
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	×	×	なし※2
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

ShadowImage、Thin Image、またはバックアップソフトウェアによって取得しているバックアップデータから、データを回復させる必要があります。

注※2

最新でない GAD のセカンダリボリュームのデータ、もしくは ShadowImage、Thin Image、またはバックアップソフトウェアによって取得しているバックアップデータから、データを回復させる必要があります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム
 - 3a0xyy、db8xxx、db9xxx、dbaxxx、dbbxxx、dd1xyy、dfaxxx、dfbxxx、ef8xxx、ef9xxx
- 副サイトのストレージシステム
 - dd1xyy

障害回復の流れ

1. プライマリボリュームの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

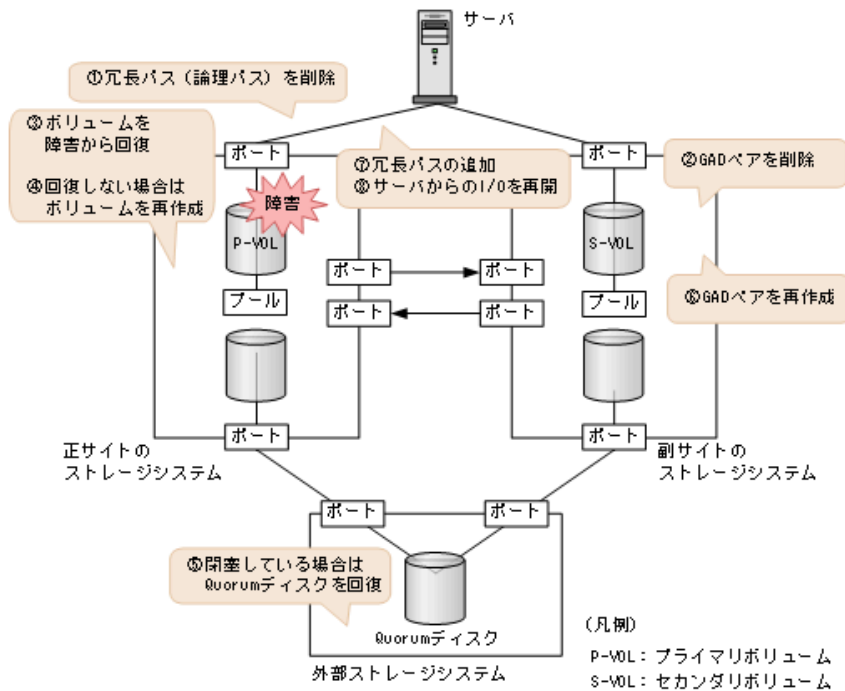
関連概念

- 8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）
- 8.6.1 プライマリボリューム（DP-VOL）の障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）
- 8.6.2 プライマリボリューム（DP-VOL 以外）の障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

8.6.1 プライマリボリューム（DP-VOL）の障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

ペア状態が PAIR のときに、プライマリボリュームの障害（DP-VOL）によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. プライマリボリュームへの冗長パス（論理パス）を削除します。
 - a. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからアクセスできないボリュームを特定します。

- b. サーバからアクセスできないボリューム（プライマリボリューム）が閉塞していること、およびプライマリボリュームが関連づけられているプールのプール ID（B_POOLID）を確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -IH0
(略)
B_POOLID : 0
(略)
STS : BLK
(略)
```

- c. プールを構成するボリューム（プールボリューム）の状態を表示し、閉塞しているボリュームを特定します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_list pool -pool_id 0 -IH0
(略)
LDEV : 16384
(略)
STS : BLK
(略)
```

閉塞しているボリュームは、STS に BLK と表示されます。

- d. マルチパスソフトウェアを使用して、プライマリボリュームへの冗長パスを削除します。冗長パスを削除できない場合も、次の手順へ進みます。

2. GAD ペアを削除します。

- a. 副サイトのストレージシステムから、セカンダリボリュームの実 LDEV ID を指定して、GAD ペアを削除します。

コマンド例：pairsplit -g oraHA -R -d dev1 -IH1



メモ

セカンダリボリュームを指定してペアを削除するには、pairsplit コマンドの-R オプションを使用します。-d オプションにセカンダリボリュームの実 LDEV ID（デバイス名）を指定します。

- b. GAD ペアが削除されたことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU), Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
oraHA   dev1 (R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

3. ボリュームの障害を取り除きます。

プールボリュームの障害から回復する手順例：

- a. プライマリボリューム（DP-VOL）を構成するプールボリュームを障害から回復します。
b. プールボリュームの状態を表示し、プールボリュームが回復したことを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_list pool -pool_id 0 -IH0
(略)
```

```
LDEV : 16384
(略)
STS : NML
(略)
```

正常なボリュームは、STS に NML と表示されます。

4. ボリュームを回復できない場合は、次の手順でプライマリボリュームを再作成します。
 - a. ストレージシステムで、プライマリボリュームへの LU パスを削除します。
 - b. プライマリボリュームを削除します。
 - c. 新しいボリュームを作成します。
 - d. 新しいボリュームへの LU パスを設定します。
5. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
6. GAD ペアを再作成します。

- a. 手順 4 で新しいボリュームを作成した場合は、作成したボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てます。

```
コマンド例 : raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id
reserve -IH0
```

- b. 副サイトのストレージシステムから、セカンダリボリュームの実 LDEV ID を指定して GAD ペアを作成します。

```
コマンド例 : paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -d dev1 -IH1
```



メモ

セカンダリボリュームを指定してペアを作成するには、paircreate コマンドの -d オプションにセカンダリボリュームの実 LDEV ID (デバイス名) を指定します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - L/M
```

```
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
```

- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリューム（障害発生前のプライマリボリューム）への冗長パスを追加します。
- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリューム（障害発生前のプライマリボリューム）への I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されることもあります。
- 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

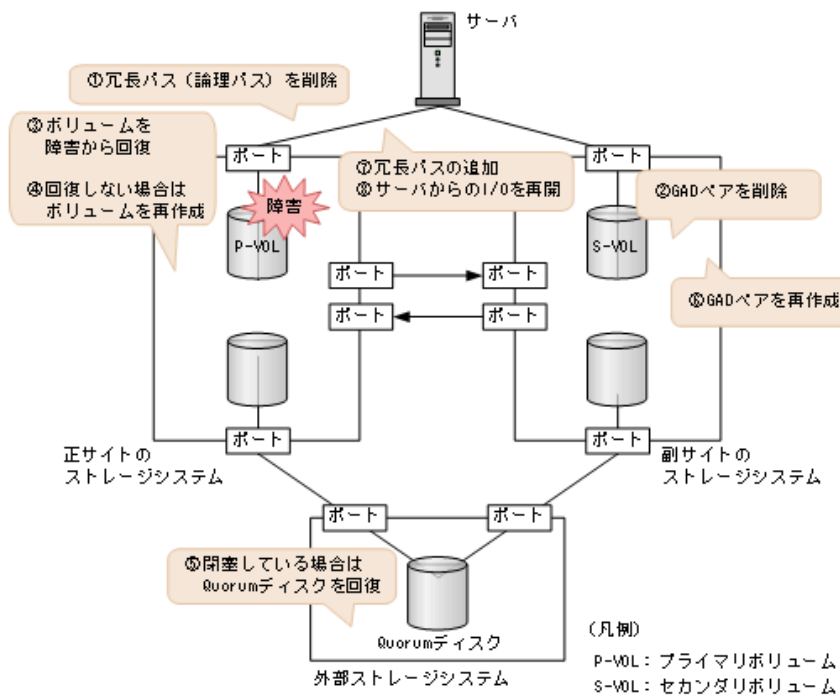
関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.6.2 プライマリボリューム (DP-VOL 以外) の障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)

ペア状態が PAIR のときに、プライマリボリューム (DP-VOL 以外) の障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

- プライマリボリュームへの冗長パス（論理パス）を削除します。

- d. 新しいボリュームへの LU パスを設定します。
5. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
6. GAD ペアを再作成します。
- a. 手順 4 で新しいボリュームを作成した場合は、作成したボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てます。
 コマンド例: `raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id reserve -IH0`
- b. 副サイトのストレージシステムから、セカンダリボリュームの実 LDEV ID を指定して GAD ペアを作成します。
 コマンド例: `paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -d dev1 -IH1`



メモ

セカンダリボリュームを指定してペアを作成するには、`paircreate` コマンドの `-d` オプションにセカンダリボリュームの実 LDEV ID (デバイス名) を指定します。

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。

コマンド例:

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

7. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリューム (障害発生前のプライマリボリューム) への冗長パスを追加します。
8. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリューム (障害発生前のプライマリボリューム) への I/O を再開します。
 自動でサーバからの I/O が再開されることもあります。
9. 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.7 セカンダリボリュームの障害（LDEV 閉塞）から回復する

LDEV 閉塞によってセカンダリボリュームが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	×	なし※

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※

最新でない GAD のプライマリボリュームのデータ、もしくは ShadowImage、Thin Image、またはバックアップソフトウェアによって取得しているバックアップデータから、データを回復させる必要があります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム
 - dd1xyy
- 副サイトのストレージシステム
 - 3a0xyy、db8xxx、db9xxx、dbaxxx、dbbxxx、dd1xyy、dfaxxx、dfbxxx、ef8xxx、ef9xxx

障害回復の流れ

1. セカンダリボリュームの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

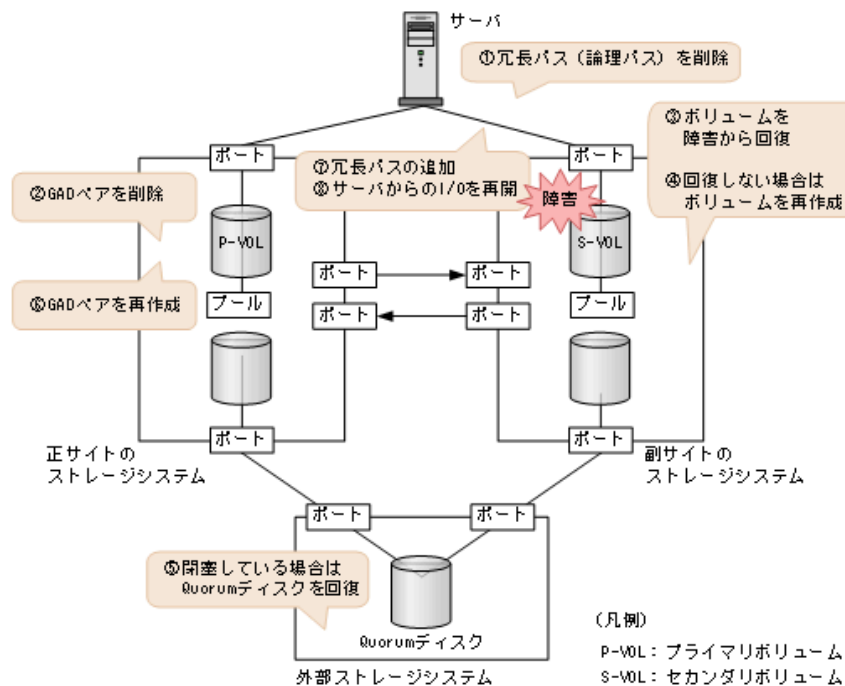
関連概念

- 8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）
- 8.7.1 セカンダリボリュームの障害（DP-VOL）から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）
- 8.7.2 セカンダリボリューム（DP-VOL 以外）の障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

8.7.1 セカンダリボリュームの障害（DP-VOL）から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

ペア状態が PAIR のときに、セカンダリボリュームの障害（DP-VOL）によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. サーバからセカンダリボリュームへの冗長パス（論理パス）を削除します。
 - a. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからアクセスできないボリュームを特定します。

- b. サーバからアクセスできないボリューム（セカンダリボリューム）が閉塞していること、およびセカンダリボリュームが関連づけられているプールのプール ID（B_POOLID）を確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -IH1
(略)
B_POOLID : 0
(略)
STS : BLK
(略)
```

- c. プールを構成するボリューム（プールボリューム）の状態を表示し、閉塞しているボリュームを特定します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_list pool -pool_id 0 -IH1
(略)
LDEV : 16384
(略)
STS : BLK
(略)
```

閉塞しているボリュームは、STS に BLK と表示されます。

- d. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの冗長パスを削除します。冗長パスを削除できない場合も、次の手順へ進みます。

2. GAD ペアを削除します。

- a. 正サイトのストレージシステムから、プライマリボリュームの実 LDEV ID を指定して、GAD ペアを削除します。

コマンド例：pairsplit -g oraHA -S -d dev1 -IH0



メモ

プライマリボリュームを指定してペアを削除するには、pairsplit コマンドの -S オプションを使用します。-d オプションにプライマリボリュームの実 LDEV ID（デバイス名）を指定します。

- b. GAD ペアが削除されたことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU), Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - - - - - - - - -
oraHA   dev1 (R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - - - - - - - - -
```

3. ボリュームの障害を取り除きます。

プールボリュームの障害から回復する手順例：

- a. セカンダリボリューム（DP-VOL）を構成するプールボリュームを障害から回復します。
b. プールボリュームの状態を表示し、プールボリュームが回復したことを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_list pool -pool_id 0 -IH1
(略)
```

```
LDEV : 16384
(略)
STS : NML
(略)
```

正常なボリュームは、STS に NML と表示されます。

4. ボリュームを回復できない場合は、次の手順でセカンダリボリュームを再作成します。
 - a. ストレージシステムで、セカンダリボリュームへの LU パスを削除します。
 - b. セカンダリボリュームを削除します。
 - c. 新しいボリュームを作成します。
 - d. 新しいボリュームへの LU パスを設定します。
5. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
6. GAD ペアを再作成します。

- a. 手順 4 で新しいボリュームを作成した場合は、作成したボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てます。

```
コマンド例 : raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id
reserve -IH1
```

- b. 正サイトのストレージシステムから、プライマリボリュームの実 LDEV ID を指定して、GAD ペアを作成します。

```
コマンド例 : paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -d dev1 -IH0
```



メモ

プライマリボリュームを指定してペアを作成するには、paircreate コマンドの -d オプションにプライマリボリュームの実 LDEV ID (デバイス名) を指定します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
```

7. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリュームへの冗長パスを追加します。
8. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリュームへの I/O を再開します。自動でサーバからの I/O が再開されることもあります。

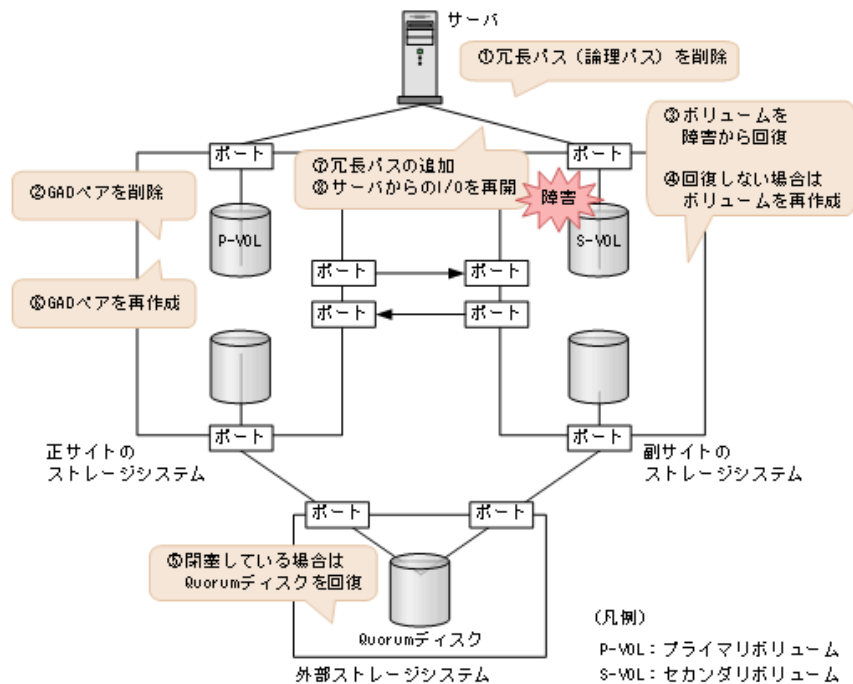
関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.7.2 セカンダリボリューム (DP-VOL 以外) の障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)

ペア状態が PAIR のときに、セカンダリボリューム (DP-VOL 以外) の障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. サーバからセカンダリボリュームへの冗長パス (論理パス) を削除します。
 - a. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからアクセスできないボリュームを特定します。
 - b. サーバからアクセスできないボリューム (セカンダリボリューム) が閉塞していることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -IH1
(略)
STS : BLK
(略)
```

閉塞しているボリュームは、STS に BLK と表示されます。

- c. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの冗長パスを削除します。冗長パスを削除できない場合も、次の手順へ進みます。

2. GAD ペアを削除します。

- a. 正サイトのストレージシステムから、プライマリボリュームの実 LDEV ID を指定して、GAD ペアを削除します。

コマンド例 : `pairsplit -g oraHA -S -d dev1 -IH0`



メモ

プライマリボリュームを指定してペアを削除するには、`pairsplit` コマンドの `-S` オプションを使用します。 `-d` オプションにプライマリボリュームの実 LDEV ID (デバイス名) を指定します。

- b. GAD ペアが削除されたことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group  PairVol (L/R)  (Port#,TID, LU), Seq#, LDEV#.P/S,Status,
Fence,  %,      P-LDEV# M   CTG JID AP EM      E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA  dev1 (L)        (CL1-A-0, 0,  0)411111 2222.SMPL  ----
-----, -----
oraHA  dev1 (R)        (CL1-C-0, 0,  0)422222 4444.SMPL  ----
-----, -----
```

3. ボリュームの障害を取り除きます。

ボリュームの障害から回復する手順例 :

- a. セカンダリボリュームを障害から回復します。
- b. ボリュームの状態を表示し、障害から回復したことを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -IH1
(略)
STS : NML
(略)
```

正常なボリュームは、STS に NML と表示されます。

4. ボリュームを回復できない場合は、次の手順でセカンダリボリュームを再作成します。

- a. ストレージシステムで、セカンダリボリュームへの LU パスを削除します。
- b. セカンダリボリュームを削除します。
- c. 新しいボリュームを作成します。
- d. 新しいボリュームへの LU パスを設定します。

5. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。

6. GAD ペアを再作成します。

- a. 手順 4 で新しいボリュームを作成した場合は、作成したボリュームの仮想属性に GAD 予約を割り当てます。
 コマンド例: `raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve -IH1`
- b. 正サイトのストレージシステムから、プライマリボリュームの実 LDEV ID を指定して、GAD ペアを作成します。
 コマンド例: `paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -d dev1 -IH0`



メモ

プライマリボリュームを指定してペアを作成するには、`paircreate` コマンドの `-d` オプションにプライマリボリュームの実 LDEV ID (デバイス名) を指定します。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。

コマンド例:

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - -          - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - -          - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - -          - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - -          - - - L/M
```

- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリュームへの冗長パスを追加します。
- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからセカンダリボリュームへの I/O を再開します。自動でサーバからの I/O が再開されることもあります。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.8 プライマリボリュームのプール満杯から回復する

プライマリボリュームのプールが満杯になると、GAD ペアが中断します。

プライマリボリュームのプール満杯が発生した場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	×	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	×	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

SIM

- 正サイトのストレージシステム : 62axxx、ddlxyy
- 副サイトのストレージシステム : ddlxyy

障害回復の流れ

1. プライマリボリュームのプールの空き容量を増やします。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

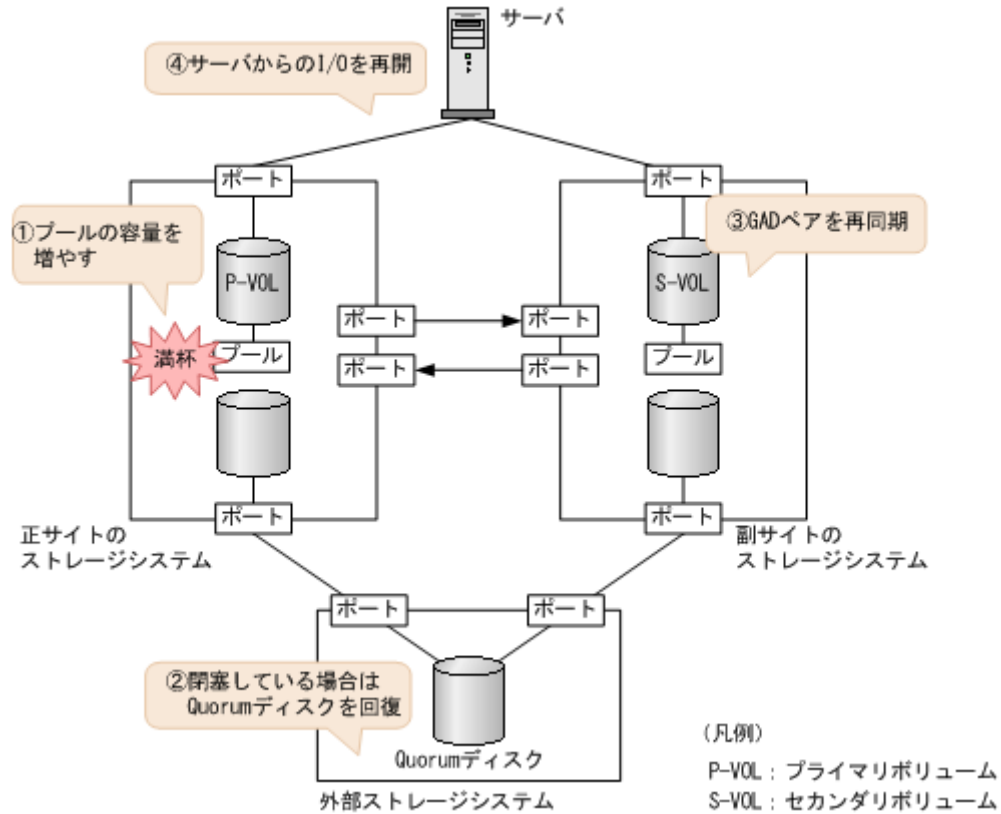
関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- [8.8.1 プライマリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

8.8.1 プライマリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

ペア状態が PAIR のときに、プライマリボリュームのプール満杯によって発生した障害から回復する手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. プール満杯を検出したプールの空き容量を増やします。
プールの空き容量を増やす手順の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。
2. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
3. GAD ペアを再同期します。

- a. セカンダリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例：

```
pairedisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV#  R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL SSWS
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/L
oraHA   dev1(R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - B/B
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも `PAIR(Mirror(RL))` に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 2222. S-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 4444. P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 4444. P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 2222. S-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

- マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリューム（障害発生前のプライマリボリューム）への I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。
- 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.8 プライマリボリュームのプール満杯から回復する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.9 セカンダリボリュームのプール満杯から回復する

セカンダリボリュームのプールが満杯になると、GAD ペアが中断します。

セカンダリボリュームのプール満杯が発生した場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	×	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

SIM

- 正サイトのストレージシステム : dd1xyy
- 副サイトのストレージシステム : 62axxx、dd1xyy

障害回復の流れ

1. セカンダリボリュームのプールの空き容量を増やします。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

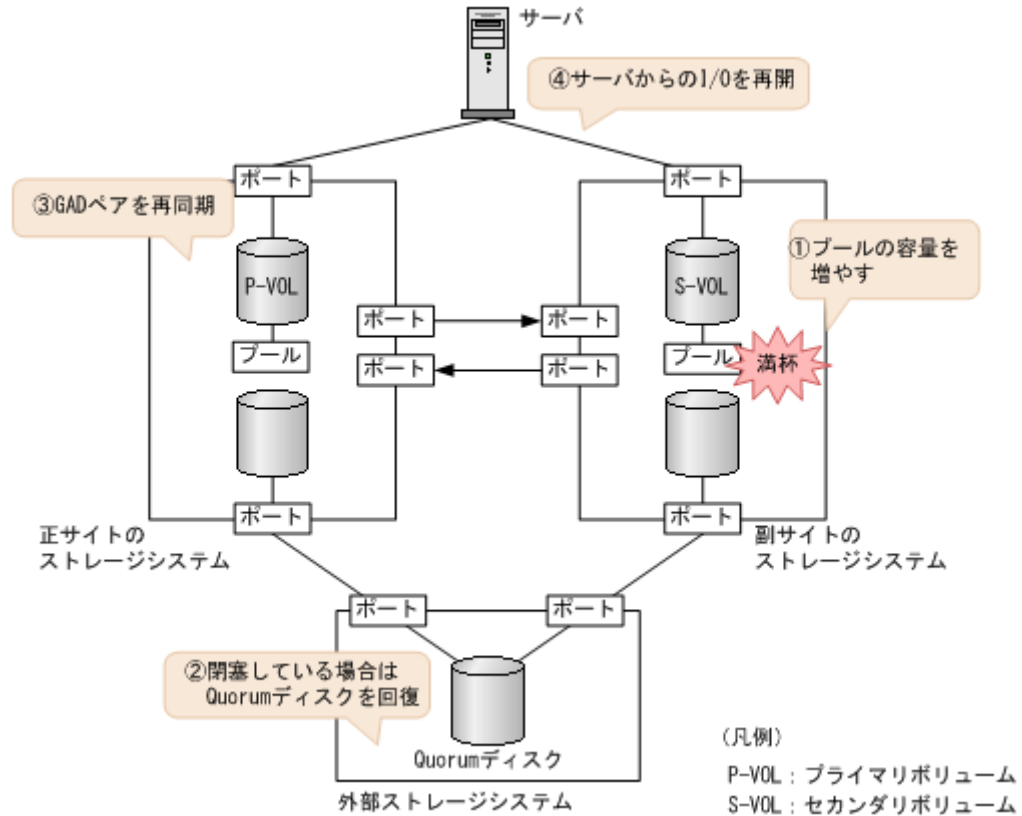
関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- [8.9.1 セカンダリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

8.9.1 セカンダリボリュームをプール満杯障害から回復する手順例（ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

ペア状態が PAIR のときに、セカンダリボリュームのプール満杯によって発生した障害から回復する手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. プール満杯を検出したプールの空き容量を増やします。
プールの空き容量を増やす手順の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。
2. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
3. GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- a. プライマリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA   dev1(R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : pairresync -g oraHA -IH0

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

4. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.9 セカンダリボリュームのプール満杯から回復する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.10 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する

正サイトおよび副サイトのストレージシステムの状態を確認し、ともに正常な場合は、ストレージシステム間の物理パスやスイッチなどで障害が発生しているおそれがあります。障害が発生している物理パスやスイッチなどを回復します。

正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのすべての物理パスが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- ・ GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- ・ 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)」を参照して、副サイトとしての物理パスの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL)) ※1	PAIR (Mirror(RL)) ※1	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Local)	PAIR (Block) ※2	○	×	P-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE/COPY (Block) ※3	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

サーバからプライマリボリュームに I/O が発行されなくても、ATS などのヘルスチェックによって、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間を同期するコマンドが、プライマリボリュームに対して発行されることがあります。コマンド実行時に、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間でパス障害が発生していると、同期に失敗します。その結果、サーバから I/O を発行していないプライマリボリュームの I/O モードが Local に、サーバから I/O を発行しているセカンダリボリュームの I/O モードが Block になり、GAD ペアが障害サスペンドすることがあります。

注※2

障害の回復手順については、関連項目を参照してください。

注※3

下記の場合、S-VOL が COPY (Block) の状態になる可能性があります。

- ・ Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合
- ・ Quorum ディスク障害の場合

SIM

- ・ 正サイトのストレージシステム : dd0xyy、2180xx

- ・ 副サイトのストレージシステム : dd3xyy

障害回復の流れ

1. ストレージシステム間の物理パスの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

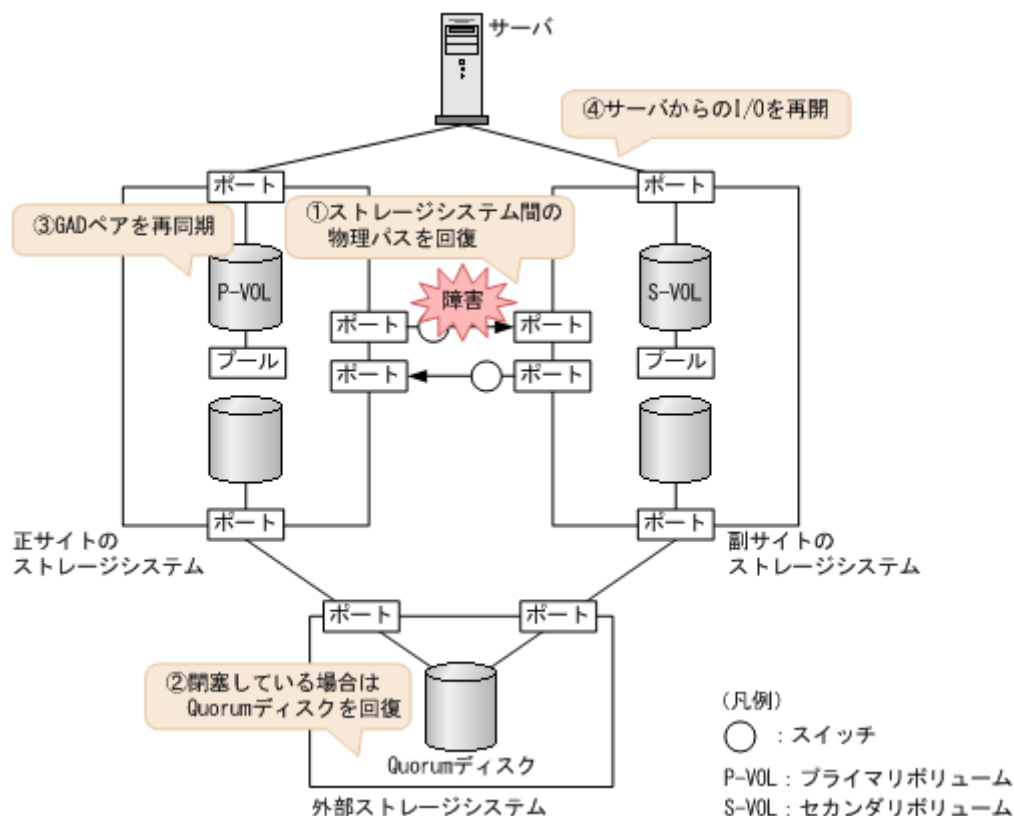
関連概念

- ・ [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- ・ [8.10.1 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

8.10.1 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)

ペア状態が PAIR のときに、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

- 物理パスの再接続や SAN の再設定によって、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスを回復します。
ストレージシステム間の物理パスが回復すると、リモートパスが自動で回復する場合と、手動での回復が必要な場合があります。「[14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)」を参照し、リモートパスの状態と対策を実行してください。この手順を実行しても、リモートパスが障害から回復しない場合は、お問い合わせください。
- Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
- GAD ペアを再同期します。

- プライマリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - -
oraHA   dev1(R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - -
```

- 正サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : pairresync -g oraHA -IH0



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシク、および **horctakeover** 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

4. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.10 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する

正サイトおよび副サイトのストレージシステムの状態を確認し、ともに正常な場合は、ストレージシステム間の物理パスやスイッチなどで障害が発生しているおそれがあります。障害が発生している物理パスやスイッチなどを回復します。

副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのすべての物理パスが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[8.10 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)」を参照して、正サイトとしての物理パスの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL)) ※1	PAIR (Mirror(RL)) ※1	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Local) ※2	PSUE (Block) ※2	○	×	P-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

サーバからセカンダリボリュームに I/O が発行されなくても、ATS などのヘルスチェックによって、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間を同期するコマンドが、セカンダリボリュームに対して発行されることがあります。コマンド実行時に、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間でパス障害が発生していると、同期に失敗します。その結果、サーバから I/O を発行していないセカンダリボリュームの I/O モードが Local に、サーバから I/O を発行しているプライマリボリュームの I/O モードが Block になり、GAD ペアが障害サスペンドすることがあります。

注※2

下記の場合、P-VOL が PSUE (Local) かつ S-VOL が PSUE (Block) の状態になる可能性があります。

- Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成の場合
- Quorum ディスク障害の場合
- リモートパス障害時 IO 優先モードが「プライマリボリューム」の場合

SIM

- 正サイトのストレージシステム : dd3xyy
- 副サイトのストレージシステム : dd0xyy、2180xx

障害回復の流れ

1. ストレージシステム間の物理パスの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

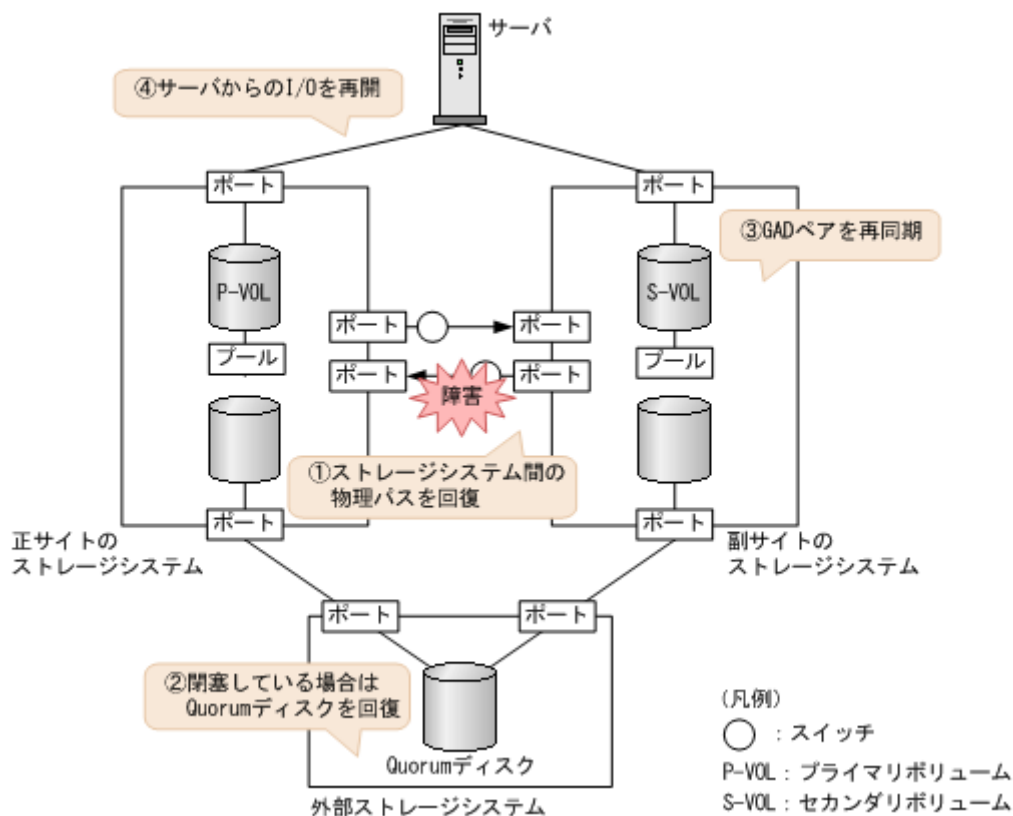
関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）](#)
- [8.11.1 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例（Quorum ディスクにボリュームを設定する構成で、ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）](#)

8.11.1 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例（Quorum ディスクにボリュームを設定する構成で、ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

Quorum ディスクにボリュームを設定する構成で、ペア状態が PAIR のときに、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. 物理パスの再接続や SAN の再設定によって、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスを回復します。
ストレージシステム間の物理パスが回復すると、リモートパスが自動で回復する場合と、手動での回復が必要な場合があります。「[14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)」を参照し、リモートパスの状態と対策を実行してください。この手順を実行しても、リモートパスが障害から回復しない場合は、お問い合わせください。
2. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
3. GAD ペアを再同期します。

- a. セカンダリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 4444. S-VOL SSWS
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/L
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - B/B
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : pairresync -g oraHA -swaps -IH1

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. S-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. S-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

4. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリューム（障害発生前のプライマリボリューム）への I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。
5. 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.11.2 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例（Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成で、ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合）

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成でペア状態が PAIR のときに、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順は、「[8.11 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)」の回復手順と同じです。

障害回復の流れ

1. ストレージシステム間の物理パスの障害を回復します。

2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する

正サイトのストレージシステムが障害によって使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)」を参照して、副サイトの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL ^{※1}	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Block)	SSWS (Local) ※2	×	○	S-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Block) ※3	PSUE (Block) ※3	×	×	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Block)	PSUE (Block)	×	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	COPY (Block)	×	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	×	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

正サイトのストレージシステムでシェアドメモリが揮発する障害が発生した場合、プライマリボリュームのペア状態は **SMPL** に変わり、仮想属性に **GAD** 予約が割り当てられます。

注※2

サーバから書き込みコマンドが発行されていない場合、ペア状態は **PAIR (Mirror(RL))** です。

注※3

下記の場合、**P-VOL** が **PSUE (Block)** かつ **S-VOL** が **PSUE (Block)** の状態になる可能性があります。

- **Quorum** ディスクにボリュームを設定しない構成の場合
- **Quorum** ディスク障害の場合

SIM

- 正サイトのストレージシステム：障害の種類によって異なる
- 副サイトのストレージシステム：2180xx、dd0xyy、dd3xyy

障害回復の流れ

1. 正サイトのストレージシステムの電源がオフの場合は、電源をオンにする前にプライマリボリュームへの冗長パス（論理パス）を削除します。
 - a. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからアクセスできないボリュームを特定します。
 - b. マルチパスソフトウェアを使用して、プライマリボリュームへの冗長パスを削除します。冗長パスを削除できない場合は、サーバに接続されている正サイトの物理パスをすべて取り外します。
2. 正サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
3. 正サイトのストレージシステムを障害から回復します。詳細は、お問い合わせ先に連絡してください。
4. 正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスを障害から回復します。
5. セカンダリボリュームのペア状態が **PAIR** の場合、セカンダリボリュームを指定して **GAD** ペアを中断します。
6. **Quorum** ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。**Quorum** ディスクにボリュームを設定しない場合、**Quorum** ディスクの回復手順は不要です。
7. **GAD** ペアを再同期または再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、**GAD** ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および **horctakeover** 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

障害が発生している正サイトにプライマリボリュームがある場合は、下記の手順を参照して、障害を回復してください。なお、ペア状態と I/O モードによって、次のとおり手順が異なります。

障害が発生している正サイトにセカンダリボリュームもある場合は、[「8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する」](#)を参照して、副サイトの障害も回復してください。

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PSUE	COPY	Local	Block	<p>1. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre></p> <p>2. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 (略)</p> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SFV -IH1</pre></p> <p>4. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2</pre> (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</p> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>5. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2 コマンド例 <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre></p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。</p> <p>raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。</p> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
SMPL	COPY	—	Block	<ol style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2</pre> (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略) VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。 プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 (略) VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。*1 プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -v1 -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 - virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。 仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SSWS	Block	Local	<p>セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -swaps - IH2</pre>
SMPL	SSWS	—	Local	<ol style="list-style-type: none"> プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認します。 コマンド例 : <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 - fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 VIR_LDEV : ffff (略) <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例 : <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RFV - IH2</pre> セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例 : <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 - fx -IH2</pre> (略)

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>LDEV : 2222 VIR_LDEV : 1111 (略)</p> <p>4. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2 コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH2</pre> <p>誤ってセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をセカンダリボリュームに再設定してください。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x2222 - virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID がプライマリボリュームの実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SSUS/ PSUE	Local	Block	<p>プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2 コマンド例 :</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -IH1</pre>
SMPL	SSUS/ PSUE	—	Block	<p>1. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> <p>2. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 - fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認します。</p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 (略)</pre> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。※1</p> <p>4. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。※2</p> <p>コマンド例：</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUE	PSUE	Block	Block	「 7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する 」を参照して回復してください。

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム
— : 非該当

注※1

副サイトのストレージシステムでシェアドメモリが揮発する障害が発生した場合、セカンダリボリュームのペア状態は SMPL に変わり、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。

注※2

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

8. プライマリボリュームへの冗長パスを削除している場合は、冗長パスを追加します。

- a. 正サイトの物理パスを取り外している場合は、取り外す前の状態にしてから冗長パスを追加します。
- b. マルチパスソフトウェアを使用して、手順 1 で削除したプライマリボリュームへの冗長パスを追加します。

関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）](#)
- [8.12.1 正しい仮想 LDEV ID の値を設定する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.12.1 正しい仮想 LDEV ID の値を設定する

仮想 LDEV ID の値に誤りがある場合、正しい仮想 LDEV ID の値に設定します。

障害回復の流れ

1. 仮想 LDEV ID を確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1  
(略)  
LDEV : 1111  
VIR_LDEV : 2222  
(略)
```

2. 仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x2222 -IH1
```

手順 1. のコマンド実行の結果で、VIR_LDEV が ffff の場合は、-virtual_ldev_id に reserve を指定して削除してください。

コマンド例：

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id reserve -IH1
```

手順 1. のコマンド実行の結果で、VIR_LDEV が表示されない場合は、-virtual_ldev_id に LDEV ID と同じものを指定して削除してください。

3. 仮想 LDEV ID が削除されていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1  
(略)  
LDEV : 1111  
VIR_LDEV : fffe  
(略)
```

VIR_LDEV : fffe は、仮想 LDEV ID が削除されていることを示しています。

4. 仮想 LDEV ID に LDEV ID を設定します。

LDEV ID と異なる仮想 LDEV ID を設定して運用していた場合は、設定していた仮想 LDEV ID を設定してください。

コマンド例：

```
raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1
```

GAD 予約を設定する場合は、-virtual_ldev_id に reserve を指定してください。

コマンド例：

```
raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id reserve -IH1
```

5. 仮想 LDEV ID を確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1  
(略)  
LDEV : 1111  
(略)
```

VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。

関連概念

- [8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)
- [8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)

8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する

副サイトのストレージシステムが障害によって使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)」を参照して、正サイトの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL ^{※1}	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUE (Local) ※2	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL ^{※1}	P-VOL	S-VOL	
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	×	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

副サイトのストレージシステムでシェアドメモリが揮発する障害が発生した場合、セカンダリボリュームのペア状態は SMPL に変わり、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。

注※2

サーバから書き込みコマンドが発行されていない場合は、ペア状態が PAIR (Mirror(RL)) になることもあります。

SIM

- ・ 正サイトのストレージシステム : 2180xx、dd0xyy、dd3xyy
- ・ 副サイトのストレージシステム : 障害の種類によって異なる

障害回復の流れ

1. 副サイトのストレージシステムの電源がオフの場合は、電源をオンにする前にセカンダリボリュームへの冗長パス（論理パス）を削除します。
 - a. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバからアクセスできないボリュームを特定します。
 - b. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの冗長パスを削除します。冗長パスを削除できない場合は、サーバに接続されている副サイトの物理パスをすべて取り外します。
2. 副サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
3. 副サイトのストレージシステムを障害から回復します。
詳細は、お問い合わせ先に連絡してください。
4. 正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスを障害から回復します。
5. プライマリボリュームのペア状態が PAIR の場合、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。RAID Manager の場合、-1 オプションが必要です。
コマンド例 :

```
pairsplit -g oraHA -l -IH0
```
6. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
7. GAD ペアを再同期または再作成します。

**注意**

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

障害が発生している副サイトにセカンダリボリュームがある場合は、下記の手順を参照して、障害を回復してください。なお、ペア状態と I/O モードによって、次のとおり手順が異なります。障害が発生している副サイトにプライマリボリュームもある場合は、「[8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)」を参照して、正サイトの障害を回復してください。

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PSUS/ PSUE	PSUS/ PSUE	Local	Block	プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2 コマンド例： <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -IH1</pre>
PSUS/ PSUE	SMPL	Local	—	<ol style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2</pre> (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略) VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。 プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SFV -IH1</pre> プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 (略) VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>4. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2 コマンド例：</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。 コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。 仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SSWS	Block	Local	<p>セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2 コマンド例：</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -swaps -IH2</pre>
PSUS/ PSUE	SMPL	Block	—	<p>1. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例：</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SF -IH1</pre> <p>2. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認します。 コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。</p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : 1111 (略)</pre> <p>仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。*1</p> <p>4. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH2</pre> <p>誤ってセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をセカンダリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID がプライマリボリュームの実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

— : 非該当

注※1

副サイトのストレージシステムでシェアドメモリが揮発する障害が発生した場合、セカンダリボリュームのペア状態は SMPL に変わり、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。

注※2

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

8. セカンダリボリュームへの冗長パスを削除している場合は、冗長パスを追加します。

a. 副サイトの物理パスを取り外している場合は、取り外す前の状態にしてから冗長パスを追加します。

- b. マルチパスソフトウェアを使用して、手順 1 で削除したセカンダリボリュームへの冗長パスを追加します。

関連概念

- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）](#)
- [8.12.1 正しい仮想 LDEV ID の値を設定する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

8.14 正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する

外部ストレージシステムの状態を確認し、正常な場合は、正サイトまたは副サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスやスイッチなどで障害が発生しているおそれがあります。障害が発生している物理パスやスイッチなどを回復します。

正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへのすべての物理パスが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、[「8.15 副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する」](#)を参照して、副サイトとしての物理パスの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL)) ※1	COPY (Block) ※1	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

ペア状態が COPY になった直後に、Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスに障害が発生した場合、プライマリボリュームが PSUE (Local) に、セカンダリボリュームが PSUE (Block) に変わることがあります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム : 21d0xy、21d2xx、dd2xyy、def0zz、ef5xyy、efd000、ff5xyy
- 副サイトのストレージシステム : dd2xyy

障害回復手順

1. Quorum ディスクへの物理パスの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作](#)
- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- [8.14.1 正サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

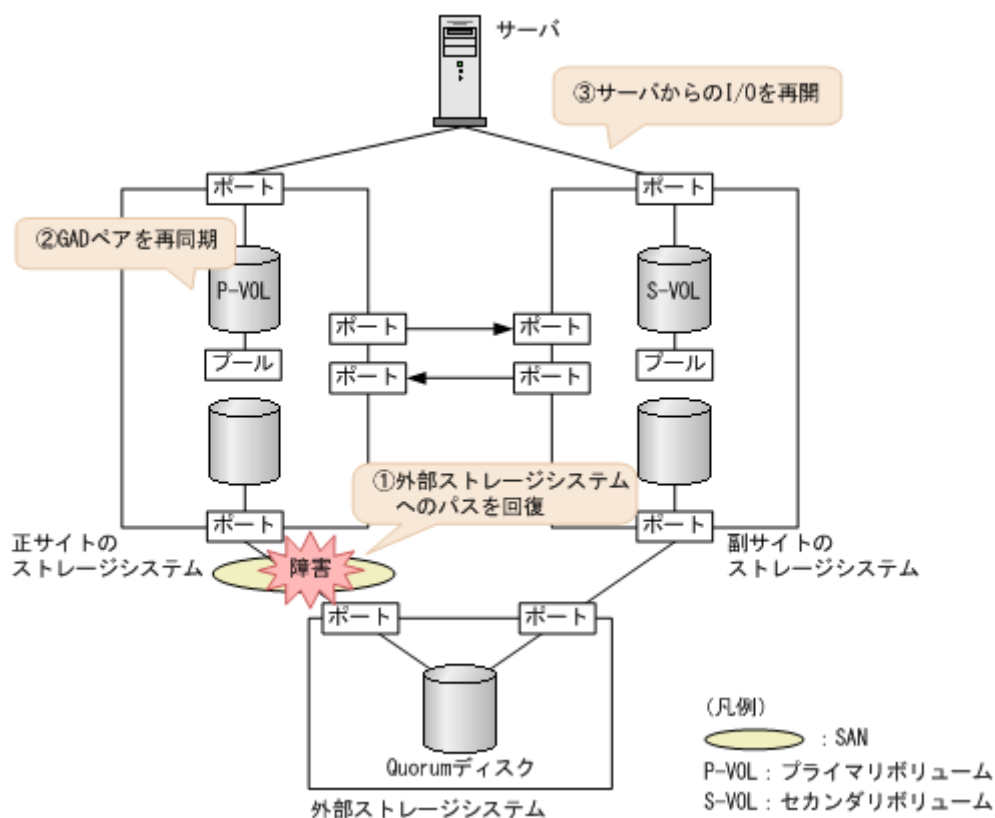
8.14.1 正サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)

ペア状態が PAIR のときに、正サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害によって、GAD ペアが中断状態または Quorum ディスク閉塞状態に変わった場合の回復手順を次に示します。

GAD ペアが中断状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードが Local、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームで I/O を継続します。

GAD ペアが Quorum ディスク閉塞状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードは Mirror(RL)のままですが、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. 外部ストレージシステムへのパスを回復します。

- a. 物理パスの再接続や SAN の再設定によって、障害が発生した外部ストレージシステムへの物理パスを回復します。
外部ストレージシステムへの物理パスが回復すると、外部パスも自動で回復します。

- b. 外部ストレージシステムが正常に接続されていることを確認します。
コマンド例：

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH0
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-1 NML E D 0 CL5-A 50060e8007823520 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

- c. 正サイトのストレージシステムから外部ボリューム情報を取得し、Quorum ディスクの LDEV ID を確認します。
コマンド例：

```
raidcom get external_grp -external_grp_id 1-1 -IH0
T GROUP P_NO LDEV# STS LOC_LBA
SIZE LBA Serial#
E 1-1 0 9999 NML 0x000000000000
0x000003c00000 433333
```

- d. Quorum ディスクの LDEV ID を指定し、正サイトのストレージシステムから外部ボリュームが Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -fx -IH0
(略)
QRDID : 0
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
(略)
```

2. 中断状態の GAD ペアを再同期します。



メモ

Quorum ディスク閉塞状態の GAD ペアは、手順 1 が完了したあとに、自動で二重化状態に変わります。

- a. プライマリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA   dev1(R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : pairresync -g oraHA -IH0



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

3. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.14 正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)

8.15 副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する

外部ストレージシステムの状態を確認し、正常な場合は、正サイトまたは副サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスやスイッチなどで障害が発生しているおそれがあります。障害が発生している物理パスやスイッチなどを回復します。

副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへのすべての物理パスが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[8.14 正サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)」を参照して、正サイトとしての物理パスの障害も回復してください。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL)) ※1	COPY (Block) ※1	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

- : アクセス可
- × : アクセス不可

注※1

ペア状態が COPY になった直後に、Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスに障害が発生した場合、プライマリボリュームが PSUE (Local) に、セカンダリボリュームが PSUE (Block) に変わることがあります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム : dd2xyy
- 副サイトのストレージシステム : 21d0xy、21d2xx、dd2xyy、def0zz、ef5xyy、efd000、ff5xyy

障害回復の流れ

1. Quorum ディスクへの物理パスの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作](#)
- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)
- [8.15.1 副サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 \(ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合\)](#)

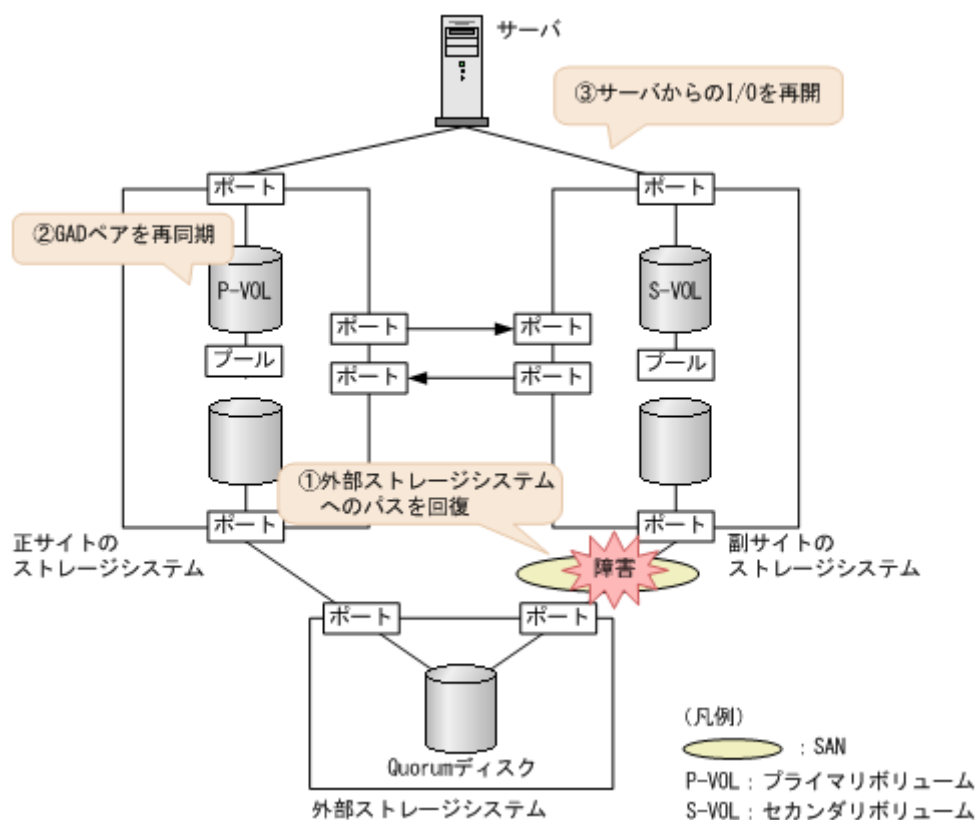
8.15.1 副サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する手順例 (ペア状態が PAIR のときに障害が発生した場合)

ペア状態が PAIR のときに、正サイトのストレージシステムから外部ストレージシステムへの物理パスの障害によって、GAD ペアが中断状態または Quorum ディスク閉塞状態に変わった場合の回復手順を次に示します。

GAD ペアが中断状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードが Local、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームで I/O を継続します。

GAD ペアが Quorum ディスク閉塞状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードは Mirror(RL)のままですが、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. 外部ストレージシステムへのパスを回復します。

- a. 物理パスの再接続や SAN の再設定によって、障害が発生した外部ストレージシステムへの物理パスを回復します。
外部ストレージシステムへの物理パスが回復すると、外部パスも自動で回復します。

- b. 外部ストレージシステムが正常に接続されていることを確認します。
コマンド例：

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-2 NML E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

- c. 副サイトのストレージシステムから外部ボリューム情報を取得し、Quorum ディスクの LDEV ID を確認します。
コマンド例：

```
raidcom get external_grp -external_grp_id 1-2 -IH1
T GROUP P_NO LDEV# STS LOC_LBA
SIZE LBA Serial#
E 1-2 0 9999 NML 0x000000000000
0x000003c00000 433333
```

- d. Quorum ディスクの LDEV ID を指定し、副サイトのストレージシステムから外部ボリュームが Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -fx -IH1
(略)
QRDID : 0
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
(略)
```

2. 中断状態の GAD ペアを再同期します。



メモ

Quorum ディスク閉塞状態の GAD ペアは、手順 1 が完了したあとに、自動で二重化状態に変わります。

- a. プライマリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : pairresync -g oraHA -IH0



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

3. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.15 副サイトのストレージシステムから Quorum ディスク用外部ストレージシステムへの物理パスの障害から回復する](#)

8.16 Quorum ディスクの障害から回復する

Quorum ディスク（外部ストレージシステムのボリューム）が使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL)) ※1	COPY (Block) ※1	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

ペア状態が COPY になった直後に、Quorum ディスクに障害が発生した場合、プライマリボリュームが PSUE (Local) に、セカンダリボリュームが PSUE (Block) に変わることがあります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム : 21d0xy, 21d2xx, dd2xyy, def0zz, ef5xyy, efd000, ff5xyy
- 副サイトのストレージシステム : 21d0xy, 21d2xx, dd2xyy, def0zz, ef5xyy, efd000, ff5xyy

障害回復の流れ

1. Quorum ディスクの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアがある場合は、再同期または再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作](#)
- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）](#)
- [8.16.1 ペア状態が PAIR の場合に Quorum ディスクの障害から回復する手順例](#)
- [8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する](#)

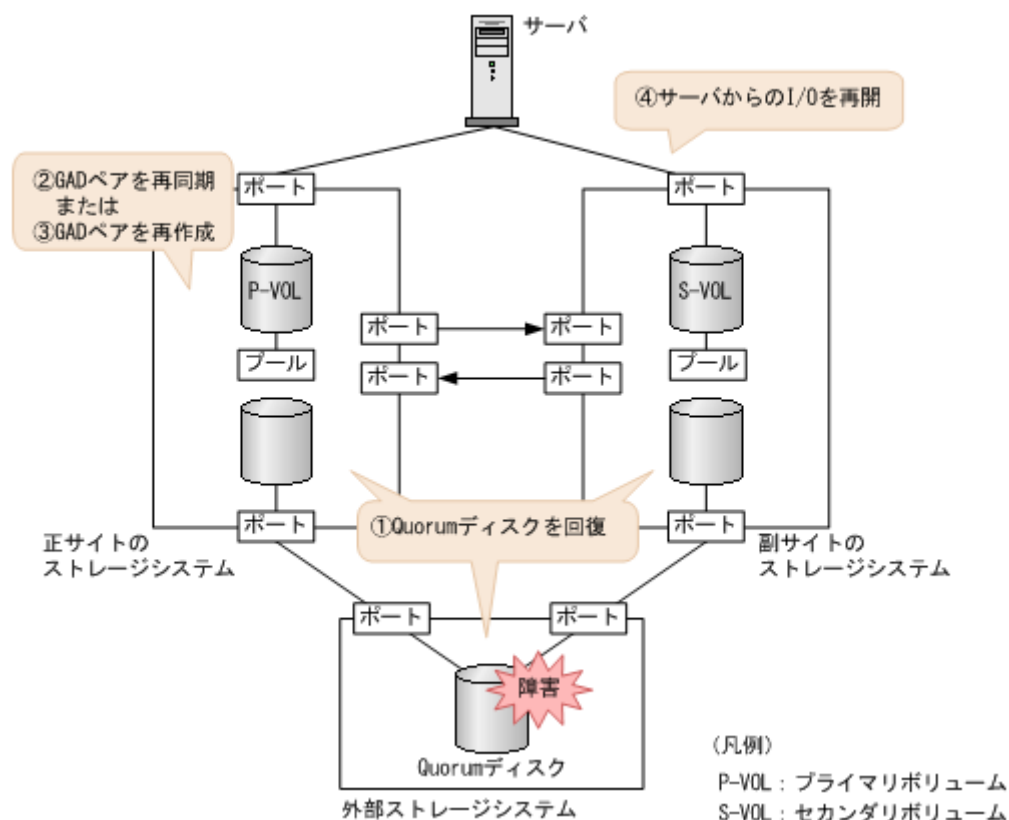
8.16.1 ペア状態が PAIR の場合に Quorum ディスクの障害から回復する手順例

ペア状態が PAIR のときに、Quorum ディスクの障害によって GAD ペアが中断した場合の回復手順を次に示します。Quorum ディスクを誤ってフォーマットしてしまった場合も、次の手順で Quorum ディスクを再作成します。

GAD ペアが中断状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードが Local、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームで I/O を継続します。

GAD ペアが Quorum ディスク閉塞状態に変わった場合は、プライマリボリュームの I/O モードは Mirror(RL)のままですが、セカンダリボリュームの I/O モードが Block に変わります。プライマリボリュームでサーバからの I/O を継続します。

障害回復の概要



障害回復の流れ



注意

ここで説明するのは、外部ストレージシステムとしてVSPなどの日立製外部ストレージシステムを使用している場合の回復手順です。その他の外部ストレージシステムを使用している場合は、それぞれの外部ストレージシステムの回復手順に従って回復操作をしてください。回復操作を実施したら、手順3に進んでください。

1. Quorum ディスクを回復します。

- a. 外部ストレージシステムで Quorum ディスクを閉塞させます。
- b. 外部ストレージシステムで Quorum ディスクをフォーマットします。
フォーマットによって Quorum ディスクが障害から回復した場合は、手順 h に進みます。
障害から回復しない場合は、手順 c に進みます。



メモ

GAD ペアを維持したまま、新しい外部ストレージと交換して Quorum ディスクを回復することもできます。詳細は、関連概念を参照してください。

- c. 外部ストレージシステムで Quorum ディスクの次に示す情報を確認します。
 - ベンダー名
 - 装置名称
 - ボリュームプロパティ
 - デバイス ID (情報が有効な場合)
 - シリアル番号
 - SSID
 - プロダクト ID

- LBA 容量 (障害発生前の Quorum ディスクの容量以上であること)

- CVS 属性

上記の各情報の詳細と確認方法については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。CVS 属性の確認方法については、「表 外部ストレージシステムから CVS 属性の有無を確認する方法」を参照してください。

d. 外部ストレージシステムで Quorum ディスクへの LU パスを削除します。

e. 外部ストレージシステムで Quorum ディスクとして使用しているボリュームを削除します。

f. 外部ストレージシステムで新しいボリュームを作成します。

LDEV ID は障害発生前から使用していた Quorum ディスクの LDEV ID と同じ値を設定します。

同じ値を設定できない場合は、手順 3 に進みます。また、次に示す情報は障害発生前に Quorum ディスクで使用していた情報と同じものを設定してください。同じ情報を設定できない場合は手順 3 に進みます。

- ベンダー名

- 装置名称

- ボリュームプロパティ

- デバイス ID (情報が有効な場合)

- シリアル番号

- SSID

- プロダクト ID

- LBA 容量 (障害発生前の Quorum ディスクの容量以上であること)

- CVS 属性

上記の各情報の詳細と確認方法については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。CVS 属性の確認方法については、「表 外部ストレージシステムから CVS 属性の有無を確認する方法」および「表 外部ストレージシステムでのボリューム作成時に CVS 属性が付く条件」を参照してください。

g. 外部ストレージシステムで、新しく作成したボリュームに LU パスを設定します。

LU 番号は、障害発生前から使用していた Quorum ディスクの LU 番号と同じ値を設定します。

同じ値を設定できない場合は、手順 3 に進みます。

h. 正サイトと副サイトのストレージシステムから、外部ストレージシステムまたは Quorum ディスクを再接続します。

2. 中断状態の GAD ペアを再同期します。



メモ

Quorum ディスク閉塞状態の GAD ペアは、手順 1 が完了したあとに、自動で二重化状態に変わります。

a. プライマリボリュームの I/O モードが Local であることを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```


- b. 正サイトのストレージシステムで、ペアを再同期します。

コマンド例 : `pairresync -g oraHA -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- c. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも `PAIR(Mirror(RL))` に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

手順 4 へ進みます。

3. GAD ペアを再作成します。

- a. 正サイトのストレージシステムから、障害が発生している `Quorum` ディスクを使用しているすべての GAD ペアを削除します。

コマンド例 : `pairsplit -g oraHA -S -d dev1 -IH0`

- b. GAD ペアが削除されたことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU), Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - -/-
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. SMPL ----
-----, ----- - - - - - - - - - - -/-
```

- c. 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方から、`Quorum` ディスクを削除します。
d. 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方から、`Quorum` ディスクを追加します。
e. 正サイトのストレージシステムから、GAD ペアを作成します。

コマンド例 : `paircreate -g oraHA -f never -vl -jq 0 -d dev1 -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

- f. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

4. マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
自動でサーバからの I/O が再開されていることもあります。



メモ

正サイトに外部ストレージシステムを設置している場合、正サイトのストレージシステムと外部ストレージシステムの両方に障害が発生したときは、副サイトのストレージシステムで GAD ペアを強制解除してください。そのあとで、GAD ペアを再作成してください。

表 31 外部ストレージシステムから CVS 属性の有無を確認する方法

インタフェース	CVS 属性の確認方法
RAID Manager	外部ストレージシステムで Quorum ディスクとして使用している LDEV について、RAID Manager から <code>raidcom get ldev</code> コマンドを実行し、VOL_TYPE に CVS 属性の記載があるかどうか確認してください。raidcom get ldev コマンドの詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。
Web Console [※]	LUN Management の画面で CVS のカラムに CVS 属性が付いているかどうか確認してください。

注※

Web Console の操作は、保守員に依頼してください。

表 32 外部ストレージシステムでのボリューム作成時に CVS 属性が付く条件

インタフェース	条件	CVS 属性	
RAID Manager	内部ボリュームまたは外部ボリューム	付く	
	DP-VOL	VSP G1000 および VSP F1500 VSP 5100, 5500、VSP G100, G200, G400, G600, G800 および VSP F400, F600, F800 VSP G130, G150, G350, G370, G700, G900、 VSP F350, F370, F700, F900、および VSP E シリーズ	付く
	VSP 以前 HUS VM 以前	最大容量で LDEV を作成 した場合	付かない

インタフェース	条件		CVS 属性
		上記以外の場合	付く
Web Console [※]	Define Config & Install または ECC/LDEV インストールの操作で、Device Emulation Type Define の画面の Number of LDEVs が初期値のままの状態に LDEV を作成した場合		付かない
	上記以外の場合		付く

注※

Web Console の操作は、保守員に依頼してください。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する](#)
- [8.19 正サイトに発生した障害から回復する（外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合）](#)

8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する

故障した外部ストレージシステムと、新しい外部ストレージを交換することで、GAD ペアを削除しないで、Quorum ディスクの障害から回復できます。

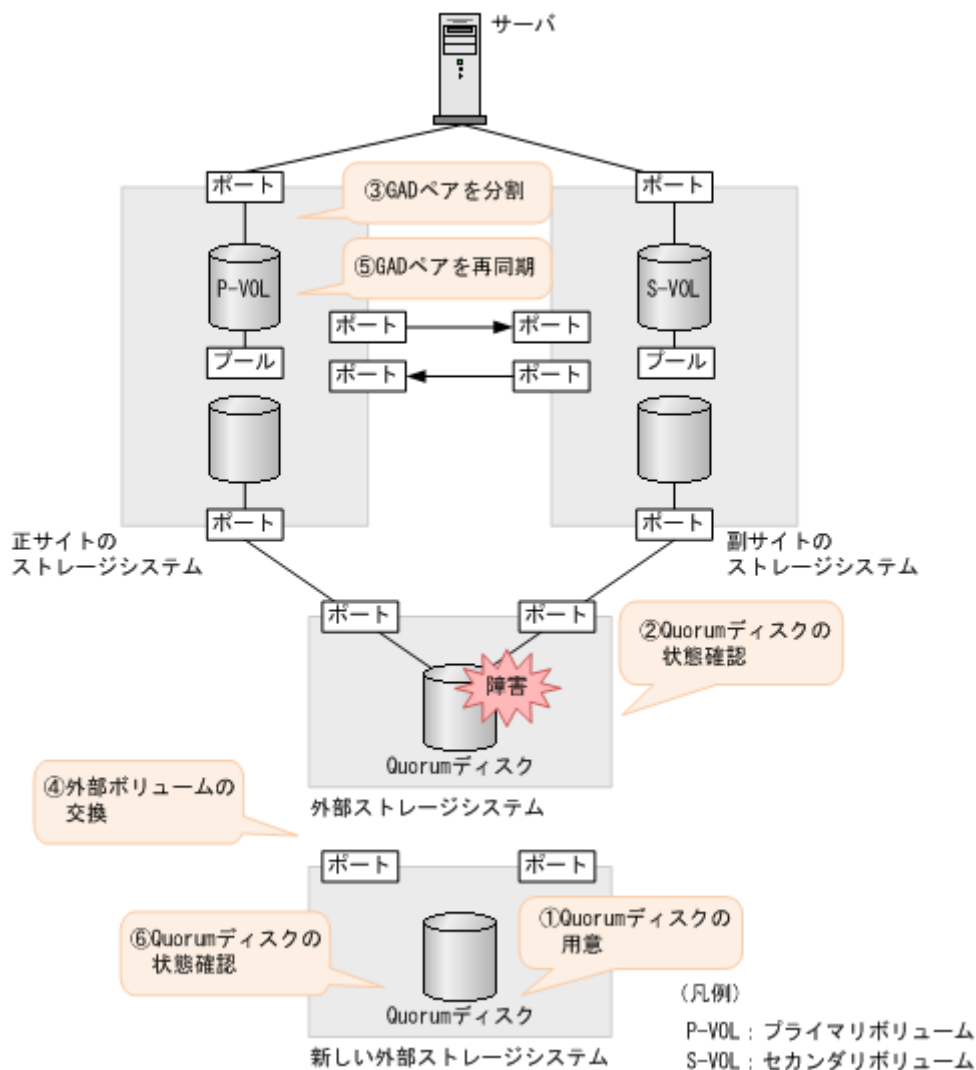
関連概念

- (1) [新しい外部ストレージシステムと交換する](#)
- (2) [Quorum ディスクの状態の Failed を解決する手順例](#)
- [1.6.5 Quorum ディスクの状態](#)
- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)
- [5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する](#)
- [5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)

(1) 新しい外部ストレージシステムと交換する

故障した外部ストレージシステムと、新しい外部ストレージを交換する手順を次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ



注意

GAD ペアが同じ Quorum ディスク ID に指定されていない場合、いったん Quorum ディスクを削除したあとに、Quorum ディスクを再度作成してください。GAD ペアが同じ Quorum ディスク ID に指定されていないまま、新しい Quorum ディスクに交換すると、正しく Quorum ディスクを交換できないことがあります。Quorum ディスクを再度作成したあとは、必要に応じて GAD ペアを作成してください。

1. Quorum ディスクを用意します。
 - a. 外部ストレージシステムのディスクをフォーマットします。
 - b. 外部ストレージシステムのディスクを、正サイトと副サイトのストレージシステムにマッピングします。
作業の流れは、Quorum ディスクを作成する流れと同じです。ただし、外部ボリュームを Quorum ディスクに設定する作業は不要です。詳細は、関連概念を参照してください。
2. Quorum ディスクの状態を確認します。
 - a. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクの状態が Blocked になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 2045
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : BLOCKED
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクの状態が **Blocked** になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 2045
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : BLOCKED
```

3. Quorum ディスク閉塞時のペア動作モードを確認し、必要に応じて GAD ペアを分割します。

- a. Quorum ディスク閉塞時のペア動作モードを確認します。

コマンド例 :

```
# pairdisplay -g oraHA -fcxe -d dev0
Group PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,Fence,%,
P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM
oraHA dev0(L) (CL1-C-0, 0, 0) 411111 400.P-VOL PAIR NEVER,100
500 - - 0 1 - - - L/M AA
oraHA dev0(R) (CL7-C-0,28, 0) 422222 500.S-VOL PAIR NEVER,100
400 - - 0 1 - - - L/M AA
```

QM が AA の場合は、手順 4 に進みます。QM が AA 以外の場合は、手順 b. に進みます。

- b. GAD ペアが分割されていない場合は、GAD ペアを分割します。

コマンド例 :

```
pairsplit -g oraHA -IH0
```

4. Quorum ディスク用の外部ボリュームを、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、現在の Quorum ディスク用の外部ボリュームを、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例 :

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH0
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクの状態が **Replacing** になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```

- c. 副サイトのストレージシステムで、現在の **Quorum** ディスク用の外部ボリュームを、新しい **Quorum** ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例：

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH1
```

- d. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Replacing** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```



メモ

raidcom replace quorum コマンドが正常に実行された場合、数秒で **Quorum** ディスクの状態が **Replacing** に変わります。5分経過しても、**Quorum** ディスクの状態が **Blocked** から変わらない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。

5. 手順 3.で **GAD** ペアを分割した場合、**GAD** ペアを再同期します。

コマンド例：

```
pairresync -g oraHA -IH0
```



メモ

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、**GAD** ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および **horctakeover** 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

6. **Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : NORMAL
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
```

Timeout (s) : 30
STS : NORMAL

raidcom replace quorum コマンドが正常に実行された場合、1分以内に Quorum ディスクの状態が Normal に変わります。5分経過しても、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わらない場合は、ストレージシステム間のリモートパスの状態が正常であることを確認してください。また、手順 5. で GAD ペアを再同期した場合、正常に同期していることを確認してください。



メモ

ストレージシステムの障害などによって、交換中の Quorum ディスクの状態が、Normal に初期化される場合があります。この場合、障害が発生していない相手側のストレージシステムの Quorum ディスクの状態が、5分経過しても Replacing から変わらないことがあります。この場合、障害回復後に GAD ペアを再同期すると、Normal に変わります。

Quorum ディスク交換後、Quorum ディスク ID に GAD ペアが割り当たっていない場合も、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わりません。この場合、Quorum ディスクを削除して Quorum ディスクを作成したあとに、GAD ペアを作成することを推奨します。Quorum ディスクを削除しないで GAD ペアを作成する場合は、GAD ペアを作成後、もう一度手順 6. を実施してください。

これらを実行しているにも関わらず、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わらない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。



メモ

Quorum ディスクの状態が Failed の場合は、交換先の Quorum ディスクが、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムでそれぞれ異なっているおそれがあります。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムで、同じ Quorum ディスクに接続するように外部ボリュームを指定して、Quorum ディスクの状態の Failed を解決してください。詳細は、関連概念を参照してください。同じ Quorum ディスクに接続するように外部ボリュームを指定したあとは、手順 5 以降の手順を実施してください。

関連概念

- [8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する](#)
- [\(2\) Quorum ディスクの状態の Failed を解決する手順例](#)

(2) Quorum ディスクの状態の Failed を解決する手順例

交換先の Quorum ディスクが、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムでそれぞれ異なると、Quorum ディスクの状態が Failed になります。この場合、Quorum ディスクとの接続を切断したあと、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換してください。

障害回復の流れ

1. Quorum ディスクの状態を確認します。
 - a. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続を切断します。
コマンド例：

```
raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x2045 -IH0
```
 - b. 副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続を切断します。

コマンド例 :

```
raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x2045 -IH1
```

2. Quorum ディスクとの接続が切断されていることを確認します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH0
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
 1 1-1 DSC E D 0 CL5-A 50060e8007823520 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
 1 1-2 DSC E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

3. Quorum ディスク用の外部ボリュームを、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、現在の Quorum ディスク用の外部ボリュームを、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例 :

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH0
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクの状態が Replacing になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```

- c. 副サイトのストレージシステムで、現在の Quorum ディスク用の外部ボリュームを、新しい Quorum ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例 :

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH1
```

- d. 副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクの状態が Replacing になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
```



```
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```



メモ

raidcom replace quorum コマンドが正常に実行された場合、数秒で Quorum ディスクの状態が Replacing に変わります。数分経過しても、Quorum ディスクの状態が Failed から変わらない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。

関連概念

- [8.16.2 新しい外部ストレージシステムと交換して障害から回復する](#)
- [\(1\) 新しい外部ストレージシステムと交換する](#)
- [10.1 GAD ペアを維持したまま外部ストレージシステムを交換する](#)

8.17 外部ストレージシステムの障害から回復する

外部ストレージシステムが使用できなくなった場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				最新のデータの格納先
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL)) ※1	PAIR (Mirror(RL)) ※1	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	○	○	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	COPY (Mirror(RL)) ※2	COPY (Block) ※2	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

GAD ペアの条件によって、障害発生後のペア状態および I/O モードが異なります。詳細は、関連項目を参照してください。

注※2

ペア状態が COPY になった直後に、外部ストレージに障害が発生した場合、プライマリボリュームが PSUE (Local) に、セカンダリボリュームが PSUE (Block) に変わることがあります。

SIM

- 正サイトのストレージシステム：21d0xy、21d2xx、dd2xyy、def0zz、ef5xyy、efd000、ff5xyy
- 副サイトのストレージシステム：21d0xy、21d2xx、dd2xyy、def0zz、ef5xyy、efd000、ff5xyy

障害回復の流れ

1. 外部ストレージシステムの障害を回復します。
詳細は、外部ストレージシステムのベンダーにお問い合わせください。
2. 障害によって中断した GAD ペアがある場合は、再同期または再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作](#)
- [8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先 \(障害発生前\)](#)

8.18 その他の障害から回復する

上記以外の障害の要因によって GAD ペアが中断された場合の、GAD ペアのペア状態と I/O モード、サーバからのアクセス可否、および最新のデータの格納先の変化を次に示します。

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PAIR (Mirror(RL)) ※1	PAIR (Mirror(RL)) ※1	PSUE (Local)	PSUE (Block)	○	×	P-VOL
		PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
		PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	○	×	P-VOL と S-VOL の両方
PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Block)	PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL

障害発生前		障害発生後				
ペア状態 (I/O モード)		ペア状態 (I/O モード)		サーバからのアクセス可否		最新のデータの格納先
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
COPY (Mirror(RL))	COPY (Block)	PSUE (Local)	PSUE/COPY (Block)	○	×	P-VOL
				×※2	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	PSUS/PSUE (Local)	SSUS/PSUE (Block)	○	×	P-VOL
				×※2	×	P-VOL
PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	PSUS/PSUE (Block)	SSWS (Local)	×	○	S-VOL
				×	×※3	S-VOL

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

○ : アクセス可

× : アクセス不可

注※1

GAD ペアの条件によって、障害発生後のペア状態および I/O モードが異なります。詳細は、関連項目を参照してください。

注※2

障害の要因によっては、プライマリボリュームにアクセスできなくなった場合に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方にアクセスできなくなります。

注※3

障害の要因によっては、セカンダリボリュームにアクセスできなくなった場合に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方にアクセスできなくなります。

SIM

- ・ 正サイトのストレージシステム : 障害の種類によって異なる
- ・ 副サイトのストレージシステム : 障害の種類によって異なる

障害回復の流れ

1. 障害の要因を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- 1.6.4 Quorum ディスクが閉塞または Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成時のサーバ I/O とのデータ二重化の動作
- 8.3 ペア状態および I/O モードとサーバからのアクセス可否と最新のデータの格納先（障害発生前）
- 8.18.1 その他の要因で GAD ペアが中断した場合の回復手順例

8.18.1 その他の要因で GAD ペアが中断した場合の回復手順例

その他の要因で GAD ペアが中断した場合の回復の流れの例を、次に示します。

障害回復の流れ

1. 障害部位を回復します。
 - a. 正サイトと副サイトのストレージシステムで発生する SIM などから、GAD ペアを中断させるような障害が発生していないかを確認します。
 - b. 障害が発生している場合は、障害種別に応じてトラブルシュートを実施し、障害要因を取り除きます。
2. Quorum ディスクの状態を確認し、閉塞している場合は回復します。Quorum ディスクにボリュームを設定しない場合、Quorum ディスクの回復手順は不要です。
3. GAD ペアを再同期します。
 - a. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの I/O モードを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA   dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0) 422222 4444. S-VOL PSUE
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
oraHA   dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0) 411111 2222. P-VOL PSUE
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
```

- b. プライマリボリュームの I/O モードが Local の場合は、正サイトのストレージシステムから GAD ペアを再同期します。
コマンド例：pairresync -g oraHA -IH0
- c. セカンダリボリュームの I/O モードが Local の場合は、副サイトのストレージシステムから GAD ペアを再同期します。
コマンド例：pairresync -g oraHA -swaps -IH1
正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。
- d. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

コマンド例 :

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S, Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

- マルチパスソフトウェアを使用して、セカンダリボリュームへの I/O を再開します。
- 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

上記手順で回復しない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。

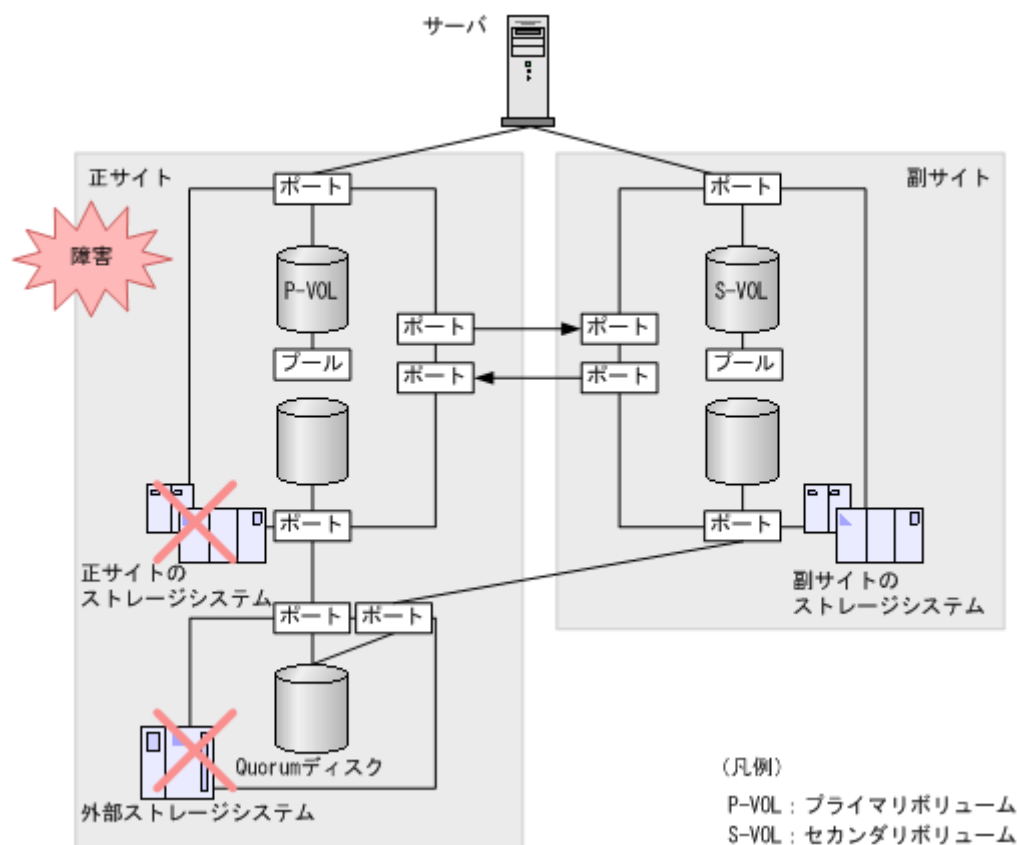
関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.16 Quorum ディスクの障害から回復する](#)
- [8.18 その他の障害から回復する](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.19 正サイトに発生した障害から回復する（外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合）

Qurum ディスク用外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合、正サイトに障害が発生したときは、正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムに、同時に障害が発生するおそれがあります。正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムに同時に障害が発生すると、GAD ペアが中断し、GAD ボリュームへのアクセスが停止します。この場合の回復手順の例を次に示します。

障害回復の概要



障害の部位	発生することのある SIM のリファレンスコード		GAD ボリュームへのアクセス可否※1	
	正サイトのストレージシステム	副サイトのストレージシステム	P-VOL	S-VOL
正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの両方	障害の種類による※2	<ul style="list-style-type: none"> • dd0xyy • dd2xyy • dd3xyy • 2180xx • 21d0xx • 21d2xx • ef5xyy • efd000 • ff5xyy • def0zz 	×	×※3

(凡例)

× : アクセスできない

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

VSP One B20 を構成するハードウェア (ドライブ、キャッシュ、CHB、DKB、MPB など) は冗長化されています。冗長化されているハードウェアの一部で障害が発生しても、GAD ペ

アが障害によって中断したり、GAD ボリュームへアクセスできなくなったりすることはあり
ません。また、次のパスを冗長化すると、ハードウェアの一部で障害が発生しても GAD ペア
が障害によって中断したり、GAD ボリュームへアクセスできなくなったりすることはありま
せん。

- ・ サーバと正サイトおよび副サイトのストレージシステム間の物理パス
- ・ 正サイトおよび副サイトのストレージシステムと外部ストレージシステム間の物理パス
- ・ 正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パス

注※2

障害の種類に応じた SIM が発生します。障害によって SIM を参照できないこともあります。

注※3

セカンダリボリュームのペア状態が SSWS のときに障害が発生した場合は、セカンダリボリ
ュームにアクセスできます。

障害回復の流れ

「[7.8 GAD ペアの I/O モードを強制的に変更する](#)」を参照して回復してください。

1. マルチパスソフトウェアを使用して、GAD ペアのプライマリボリュームへのパスを削除しま
す。
2. 副サイトのストレージシステムで、GAD ペアを強制削除します。
GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるように
してください。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -d dev1 -RFV -IH2`
3. 仮想 LDEV ID が残っていることを確認します。
コマンド例:

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2  
(略)  
LDEV : 2222  
VIR_LDEV : 1111  
(略)
```

4. GAD ペアが削除されたことを確認します。
5. マルチパスソフトウェアを使用して、GAD ペアのセカンダリボリュームへの I/O を再開しま
す。
6. 障害が発生している正サイトのストレージシステムを回復します。
7. 正サイトのストレージシステムで、GAD ペアを強制削除します。
GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないよ
うにしてください。
正サイトのストレージシステムで発生した障害の種別によっては、正サイトのストレージシス
テムを回復すると、プライマリボリュームのペア状態が SMPL に変わり、仮想属性に GAD 予
約が割り当てられていることがあります。この場合、GAD ペアの強制削除は不要です。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -d dev1 -SF -IH1`
8. 仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認します。
コマンド例:

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1  
(略)  
LDEV : 1111
```

VIR_LDEV : ffff
(略)

VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。

9. GAD ペアが削除されたことを確認します。
10. 障害が発生している外部ストレージシステムを回復します。
11. 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方から、Quorum ディスクを削除します。
外部ストレージシステムで発生した障害の種別によっては、外部ストレージシステムを回復すると、Quorum ディスクが削除されていることがあります。この場合、Quorum ディスクの削除は不要です。
12. 正サイトと副サイトのストレージシステムの両方から、Quorum ディスクを追加します。
13. 副サイトのストレージシステムで、GAD ペアを再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

誤ってセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をセカンダリボリュームに再設定してください。

コマンド例: `raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1`

仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID がプライマリボリュームの実 LDEV ID と一致していることを確認してください。

14. マルチパスソフトウェアを使用して、GAD ペアのプライマリボリュームへのパスを追加し、I/O を再開します。
15. 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.1 GAD の障害の発生部位](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える

障害リカバリの途中で、正サイトのボリュームがセカンダリボリュームに、副サイトのボリュームがプライマリボリュームに変わる場合があります。その場合、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

障害回復の流れ

1. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムにあるプライマリボリュームへの I/O を停止します。
冗長パスを削除できない場合も、次の手順へ進みます。
2. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが逆転していることを確認します。
コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. S-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

3. 正サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームのペア状態を SSWS に変更して、GAD ペアを中断します (スワップサスペンド)。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -d dev1 -RS -IH0`
4. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えて、GAD ペアを再同期します (スワップリシンク)。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -d dev1 -swaps -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

5. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。
コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,   LDEV#.P/S,   Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444. S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA   dev1(R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222. P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

6. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムにあるセカンダリボリュームへの I/O を再開します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

8.21 障害から回復して GAD ペアを再作成できない場合に GAD ペアを作成する

障害からの回復作業で GAD ペアを強制削除した場合、回復後の環境で GAD ペアを再作成できないことがあります。このような場合に、GAD ペアを再作成する手順を説明します。なお、GAD ペアの強制削除を実行する必要がある回復作業については、関連項目を参照してください。

関連概念

- [8.12 正サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)
- [8.13 副サイトのストレージシステムの障害から回復する](#)
- [8.19 正サイトに発生した障害から回復する（外部ストレージシステムを正サイトに設置した場合）](#)
- [8.21.1 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方から仮想 LDEV ID が削除されている場合の GAD ペアの作成手順](#)
- [8.21.2 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に仮想 LDEV ID が設定されている場合の GAD ペアの作成手順](#)

8.21.1 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方から仮想 LDEV ID が削除されている場合の GAD ペアの作成手順

障害回復の流れ

1. プライマリボリュームとセカンダリボリュームの仮想属性を確認します。
プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方の仮想属性に、GAD 予約が割り当てられていることを確認します。
コマンド例：
プライマリボリューム（LDEV ID : 0x4444）とセカンダリボリューム（LDEV ID : 0x5555）の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0
(略)
LDEV : 4444 VIR_LDEV : ffff
(略)
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1
(略)
LDEV : 5555 VIR_LDEV : ffff
(略)
```

仮想属性に GAD 予約が割り当てられているボリュームに、`raidcom get ldev` コマンドを実行すると、`VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「ffff」が表示されます。

2. プライマリボリュームへの LU パスをすべて削除します。
3. プライマリボリュームの GAD 予約を解除します。
コマンド例：
プライマリボリューム（LDEV ID : 0x4444）の GAD 予約を解除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve -IH0
```

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0  
(略)  
LDEV : 4444 VIR_LDEV : fffe  
(略)
```

GAD 予約が解除されたボリュームには、仮想 LDEV ID が割り当てられていません。仮想 LDEV ID が割り当てられていないボリュームに、raidcom get ldev コマンドを実行すると、VIR_LDEV (仮想 LDEV ID) に「ffe」が表示されます。

4. プライマリボリュームに仮想 LDEV ID を設定します。

コマンド例 :

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) に、仮想 LDEV ID の 0x4444 を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x4444 -IH0
```

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0  
(略)  
LDEV : 4444 VIR_LDEV : 4444  
(略)
```

5. プライマリボリュームとセカンダリボリュームの仮想属性を確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0  
(略)  
LDEV : 4444  
(略)  
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1  
(略)  
LDEV : 5555 VIR_LDEV : ffff  
(略)
```

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) に仮想 LDEV ID の 0x4444 が割り当てられていて、セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) に GAD 予約 (VIR_LDEV : ffff) が割り当てられています。

6. プライマリボリュームに使用するポートとホストグループを指定して、LU パスを再設定します。
7. GAD ペアを再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [8.21 障害から回復して GAD ペアを再作成できない場合に GAD ペアを作成する](#)

8.21.2 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に仮想 LDEV ID が設定されている場合の GAD ペアの作成手順

障害回復の流れ

1. プライマリボリュームとセカンダリボリュームの仮想属性を確認します。

コマンド例：

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) とセカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0
(略)
LDEV : 4444
(略)
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1
(略)
LDEV : 5555
(略)
```

2. セカンダリボリュームへのすべての LU パスを削除します。

3. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) の仮想 LDEV ID (0x5555) を削除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x5555 -virtual_ldev_id 0x5555 -IH1
```

セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1
(略)
LDEV : 5555 VIR_LDEV : fffe
(略)
```

仮想 LDEV ID が割り当てられていないボリュームに、raidcom get ldev コマンドを実行すると、VIR_LDEV (仮想 LDEV ID) に「ffff」が表示されます。

4. セカンダリボリュームの仮想属性に GAD 予約を設定します。

コマンド例：

セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) に、GAD 予約属性を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x5555 -virtual_ldev_id reserve -IH1
```

セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) の情報を表示します。

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1
(略)
LDEV : 5555 VIR_LDEV : ffff
(略)
```

セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) に GAD 予約 (VIR_LDEV : ffff) が割り当てられています。

5. プライマリボリュームとセカンダリボリュームの仮想属性を確認します。

コマンド例：

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH0
(略)
LDEV : 4444
```

```
(略)
raidcom get ldev -ldev_id 0x5555 -fx -IH1
(略)
LDEV : 5555 VIR_LDEV : ffff
(略)
```

プライマリボリューム (LDEV ID : 0x4444) に仮想 LDEV ID の 0x4444 が割り当てられていて、セカンダリボリューム (LDEV ID : 0x5555) に GAD 予約 (VIR_LDEV : ffff) が割り当てられています。

6. セカンダリボリュームに使用するポートとホストグループを指定して、LU パスを再設定します。
7. GAD ペアを再作成します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- ・ [8.21 障害から回復して GAD ペアを再作成できない場合に GAD ペアを作成する](#)

8.22 複数の部位に障害が発生したときには

複数の部位に障害が発生した場合は、次の手順で障害から回復します。

障害回復の流れ

1. ストレージシステムから発行される SIM や、SAN 管理ソフトウェアなどから障害部位を特定して、障害から回復します。
2. 両方のボリュームのデータが消失してしまった場合は、バックアップソフトウェアや、ShadowImage、Thin Image のボリュームなどを使用して、バックアップデータからデータを回復します。
3. サーバからの I/O が停止している場合は、サーバからの I/O を再開します。
4. GAD ペアが中断している場合は、GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

GAD ペアを再同期できないときは、ペア状態と I/O モードによって、次のとおり手順が異なります。

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
PSUE	COPY	Local	Block	1. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないようにしてください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> <p>2. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 (略)</pre> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。</p> <p>プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SFV -IH1</pre> <p>4. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>5. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。※2</p> <p>コマンド例</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。</p> <p>raidcom map resource コマンドを使用して、仮想</p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。</p> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
SMPL	COPY	—	Block	<ol style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2</pre> (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略) VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。 プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 (略) VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。*1 プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2 コマンド例： <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。</p> <p>raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。</p> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SSWS	Block	Local	<p>セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2</p> <p>コマンド例：</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -swaps -IH2</pre>
SMPL	SSWS	—	Local	<ol style="list-style-type: none"> 1. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認します。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1</pre> (略) LDEV : 1111 VIR_LDEV : ffff (略) <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> 2. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例： <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RFV -IH2</pre> 3. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例： <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2</pre> (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : 1111 (略)

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>4. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2 コマンド例：</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH2</pre> <p>誤ってセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をセカンダリボリュームに再設定してください。 コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID がプライマリボリュームの実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SSUS/ PSUE	Local	Block	<p>プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2 コマンド例：</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -IH1</pre>
SMPL	SSUS/ PSUE	—	Block	<p>1. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例：</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> <p>2. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認します。 コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略)</pre>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>LDEV : 1111 (略)</p> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。※1</p> <p>4. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。※2 コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 - virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。 仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUE	PSUE	Block	Block	<p>1. セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 セカンダリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を削除して、サーバからアクセスできないようにしてください。 コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -RF -IH2</pre> <p>2. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 - fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。</p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SFV -IH1</pre> <p>4. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認します。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 (略)</pre> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>5. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。</p> <p>raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。</p> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	PSUS/ PSUE	Local	Block	<p>プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期する。*2</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>pairresync -g oraHA -d dev1 -IH1</pre>
PSUS/ PSUE	SMPL	Local	—	<p>1. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。</p> <p>コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2 (略)</pre>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>LDEV : 2222 VIR_LDEV : ffff (略)</p> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>2. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。 プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。 コマンド例 :</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SFV -IH1</pre> <p>3. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 (略)</pre> <p>VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>4. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。^{※2} コマンド例 :</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH1</pre> <p>誤ってプライマリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。 raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をプライマリボリュームに再設定してください。 コマンド例 :</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x1111 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>デフォルトの仮想 LDEV ID は、実 LDEV ID と同じです。 仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID が実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>
PSUS/ PSUE	SMPL	Block	—	<p>1. プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除する。</p>

ペア状態		I/O モード		手順
P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL	
				<p>プライマリボリュームから GAD ペアを強制削除するときは、仮想 LDEV ID を残して、サーバからアクセスできるようにしてください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>pairsplit -g oraHA -d dev1 -SF -IH1</pre> <p>2. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認します。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1 (略) LDEV : 1111 VIR_LDEV : ffff (略)</pre> <p>VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。GAD 予約になっていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。</p> <p>3. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認する。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2 (略) LDEV : 2222 VIR_LDEV : 1111 (略)</pre> <p>仮想 LDEV ID が残っていない場合は、正しい仮想 LDEV ID を設定してください。*1</p> <p>4. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再作成する。*2</p> <p>コマンド例：</p> <pre>paircreate -g oraHA -d dev1 -f never -vl -jq 1 -IH2</pre> <p>誤ってセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID を削除すると、再度 GAD ペアを作成できません。</p> <p>raidcom map resource コマンドを使用して、仮想 LDEV ID をセカンダリボリュームに再設定してください。</p> <p>コマンド例：</p> <pre>raidcom map resource -ldev_id 0x2222 -virtual_ldev_id 0x1111 -IH1</pre> <p>仮想 LDEV ID の再設定後に、確認コマンドを使用して、仮想 LDEV ID がプライマリボリュームの実 LDEV ID と一致していることを確認してください。</p>

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

— : 非該当

注※1

副サイトのストレージシステムでシェアドメモリが揮発する障害が発生した場合、セカンダリボリュームのペア状態は SMPL に変わり、仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。

注※2

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [8.2 GAD 使用時に発行される SIM](#)

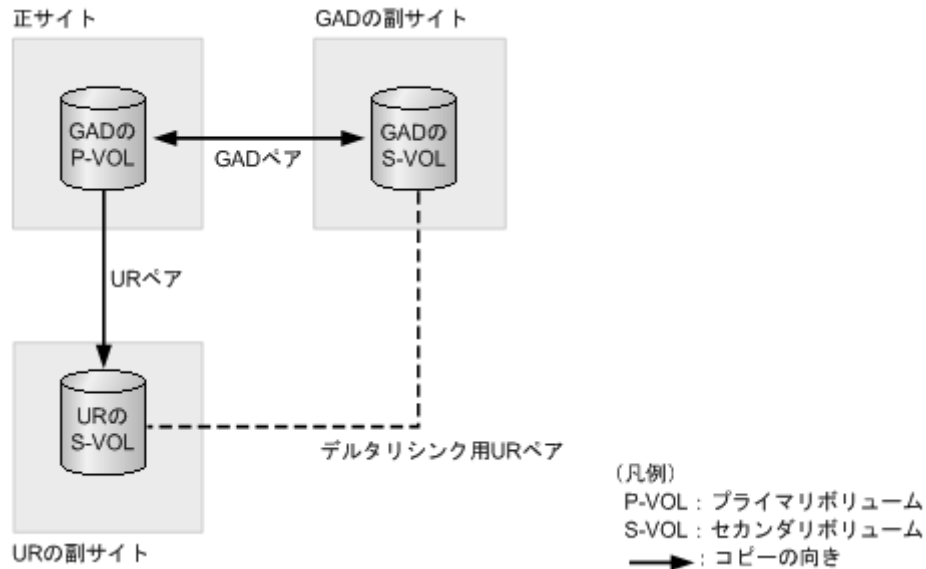
global-active device と Universal Replicator を併用するときの障害リカバリ

ここでは、global-active device (GAD) と Universal Replicator (UR) を併用するときの障害リカバリについて説明します。

- 9.1 障害発生前の状態
- 9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)
- 9.3 副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)
- 9.4 正サイトおよび副サイトの障害から回復する手順例 (UR と併用しているとき)
- 9.5 デルタリシンク用 UR ペアの障害から回復する手順例
- 9.6 Quorum ディスクの障害から回復する (UR と併用しているとき)

9.1 障害発生前の状態

障害発生前の状態を次に示します。GAD のプライマリボリュームから UR のセカンダリボリュームへデータをコピーしています。



9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームに障害 (LDEV 閉塞) が発生した場合の回復手順を、例を用いて説明します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[9.3 副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームの障害 \(LDEV 閉塞\) から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)」を参照して、副サイトの障害も回復してください。

関連概念

- [9.2.1 正サイトの障害から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)
- [9.2.2 正サイトのプライマリボリュームの障害 \(LDEV 閉塞\) から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)
- [9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える \(UR と併用しているとき\)](#)

9.2.1 正サイトの障害から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

正サイトに障害が発生した場合の回復手順を説明します。ここでは、正サイトのストレージシステムに障害が発生している例を使用して説明します。

正サイトのストレージシステムに障害が発生すると、GAD ペアのペア状態が PSUE/SSWS に変わります。このとき、自動でデルタリシンクが実行されます。障害発生前後のペアの種類およびペアの状態の変化について、次の表に示します。

障害発生前			障害発生後		
ペアの種類	ペア状態		ペアの種類	ペア状態	
	P-VOL	S-VOL		P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR	PAIR	GAD ペア	PSUE※	SSWS
UR ペア	PAIR	PAIR	デルタリシンク用 UR ペア	PSUE※	SSUS
デルタリシンク用 UR ペア	PSUE※	SSUS	UR ペア	COPY から PAIR へ変化	COPY から PAIR へ変化

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

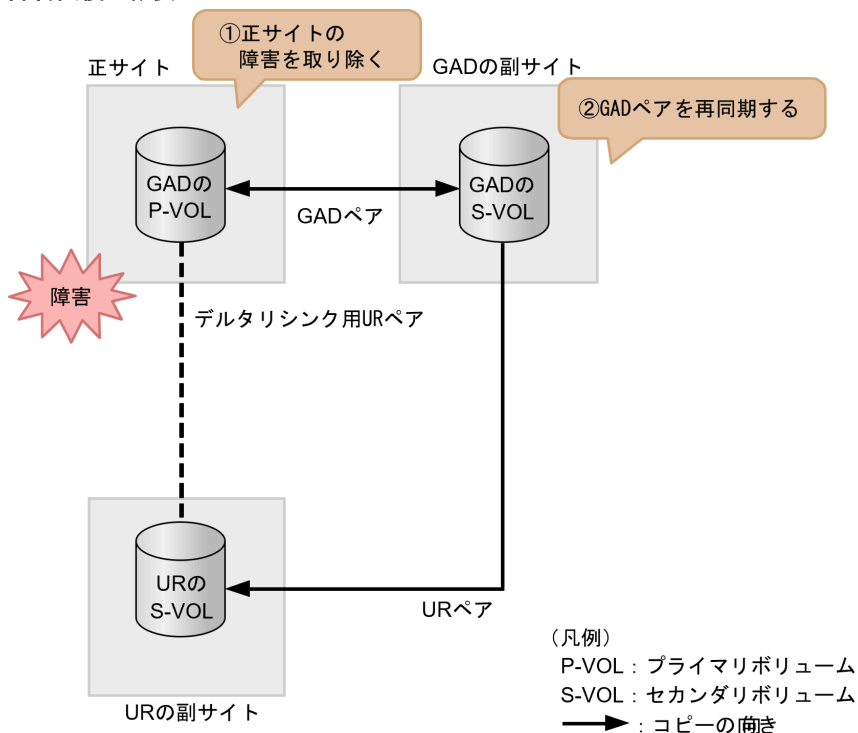
S-VOL : セカンダリボリューム

注※

正サイトの電源を ON したあとのペア状態です。

障害が発生すると、デルタリシンク用 UR ペアが UR ペアに変わり、GAD のセカンダリボリュームから UR のセカンダリボリュームへコピーが始まります。UR ペアのコピーが完了すると、UR ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、PAIR に変わります。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. 正サイトのストレージシステムの障害を取り除きます。

- GAD の副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えて、GAD ペアを再同期します (スワップリシンク)。

コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、GAD の副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。

- GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも **PAIR** に変わったことを確認します。

コマンド例:

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1(R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1(L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1(R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
```

- サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2分程度 I/O を発行し続けます。
- デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が **PSUS** であることを確認します。

コマンド例:

```
pairdisplay -g oraREMOTE -fxce -IH0
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev2(L)      (CL1-A-1, 0, 1) 411111 2222. P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - - -/-
oraDELTA dev2(R)      (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL
SSUS ASYNC ,0 2222 - 0 0 - - - - - -/-
```

- デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が **PJNS** であることを確認します。

コマンド例:

```
pairdisplay -g oraREMOTE -v jnl -IH0
JID MU CTG JNLS AP U(%) Q-Marker Q-CNT D-SZ (BLK) Seq# Num
LDEV#
000 1 1 PJNS 4 21 43216fde 30 512345 62500 1
39321
```

- 障害を通知する **SIM** が発生していないことを確認します。
- 必要に応じて、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

**注意**

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- 9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)
- 9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える (UR と併用しているとき)

9.2.2 正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

正サイトのプライマリボリュームに障害 (LDEV 閉塞) が発生すると、GAD ペアのペア状態が PSUE/SSWS に変わります。このとき、自動でデルタリシンクが実行されます。障害発生前後のペアの種類およびペアの状態の変化について、次の表に示します。

障害発生前			障害発生後		
ペアの種類	ペア状態		ペアの種類	ペア状態	
	P-VOL	S-VOL		P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR	PAIR	GAD ペア	PSUE	SSWS
UR ペア	PAIR	PAIR	デルタリシンク用 UR ペア	PSUE	SSUS
デルタリシンク用 UR ペア	PSUS	SSUS	UR ペア	COPY から PAIR へ変化	COPY から PAIR へ変化

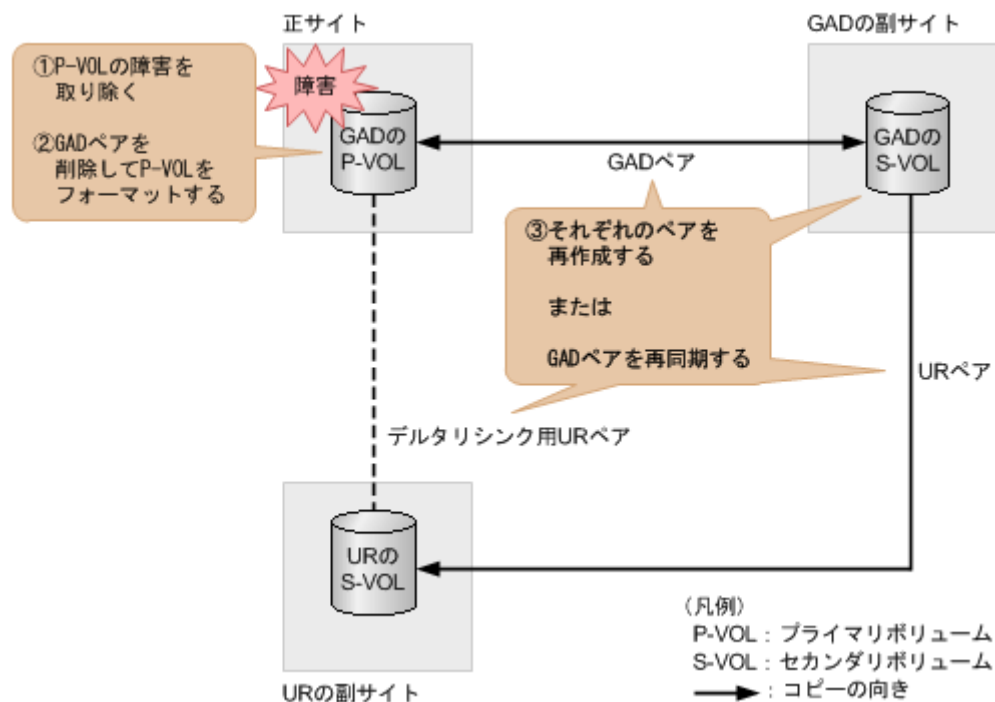
(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

障害が発生すると、デルタリシンク用 UR ペアが UR ペアに変わり、GAD のセカンダリボリュームから UR のセカンダリボリュームへコピーが始まります。UR ペアのコピーが完了すると、UR ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、PAIR に変わります。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. プライマリボリュームの障害（LDEV 閉塞）を取り除きます。
2. プライマリボリュームのフォーマットによる回復が必要な場合は、GAD ペアを削除したあとにプライマリボリュームをフォーマットします。
GAD ペアを削除するときは、I/O モードが Local のセカンダリボリューム側から削除してください。
3. 手順 2 を実施した場合は、GAD ペア、デルタリシンク用 UR ペア、UR ペアの順番でペアを再作成します。GAD ペアは、セカンダリボリューム側から作成してください。



注意

GAD ペアまたは UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアまたは UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

また、コマンドを実行したあとは、必要に応じて GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの入れ替えを実施してください。

コマンド例：

```
paircreate -g oraHA -fg never 2 -vl -jq 0 -IH1  
paircreate -g oraDELTA -f async -vl -jp 0 -js 0 -nocsus -IH1  
paircreate -g oraREMOTE -f async -vl -jp 0 -js 0 -IH0
```

手順 2 を実施しない場合は、GAD の副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えて、GAD ペアを再同期します（スワップリシンク）。

コマンド例：

```
pairresync -g oraHA -swaps -IH1
```



メモ

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、GAD の副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。

- GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,   %,P-LDEV# M CTG JID AP EM           E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA   dev1 (L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - - L/M
oraHA   dev1 (R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - - L/M
```

- サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
- デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が PSUS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraREMOTE -fxce -IH0
Group   PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev2 (L)      (CL1-A-1, 0, 1)411111 2222.P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - - -/-
oraDELTA dev2 (R)      (CL1-A-1, 0, 1)444444 6666.S-VOL
SSUS ASYNC ,0 2222 - 0 0 - - - - - -/-
```

- デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が PJNS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraREMOTE -v jnl -IH0
JID MU CTG JNLS AP U(%) Q-Marker Q-CNT D-SZ (BLK) Seq# Num
LDEV#
000 1 1 PJNS 4 21 43216fde 30 512345 62500 1
39321
```

- 障害を通知する SIM が発生していないことを確認します。
- 必要に応じて、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片

方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- 8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える
- 9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)
- 9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える (UR と併用しているとき)

9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える (UR と併用しているとき)

GAD と UR を併用しているときに、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える手順の流れを次に示します。

障害回復の流れ

1. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断 (スワップサスペンド) します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH0`
2. セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期 (スワップリシンク) します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

正サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリューム、GAD の副サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリュームに変わります。

3. サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
4. デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が PSUS であることを確認します。
コマンド例:

```
pairdisplay -g oraDELTA -fxce -IH0
Group      PairVol (L/R)  (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev2 (L) (CL1-A-1, 0, 1) 411111 2222. P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - -/-
oraDELTA dev2 (R) (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL
SSUS ASYNC ,0 2222 - 0 0 - - - - -/-
```

5. デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が PJNS であることを確認します。
コマンド例:

```
pairdisplay -g oraDELTA -v jnl -IH0
JID MU CTG JNLS AP U(%) Q-Marker Q-CNT D-SZ (BLK) Seq# Num
LDEV#
000 1 1 PJNS 4 21 43216fde 30 512345 62500 1
39321
```

6. 障害を通知する SIM が発生していないことを確認します。

関連概念

- [9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 \(LDEV 閉塞\) から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)

9.3 副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームに障害 (LDEV 閉塞) が発生した場合の回復手順を、例を用いて説明します。

GAD を構成する両方のサイトで、次のように GAD ペアを組んでいる場合があります。

- GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 1 に、セカンダリボリュームがサイト 2 に存在する
- 別の GAD ペアのプライマリボリュームがサイト 2 に、セカンダリボリュームがサイト 1 に存在する

この場合は、「[9.2 正サイト障害および正サイトのプライマリボリュームの障害 \(LDEV 閉塞\) から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)」を参照して、正サイトの障害も回復してください。

関連概念

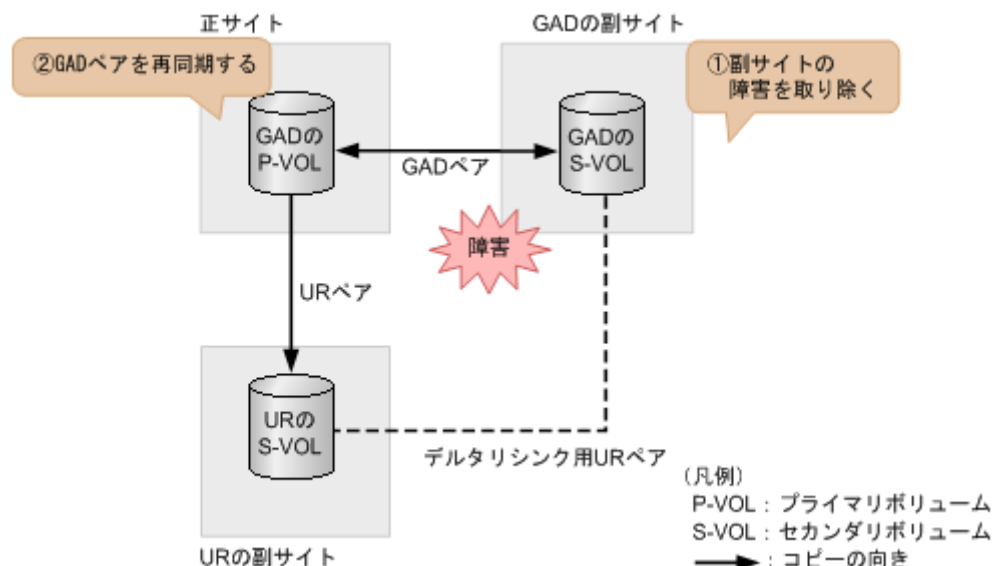
- [9.3.1 副サイトの障害から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)
- [9.3.2 副サイトのセカンダリボリュームの障害 \(LDEV 閉塞\) から回復する手順例 \(UR と併用しているとき\)](#)

9.3.1 副サイトの障害から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

global-active device の副サイトのストレージシステムに障害が発生した場合の回復手順を説明します。

副サイトに障害が発生すると、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PSUE に変わります。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. 副サイトのストレージシステムの障害を取り除きます。
2. 正サイトのストレージシステムで、GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

3. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。
コマンド例:

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group  PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA  dev1(L)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - -          - - L/M
oraHA  dev1(R)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - -          - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group  PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence,  %,P-LDEV# M CTG JID AP EM          E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA  dev1(L)      (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - -          - - L/M
oraHA  dev1(R)      (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - -          - - L/M
```

4. サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2分程度 I/O を発行し続けます。
5. デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が PSUS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraDELTA -fxce -IH1
Group      PairVol (L/R)  (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev3(L)    (CL1-A-1, 0, 1) 422222 4444. P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - - - -/-
oraDELTA dev3(R)    (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL
SSUS ASYNC ,0 4444 - 0 0 - - - - - - -/-
```

6. GAD の副サイトのストレージシステム操作用のインスタンスで、デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が PJNS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraDELTA -v jnl -IH1
JID MU CTG JNLS AP U(%) Q-Marker Q-CNT D-SZ (BLK) Seq# Num
LDEV#
000 1 1 PJNS 4 21 43216fde 30 512345 62500 1
39321
```

7. 障害を通知する SIM が発生していないことを確認します。

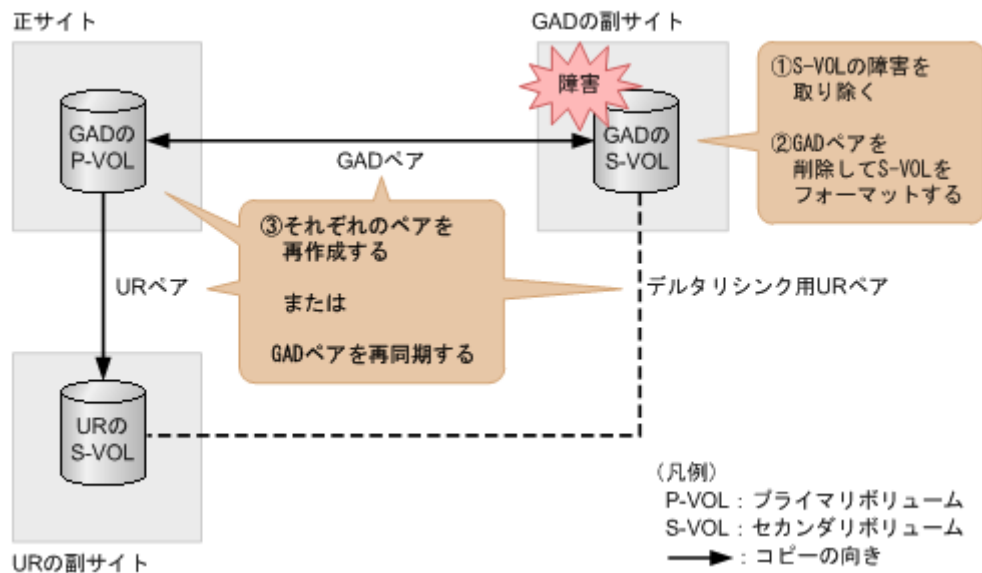
関連概念

- 9.3 副サイト障害および副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

9.3.2 副サイトのセカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) から回復する手順例 (UR と併用しているとき)

副サイトのセカンダリボリュームに障害 (LDEV 閉塞) が発生すると、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PSUE に変わります。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. セカンダリボリュームの障害 (LDEV 閉塞) を取り除きます。

2. セカンダリボリュームのフォーマットによる回復が必要な場合は、GAD ペアを削除したあとにセカンダリボリュームをフォーマットします。
3. 手順 2 を実施した場合は、GAD ペア、デルタリシンク用 UR ペア、UR ペアの順番でペアを再作成します。

コマンド例：

```
paircreate -g oraHA -fg never 2 -vl -jq 0 -IH0
paircreate -g oraDELTA -f async -vl -jp 0 -js 0 -nocsus -IH1
paircreate -g oraREMOTE -f async -vl -jp 0 -js 0 -IH0
```



注意

GAD ペアまたは UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアまたは UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

手順 2 を実施しない場合は、正サイトのストレージシステムで、GAD ペアを再同期します。

コマンド例：

```
pairresync -g oraHA -IH0
```



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

4. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
```

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.S-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - L/M
oraHA dev1 (R) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.P-VOL PAIR
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/M
```

5. サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
6. デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が PSUS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraDELTA -fxce -IH1
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev3 (L) (CL1-A-1, 0, 1) 422222 4444. P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - -/-
```

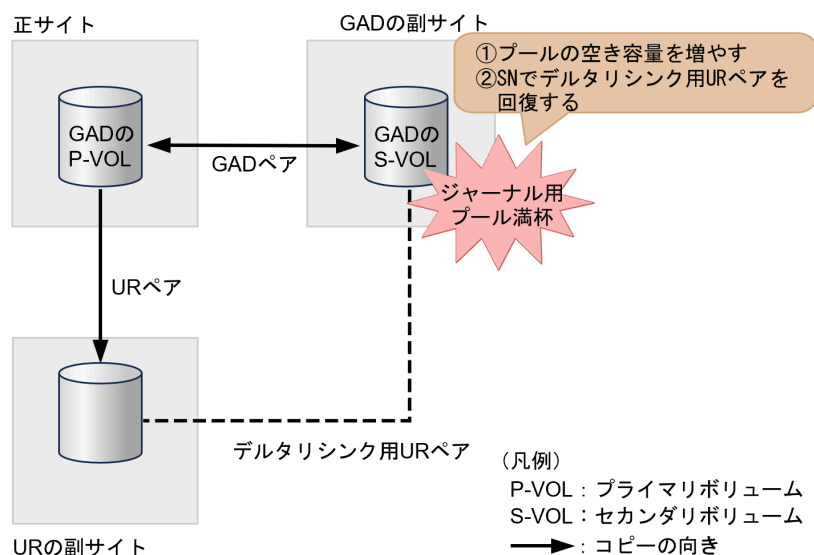

3. プライマリボリュームの I/O モードを Local に変更します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -iomd local -IH0`
4. セカンダリボリュームを指定して UR ペアを再同期 (スワップリシンク) します。
コマンド例: `pairresync -g oraREMOTE -swaps -IH2`
5. UR のプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。
コマンド例: `pairresync -g oraREMOTE -swaps -IH0`
6. プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`

9.5 デルタリシンク用 UR ペアの障害から回復する手順例

デルタリシンク用 UR ペアに障害が発生した場合の回復手順の流れを説明します。GAD の副サイトのストレージシステムにあるジャーナルが満杯になった場合、次の手順で回復します。

デルタリシンク用 UR ペアに障害が発生すると、SIM が発生します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. GAD の副サイトのストレージシステムにあるジャーナルが使用しているプールの空き容量を増やします。
2. デルタリシンク用 UR ペアを再同期します。



注意

UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

3. デルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームの状態が PSUS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraDELTA -fxce -IH1
Group      PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/S,
Status,Fence, %, P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraDELTA dev3 (L) (CL1-A-1, 0, 1) 422222 4444. P-VOL
PSUS ASYNC ,0 6666 - 0 0 - - - - -
oraDELTA dev3 (R) (CL1-A-1, 0, 1) 444444 6666. S-VOL
SSUS ASYNC ,0 4444 - 0 0 - - - - -
```

4. GAD の副サイトのストレージシステム操作のインスタンスで、デルタリシンク用 UR ペアのジャーナルのミラー状態が PJNS であることを確認します。

コマンド例：

```
pairdisplay -g oraDELTA -v jnl -IH1
JID MU CTG JNLS AP U(%) Q-Marker Q-CNT D-SZ (BLK) Seq# Num
LDEV#
000 1 1 PJNS 4 21 43216fde 30 512345 62500 1
39321
```

5. 障害を通知する SIM が発生していないことを確認します。

9.6 Quorum ディスクの障害から回復する (UR と併用しているとき)

Quorum ディスクの障害から回復する手順を説明します。Quorum ディスクには外部ストレージシステムのボリュームまたはサーバのディスクを使用します。ここでは、外部ストレージシステムのボリュームを Quorum ディスクとして使用している場合について説明します。次のどちらの状態であるかによって、回復手順が異なります。

- サーバから GAD ペアのボリュームの一方へアクセスできる。
- サーバから GAD ペアのボリュームの両方にアクセスできない。

サーバから GAD ペアのボリュームにアクセスできるかどうかは、GAD ペアの I/O モードで確認できます。

コマンド例

```
pairdisplay -g oraHA -fxce -IH0
Group      PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,
Fence, %,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W
oraHA dev1 (L) (CL1-A-0, 0, 0)411111 2222.S-VOL PSUS
NEVER , 100 4444 - - 0 - - - - L/L
oraHA dev1 (R) (CL1-C-0, 0, 0)422222 4444.P-VOL PAIR
NEVER , 100 2222 - - 0 - - - - B/B
```

R/W が L/L のボリュームへはサーバからアクセスできますが、R/W が B/B のボリュームへはアクセスできません。

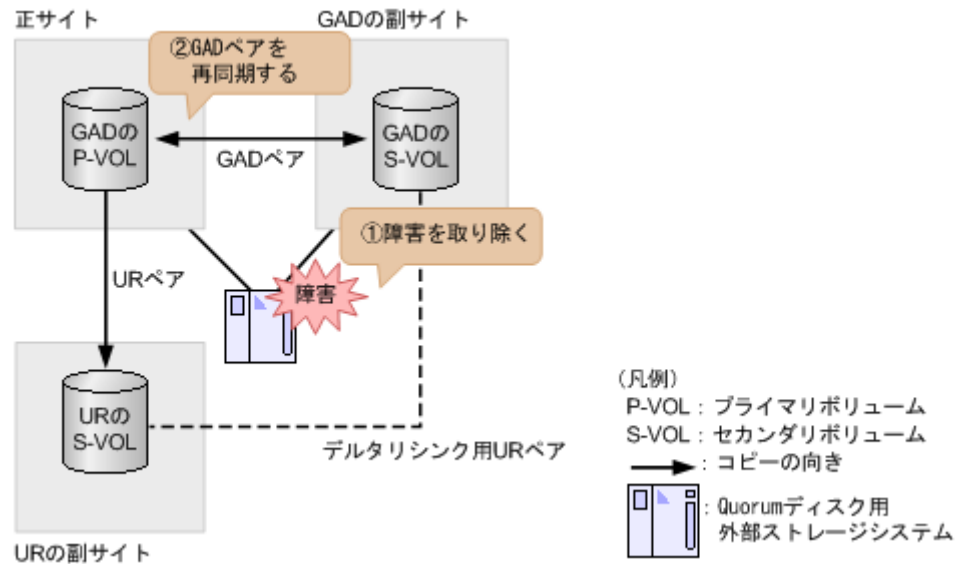
関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [9.6.1 Quorum ディスクの障害から回復する手順例 \(サーバから GAD ペアのボリュームの一方にアクセスできる場合\)](#)
- [9.6.2 Quorum ディスクの障害から回復する手順例 \(サーバから GAD ペアのボリュームの両方にアクセスできない場合\)](#)

9.6.1 Quorum ディスクの障害から回復する手順例（サーバから GAD ペアのボリュームの一方にアクセスできる場合）

Quorum ディスクに障害が発生し、サーバから GAD ペアのボリュームの一方にアクセスできる場合の回復手順の流れを次に示します。

障害回復の概要



障害回復の流れ

1. Quorum ディスクの障害を回復します。
2. 障害によって中断した GAD ペアがある場合は、GAD ペアを再同期します。



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [8.16.1 ペア状態が PAIR の場合に Quorum ディスクの障害から回復する手順例](#)
- [9.6 Quorum ディスクの障害から回復する \(UR と併用しているとき\)](#)

9.6.2 Quorum ディスクの障害から回復する手順例（サーバから GAD ペアのボリュームの両方にアクセスできない場合）

Quorum ディスクに障害が発生し、サーバから GAD ペアのボリュームの両方にアクセスできない場合は、いったんすべてのペアを削除してから、UR の副サイトにあるボリュームを使用して障害から回復します。

障害回復の流れ

1. UR ペアを削除します。

コマンド例: pairsplit -g oraREMOTE -S -IH0

2. デルタリシンク用 UR ペアを削除します。

コマンド例: pairsplit -g oraDELTA -S -IH1

3. GAD ペアを削除します。

プライマリボリュームとセカンダリボリュームの I/O モードが両方ともブロックのときは、GAD ペアを強制削除します。プライマリボリュームとセカンダリボリュームに対して、次のとおり GAD ペアの強制削除コマンドを実行します。

- a. セカンダリボリュームを指定して、GAD ペアを強制削除します。仮想 LDEV ID も同時に削除します。

コマンド例: pairsplit -g oraHA -RF -IH1

- b. セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が、GAD 予約になっていることを確認する。

コマンド例:

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x2222 -fx -IH2
(略)
LDEV : 2222
VIR_LDEV : ffff
(略)
```

VIR_LDEV : ffff は、GAD 予約を示しています。

- c. プライマリボリュームを指定して、GAD ペアを強制削除します。ただし、仮想 LDEV ID は残します。

コマンド例: pairsplit -g oraHA -SFV -IH0

- d. プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が残っていることを確認します。

コマンド例:

```
raidcom get ldev -ldev_id 0x1111 -fx -IH1
(略)
LDEV : 1111
(略)
```

VIR_LDEV の情報は、LDEV の情報と同じ場合表示されません。

I/O モードがブロック以外の場合で、GAD ペアを強制削除したいときは、お問い合わせください。

4. UR の副サイトと正サイトの間で、UR ペアを作成します。

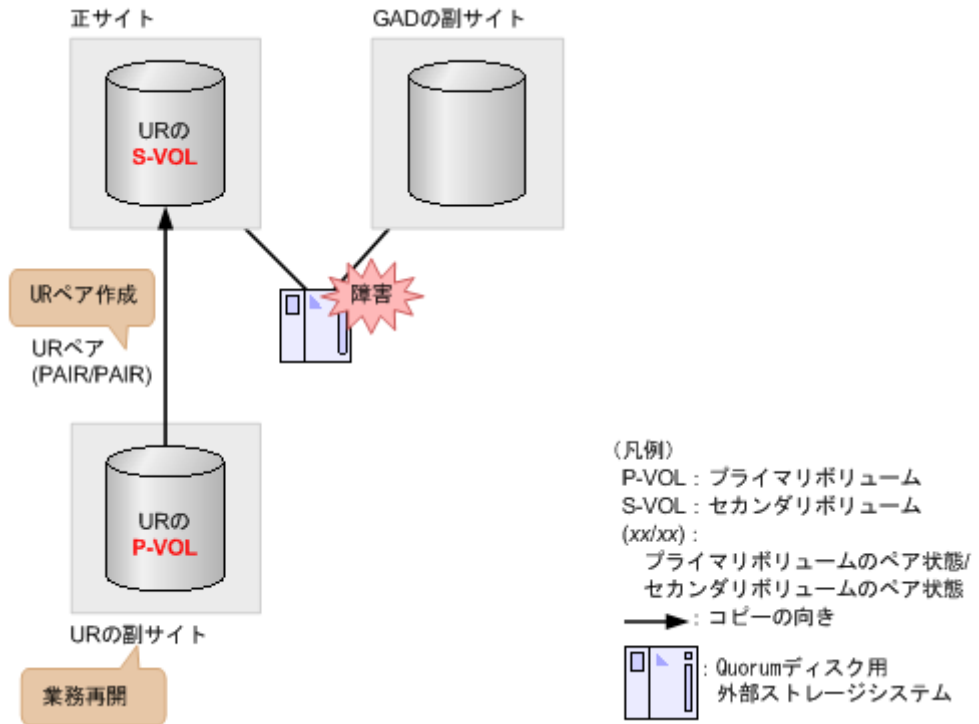
コマンド例: `paircreate -g oraREMOTE -f async -vl -jpl 0 -js 0 -IH2`



注意

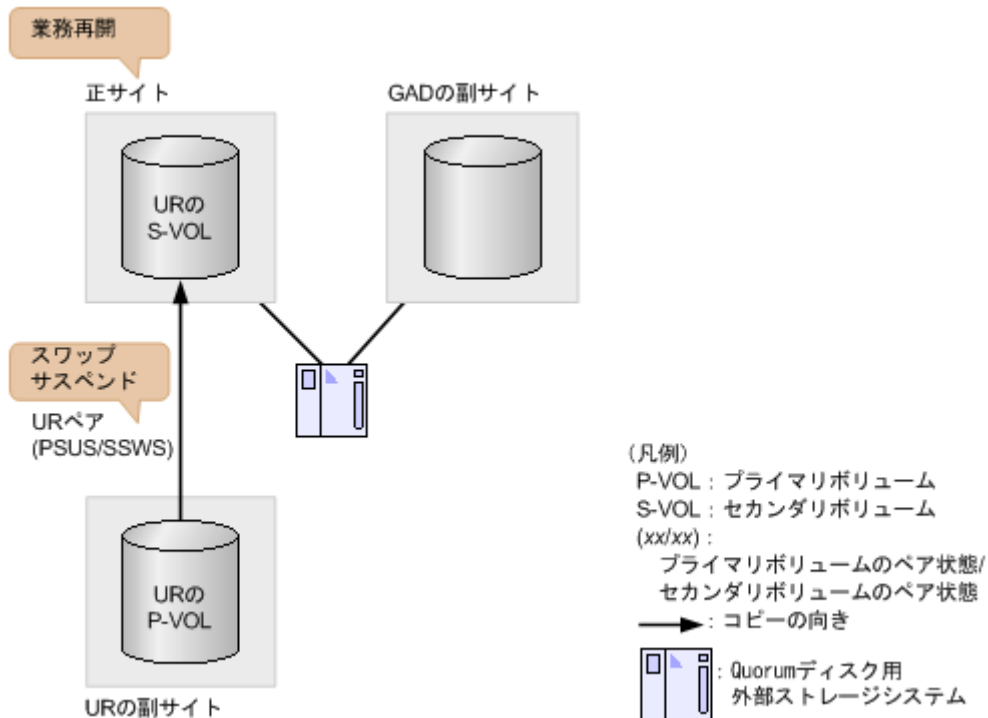
UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

この時点で、UR の副サイトにあるプライマリボリュームを使用して業務を再開できます。



5. Quorum ディスクの障害を取り除きます。

6. セカンダリボリュームを指定して UR ペアを分割 (スワップサスペンド) します。
 コマンド例: `pairsplit -g oraREMOTE -RS -IH0`
 この時点で、正サイトにあるセカンダリボリュームを使用して業務を再開できます。



7. セカンダリボリュームを指定して UR ペアを再同期（スワップリシンク）します。

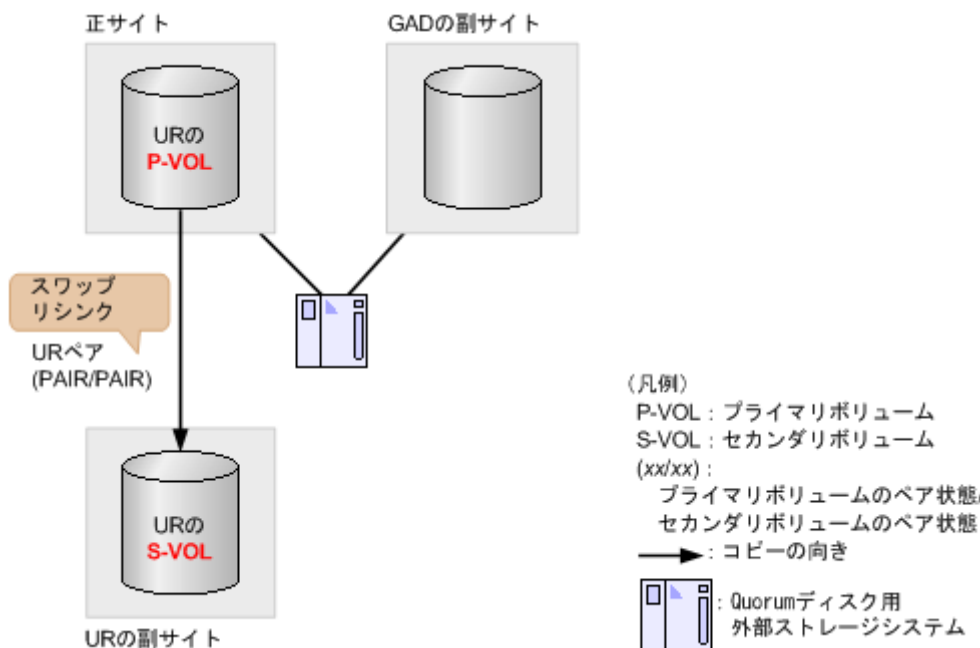
コマンド例: `pairresync -g oraREMOTE -swaps -IH0`



注意

UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

正サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリューム、UR の副サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリュームに変わります。



8. UR ペアを削除します。

コマンド例: `pairsplit -g oraREMOTE -S -IH0`

9. GAD ペアを再作成します。

コマンド例: `paircreate -g oraHA -fg never 2 -vl -jq 0 -IH0`



注意

GAD ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、GAD ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

10. デルタリシンク用 UR ペアを再作成します。

コマンド例: `paircreate -g oraDELTA -f async -vl -jp 0 -js 0 -nocsus -IH1`



注意

UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

11. UR ペアを再作成します。

コマンド例: `paircreate -g oraREMOTE -f async -vl -jp 0 -js 0 -IH0`



注意

UR ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、UR ペアの作成、再同期、スワップリシンク、horctakeover、およびデルタリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

関連概念

- [9.6 Quorum ディスクの障害から回復する \(UR と併用しているとき\)](#)

関連参照

- [付録 A.1 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係](#)

global-active device の保守運用

ここでは、global-active device (GAD) を継続的に運用するに当たり、必要な保守作業について説明します。

- 10.1 GAD ペアを維持したまま外部ストレージシステムを交換する
- 10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する

10.1 GAD ペアを維持したまま外部ストレージシステムを交換する

稼働している外部ストレージシステムが古い場合、GAD ペアを維持したまま、新しい外部ストレージシステムと交換できます。



注意

GAD ペアが同じ Quorum ディスク ID に指定されていない場合、いったん Quorum ディスクを削除したあとに、Quorum ディスクを再度作成してください。GAD ペアが同じ Quorum ディスク ID に指定されていないまま、新しい Quorum ディスクに交換すると、正しく Quorum ディスクを交換できないことがあります。Quorum ディスクを再度作成したあとは、必要に応じて GAD ペアを作成してください。

操作手順

1. Quorum ディスク閉塞時のペア動作モードを確認し、必要に応じて GAD ペアを分割します。

- a. Quorum ディスク閉塞時のペア動作モードを確認します。

コマンド例：

```
# pairdisplay -g oraHA -fcxe -d dev0
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#,LDEV#.P/S,Status,Fence,%,
P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM
oraHA dev0(L) (CL1-C-0, 0, 0) 411111 400.P-VOL PAIR NEVER,100
500 - - 0 1 - - - L/M AA
oraHA dev0(R) (CL7-C-0,28, 0) 422222 500.S-VOL PAIR NEVER,100
400 - - 0 1 - - - L/M AA
```

QM が AA の場合は、手順 2 に進みます。QM が AA 以外の場合は、手順 b. に進みます。

- b. GAD ペアが分割されていない場合は、GAD ペアを分割します。

コマンド例：

```
pairsplit -g oraHA -IH0
```

2. 手順 1. で GAD ペアを分割した場合、GAD ペアを再同期します。

コマンド例：

```
pairresync -g oraHA -IH0
```

3. Quorum ディスクとの接続を切断します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続を切断します。

コマンド例：

```
raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x2045 -IH0
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続を切断します。

コマンド例：

```
raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x2045 -IH1
```

4. Quorum ディスクとの接続が切断されているかを確認します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、Quorum ディスクとの接続が切断されていることを確認します

コマンド例 :

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH0
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-1 DSC E D 0 CL5-A 50060e8007823520 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクとの接続が切断されていることを確認します

コマンド例 :

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-2 DSC E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

5. 新しい **Quorum** ディスクを用意します。

- a. 外部ストレージシステムのディスクをフォーマットします。
- b. 外部ストレージシステムのディスクを、正サイトと副サイトのストレージシステムにマッピングします。
作業の流れは、**Quorum** ディスクを作成する流れと同じです。ただし、外部ボリュームを **Quorum** ディスクに設定する作業は不要です。詳細は、関連概念を参照してください。

6. **Quorum** ディスクの状態を確認します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Blocked** になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 2045
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : BLOCKED
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Blocked** になっていることを確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 2045
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : BLOCKED
```

7. 新しい **Quorum** ディスクの **LDEV** と交換します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、現在の **Quorum** ディスク用の外部ボリュームを、新しい **Quorum** ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例 :

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH0
```

- b. 正サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Replacing** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```

- c. 副サイトのストレージシステムで、現在の **Quorum** ディスク用の外部ボリュームを、新しい **Quorum** ディスク用の外部ボリュームと交換します。

コマンド例：

```
raidcom replace quorum -quorum_id 1 -ldev_id 1234 -IH1
```

- d. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Replacing** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : REPLACING
```



メモ

`raidcom replace quorum` コマンドが正常に実行された場合、数秒で **Quorum** ディスクの状態が **Replacing** に変わります。数分経過しても、**Quorum** ディスクの状態が **Blocked** から変わらない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。

8. **Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

- a. 正サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH0
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 411111
QRP_ID : M8
Timeout(s) : 30
STS : NORMAL
```

- b. 副サイトのストレージシステムで、**Quorum** ディスクの状態が **Normal** になっていることを確認します。

コマンド例：

```
raidcom get quorum -quorum_id 1 -IH1
QRDID : 1
LDEV : 1234
QRP_Serial# : 422222
QRP_ID : M8
```


Timeout (s) : 30
STS : NORMAL

raidcom replace quorum コマンドが正常に実行された場合、1 分以内に Quorum ディスクの状態が Normal に変わります。5 分経過しても、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わらない場合は、ストレージシステム間のリモートパスの状態が正常であることを確認してください。また、手順 2. で GAD ペアを再同期した場合、正常に同期していることを確認してください。



メモ

ストレージシステムの障害などによって、Quorum ディスクの状態が Replacing から Normal に変わった場合、障害が発生していないストレージシステムの Quorum ディスクの状態が、5 分経過しても Replacing から変わらないことがあります。この場合、障害回復後に GAD ペアを再同期すると、Normal に変わります。

Quorum ディスク交換後、Quorum ディスク ID に GAD ペアが割り当たっていない場合も、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わりません。この場合、Quorum ディスクを削除して Quorum ディスクを作成したあとに、GAD ペアを作成することを推奨します。Quorum ディスクを削除しないで GAD ペアを作成する場合は、GAD ペア作成後、もう一度手順 8. を実施してください。

これらを実行しているにも関わらず、Quorum ディスクの状態が Replacing から変わらない場合は、お問い合わせ先に連絡してください。



メモ

Quorum ディスクの状態が Failed の場合は、交換先の Quorum ディスクが、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムでそれぞれ異なっているおそれがあります。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムで、同じ Quorum ディスクに接続するように外部ボリュームを指定して、Quorum ディスクの状態の Failed を解決してください。詳細は、関連概念を参照してください。

同じ Quorum ディスクに接続するように外部ボリュームを指定したあとは、手順 8.以降の手順を実施してください。

関連概念

- [1.6.5 Quorum ディスクの状態](#)
- [5.11 Quorum ディスクを作成する](#)
- [5.11.1 Quorum ディスク用の外部ボリュームグループを作成する](#)
- [5.11.2 Quorum ディスク用の外部ボリュームを作成する](#)
- [\(2\) Quorum ディスクの状態の Failed を解決する手順例](#)

10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する

global-active device ボリューム、TrueCopy ボリューム、Universal Replicator ボリューム、ShadowImage ボリューム、または Thin Image ボリュームのペアでは、各プログラムプロダクトのペアを維持したまま、ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する

GAD ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量拡張手順を次に示します。

ここでは、GAD ペア単体を容量拡張する場合の手順を説明しています。他のプログラムプロダクトと連携した構成で容量拡張をする場合は、「[10.2.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張](#)」を参照してください。

前提条件

- 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - しきい値を超えていない
 - プールの縮小を実行中でない
- 「[10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する](#)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること
- 容量拡張する分のページ割り当て容量に対して、十分な GAD のライセンス容量をあらかじめ用意しておくこと



メモ

DP-VOL は、ボリューム容量のうち、割り当てられているページ容量だけが GAD のライセンス容量としてカウントされます。

操作手順

1. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、前提条件を満たしているか確認します。



メモ

GAD ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する GAD ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。GAD ペアの再同期に失敗した場合、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」の実施が必要となります。

2. 現在の差分データの管理方式の設定を確認します。
pairdisplay コマンドを使用して、GAD ペアの詳細情報を表示します。
現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。
 - シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
 - 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

コマンド例：

pairdisplay の DM 列が差分データの管理方式を示します。

```
# pairdisplay -g oradb -fe
Group PairVol(L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/
S,Status,Fence,Seq#,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P
oradb dev1(L) (CL5-A-0,30, 0) 64568 301.P-VOL PAIR ASYNC,64568 303 -
0 2 1 - - - -/- AA S N
oradb dev1(R) (CL5-A-0,30, 2) 64568 303.S-VOL PAIR ASYNC,----- 301 -
0 4 1 - - - -/- AA S N
oradb dev2(L) (CL5-A-0,30, 1) 64568 302.P-VOL PAIR ASYNC,64568 304 -
```

```
0 3 1 - - - -/- AA D N
oradb dev2(R) (CL1-A-0,30, 3) 64568 304.S-VOL PAIR ASYNC,----- 302 -
0 5 1 - - - -/- AA D N
```

DM 列

S : シェアドメモリ差分

D : 階層差分

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

コマンド例 :

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode disable
```

b. GAD ペアを中断します。

c. GAD ペアを再同期します。

d. GAD ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。

4. GAD ペアを中断します。

5. GAD ペアのセカンダリボリュームを容量拡張します。

raidcom extend ldev コマンドに -request_id auto オプションを付けて非同期処理を指定します。

コマンド例 :

LDEV#44:44 に対し 10GB 分容量拡張します。

```
raidcom extend ldev -ldev_id 0x4444 -capacity 10G -request_id auto -IH1
```

6. GAD ペアのセカンダリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

raidcom get command_status コマンドで、raidcom extend ldev コマンドの処理の完了を確認します。その後、raidcom get ldev コマンドで、LDEV 容量が正しい値になっているか確認します。

コマンド例 :

```
raidcom get command_status -IH1
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
```

7. セカンダリボリュームと同様の手順で、GAD ペアのプライマリボリュームを容量拡張します。



メモ

GAD ペアのプライマリボリュームの容量拡張に失敗した場合は、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

8. セカンダリボリュームと同様の手順で、GAD ペアのプライマリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

9. GAD ペアを再同期します。



メモ

GAD ペアの再同期に失敗した場合は、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

10. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。

また、容量拡張中状態ではないことを確認します。

pairdisplay の P 列が「N」となっていることを確認します。

コマンド例：

```
# pairdisplay -g oradb -fe
Group PairVol (L/R) (Port#,TID, LU),Seq#, LDEV#.P/
S,Status,Fence,Seq#,P-LDEV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P
oradb dev1 (L) (CL5-A-0,30, 0) 64568 301.P-VOL PAIR ASYNC,64568 303 -
0 2 1 - - - L/M AA S N
oradb dev1 (R) (CL5-A-0,30, 2) 64568 303.S-VOL PAIR ASYNC,----- 301 -
0 4 1 - - - L/M AA S N
oradb dev2 (L) (CL5-A-0,30, 1) 64568 302.P-VOL PAIR ASYNC,64568 304 -
0 3 1 - - - L/M AA D N
oradb dev2 (R) (CL1-A-0,30, 3) 64568 304.S-VOL PAIR ASYNC,----- 302 -
0 5 1 - - - L/M AA D N
```

P 列

容量拡張中の状態を表します。

N：容量拡張状態ではありません。

E：容量拡張中です。GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量拡張操作を実施してからペアを再同期するまでの間この状態となります。再同期完了後、「N」に遷移します。

11. 手順 2 で、データの差管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode enable
```

- b. GAD ペアを中断します。

- c. GAD ペアを再同期します。

- d. GAD ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode disable
```

10.2.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張

ここでは、プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序を説明します。最初に基本的な考え方を説明し、次に具体的な操作手順を説明します。

- [\(1\) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方](#)
- [\(2\) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方](#)
- [\(3\) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方](#)
- [\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)
- [\(5\) GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)
- [\(6\) GAD ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)
- [\(7\) GAD ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)

(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方

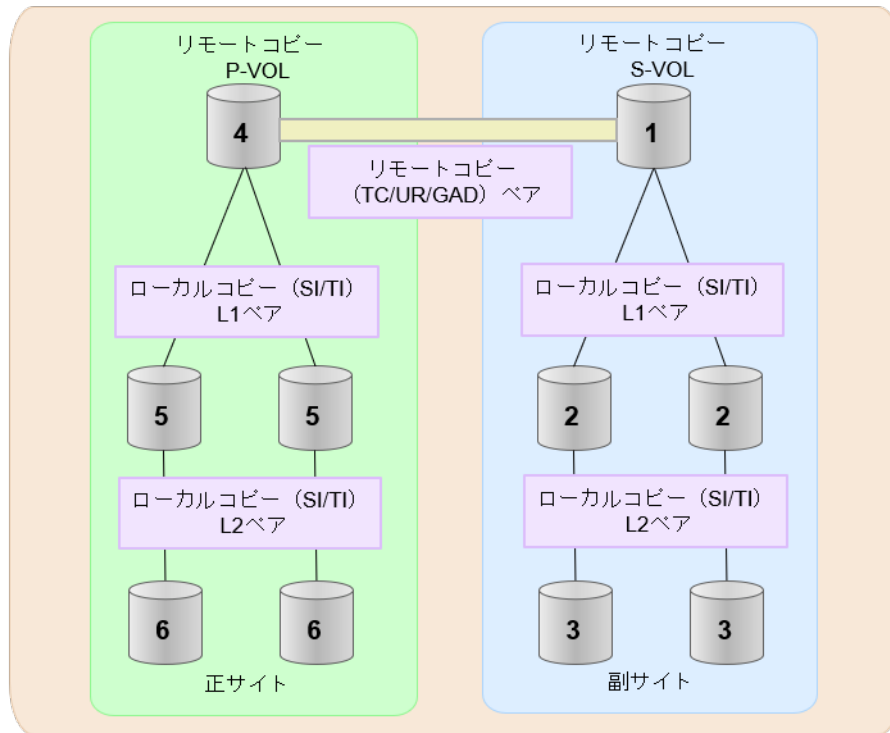
GAD ペアが次のプログラムプロダクトと連携している状態で、GAD ペアおよび各プログラムプロダクトのペアが使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

- Universal Replicator
- ShadowImage
- Thin Image

GAD ペアが各プログラムプロダクトと連携した構成の場合、各 DP-VOL の拡張順序は、次の 2 つの拡張順序を合わせこんだ順序となります。

- GAD ペアの 1 対 1 構成時の拡張順序
- 各プログラムプロダクトの 1 対 1 構成時の拡張順序

次にプログラムプロダクト連携を考慮した、DP-VOL の拡張順序の考え方を示します。



(凡例)

TC: TrueCopy
 UR: Universal Replicator
 GAD: global-active device
 SI: Shadow Image
 TI: Thin Image

操作手順

1. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) が存在する場合
 リモートコピーの末端となる S-VOL 側から拡張し、最後に P-VOL 側を拡張します。
 具体的な拡張手順については、次の手順を参照してください。
 - ・ 「[\(5\) GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)」
2. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) にローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合
 次に示すまとまりごとに拡張します。最初に、リモートコピーの S-VOL のまとまりを拡張し、次に、リモートコピーの P-VOL のまとまりを拡張します。
 - a. リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
 - b. リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
 まとまり内の拡張順序は、ローカルコピーの拡張順序に従います。
 具体的な拡張手順については、次の手順を参照してください。
 - ・ 「[\(6\) GAD ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)」
 - ・ 「[\(7\) GAD ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する](#)」
3. ローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) の拡張順序は、上の階層から順に実施します。
 同一階層の場合は順不同です。

(2) ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方

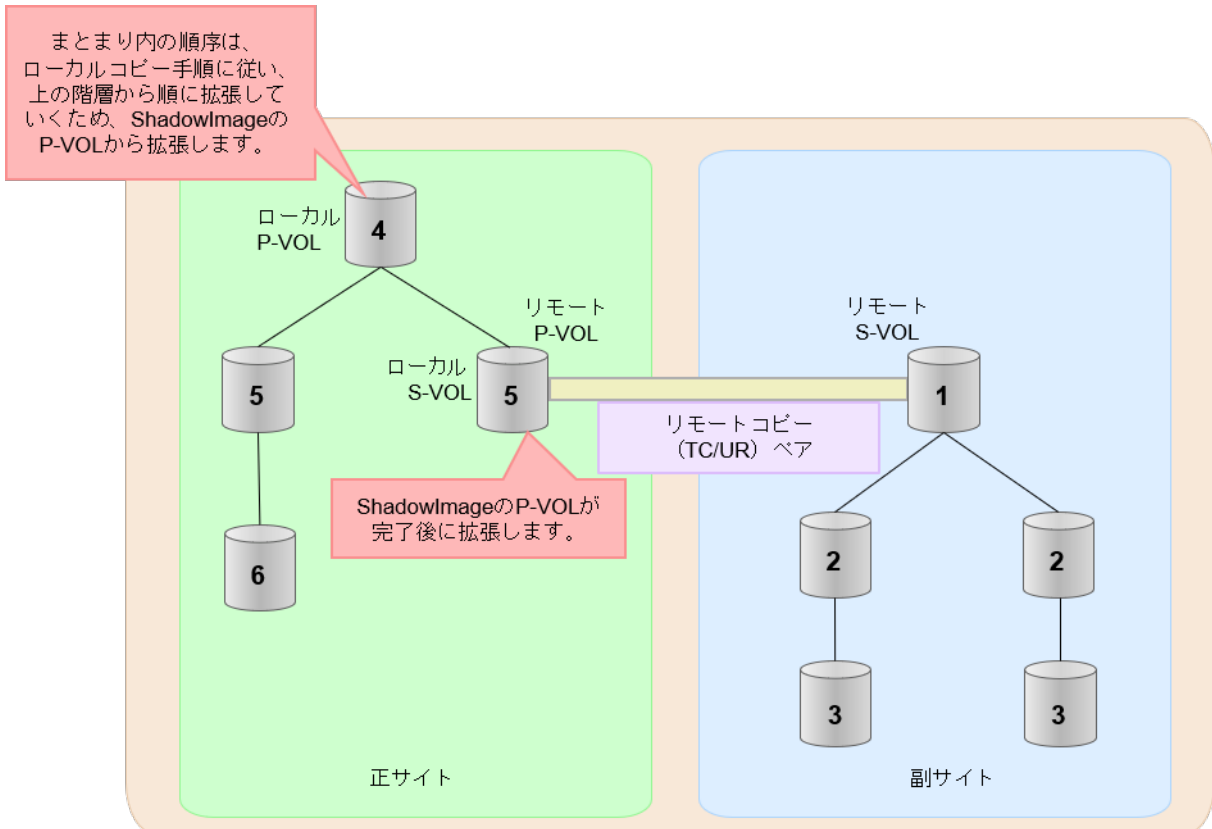
リモートコピーの P-VOL にローカルコピーの S-VOL が連携していた場合、次の順番で容量拡張します。

操作手順

1. リモートコピーの S-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「1」、「2」、「3」)。
2. リモートコピーの P-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「4」、「5」、「6」)。

手順 2 では、ローカルコピーの拡張順序が優先され、上の階層から順に拡張するため、ローカルコピーの P-VOL を拡張してから、次にリモートコピーの P-VOL と連携しているローカルコピーの S-VOL を拡張します。

たとえば、次の図のように TrueCopy または Universal Replicator の P-VOL に ShadowImage の S-VOL が連携している場合、ShadowImage の P-VOL (図中の「4」のボリューム) を先に拡張します。続いて、ShadowImage の S-VOL (=TrueCopy または Universal Replicator の P-VOL (図中の右側の「5」のボリューム))、ShadowImage の同じ階層のボリューム、ShadowImage の次の階層のボリューム...の順で拡張します。



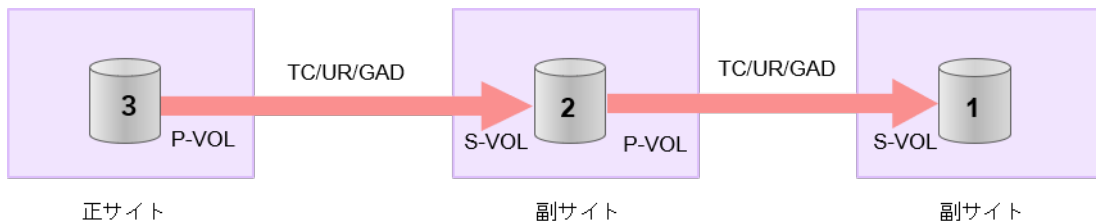
(凡例)

リモート：リモートコピー
 ローカル：ローカルコピー
 TC: TrueCopy
 UR: Universal Replicator

(3) リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成での拡張順序の考え方

リモートコピーの 3DC カスケード構成、3DC マルチターゲット構成、3DC デルタリシンク構成の場合は、リモートコピーの末端となる S-VOL 側から拡張し、最後に P-VOL 側を拡張します。次の図は、その考えに基づいた順序を示しています。

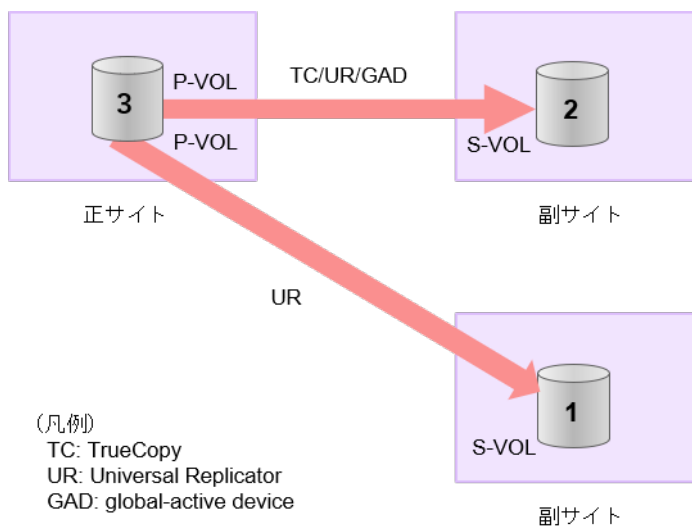
- 3DC カスケード構成の場合



(凡例)

TC: TrueCopy
UR: Universal Replicator
GAD: global-active device

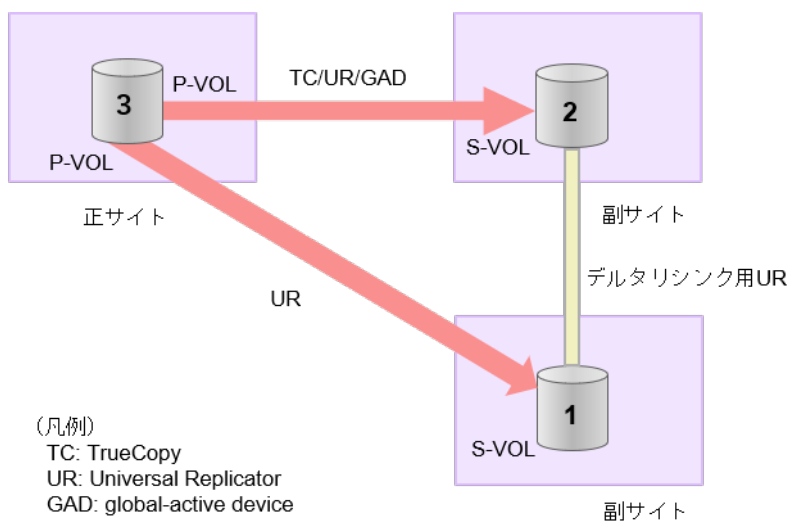
- 3DC マルチターゲット構成の場合



(凡例)

TC: TrueCopy
UR: Universal Replicator
GAD: global-active device

- 3DC デルタリシンク構成の場合



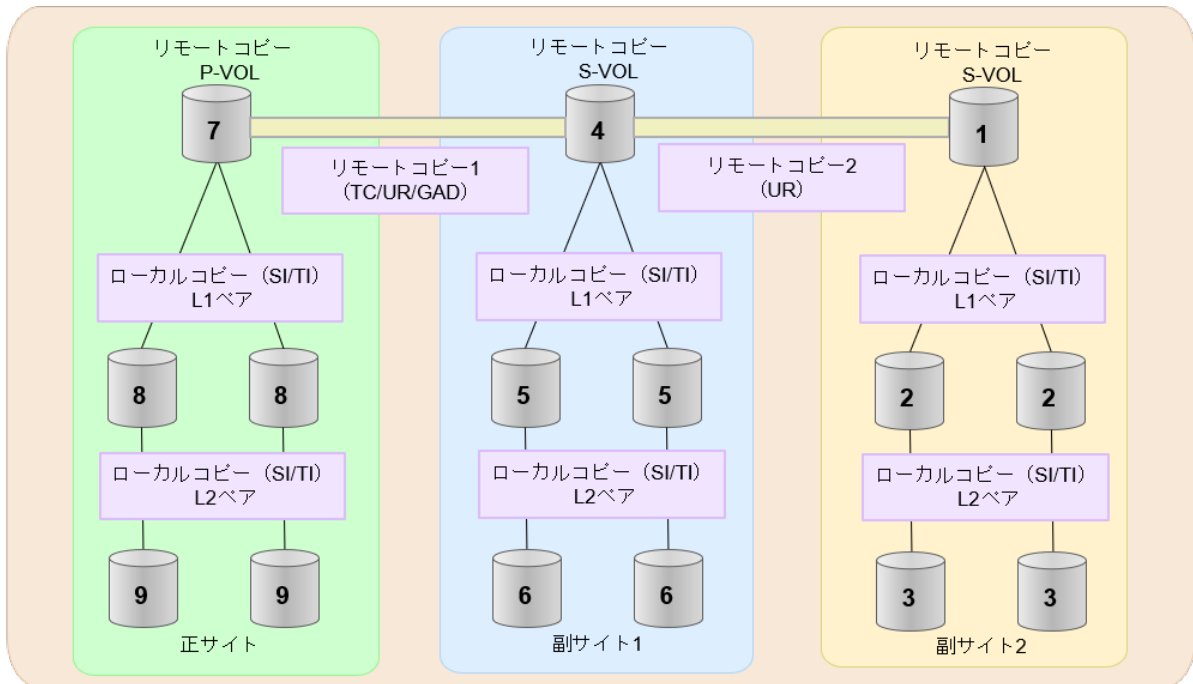
3DC カスケード構成にローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合の拡張順序

また、リモートコピーの 3DC 構成とローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合、次に示したまとまりごとに、前述の 3DC 構成で示した順番で拡張します。

- リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
- リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり

まとまり内の順序については、ローカルコピーの拡張順に従います。

DC マルチターゲット構成、および 3DC デルタリシンク構成の場合も、同じ考え方になります。



(凡例)

TC: TrueCopy
 UR: Universal Replicator
 GAD: global-active device
 SI: Shadow Image
 TI: Thin Image

(4) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件

容量拡張をする際の前提条件を次に示します。

容量拡張対象のボリュームすべてに対して、各プログラムプロダクト間で共通の前提条件、および拡張対象のプログラムプロダクト固有の前提条件をすべて満たすようにしてください。

各プログラムプロダクト間で共通の前提条件

- ・ 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - しきい値を超えていない
 - プールの縮小を実行中でない
- ・ GAD、TrueCopy、または Universal Replicator の場合、容量拡張する分のページ割り当て容量に対して、拡張対象のプログラムプロダクトの十分なライセンス容量をあらかじめ用意しておくこと
- ・ 「[10.2 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する](#)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること

ShadowImage 固有の前提条件

- ・ 拡張後に必要な次の資源数がシステム最大を超えないこと
 - 差分テーブル数

- 。 ペアテーブル数

必要な差分テーブル数/ペアテーブル数の確認手順



メモ

DP-VOL が 4TB を超える場合、シェアドメモリではなく階層メモリという領域に差分テーブルを配置するため、シェアドメモリの差分テーブルを使用しません。このため、4TB を超える DP-VOL に拡張する場合は、差分テーブル数の計算は不要です。

1. 次の式を使用して、1 ペア当りに必要な差分テーブル数を計算します。

容量拡張に必要な差分テーブル数 = 拡張後の容量で必要な差分テーブル数 - 拡張前の容量で必要な差分テーブル数

1 ペア当りに必要な差分テーブル数 = $\lceil (\text{ボリューム容量 KB} \div 256) \div 20,448 \rceil$

\lceil で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

2. 1 ペア当りに必要なペアテーブル数を計算します。

容量拡張に必要なペアテーブル数 = 拡張後の容量で必要なペアテーブル数 - 拡張前の容量で必要なペアテーブル数

1 ペア当りに必要なペアテーブル数 = $\lceil 1 \text{ ペア当りに必要な差分テーブル数} \div 36 \rceil$

\lceil で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

3. 次に示すテーブル数が、システム最大数を超えないことを確認します。

- ・ 現在のペアテーブル数と容量拡張に必要なペアテーブル数の合計
 - ・ 現在の差分テーブル数と容量拡張に必要な差分テーブル数の合計
- 差分テーブル数およびペアテーブル数は、`raidcom get system` コマンドに `-key replication` オプションを指定して実行すると確認できます。

Thin Image 固有の前提条件

『Thin Image Advanced ユーザガイド』のボリュームの容量を拡張する手順説明を参照してください。

(5) GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

GAD ペアと Universal Replicator を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

GAD と Universal Replicator で、3DC デルタリシンク構成のペアを作成した場合の容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

操作手順

1. GAD ペア、および GAD ペアと連携している Universal Replicator ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
2. 現在の差分データの管理方式の設定を確認します。
pairdisplay コマンドを使用して、GAD ペア、Universal Replicator ペアおよびデルタリシンク Universal Replicator ペアの詳細情報を表示します。
現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。
 - シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
 - 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。
3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。
 - a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。
raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```
 - b. GAD ペアをスワップサスペンドします。
自動でデルタリシンクが実行されます。
 - c. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアのペア状態を確認し、正常にデルタリシンクが実行されたことを確認します。
 - d. 再度 GAD ペアをスワップサスペンドします。
自動でデルタリシンクが実行されます。
 - e. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアのペア状態を確認し、正常にデルタリシンクが実行されたことを確認します。
 - f. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. GAD ペアと Universal Replicator ペアを中断します。
5. 次の順序で、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。
 - a. Universal Replicator ペアのセカンダリボリューム（=デルタリシンク用 Universal Replicator ペアのセカンダリボリューム）
 - b. GAD ペアのセカンダリボリューム
 - c. GAD ペアのプライマリボリューム



メモ

手順 5 の a 以降で、次の操作に失敗した場合、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

- Universal Replicator ペアのセカンダリボリュームの容量拡張
- GAD ペアのプライマリボリュームの容量拡張

6. GAD ペアと Universal Replicator ペアを再同期します。
7. GAD ペアと Universal Replicator ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方のペア状態が、次に示す状態に変わったことを確認します。

- ・ GAD : PAIR(Mirror(RL))
- ・ Universal Replicator : PAIR

また、GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアが、容量拡張中状態ではないことを確認します。

容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	pairedisplay の P 列表示
容量拡張中ではない	N
容量拡張中	E※

注※

GAD ペアまたは Universal Replicator ペアの、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。



メモ

デルタリシンク用 Universal Replicator ペアの場合、GAD ペアと Universal Replicator ペアの容量拡張が完了した時点で、デルタリシンク用 Universal Replicator ペアの容量拡張も完了となるため、容量拡張中の状態が表示されることはありません。

8. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。
 - a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。
raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。
コマンド例 :


```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```
 - b. GAD ペアをスワップサスペンドします。
自動でデルタリシンクが実行されます。
 - c. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアのペア状態を確認し、正常にデルタリシンクが実行されたことを確認します。
 - d. 再度 GAD ペアをスワップサスペンドします。
自動でデルタリシンクが実行されます。
 - e. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアのペア状態を確認し、正常にデルタリシンクが実行されたことを確認します。

- f. GAD ペア、Universal Replicator ペア、およびデルタリシンク用 Universal Replicator ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。
- g. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode disable
```

(6) GAD ペアと ShadowImage を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

GAD ペアと ShadowImage を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、ShadowImage ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

操作手順

1. GAD ペア、および GAD ペアと連携している ShadowImage ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[\(4\) 各プログラム製品の容量拡張の前提条件](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
2. 現在の差分データの管理方式の設定を確認します。
pairdisplay コマンドを使用して、GAD ペアの詳細情報を表示します。
現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。
 - ・ シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
 - ・ 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。
3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。
 - a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。
raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode disable
```
 - b. GAD ペアを中断します。
 - c. GAD ペアを再同期します。

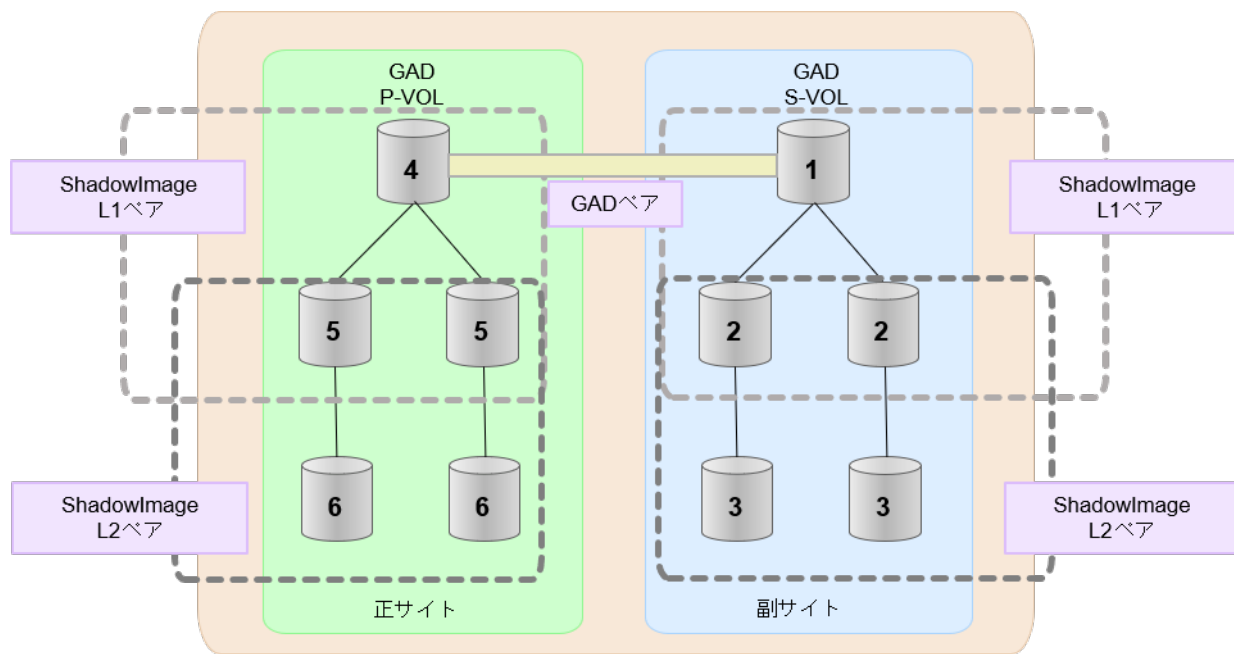
d. GAD ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。

4. GAD ペアと ShadowImage ペアをすべて中断します。

5. ShadowImage ペアのペア状態を確認します。

PSUS または PSUE の状態の場合に、ShadowImage のペアボリュームを拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PSUS または PSUE の状態に遷移したことを確認します。

6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



(凡例)
GAD: global-active device



メモ

1 番目のボリューム (GAD の S-VOL) の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

- ShadowImage ペアの DP-VOL の容量拡張
- GAD ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- GAD ペアの再同期

7. GAD ペアを再同期します。

8. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。

また、GAD ペアと ShadowImage ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。

容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	pairedisplay の P 列表示
容量拡張中ではない	N
容量拡張中	E*

注※

GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

ShadowImage ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

- 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- GAD ペアを中断します。

- GAD ペアを再同期します。

- GAD ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

- システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

(7) GAD ペアと Thin Image を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

GAD ペアと Thin Image を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、Thin Image ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」を参照してください。

操作手順

- GAD ペア、および GAD ペアと連携している Thin Image ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
- 現在の差分データの管理方式の設定を確認します。

pairdisplay コマンドを使用して、GAD ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198  
-mode enable  
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199  
-mode disable
```

b. GAD ペアを中断します。

c. GAD ペアを再同期します。

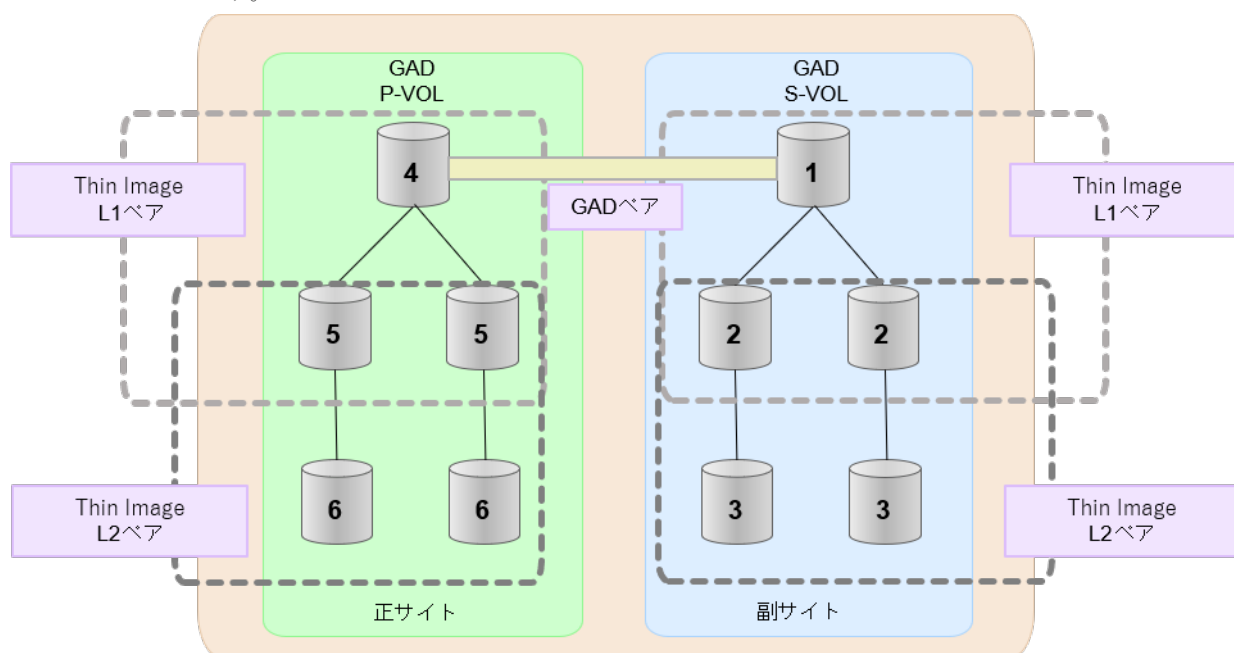
d. GAD ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。

4. GAD ペアを中断します。

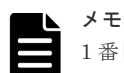
5. Thin Image ペアのペア状態を確認します。

PAIR、PSUS または PSUE の状態の場合に、Thin Image のペアボリュームを拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PAIR または PSUS の状態に遷移したことを確認します。

6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



(凡例)
GAD: global-active device



メモ

1 番目のボリューム (GAD の S-VOL) の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、「[\(1\) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)」を実施してください。

- Thin Image ペアの DP-VOL の容量拡張
- GAD ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- GAD ペアの再同期

7. GAD ペアを再同期します。
8. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
また、GAD ペアと Thin Image ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。
容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	pairedisplay または raidcom get snapshot の P 列表示
容量拡張中ではない	N
容量拡張中	E*

注※

GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

Thin Image ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく (30 秒ほど) この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

9. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

a. システムオプションモードを、次の手順で切り替えます。

raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例 :

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode enable
```

b. GAD ペアを中断します。

c. GAD ペアを再同期します。

d. GAD ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。

e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例 :

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198
-mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199
-mode disable
```

10.2.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング

DP-VOL の容量拡張中にトラブルが起きた場合の対処方法について説明します。

関連概念

- (1) [GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)
- (2) [GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ](#)

(1) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順

GAD ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する GAD ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。

また、GAD ペアを Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合に、どれか一つのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張が失敗した場合、ボリューム全体として容量拡張が完了していない状態となっています。

これらの状態となった場合の回復手順を次に示します。

GAD ペアの再同期操作に失敗した場合の、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの I/O 動作については、「[1.4.5 GAD の I/O モード](#)」を参照してください。

回復手順

1. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、「[10.2.1 GAD ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」の前提条件を満たしているか確認します。

GAD ペアを、Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張操作が必要になります。対象のボリュームすべてについて、「[\(4\) 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件](#)」に記載されている、容量拡張の前提条件を満たしているか確認します。

容量拡張の条件を満たせない場合、手順 4 に進んでください。

2. 容量拡張の条件を満たした状態で再度容量拡張操作を実施し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。例えば空き容量が不足している場合は、空き領域を確保してから、DP-VOL の容量を拡張します。

また、GAD ペアを、Universal Replicator、ShadowImage、または Thin Image と併用している場合、再度、併用しているすべてのプログラムプロダクトのボリュームの容量を拡張し、各プログラムプロダクトのペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。

- 上記の操作で容量拡張が成功した場合、手順 3 に進んでください。
- 上記の操作で容量拡張に失敗した場合、手順 4 に進んでください。

3. GAD ペアを再同期します。

GAD ペアと Universal Replicator を併用している場合、Universal Replicator ペアを再同期します。

これで、回復が完了します。

4. GAD ペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、GAD ペアを再作成します。

容量の入力ミス等で容量拡張前の状態に戻りたい場合は、GAD ペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、GAD ペアを再作成します。

- GAD ペアと Universal Replicator と併用している場合：
すべてのペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。
容量の入力ミス等で容量拡張前の状態に戻りたい場合は、すべてのペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。
- GAD ペアと、ShadowImage または Thin Image を併用していて、ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの P-VOL と S-VOL の容量が不一致の場合：
ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアに対しては、削除操作しかできません。容量拡張前の ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの S-VOL のデータを読み出すことは可能なため、容量拡張前のデータを使いたい場合は、データ読み出し完了後にすべてのペアを削除してください。SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。
容量の入力ミス等で容量拡張前の状態に戻りたい場合は、すべてのペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

(2) GAD ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ

GAD ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームの容量を拡張する前に障害が発生した場合の回復手順について説明します。

まず、「[8 global-active device の障害リカバリ](#)」の回復手順に従い、障害部位を回復させます。

ただし、回復手順時の操作によっては、次に示す対応をしてください。

回復手順時の操作	対応
回復手順中に次の操作がある場合 <ul style="list-style-type: none"> • GAD ペアの再同期操作 	GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているため再同期操作は失敗します。 そのため、GAD ペアの再同期操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」を実施してください。
回復手順中に次の操作がある場合 <ul style="list-style-type: none"> • GAD ペアの削除 • ボリュームの障害回復 • GAD ペアの再作成 	GAD ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているためペア作成操作は失敗します。 そのため、GAD ペアの作成操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」をしてください。
回復手順中に次の操作がある場合 <ul style="list-style-type: none"> • GAD ペアの削除 • ボリュームの削除 • ボリュームの作成 • GAD ペアの再作成 	GAD ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているとペア作成操作は失敗します。 そのため、ボリュームの作成時、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで容量を一致させてください。

障害回復追加手順

1. 容量拡張をしていないボリュームの容量を拡張してから、GAD のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。
また、GAD ペアと他のプログラムプロダクトと併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を拡張します。ボリュームの拡張順序については、「[\(1\) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方](#)」を参照してください。
2. 「[8 global-active device の障害リカバリ](#)」の回復手順に戻り、GAD ペアの再同期操作、GAD ペアの作成操作から再開します。

global-active device で使用しているストレージシステムの計画停止

ここでは、global-active device (GAD) で使用しているストレージシステムを計画的に停止する手順を説明します。サーバのディスクを Quorum ディスクとして使用する場合は、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置する必要はありません。ここでは、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置している場合について説明します。

- 11.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 11.2 副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 11.3 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)
- 11.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)
- 11.5 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 11.6 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 11.7 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 11.8 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

11.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

「[11.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[11.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

11.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする

正サイトのストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. サーバからの I/O を、副サイトのストレージシステムへ集約します。
マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームのペア状態を SSWS に変更して、GAD ペアを中断します (スワップサスペンド)。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH1`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Block)、セカンダリボリュームのペア状態が SSWS(Local) に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`
4. 正サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である正サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Block)、セカンダリボリュームのペア状態が SSWS(Local) であることを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`
5. 副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えて、GAD ペアを再同期します (スワップリシンク)。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`
6. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL)) に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`

7. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。
8. 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

11.2 副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

[「11.2.1 副サイトのストレージシステムの電源をオフにする」](#) の手順を実施後、「[11.2.2 副サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」 の手順を実施してください。

11.2.1 副サイトのストレージシステムの電源をオフにする

副サイトのストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. サーバからの I/O を、正サイトのストレージシステムへ集約します。
マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -IH0`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
4. 副サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.2.2 副サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である副サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 副サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)であることを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`

5. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`
6. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
7. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.3 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

[「11.3.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする \(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)」](#) の手順を実施後、[「11.3.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする \(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)」](#) の手順を実施してください。

11.3.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz[※]) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

注※ zz は Quorum ディスク ID を示します。

2. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH0`
3. 外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- ・ [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.3.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする (正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。
コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`
5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-1 -IH0`
6. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -IH0`
7. 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

関連概念

- ・ [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

「[11.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする \(副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施後、「[11.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする \(副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施してください。

11.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする (副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz※) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

注※ zz は Quorum ディスク ID を示します。

2. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH1`

3. 外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする (副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。

3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。

コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`

5. 外部ストレージシステムが正常に接続されていることを確認します。

コマンド例:

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-2 NML E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

6. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-2 -IH1`
7. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -IH1`
8. 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

11.5 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

「[11.5.1 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[11.5.2 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

11.5.1 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオフにする

正サイトと副サイトの両方のストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. サーバから正サイトおよび副サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -IH0`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.5.2 正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である正サイトと副サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

4. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)であることを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
5. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`
6. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
7. サーバから正サイトおよび副サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.6 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

[「11.6.1 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする」](#)の手順を実施後、[「11.6.2 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする」](#)の手順を実施してください。

11.6.1 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする

正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. サーバからの I/O を、副サイトのストレージシステムへ集約します。
マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームのペア状態を SSWS に変更して、GAD ペアを中断します (スワップサスペンド)。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH1`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Block)、セカンダリボリュームのペア状態が SSWS(Local)に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz※) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

注※ zz は Quorum ディスク ID を示します。

5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH1`

6. 正サイトのストレージシステムと外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- 1.4.5 GAD の I/O モード

11.6.2 正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする

停止中である正サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトのストレージシステムと外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。

3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。

コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`

5. 外部ストレージシステムが正常に接続されていることを確認します。

コマンド例:

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-2 NML E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

6. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。

コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-2 -IH1`

7. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。

コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -IH1`

8. 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

9. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Block)、セカンダリボリュームのペア状態が SSWS(Local)であることを確認します。

コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`

10. 副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えて、GAD ペアを再同期します (スワップリシク)。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`
11. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH1`
12. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。
13. 必要に応じて、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えます。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [8.20 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える](#)

11.7 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

「[11.7.1 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[11.7.2 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

11.7.1 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする

副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. サーバからの I/O を、正サイトのストレージシステムへ集約します。
マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -IH0`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz※) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

注※ zz は Quorum ディスク ID を示します。

5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH0`

6. 副サイトのストレージシステムと外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- 1.4.5 GAD の I/O モード

11.7.2 副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする

停止中である副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 副サイトのストレージシステムと外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。
コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`
5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-1 -IH0`
6. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -IH0`
7. 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
8. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)であることを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
9. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`
10. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`

11. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから副サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.8 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

「[11.8.1 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[11.8.2 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

11.8.1 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする

正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトおよび副サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
2. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -IH0`
3. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz[※]) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

注※ zz は Quorum ディスク ID を示します。

5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH0`

6. 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

11.8.2 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする

停止中である正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトと副サイトのストレージシステム、ならびに外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 正サイトと副サイトのストレージシステム、および Quorum ディスク用ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。
コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`
5. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-1 -IH0`
6. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -IH0`
7. 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
8. GAD ペアのプライマリボリュームのペア状態が PSUS(Local)、セカンダリボリュームのペア状態が SSUS(Block)であることを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
9. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`
10. GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR(Mirror(RL))に変わったことを確認します。
コマンド例: `pairdisplay -g oraHA -fcxe -IH0`
11. マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトおよび副サイトのストレージシステムへの I/O を再開します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

global-active device と Universal Replicator を併用するときのストレージシステムの計画停止

ここでは、global-active device (GAD) と Universal Replicator (UR) を併用するとき、ストレージシステムを計画的に停止する手順を説明します。サーバディスクを Quorum ディスクとして使用する場合は、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置する必要はありません。ここでは、Quorum ディスク用の外部ストレージシステムを設置している場合について説明します。

- 12.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 12.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 12.3 UR の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする
- 12.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)
- 12.5 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

12.1 正サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

「[12.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[12.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

12.1.1 正サイトのストレージシステムの電源をオフにする

正サイトのストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから正サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
サーバからの I/O を、GAD の副サイトのストレージシステムへ集約します。
- GAD の副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを中断します（スワップサスペンド）。
コマンド例：pairsplit -g oraHA -RS -IH1
- 各ペアの種類とペア状態が次のように変わったことを確認します。

GAD ペア中断前			GAD ペア中断後		
ペアの種類	ペア状態		ペアの種類	ペア状態	
	P-VOL	S-VOL		P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	GAD ペア	PSUS (Block)	SSWS (Local)
UR ペア	PAIR	PAIR	デルタリシンク用 UR ペア	PSUE	SSUS
デルタリシンク用 UR ペア	PSUS	SSUS	UR ペア	PAIR	PAIR

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム

- 正サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.1.2 正サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である正サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

- 正サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
- 各ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。

閉塞部位があった場合は、回復します。

3. 各ストレージシステムでパスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. GAD の副サイトのストレージシステムで、セカンダリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します (スワップリシンク)。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`
正サイトのストレージシステムのボリュームがセカンダリボリューム、GAD の副サイトのストレージシステムのボリュームがプライマリボリュームに変わります。
5. 各ペアのペア状態が次のように変わったことを確認します。

ペアの種類	GAD ペア再同期前のペア状態		GAD ペア再同期後のペア状態	
	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PSUS (Block)	SSWS (Local)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))
デルタリシンク用 UR ペア	PSUE	SSUS	PSUE	SSUS
UR ペア	PAIR	PAIR	PAIR	PAIR

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム

6. サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
サーバが I/O を発行すると、システム構成に関する情報が 3 台のストレージシステムへ通知されます。デルタリシンク用 UR ペアの状態が、PSUE から PSUS に変わります。ミラーの状態は PJNS のままです。ペア状態とミラー状態を確認したら、障害を通知する SIM が発生していないことも確認します。



メモ

計画停止前の構成からプライマリボリュームとセカンダリボリュームが逆転している状態です。計画停止前と同じ構成に戻す場合は、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えてください。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える \(UR と併用しているとき\)](#)

12.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする

「[12.2.1 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[12.2.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

12.2.1 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする

GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

- マルチパスソフトウェアを使用して、サーバから GAD の副サイトのストレージシステムへの I/O を停止します。
サーバからの I/O を、正サイトのストレージシステムへ集約します。
- 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを中断します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -IH0`
- 各ペアのペア状態が次のように変わったことを確認します。

ペアの種類	GAD ペア中断前のペア状態		GAD ペア中断後のペア状態	
	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PSUS (Local)	PSUS (Block)
UR ペア	PAIR	PAIR	PAIR	PAIR
デルタリシンク用 UR ペア	PSUS	SSUS	PSUE	SSUS

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム
S-VOL : セカンダリボリューム

- GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.2.2 GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

- GAD の副サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
- 各ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
- 各ストレージシステムで、パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
- 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して GAD ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -IH0`
- 各ペアのペア状態が次のように変わったことを確認します。

ペアの種類	GAD ペア再同期前のペア状態		GAD ペア再同期後のペア状態	
	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PSUS (Local)	PSUS (Block)	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))
UR ペア	PAIR	PAIR	PAIR	PAIR
デルタリシンク用 UR ペア	PSUE	SSUS	PSUE	SSUS

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

- サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
サーバが I/O を発行すると、システム構成に関する情報が 3 台のストレージシステムへ通知されます。デルタリシンク用 UR ペアの状態が、PSUE から PSUS に変わります。ミラーの状態は PJNS のままです。ペア状態とミラー状態を確認したら、障害を通知する SIM が発生していないことも確認します。

関連概念

- 1.4.5 GAD の I/O モード

12.3 UR の副サイトのストレージシステムの電源を計画的にオン／オフする

「[12.3.1 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする](#)」の手順を実施後、「[12.3.2 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする](#)」の手順を実施してください。

12.3.1 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする

UR の副サイトのストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

- 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して UR ペアを分割します。
コマンド例: `pairsplit -g oraREMOTE -IH0`
- 各ペアのペア状態が次のように変わったことを確認します。

ペアの種類	UR ペア分割前のペア状態		UR ペア分割後のペア状態	
	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))
UR ペア	PAIR	PAIR	PSUS	PSUS
デルタリシンク用 UR ペア	PSUS	SSUS	PSUE	SSUS

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

- UR の副サイトのストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- 1.4.5 GAD の I/O モード

12.3.2 UR の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする

停止中である UR の副サイトのストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. UR の副サイトのストレージシステムの電源をオンにします。
2. 各ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. 各ストレージシステムで、パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームを指定して UR ペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraREMOTE -IH0`
5. 各ペアのペア状態が次のように変わったことを確認します。

ペアの種類	UR ペア再同期前のペア状態		UR ペア再同期後のペア状態	
	P-VOL	S-VOL	P-VOL	S-VOL
GAD ペア	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))	PAIR (Mirror(RL))
UR ペア	PSUS	PSUS	PAIR	PAIR
デルタリシンク用 UR ペア	PSUE	SSUS	PSUE	SSUS

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

6. サーバから GAD ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームへ、2 分程度 I/O を発行し続けます。
サーバが I/O を発行すると、システム構成に関する情報が 3 台のストレージシステムへ通知されます。デルタリシンク用 UR ペアの状態が、PSUE から PSUS に変わります。ミラーの状態は PJNS のままです。ペア状態とミラー状態を確認したら、障害を通知する SIM が発生していないことも確認します。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.4 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

「[12.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする \(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施後、「[12.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする \(正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施してください。

12.4.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする (正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。

コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz*) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

*zz は Quorum ディスク ID を示します。

2. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。

コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH0`

3. 外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.4.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする (正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

正サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 各ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. 各ストレージシステムで、パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。
コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x9999 -IH0`
5. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-1 -IH0`

6. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x9999 -IH0`
7. 正サイトまたは GAD の副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.5 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源を計画的にオン/オフする (GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成を使用している場合、Quorum ディスク用外部ストレージがないため、電源オン/オフ作業がありません。

一つでも外部ストレージを使用して Quorum ディスクにボリュームを設定済みの場合、次の手順に従ってください。

「[12.5.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする \(GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施後、「[12.5.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする \(副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合\)](#)」の手順を実施してください。

12.5.1 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする (GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオフにする手順を次に示します。

操作手順

1. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続を切断します。
コマンド例: `raidcom disconnect external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`



メモ

Quorum ディスクへの接続を切断するときに、Quorum ディスク閉塞の SIM (def0zz*) が発生することがあります。SIM は、ストレージシステムの電源をオンにし、Quorum ディスクを再接続したあとでコンプリートします。

*zz は Quorum ディスク ID を示します。

2. 正サイトおよび副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへの接続が切断されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get path -path_grp 1 -IH0`
3. 外部ストレージシステムの電源をオフにします。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)

12.5.2 Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする (副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合)

GAD の副サイトのストレージシステムでサーバ I/O を継続する場合の、Quorum ディスク用外部ストレージシステムの電源をオンにする手順を次に示します。

操作手順

1. 外部ストレージシステムの電源をオンにします。
2. 各ストレージシステムに閉塞部位がないことを確認します。
閉塞部位があった場合は、回復します。
3. 各ストレージシステムで、パスの閉塞に関する SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。
4. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続します。
コマンド例: `raidcom check_ext_storage external_grp -ldev_id 0x8888 -IH1`
5. 外部ストレージシステムが正常に接続されていることを確認します。
コマンド例:

```
raidcom get path -path_grp 1 -IH1
PHG GROUP STS CM IF MP# PORT WWN PR LUN PHS
Serial# PRODUCT_ID LB PM
1 1-2 NML E D 0 CL5-C 50060e8007823521 1 0 NML
433333 VSP Gx00 N M
```

6. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムから、Quorum ディスクへ接続していることを確認します。
コマンド例: `raidcom get external_grp -external_grp_id 1-2 -IH1`
7. 正サイトおよび GAD の副サイトのストレージシステムの外部ボリュームが、Quorum ディスクとして認識されていることを確認します。
コマンド例: `raidcom get ldev -ldev_id 0x8888 -IH1`
8. 正サイトまたは GAD の副サイトのストレージシステムで、Quorum ディスク閉塞の SIM が発生している場合は、それらの SIM をコンプリートします。



メモ

計画停止前の構成からプライマリボリュームとセカンダリボリュームが逆転している状態です。計画停止前と同じ構成に戻す場合は、GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えてください。

関連概念

- [1.4.5 GAD の I/O モード](#)
- [9.2.3 GAD ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える \(UR と併用しているとき\)](#)

global-active device の運用の終了

ストレージシステムの移行に global-active device (GAD) を使用するなどの運用を想定した GAD の運用の終了の手順について説明します。

- 13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する
- 13.2 使用したボリューム削除をする

13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する

GAD ペアを削除し、正サイトと副サイトのストレージシステムのボリュームを、それぞれ別の用途で使用するための手順の流れを次に示します。

関連概念

- [13.1.1 GAD ペアを削除する](#)
- [13.1.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを別の用途でできるようにする](#)
- [13.1.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを別の用途でできるようにする](#)

13.1.1 GAD ペアを削除する

最初に、GAD ペアを削除します。

関連概念

- [13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する](#)
- [13.1.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを別の用途でできるようにする](#)

13.1.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを別の用途で 使用できるようにする

GAD ペアを削除すると、一方のボリュームの仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。セカンダリボリュームとしてペアを削除されたボリューム（仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリューム）は、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「ffff」と表示されます。

操作手順

1. 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームへの LU パスを削除します。
2. GAD 予約を解除します。

コマンド例：

LDEV ID (0x4444) の仮想属性に割り当てられている GAD 予約を解除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve
```

GAD 予約を解除したボリュームは、仮想 LDEV ID が削除されているボリュームに変わります。仮想 LDEV ID が削除されているボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「fffe」と表示されます。

3. ボリュームを使用するリソースグループに LDEV ID を予約します。

コマンド例：

リソースグループ#0 に、LDEV ID (0x4444) を予約します。

```
raidcom add resource -resource_name meta_resource -ldev_id 0x4444
```

4. ボリュームの仮想 LDEV ID を設定します。



メモ

設定する仮想 LDEV ID は、ボリュームを使用するストレージシステム内でユニークな仮想 LDEV ID である必要があります。同じシリアル番号とモデルを持つ他のストレージシステムまたは仮想ストレージマシンで同じ仮想 LDEV ID が使用されている場合は、ボリュームの区別がつかず、最悪の場合にはサーバで矛盾を検出するおそれがあります。

コマンド例：

ボリューム (0x4444) に仮想 LDEV ID 0x5555 を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x5555
```

5. ボリュームを新たに使用するポートとホストグループを指定して、LU パスを設定します。

関連概念

- [13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する](#)

13.1.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを別の用途でできるようにする

GAD ペアを削除すると、プライマリボリュームとしてペアを解除されたボリュームは、継続してボリュームとして使うことができます。そのまま使用できるボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV` (仮想 LDEV ID) に「ffff」や「fffe」以外が表示されているか、もしくは `VIR_LDEV` が表示されません。

ただし、ボリュームを別のリソースグループ (仮想ストレージマシン) に移動し、サーバから別のボリュームとして認識させて使用する場合には、次の手順を実行します。

操作手順

1. ボリュームへの LU パスを削除します。

2. 仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

LDEV ID (0x4444) に設定されている仮想 LDEV ID 0x5555 を削除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x5555
```

仮想 LDEV ID を削除すると、仮想 LDEV ID が削除されているボリュームに変わります。仮想 LDEV ID が削除されているボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV` (仮想 LDEV ID) に「fffe」と表示されます。

3. 別の用途で使用するためのリソースグループに LDEV ID を予約します。

コマンド例：

ボリュームを登録するリソースグループ (AnotherGroup) に、LDEV ID (0x4444) を予約します。

```
raidcom add resource -resource_name AnotherGroup -ldev_id 0x4444
```

4. ボリュームの仮想 LDEV ID を設定します。



メモ

設定する仮想 LDEV ID は、ボリュームを使用するストレージシステム内でユニークな仮想 LDEV ID である必要があります。同じシリアル番号とモデルを持つ他のストレージシステムまたは仮想ストレージマシンで同じ仮想 LDEV ID を使用されている場合は、ボリュームの区別がつかず、最悪の場合にはサーバで矛盾を検出するおそれがあります。

コマンド例：

ボリューム (0x4444) に仮想 LDEV ID 0xe000 を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0xe000
```

5. ボリュームを新たに使用するポートとホストグループを指定して、LU パスを設定します。

関連概念

- [13.1 別のストレージシステムのボリュームで使用する](#)

13.2 使用したボリューム削除をする

GAD ペアを削除し、正サイトと副サイトのストレージシステムのボリュームを削除するための手順の流れを次に示します。



メモ

ボリュームを削除する操作だけでは、仮想 LDEV ID は変更されません。そのため、削除したボリュームを再作成する場合、仮想 LDEV ID はボリュームを削除する前の値になります。削除するボリュームを、GAD として再作成する予定がない場合は、仮想 LDEV ID を削除してください。

関連概念

- [13.2.1 GAD ペアを削除する](#)
- [13.2.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを削除する](#)
- [13.2.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを削除する](#)

13.2.1 GAD ペアを削除する

最初に、GAD ペアを削除します。

関連概念

- [13.2 使用したボリューム削除をする](#)
- [13.2.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを削除する](#)

13.2.2 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームを削除する

GAD ペアを削除すると、一方のボリュームの仮想属性に GAD 予約が割り当てられます。セカンダリボリュームとしてペアを削除されたボリューム（仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリューム）は、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「ffff」と表示されます。

操作手順

1. 仮想属性に GAD 予約が割り当てられたボリュームへの LU パスを削除します。
2. GAD 予約を解除します。

コマンド例：

LDEV ID (0x4444) の仮想属性に割り当てられている GAD 予約を解除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id reserve
```

GAD 予約を解除したボリュームは、仮想 LDEV ID が削除されているボリュームに変わります。

仮想 LDEV ID が削除されているボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV`（仮想 LDEV ID）に「fffe」と表示されます。

3. リソースグループから仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

リソースグループ (AnotherGroup) から仮想 LDEV ID (0x4444) を削除します。仮想 LDEV ID は、`meta_resource` に移動します。

```
raidcom delete resource -resource_name AnotherGroup -ldev_id 0x4444
```

4. ボリュームの仮想 LDEV ID を設定します。

コマンド例：

ボリューム (0x4444) に仮想 LDEV ID 0x4444 を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x4444
```

5. ボリュームを削除します。

コマンド例：

```
raidcom delete ldev -ldev_id 0x4444
```

13.2.3 プライマリボリュームとして使用されていたボリュームを削除する

GAD ペアを削除すると、プライマリボリュームとしてペアを解除されたボリュームは、継続してボリュームとして使うことができます。そのまま使用できるボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV` (仮想 LDEV ID) に「ffff」や「fffe」以外が表示されているか、もしくは `VIR_LDEV` が表示されません。

ただし、GAD の使用を停止して、ボリュームを削除する場合は、次の手順を実行します。

操作手順

1. ボリュームへの LU パスを削除します。

2. 仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

LDEV ID (0x4444) に設定されている仮想 LDEV ID 0x5555 を削除します。

```
raidcom unmap resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x5555
```

仮想 LDEV ID を削除すると、仮想 LDEV ID が削除されているボリュームに変わります。仮想 LDEV ID が削除されているボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `VIR_LDEV` (仮想 LDEV ID) に「fffe」と表示されます。

3. `meta_resource` 以外のリソースグループで、仮想 LDEV ID が予約されている場合は、リソースグループから仮想 LDEV ID を削除します。

コマンド例：

リソースグループ (AnotherGroup) から仮想 LDEV ID (0x4444) を削除します。仮想 LDEV ID は、`meta_resource` に移動します。

```
raidcom delete resource -resource_name AnotherGroup -ldev_id 0x4444
```

4. ボリュームの仮想 LDEV ID を設定します。

コマンド例：

ボリューム (0x4444) に仮想 LDEV ID 0x4444 を設定します。

```
raidcom map resource -ldev_id 0x4444 -virtual_ldev_id 0x4444
```

5. ボリュームを削除します。

コマンド例：

```
raidcom delete ldev -ldev_id 0x4444
```

関連概念

- [13.2 使用したボリューム削除をする](#)

global-active device のトラブルシューティング

global-active device (GAD) のトラブルシューティングについて説明します。

- 14.1 一般的なトラブルシューティング
- 14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング
- 14.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング
- 14.4 GAD 操作の報告 (SIM)
- 14.5 GAD ボリュームのピントラック回復手順
- 14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順
- 14.7 お問い合わせ先

14.1 一般的なトラブルシューティング

エラー／操作の内容	対策
ストレージシステムのコントロールパネルにある、イニシエータのチャンネル使用可 LED (Light-Emitting Diode) インジケータが消灯、または点滅している。	お問い合わせ先に連絡してください。
GAD エラーメッセージが管理ツールの操作端末に表示されている。	エラーを修正し、GAD 操作を再実行してください。
リモートストレージシステムへのパスの状態が正常でない。	raidcom get rcu コマンドでリモートパス状態を確認し、回復してください。
ペア作成またはペア再同期操作でタイムアウトエラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア障害によってタイムアウトが発生した場合は、SIM が生成されます。問い合わせ先に連絡し、問題解決後に GAD 操作を再実行してください。 • 大きな作業負荷：SIM が生成されない場合、5～6 分ほど待ってから作成または再同期したいペアの状態を確認してください。ペアの状態が正しく変わった場合は、失敗した操作がタイムアウトエラーメッセージが表示されたあとに完了したことを示します。ペアの状態が期待どおりに変わらなかった場合は、大きな作業負荷によって GAD 操作の完了が妨げられていることが考えられます。大きな作業負荷とは、具体的には次のどれかの状態を指します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが属する MP ユニット内のプロセッサの稼働率が 70%以上。 ◦ 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに対する更新 I/O の転送量が多い。 ◦ 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが属する MP ユニットの WritePending が 65%以上。 この場合、上記の状態を解消してから、GAD 操作を再実行してください。
ペア作成またはペア再同期操作が失敗した。	正サイトまたは副サイトのストレージシステムでコントローラボードが閉塞しているかを確認してください。閉塞されたコントローラボードを回復させてから、再度操作してください。
ペア作成またはペア再同期操作をしたが、次の状態から変化しない。 <ul style="list-style-type: none"> • ペア状態が COPY のまま • ペアの一致率が 0%のまま 	<ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア障害が発生した場合は、SIM が生成されます。14.7 お問い合わせ先に示すお問い合わせ先に連絡してください。問題解決後に以下を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ ペア作成時に左記のエラーが発生した場合：ペアを削除してから、ペアを作成し直してください。 ◦ ペア再同期時に左記のエラーが発生した場合：ペアをサスペンドしてから、再同期してください。 • 大きな作業負荷：ハードウェア障害が発生していない場合は、ストレージシステムの作業負荷が比較的少ないときに、GAD 操作を再実行してください。 ハードウェア障害 (SIM 生成) が発生しておらず、負荷も低い状態であるにも関わらず、状態の変化がない場合は、 14.7 お問い合わせ先 に示すお問い合わせ先に連絡してください。

エラー／操作の内容	対策
GAD ボリュームにピントラックがある。	ピントラックを回復してください。

関連参照

- [14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング](#)
- [14.5 GAD ボリュームのピントラック回復手順](#)

14.2 リモートパスの状態に関するトラブルシューティング

RAID Manager で表示されるエラーコード	状態の説明	対策
NML_01	このリモートパスは正しく設定されているので、GAD コピーに使用できる。	リモートパスの状態は正常です。回復する必要はありません。
ERR_02	次の不具合により、リモートストレージシステムとの接続を初期化したときに、エラーが発生した。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルストレージシステムとリモートストレージシステム間の物理パスが接続されていない。 ローカルストレージシステムとスイッチ間の接続がない。 リモートパスとして未サポートのプロトコル、チャンネルボード、またはポートスピードを使用している。 	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポート間、またはローカルストレージシステムのポートとローカルストレージシステムのスイッチ間で、ケーブルが正しく接続されていること。 リモートストレージシステムのシリアル番号とモデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) の設定が正しいこと。 リモートパスとしてサポート済みのプロトコル、チャンネルボード、またはポートスピードを使用すること。
ERR_03	ローカルストレージシステムとリモートストレージシステム間の通信がタイムアウトになった。	次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。 <ul style="list-style-type: none"> リモートストレージシステムの電源がオンであり、正常に利用できること。 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 <ul style="list-style-type: none"> コネクタ ケーブル スイッチ (ゾーニング設定) チャンネルエクステンダ装置 (チャンネルエクステンダ装置接続時) チャンネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置 (チャンネルエクステンダ装置接続時)

RAID Manager で表示されるエラーコード	状態の説明		対策
ERR_04	バス障害またはリンク障害が継続的に発生したため、閉塞した。	ローカルストレージシステムのポートが故障している。	ローカルストレージシステムのポートを修復してください。 その後、リモートバスを回復させてください。※
		リモートストレージシステムのポートが故障している。	リモートストレージシステムのポートを修復してください。 その後、リモートバスを回復させてください。※
		中継装置が故障している。	中継装置を修復してください。 その後、リモートバスを回復させてください。※
		ケーブルが壊れている。	ケーブルを交換してください。 その後、リモートバスを回復させてください。※
ERR_05	ローカルストレージシステム、またはリモートストレージシステムの全資源が他の接続に使用されているので、ローカルストレージシステム、またはリモートストレージシステムはリモートバスを設定する接続制御機能を拒否した。		<ul style="list-style-type: none"> 現在使用していないすべてのリモートバスを削除してください。 現在使用していないすべてのリモートストレージシステムを、<code>raidcom delete rcu</code> コマンドで削除してください。
ERR_06	リモートストレージシステムのシリアル番号が指定したシリアル番号と一致しない。	<p>次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートストレージシステムのシリアル番号とモデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) が正しく設定されていること。 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 <ul style="list-style-type: none"> コネクタ ケーブル スイッチ (ゾーニング設定) チャンネルエクステンダ装置 (チャンネルエクステンダ装置接続時) チャンネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置 (チャンネルエクステンダ装置接続時) 	
ERR_10	<p>指定したローカルストレージシステムのポートは次の状態である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実装されていない。 リモートバスがすでにある。 リモートバスとして未サポートのプロトコル、チャンネルボード、またはポートスピードを使用している。 		<p>次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ設定のリモートバス (ローカルストレージシステムのポート番号とリモートストレージシステムのポート番号が同じ) がないこと。

RAID Manager で表示されるエラーコード	状態の説明	対策
		<ul style="list-style-type: none"> • ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) の設定が正しいこと。 • 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ コネクタ ◦ ケーブル ◦ スイッチ (ゾーニング設定) ◦ チャネルエクステンダ装置 (チャネルエクステンダ装置接続時) ◦ チャネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置 (チャネルエクステンダ装置接続時) • リモートストレージシステムのシリアル番号、モデル、ローカルストレージシステムのポート番号、リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 • リモートパスとしてサポート済みのプロトコル、チャネルボード、またはポートスピードを使用すること。
ERR_80	指定したリモートストレージシステムのポートがローカルストレージシステムと物理的に接続されていない。	<p>次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リモートストレージシステムのポート番号が正しいこと。 • ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポート間、またはリモートストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのスイッチ間でケーブルが正しく接続されていること。 • ローカルストレージシステムのポートとリモートストレージシステムのポートのトポロジ (Fabric、FC-AL、Point-to-point) の設定が正しいこと。
ERR_82	ローカルストレージシステムはリモートストレージシステムに正しく接続されているが、論理的な通信タイムアウトが発生した。	<p>次の内容を確認し、正しくない場合は修正してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リモートストレージシステムのポートとネットワーク中継機器が正しく設定されていること。 • 次のネットワーク中継機器が正しく構成されていて、正しく利用できること。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ コネクタ ◦ ケーブル ◦ スイッチ (ゾーニング設定) ◦ チャネルエクステンダ装置 (チャネルエクステンダ装置接続時)

RAID Manager で表示されるエラーコード	状態の説明	対策
		<ul style="list-style-type: none"> チャンネルエクステンダ装置間に接続されている回線・装置（チャンネルエクステンダ装置接続時）
「-」（ハイフン）	リモートパス作成中またはリモートパス削除中である。	処理が終了するまで待ってください。

注※

次の方法でリモートパスを回復させます。

- raidcom delete rcu_path コマンドでリモートパスを削除し、raidcom add rcu_path コマンドでリモートパスを再作成する。

この操作をしてもリモートパスが回復しない場合は、お問い合わせください。

14.3 RAID Manager 操作時のトラブルシューティング

RAID Manager を使用した GAD ペアの操作でエラーが発生した場合、RAID Manager の画面に出力されるログまたは RAID Manager の操作ログを参照してエラーの要因を特定できることがあります。

出力例を次に示します。

```
It was rejected due to SKEY=0x05, ASC=0x20,SSB=0xB901,0xB992 on Serial#(64015)
                                     ↓      ↓
                                     SSB1  SSB2
```

「SSB=」の後ろの英数字がエラーコードを示します。コンマ（,）の左側の英数字の下 4 桁を SSB1（例：B9E1）、右側の英数字の下 4 桁を SSB2 とします（例：B901）。

RAID Manager の構成設定コマンド（raidcom コマンド）のエラーコードについては、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

問題が解決しない場合は、「/HORCM/log*」フォルダの中身を添付して、お問い合わせください。

表 33 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が 2E31/B901/B90A/B90B/B912/D004）

エラーコード (SSB2)	内容
9100	ユーザ認証が実施されていないため、コマンドを実行できません。
B952	指定した LU が未定義です。ストレージシステムの構成が変更されている場合があります。RAID Manager を再起動してください。
B9A2	指定したボリュームがコマンドデバイスのため、GAD ペアを作成できません。
B9A4	指定したボリュームに SCSI パスが定義されていないため、GAD ペアを操作できません。
B9A5	次のどれかのリモートパスが設定されていないため、GAD ペアを作成またはスワップリシンクできません。 <ul style="list-style-type: none"> 正サイトと副サイトのストレージシステム間の双方向のリモートパス 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパス

エラーコード (SSB2)	内容
	<ul style="list-style-type: none"> 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモートパス
B9A8	指定されたボリュームが GAD ペアではないため、I/O モードを変更できません。
B9BD	RAID Manager を起動しているときに、ストレージシステムの LDEV の構成が変更されている場合があります。RAID Manager を再起動してください。
B9C0	コマンドデバイスの資源がなくなりました。raidcom modify ldev コマンドの command_device オプションに「no」に設定して実行した後に、再度「yes」を設定して実行してください。
DB89	ストレージシステムがペア中断またはペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが使用できる状態でないため、GAD ペアの状態を変更できません。
DB8A	ストレージシステムがペア中断またはペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが閉塞しているため、GAD ペアの状態を変更できません。
DB8B	ストレージシステムがペア中断またはペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが使用できる状態でないため、GAD ペアの状態を変更できません。
DB8D	ストレージシステムがペア中断またはペア削除要求を受け付けましたが、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパスが最小パス数を満たしていないため、GAD ペアの状態を変更できません。
FA00	プライマリボリュームとして指定したボリュームの容量が、GAD ペア作成可能容量より大きい場合、GAD ペアを作成できません。
FA01	指定されたプライマリボリュームがオンラインでのデータ移行用にマッピングされた外部ボリュームであり、かつキャッシュモードが Write Sync ではないため、操作に失敗しました。
FA02	正サイトのストレージシステムのキャッシュ状態が次のどれかに該当するため、GAD ペアを作成または再同期できません。 <ul style="list-style-type: none"> 片面閉塞または片面閉塞に移行している 片面回復に移行している 回復に移行している
FA03	正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパスが、次のどちらかの状態であるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> リモートパス本数が 0 (未設定) である。 最小パス数を満たしていない。
FA04	プライマリボリュームとして指定したボリュームのエミュレーションタイプが OPEN-V ではないため、GAD ペアを作成できません。
FA05	プライマリボリュームとして指定したボリュームが他社機種のマイグレーションボリュームのため、GAD ペアを作成できません。
FA07	プライマリボリュームとして指定したボリュームのペア状態が、SMPL ではありません。
FA08	プライマリボリュームとして指定したボリュームのペア状態が、PSUS または PSUE ではありません。
FA09	プライマリボリュームとして指定したボリュームに、ピントラックがあります。
FA0A	プライマリボリュームとして指定したボリュームが閉塞しているため、GAD ペアを作成できません。
FA0B	プライマリボリュームとして指定したボリュームが次のどれかの状態であるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> 閉塞 フォーマット処理が進行している Read Only 状態

エラーコード (SSB2)	内容
	<ul style="list-style-type: none"> プライマリボリュームとして指定したボリュームが属しているプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれている
FA0D	プライマリボリュームの仮想エミュレーションタイプはサポートされていません。
FA0E	プライマリボリュームとして指定したボリュームが、Dynamic Provisioning の仮想ボリュームではないため、GAD ペアを作成できません。
FA0F	プライマリボリュームとして指定したボリュームのデバイスタイプは、サポートしていません。
FA10	セカンダリボリュームが使用できる状態にないため、GAD ペアを作成できません。
FA12	プライマリボリュームとして指定したボリュームの仮想属性に GAD 予約が割り当てられているため、GAD ペアを作成できません。
FA13	指定したボリュームは、TrueCopy で使用しています。
FA14	指定したボリュームは、Universal Replicator で使用しています。
FA15	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアの操作に失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> GAD のプライマリボリュームとして指定したボリュームが、リストア処理が進行している Thin Image のプライマリボリュームである。 GAD のセカンダリボリュームとして指定したボリュームが、Thin Image のプライマリボリュームである。 指定したボリュームが、Thin Image のセカンダリボリュームである。
FA16	指定されたプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームは、ShadowImage で使用されています。現在の ShadowImage のペア状態またはペア属性では、GAD ペアを操作できません。
FA17	指定したボリュームは、Volume Migration で使用しています。
FA18	指定されたプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームは、ShadowImage で使用されています。現在の ShadowImage のペア状態またはペア属性では、GAD ペアを操作できません。
FA1B	正サイトと副サイトの仮想ストレージマシンの情報が一致しないため、GAD ペアを作成できません。
FA1C	副サイトのストレージシステムに Data Retention Utility がインストールされていないため、プライマリボリュームの Data Retention Utility のアクセス属性をセカンダリボリュームにコピーできません。
FA1D	<p>次のどちらかの理由で、指定したセカンダリボリュームを使用して GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定したセカンダリボリュームはすでにほかの GAD ペアで使用されている セカンダリボリュームにだけ GAD ペアの情報が残っている
FA1E	プライマリボリュームがコマンドデバイスのため、GAD ペアを作成できません。
FA1F	セカンダリボリュームがコマンドデバイスのため、GAD ペアを作成できません。
FA20	指定したプライマリボリュームの内部処理に時間が掛かっています。しばらく時間をおいてから再度実行してください。
FA21	<p>次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアが確保できないため、GAD ペアを作成または再同期できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足している。 プライマリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。

エラーコード (SSB2)	内容
FA23	指定したセカンダリボリュームの内部処理に時間が掛かっています。しばらく時間をおいてから再度実行してください。
FA24	指定した副サイトのストレージシステムのファームウェアバージョンが、GAD のコンシステンシーグループをサポートしていないため、GAD ペアを作成できません。
FA25	GAD ペアの操作に失敗しました。プライマリボリュームの T10 PI 属性の設定と、セカンダリボリュームの T10 PI 属性の設定が異なります。
FA26	ローカルストレージシステムまたはリモートストレージシステムのファームウェアバージョンが、nondisruptive migration と GAD の併用をサポートしていないため、操作に失敗しました。
FA27	プライマリボリュームとして指定したボリュームの属性がサポートされていないため、GAD ペアを作成できません。
FA28	次の両方の条件を満たしていないため、GAD と Universal Replicator を併用しているシステム構成で、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。 <ul style="list-style-type: none"> • GAD ペアのプライマリボリュームと Universal Replicator ペアのプライマリボリュームが、ボリュームを共有している。 • GAD ペアのセカンダリボリュームとデルタリシンク用 Universal Replicator ペアのプライマリボリュームが、ボリュームを共有している。
FA29	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが実装されていない、またはコマンドデバイスのため、GAD ペアを作成できません。
FA2A	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが介入要求状態のため、GAD ペアを作成できません。
FA2B	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが閉塞しているため、GAD ペアを作成できません。
FA2C	セカンダリボリュームは、使用できる状態にありません。
FA2F	次のどちらかの理由で、GAD ペア作成の操作に失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> • セカンダリボリュームで I/O エラーが発生した。 • セカンダリボリュームが使用できる状態にない。
FA30	セカンダリボリュームとして指定したボリュームのペア状態が、PSUS または PSUE ではありません。
FA31	セカンダリボリュームとして指定したボリュームのペア状態が、SMPL ではありません。
FA32	セカンダリボリュームとして指定したボリュームに、ピントラックがあります。
FA33	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが次のどれかの状態であるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> • 閉塞 • フォーマット処理が進行している • Read Only 状態
FA35	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが閉塞しているため、GAD ペアを作成できません。 または、セカンダリボリュームとして指定したボリュームが属しているプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれているため、GAD ペアを作成できません。
FA36	リモートストレージシステムのファームウェアバージョンが DP-VOL 以外のボリュームを使用した GAD ペアの作成をサポートしていないため、GAD ペアを作成または再同期できません。

エラーコード (SSB2)	内容
FA37	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが他社機種のマイグレーションボリュームのため、GAD ペアを作成できません。
FA3A	セカンダリボリュームとして指定したボリュームの容量が、GAD ペア作成可能容量より大きい場合、GAD ペアを作成できません。
FA3B	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが nondisruptive migration で使用しているため、GAD ペアの操作に失敗しました。
FA3C	セカンダリボリュームとして指定したボリュームのデバイスタイプは、サポートしていません。
FA3D	セカンダリボリュームとして指定したボリュームの属性がサポートされていないため、GAD ペアを作成できません。
FA3E	正サイトと副サイトのストレージシステムの DKC エミュレーションタイプが不一致です。
FA3F	副サイトのストレージシステムに、global-active device のプログラムプロダクトがインストールされていません。
FA40	副サイトのストレージシステムに、GAD ペアを作成するために必要なシェアメモリが実装されていません。
FA41	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが、実装されていません。
FA42	副サイトのストレージシステムのキャッシュ状態が次のどれかの状態であるため、GAD ペアを作成または再同期できません。 <ul style="list-style-type: none"> 片面閉塞または片面閉塞に移行している 片面回復に移行している 回復に移行している
FA43	副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのリモートパスが、次のどちらかの状態であるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> リモートパス本数が 0 (未設定) である。 最小パス数を満たしていない。
FA46	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが、Dynamic Provisioning、または Dynamic Tiering の仮想ボリュームではないため、GAD ペアを作成できません。
FA48	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの、ボリューム属性 (raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR) が異なるため、ボリュームの操作に失敗しました。
FA49	プライマリボリュームとセカンダリボリュームがあるストレージシステムのシリアル番号が同じため、GAD ペアを作成できません。
FA4B	セカンダリボリュームの仮想属性に GAD 予約が割り当てられていないため、GAD ペアを作成できません。
FA4C	セカンダリボリュームに仮想 LDEV ID が設定されていないため、GAD ペアを作成できません。
FA4D	指定したセカンダリボリュームへの LU パスが定義されていません。
FA4E	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が異なるため、GAD ペアを作成できません。
FA4F	指定したセカンダリボリュームへの LU パスが定義されていません。
FA50	次のどれかが正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> プライマリボリュームのパラメータ (ポート名、ホストグループ ID、LUN ID) セカンダリボリュームのパラメータ (ポート名、ホストグループ ID、LUN ID)

エラーコード (SSB2)	内容
FA59	次のどちらかの状態であるため、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の通信がタイムアウトしました。 <ul style="list-style-type: none"> 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の物理パスに、過度な負荷が掛かっているか、障害が発生している。 正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムに過度な負荷が掛かっている。
FA5B	正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへのリモートパスが、次のどちらかの状態であるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> リモートパス本数が 0 (未設定) である。 最小パス数を満たしていない。
FA60	リモートストレージシステムの機種またはソフトウェアのバージョンが、global-active device をサポートしていないため、GAD ペアを作成できません。
FA62	プライマリボリュームとして指定したボリュームに仮想 LDEV ID が設定されていないため、GAD ペアを作成できません。
FA63	GAD ペア作成の操作に失敗しました。データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームが、プライマリボリュームとして指定されています。
FA64	GAD ペア作成の操作に失敗しました。データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームが、セカンダリボリュームとして指定されています。
FA65	GAD ペア作成の操作に失敗しました。セカンダリボリュームとして指定したボリュームのデータダイレクトマップ属性が有効になっていますが、M-DKC のファームウェアバージョンでは、4TB を超える容量の外部ストレージシステムのボリュームをマッピングする機能をサポートしていません。
FA66	GAD ペア作成の操作に失敗しました。セカンダリボリュームとして指定したボリュームのデータダイレクトマップ属性が有効になっていますが、プライマリボリュームとして指定したボリュームのデータダイレクトマップ属性が無効になっています。
FA67	GAD ペア作成の操作に失敗しました。プライマリボリュームとして指定したボリュームのデータダイレクトマップ属性が有効になっていますが、R-DKC のファームウェアバージョンでは、4TB を超える容量の外部ストレージシステムのボリュームをマッピングする機能をサポートしていません。
FA6A	GAD のプライマリボリュームは、Quorum ディスクにボリュームを設定せず、かつ RCU が Quorum ディスクにボリュームを設定しない構成に対応していないため、GAD ペアを作成または再同期できません。
FA6B	GAD のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方の Quorum ディスクの設定が、Quorum ディスクにボリュームを設定する場合と、設定しない場合で不一致のため、GAD ペアを作成または再同期できません。
FA9C	プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに指定した LDEV は、すでに NVM サブシステムの Namespace に割り当てられているため、ペア操作が失敗しました。
FA70	指定されたボリュームで作成されている UR ペアと同じミラー ID が指定されたため、GAD ペアを作成できません。
FA73	リモートストレージシステムが、リモートパス障害時 IO 優先モードをサポートしていないため、GAD ペアを作成または再同期できません。
FB30	シェアドメモリにアクセスできないため、コマンドを実行できません。
FB40	指定したボリュームと、登録先のコンシステンシーグループ内のボリュームが、異なる仮想装置情報を持つため、GAD ペアを作成できません。

エラーコード (SSB2)	内容
FB41	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、コンシステンシーグループ単位の操作を実行しているため、GAD ペアを作成できません。
FB42	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、相手ストレージシステムからの操作または障害サスペンド処理が進行しているため、GAD ペアを作成できません。
FB43	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループには、セカンダリボリュームがあるストレージシステムに次のどちらかのボリュームがあるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> ペア状態が COPY のプライマリボリューム I/O モードが Local のボリューム
FB44	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループには、プライマリボリュームがあるストレージシステムに次のどちらかのボリュームがあるため、GAD ペアを作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> ペア状態が COPY のセカンダリボリューム I/O モードが Block のボリューム
FB45	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループで障害サスペンドが発生したため、GAD ペアを作成できません。
FB46	コンシステンシーグループ ID に指定した値が範囲外のため、GAD ペアを作成できません。
FB47	1 つのコンシステンシーグループまたはミラーに登録できるペア数の上限に達しているため、GAD ペアを作成できません。
FB48	コンシステンシーグループに登録済みの GAD ペアが使用している Quorum ディスク ID とは別の Quorum ディスク ID を指定したため、GAD ペアを作成できません。
FB49	コンシステンシーグループに登録済みの GAD ペアが使用しているミラー ID とは別のミラー ID を指定したため、GAD ペアを作成できません。
FB4A	コンシステンシーグループ内に、リモートパス障害時 IO 優先モードの異なる GAD ペアが混在してしまうため、GAD ペアを作成または再同期できません。
FB50	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、コンシステンシーグループ単位の操作を実行しているため、ペア操作が失敗しました。
FB51	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、相手ストレージシステムからの操作または障害サスペンド処理が進行しているため、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。
FB54	指定したコンシステンシーグループで障害サスペンドが発生したため、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。
FB60	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、コンシステンシーグループ単位の中断処理が進行しているため、GAD ペアを中断できません。
FB61	ペア中断要求を受け付けたストレージシステムには、コンシステンシーグループ内に次のどちらかのボリュームがあるため、GAD ペアを中断できません。 <ul style="list-style-type: none"> ペア状態が COPY のセカンダリボリューム I/O モードが Block のボリューム
FB62	ペア中断要求を受け付けたストレージシステムの相手ストレージシステムには、コンシステンシーグループ内に次のどちらかのボリュームがあるため、GAD ペアを中断できません。 <ul style="list-style-type: none"> ペア状態が COPY のプライマリボリューム I/O モードが Local のボリューム

エラーコード (SSB2)	内容
FB63	指定したコンシステンシーグループで障害サスペンドが発生したため、GAD ペアを中断できません。
FB64	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、コンシステンシーグループ単位の再同期処理が進行しているため、GAD ペアを中断できません。
FB65	指定したコンシステンシーグループでは、ボリューム単位の操作を実行しているため、コンシステンシーグループ単位で GAD ペアを中断できません。
FB6E	コンシステンシーグループに登録されている GAD ペアは、ボリューム単位でスワップサスペンドできません。
FB70	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループでは、コンシステンシーグループ単位の操作を実行しているため、GAD ペアを削除できません。
FB71	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループで障害サスペンドが発生したため、GAD ペアを削除できません。
FB80	次のどちらかの理由で、paircreate コマンドまたは pairresync コマンドは拒否されました。 <ul style="list-style-type: none"> • -fg オプションを指定している。 • 指定した Quorum ディスク ID が範囲外である。 -fg オプションを指定している場合は、正サイトのストレージシステムのファームウェアバージョンが GAD のコンシステンシーグループをサポートしていることを確認してください。どちらにも当てはまらない場合は、お問い合わせください。
FB92	次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアを確保できないため、GAD ペアを作成または再同期できません。 <ul style="list-style-type: none"> • 副サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足している。 • セカンダリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
FBB0	ストレージシステムがペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが ShadowImage、Volume Migration、または nondisruptive migration とボリュームを共有しているため、GAD ペアを削除できません。
FBB1	ストレージシステムがペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが Thin Image とボリュームを共有しているため、GAD ペアを削除できません。
FBE0	paircreate コマンドまたは pairresync コマンドで、-f data オプションまたは -f status オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FBE1	paircreate コマンドまたは pairresync コマンドで、-SM block オプションまたは -SM nblock オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FBE8	pairsplit コマンドで -P オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FBE9	pairsplit コマンドで -rw オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FBEA	pairsplit コマンドで -RB オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FBEB	pairsplit コマンドで -SM block オプションまたは -SM nblock オプションを指定したため、GAD ペアへのコマンドは拒否されました。
FC10	指定したボリュームがあるストレージシステムが次のどれかの状態のため、コマンドは拒否されました。 <ul style="list-style-type: none"> • GAD をサポートしていないバージョンのソフトウェアが含まれている。 • GAD のプログラムプロダクトがインストールされていない。 • GAD 用のシェアドメモリが増設されていない。

エラーコード (SSB2)	内容
	どれにもあてはまらない場合は、お問い合わせください。
FC12	同一の操作または別の操作が、すでに実行されています。
FC13	エラーを検出したため、ペア中断の処理が進行しています。
FC14	指定したボリュームが登録されているコンシステンシーグループ ID と、コマンドで指定したコンシステンシーグループ ID が異なるため、コマンドを実行できません。
FC16	指定した GAD ペアのボリュームで作成されている、異なる GAD ペアでペア操作が実行中のため、操作できません。
FC18	指定したボリュームで作成されている、異なる GAD ペアのペア状態が、指定した GAD ペアのペア操作を許可していない状態のため、操作できません。
FC19	指定したボリュームで作成されている異なる GAD ペアが、データ移行をサポートしていない状態のため、操作できません。
FC20	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足しているため、差分ビットマップエリアを確保できない。 • プライマリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足しているため、差分ビットマップエリアを確保できない。 • 正サイトのストレージシステムで、シェアドメモリが実装されていない。 • 正サイトのストレージシステムに、Resource Partition Manager のライセンスがインストールされていない。 • 正サイトのストレージシステムの、GAD のライセンス容量が不足している。
FC21	<p>次のどれかの理由で GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 副サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足しているため、差分ビットマップエリアを確保できない。 • セカンダリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足しているため、差分ビットマップエリアを確保できない。 • 副サイトのストレージシステムで、シェアドメモリが実装されていない。 • 副サイトのストレージシステムに、Resource Partition Manager のライセンスがインストールされていない。 • 副サイトのストレージシステムの、GAD のライセンス容量が不足している。
FC22	<p>次のどちらかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームのペア状態が SMPL ではない。 • 指定したボリュームが、単一ボリュームまたは GAD ペアのプライマリボリュームではない。
FC23	<p>次のどちらかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームの相手ボリュームのペア状態が SMPL または COPY ではない。 • 指定したボリュームの相手ボリュームが、単一ボリュームまたは GAD ペアのセカンダリボリュームではない。
FC24	<p>次のどちらかの理由で、正サイト側で GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームの容量を拡張している。 • 指定したボリュームのプールを初期化している。 • 指定したボリュームに仮想 LDEV ID が設定されていない。
FC25	<p>次のどれかの理由で、副サイト側で GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームの相手ボリュームの容量を拡張している。

エラーコード (SSB2)	内容
	<ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームの相手ボリュームのプールを初期化している。 • 指定したボリュームの相手ボリュームの仮想 LDEV ID が、仮想ストレージマシン内で重複している。 • 指定したボリュームの相手ボリュームから正サイト側の仮想 LDEV ID を副サイト側の実 LDEV ID と同じ値に指定したが、仮想エミュレーションタイプ (CVS と LUSE の設定を含む) または仮想 SSID が実情報と仮想情報とで異なっている。 • 指定したボリュームの相手ボリュームの仮想 LDEV ID が、すでに使用されている。 • 指定したボリュームの相手ボリュームに定義された LUN パス数が、ALUA で使用できる LUN パス数を超えている。 • プライマリボリュームとセカンダリボリュームの ALUA 関連情報が一致していない。
FC26	指定したボリュームがあるストレージシステムで、ストレージシステム間のリモートパスの確認に失敗したため、GAD ペアを作成できません。
FC27	指定したボリュームの相手ボリュームがあるストレージシステムで、ストレージシステム間のリモートパスの確認に失敗したため、GAD ペアを作成できません。
FC28	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームで、1 個のボリュームに対するミラー数が枯渇している。 • 指定したボリュームで、すでに 2 ミラー構成の GAD ペアが作成されている。 • 指定したボリュームのペア管理テーブルが枯渇している。
FC29	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定したボリュームの相手ボリュームで、1 個のボリュームに対するミラー数が枯渇している。 • 指定したボリュームの相手ボリュームは、すでに別の GAD ペアで使用されている。 • 指定したボリュームの相手ボリュームのペア管理テーブルが枯渇している。
FC2A	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストレージシステムが内部処理中または、他の操作による構成変更中である。 • 指定したボリュームで作成されている、異なる GAD ペアと、同じミラー ID が指定されている。
FC2B	ストレージシステムが ALUA モードを有効化中または無効化中のため、操作できません。しばらく時間をおいてから再度操作してください。
FC2C	指定したボリュームで、すでに GAD ペアが作成されているため、-nocopy オプションを指定して GAD ペアを作成できません。
FC2D	指定したボリュームで作成されている異なる GAD ペアと同じ Quorum ディスク ID が指定されたため、GAD ペアを作成できません。
FC2E	指定した GAD ペアのセカンダリボリュームで、すでに GAD ペアが作成されているため、GAD ペアを作成できません。
FC30	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアの再同期で指定したボリュームのペア状態が、PSUS または PSUE ではない。 • ペアの再同期で指定したボリュームが、GAD ペアのプライマリボリュームではない。 • ペアの再同期で指定したボリュームの I/O モードが、Block である。 • スワップリシンクで指定したボリュームの相手ボリュームのペア状態が、PSUS または PSUE ではない。 • スワップリシンクで指定したボリュームの相手ボリュームの I/O モードが、Block ではない。

エラーコード (SSB2)	内容
FC31	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> スワップリシンクで指定したボリュームのペア状態が、SSWS ではない。 スワップリシンクで指定したボリュームが、GAD ペアのセカンダリボリュームではない。 スワップリシンクで指定したボリュームの I/O モードが、Block である。 ペアの再同期で指定したボリュームの相手ボリュームのペア状態が、SSUS または PSUE ではない。 ペアの再同期で指定したボリュームの相手ボリュームの I/O モードが、Block ではない。
FC32	<p>次のどれかの理由で、GAD ペアを再同期またはスワップリシンクできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンシステンシーグループに登録されていないボリュームに対して、コンシステンシーグループ ID を指定してコマンドを実行した。 コンシステンシーグループに登録されているボリュームに対して、コンシステンシーグループ ID を指定しないでコマンドを実行した。 コンシステンシーグループに登録されているボリュームに対して、ボリューム単位のスワップリシンクを実行した。
FC33	<p>プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が異なるため、GAD ペアを再同期できません。</p>
FC38	<p>ストレージシステムがペア中断要求を受け付けましたが、指定したボリュームが次のどれかであるため、GAD ペアを中断できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームにプライマリボリューム指定のペア中断を指示している。 プライマリボリュームにセカンダリボリューム指定のペア中断を指示している。 ペア状態が PAIR または COPY ではない。
FC39	<p>ストレージシステムがペア中断要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが次のどれかであるため、GAD ペアを中断できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手ボリュームがプライマリボリュームであるが、プライマリボリューム指定のペア中断を指示している。 相手ボリュームがセカンダリボリュームであるが、セカンダリボリューム指定のペア中断を指示している。 ペア状態が PAIR または COPY ではない。
FC3A	<p>次のどちらかの理由で、GAD ペアを中断できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンシステンシーグループに登録されていないボリュームに対して、コンシステンシーグループ ID を指定してコマンドを実行した。 コンシステンシーグループに登録されているボリュームに対して、コンシステンシーグループ ID を指定しないでコマンドを実行した。
FC40	<p>ストレージシステムがペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームが次のどれかであるため、GAD ペアを削除できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> セカンダリボリュームにプライマリボリューム指定のペア削除を指示している。 プライマリボリュームにセカンダリボリューム指定のペア削除を指示している。 ペア状態が PSUS、SSUS、SSWS、または PSUE ではない。 I/O モードが Local ではない。 Universal Replicator ペアとボリュームを共有している。
FC41	<p>ストレージシステムがペア削除要求を受け付けましたが、指定したボリュームの相手ボリュームが次のどれかであるため、GAD ペアを削除できません。</p>

エラーコード (SSB2)	内容
	<ul style="list-style-type: none"> 相手ボリュームがプライマリボリュームであるが、プライマリボリューム指定のペア削除を指示している。 相手ボリュームがセカンダリボリュームであるが、セカンダリボリューム指定のペア削除を指示している。 ペア状態が PSUS、SSUS、SSWS、または PSUE のどれでもない。 I/O モードが Block ではない。 Universal Replicator ペアとボリュームを共有している。
FC44	指定した GAD ペアは、nondisruptive migration の移行先ボリュームに対して仮想 LDEV ID の強制削除を指示しているため、要求は拒否されました。
FC49	GAD ペアではないため、I/O モードの変更操作が実施できません。
FC4A	ペア状態が中断されていないため、I/O モードの変更操作が実施できません。
FC7E	<p>ストレージシステムがペア作成、ペア再同期、またはスワップリシンク要求を受け付けましたが、Quorum ディスクの状態が次のどれかであるため、要求は拒否されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定した Quorum ディスク ID が範囲外である。 Quorum ディスクが作成されていない。 指定したリモートストレージシステムが、Quorum ディスクを作成したときと異なる。 正サイトと副サイトのストレージシステムで、同じ Quorum ディスク ID が別々の外部ボリュームに割り当てられている。 Quorum ディスクが閉塞している。 正サイトまたは副サイトのストレージシステムと Quorum ディスク用外部ストレージシステム間の外部パスに、障害が発生している。 Quorum ディスクまたは Quorum ディスク用外部パスの障害、もしくは保守操作からの回復処理が進行している。 Quorum ディスクを使用して GAD ペアを中断している。

表 34 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 (SSB1 が B90A)

エラーコード (SSB2)	内容
B928	ボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。

表 35 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 (SSB1 が B912)

エラーコード (SSB2)	内容
B96D	ボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。

14.4 GAD 操作の報告 (SIM)

ストレージシステムに SNMP がインストールされている場合、各 SIM は SNMP トラップを引き起こし、該当するサーバに送信されます。SNMP 操作の詳細については、『SNMP Agent ユーザガイド』を参照するか、お問い合わせください。

関連概念

- 8.2 GAD 使用時に発行される SIM

14.5 GAD ボリュームのピントラック回復手順

ピントラックを回復しながらペアのデータ整合性を全面的に確保するには、次の手順に従ってください。

1. ピントラックのボリュームを含む GAD ペアの正サイトのストレージシステムに接続します。
2. ピントラックのボリュームを含む GAD ペアを削除します。
3. 通常の手順で、ピントラックからデータを回復します。
使用している OS のピントラック回復手順を使用するか、お問い合わせください。
4. GAD ペアを作成し直します。
このとき、`paircreate` コマンドに `-nocopy` オプションを指定しないでください。

14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順

障害によって GAD ペアが中断されたときに、コンシステンシーグループ内にボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在している場合は、障害を回復したあとに次の手順に従ってコンシステンシーグループ内のペアの状態を回復してください。

GAD と Universal Replicator を併用している場合は、UR ペアとデルタリシンク用 UR ペアを削除してから、実施する必要があります。

コンシステンシーグループ内のペアの状態を回復したあと、デルタリシンク用 UR ペアと UR ペアの形成を再度実施してください。

関連参照

- [14.6.1 プライマリボリュームが正サイトにある場合](#)
- [14.6.2 プライマリボリュームが副サイトにある場合](#)

14.6.1 プライマリボリュームが正サイトにある場合

1. サスペンド状態のペアに対して、再同期を実施します。
正サイトにあるプライマリボリュームの I/O モードが Local のペアに対して、プライマリボリュームを指定してペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -d dev0 -IH0`
2. 副サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップサスペンドを実施します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH1`
3. 副サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップリシンクを実施します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`
4. 正サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップサスペンドを実施します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH0`
5. 正サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップリシンクを実施します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH0`

関連参照

- 14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順

14.6.2 プライマリボリュームが副サイトにある場合

1. サスペンド状態のペアに対して、再同期を実施します。
副サイトにあるプライマリボリュームの I/O モードが Local のペアに対して、プライマリボリュームを指定してペアを再同期します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -d dev0 -IH1`
2. 正サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップサスペンドを実施します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH0`
3. 正サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップリシンクを実施します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH0`
4. 副サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップサスペンドを実施します。
コマンド例: `pairsplit -g oraHA -RS -IH1`
5. 副サイトで、コンシステンシーグループを指定してスワップリシンクを実施します。
コマンド例: `pairresync -g oraHA -swaps -IH1`

関連参照

- 14.6 GAD のコンシステンシーグループに、ボリュームの I/O モードが Local のペアと Block のペアが混在した場合の回復手順

14.7 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス: <http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

RAID Manager コマンドリファレンス

RAID Manager を使用するに当たっての参考情報を示します。

- [A.1 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係](#)
- [A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲](#)

A.1 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係

global-active device のアクション名に対応する RAID Manager コマンドを次の表に示します。

RAID Manager コマンドの詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

表 36 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係（構成操作）

アクション名	RAID Manager コマンド
リモート接続追加	raidcom add rcu
外部バスグループ選択	raidcom add external_grp
外部ボリューム作成	raidcom add ldev
Quorum ディスク追加	raidcom modify ldev
仮想ストレージマシン（リソースグループ）の作成	raidcom add resource
ホストグループ ID の予約	raidcom add resource
仮想 LDEV ID の削除	raidcom unmap resource
LDEV ID の予約	raidcom add resource
GAD 予約割り当て	raidcom map resource
ホストグループ作成	raidcom add host_grp
プール作成	raidcom add dp_pool
仮想ボリューム作成	raidcom add ldev
LU バス追加	raidcom add lun

表 37 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係（ペア操作）

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド	
ペア作成	フェンスレベル	paircreate	-f never
	コピー速度	paircreate	-c <size>
	形成コピーなし	paircreate	-nocopy
	コンシステンシーグループに登録	paircreate	-fg never <CTG ID>
	ALUA モードの変更	raidcom modify ldev	-alua{enable disable}
	リモートバス障害時 IO 優先モードの設定	paircreate	-pr pvol
ペア中断	P-VOL 指定	pairsplit	
	S-VOL 指定	pairsplit	-RS
コンシステンシーグループ中断		pairsplit	なし※1
ペア再同期	P-VOL 指定	pairresync	
	S-VOL 指定	pairresync	-swaps
	コピー速度	pairresync	-c <size>

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド	
	コンシステンシーグループに登録※2	pairresync	-fg never <CTG ID>
	ALUA モードの変更	raidcom modify ldev	-alua{enable disable}
	リモートパス障害時 IO 優先モードの設定	pairresync	-pr{pvol disable}
コンシステンシーグループ再同期	なし	pairresync	なし※1
	ALUA モードの変更	raidcom modify ldev	-alua{enable disable}
ペア通常削除	P-VOL 指定	pairsplit	-S
	S-VOL 指定	pairsplit	-R
ペア強制削除※3	P-VOL 指定 (ボリュームアクセス有効)	pairsplit	-SFV
	P-VOL 指定 (ボリュームアクセス無効)	pairsplit	-SF
	S-VOL 指定 (ボリュームアクセス有効)	pairsplit	-RFV
	S-VOL 指定 (ボリュームアクセス無効)	pairsplit	-RF

(凡例)

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

注※1

コンシステンシーグループに登録されているペアを中断または再同期する場合、オプションを指定しないときはコンシステンシーグループ単位で中断または再同期されます。

注※2

コンシステンシーグループに登録されていないペアを再同期するときに、コンシステンシーグループに登録できます。

注※3

本マニュアルの操作手順に、GAD ペアの強制削除として記載されている場合以外は、ペアを強制削除しないでください。

表 38 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドの対応関係(状態表示操作)

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド	
ペアプロパティの参照	I/O モード	pairdisplay	-fxce または -fxde
	ペア状態	pairdisplay	-fxc または -fxce
GAD コンシステンシーグループプロパティの参照	コンシステンシーグループ ID	pairdisplay	-fxc または -fxce
ペア一致率の参照		pairdisplay	-fxc

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド
リモート接続プロパティの参照		raidcom get rcu
仮想ストレージマシンの参照		raidcom get resource -key opt
Quorum ディスクの確認	Quorum ディスクに関する情報の参照	raidcom get ldev
	Quorum ディスクの状態の参照	raidcom get quorum
ボリュームの状態確認	仮想 LDEV ID の有無	raidcom get ldev
	GAD 予約の有無	raidcom get ldev
ALUA モードの参照		raidcom get ldev
非対称アクセス状態の参照		raidcom get host_grp

表 39 global-active device のアクション名と RAID Manager コマンドとの対応関係（設定変更操作）

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド
リモートレプリカオプション編集		raidcom modify remote_replica_opt
	パス閉塞監視時間	raidcom modify remote_replica_opt -path_blocked_watch <time(sec)>
仮想管理設定編集	仮想 LDEV ID	raidcom map resource raidcom unmap resource -ldev_id <ldev#>
	仮想エミュレーションタイプ (CVS と LUSE の設定を含む)	raidcom map resource -emulation <emulation type>
	仮想 SSID	raidcom map resource -ssid <ssid>
Quorum ディスク編集	Quorum 監視停止時 Read 応答保証時間	raidcom modify quorum -timeout <timeout>
Quorum ディスク削除		raidcom modify ldev
GAD 予約解除		raidcom unmap resource
ペア強制削除※	P-VOL 指定 (ボリュームアクセス有効)	pairsplit -SFV
	P-VOL 指定 (ボリュームアクセス無効)	pairsplit -SF
	S-VOL 指定 (ボリュームアクセス有効)	pairsplit -RFV
	S-VOL 指定 (ボリュームアクセス無効)	pairsplit -RF
リモート接続オプション編集		raidcom modify rcu
	RIO MIH 時間	raidcom modify rcu -rcu_option <mpath> <rto> <rtt>
リモートパス追加		raidcom add rcu_path
リモートパス削除		raidcom delete rcu_path
リモート接続削除		raidcom delete rcu
I/O モード強制変更 (ローカルに変更)		pairsplit -iomd local

アクション名	パラメータ	RAID Manager コマンド	
I/O モード強制変更 (ブロックに変更)	pairsplit	-iomd block	

注※

本マニュアルの操作手順に、GAD ペアの強制削除として記載されている場合以外は、ペアを強制削除しないでください。

A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲

RAID Manager のオプションのパラメータで設定できる範囲を次の表に示します。コマンドの詳細については『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

パラメータの内容	設定範囲
ミラー ID (MU#)	0～3
CTG ID	0～127
Quorum ID	0～31
パスグループ ID	0～255

リモート接続オプション

リモート接続のオプションとして設定が可能な項目について説明します。

- B.1 RIO MIH 時間
- B.2 往復応答時間

B.1 RIO MIH 時間

RIO MIH 時間は、リモートパスによるデータコピーの完了待ち時間です。複数の冗長パスがある場合、この時間が長いほど、冗長パスでデータコピーをリトライするまでのタイムアウト時間が長くなります。VSP One B20 では、インストール時の初期設定として、システムオプションモード 784 が「ON」に設定されています。これにより RIO MIH 時間は設定値に関係なく 5 秒です。RIO MIH 時間を変更したい場合は、リモート接続オプション編集 (raidcom modify rcu コマンド) により設定変更を行った後、システムオプション 784 を「OFF」に設定してください。

その後、GAD ペアの形成、または再同期を行ってください。



メモ

RIO MIH 時間の値を参照すると、システムオプションモード 784 が「ON」に設定されていても、設定値が表示されません。

B.2 往復応答時間

往復応答時間とは、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへデータをコピーするときの制限時間です。この値は、形成コピーを実行するとき、形成コピーのコピー速度を自動調整し、更新 I/O に対するリモート I/O の応答時間に影響を与えにくくするための基準値です。

往復応答時間のデフォルトは 1 ミリ秒です。正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離が長かったり、回線機器による遅延があったりする場合は、往復応答時間に適切な値を設定してください。往復応答時間に適切な値を設定しないでデフォルトのままの形成コピーを実行した場合、形成コピーの完了に不当に時間が掛かることがあります。

往復応答時間は、raidcom modify rcu に `-rcu_option` オプションを指定して設定します。

例えばリモート I/O の応答時間と往復応答時間の値の差が大きい場合 (例: リモート I/O の応答時間が 500 ミリ秒、往復応答時間の値が 1 ミリ秒)、回線の帯域すべてを形成コピーで独占しないように、コピー速度を落としたり一時的に形成コピーを停止したりします。

逆に、リモート I/O の応答時間と往復応答時間の値との差が小さい場合 (例: リモート I/O の応答時間が 5 ミリ秒、往復応答時間の値が 1 ミリ秒)、設定されたコピー速度で形成コピーを実施します。

往復応答時間には 1 ミリ秒から 500 ミリ秒まで設定できます。往復応答時間の値は下記の式で求められます。

往復応答時間の値 (ミリ秒) = 正サイトと副サイトのストレージシステム間の往復遅延時間 (Round Trip Time) × 応答回数[※] + 形成コピー応答時間 (ミリ秒)

注※

正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスをファイバチャネルで接続している場合、ホストモードオプション 51 (Round Trip Set Up Option) の設定によって応答回数が異なります。

ホストモードオプション 51 の設定	応答回数
OFF	2
ON	1

データ転送時には1コマンド当たり2回の応答シーケンスとなるため、応答回数は2です。ただし、ホストモードオプション51が有効の場合は、1コマンド当たり1回の応答シーケンスとなるため、応答回数は1です。

正サイトと副サイトのストレージシステム間の物理パスをiSCSIで接続している場合、データ転送時に64KB単位で分割して転送するため、形成コピー速度に比例して応答回数が決まります。

形成コピー速度	応答回数
1	6
2	10
3	14
4	18

正サイトと副サイトのストレージシステム間の往復遅延時間（Round Trip Time）については、回線業者にお問い合わせいただくか、pingコマンドを使用して測定するなどの方法で、決定してください。なお、正サイトと副サイトのストレージシステム間で回線を使用せずに接続する場合は、1としてください。

B.2.1 形成コピー応答時間とは

形成コピー応答時間は形成コピーの多重動作に伴う応答時間のことです。形成コピー応答時間については、形成コピー速度、最大形成コピーボリューム数、正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度、および回線数を次の計算式に適用して、算出できます。

形成コピー応答時間(ミリ秒) = (1[MB] / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度 [MB/ミリ秒]”^{※1}) × (“形成コピー速度”^{※2} / 4) × (“最大形成コピー数”^{※3} / “正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”^{※4})

注※1

正サイトと副サイトのストレージシステム間でチャンネルエクステンダを使用しないで接続する場合、リンクスピードによって“正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度”を次のように設定してください。

- ・ リンクスピードが2Gbpsのケーブルの場合：0.17MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが4Gbpsのケーブルの場合：0.34MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが8Gbpsのケーブルの場合：0.68MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが16Gbpsのケーブルの場合：1.36MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが32Gbpsのケーブルの場合：2.72MB/ミリ秒
- ・ リンクスピードが64Gbpsのケーブルの場合：5.44MB/ミリ秒

注※2

計算式のコピー速度には、次の値を代入してください。

形成コピーだけを実施する場合

- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が1～4の場合：ペア作成時に指定するコピー速度
- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が5～15の場合：4

形成コピーと更新コピーを同時に実施する場合

- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が1または2の場合：ペア作成時に指定するコピー速度

- ・ ペア作成時に指定するコピー速度が 3～15 の場合 : 2

注※3

最大形成コピー数は、ストレージシステム単位の設定を使用します。デフォルトは、64 です。

注※4

“最大形成コピー数”/“正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”が 16 以上になる場合でも、“最大形成コピーボリューム数”/“正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線数”は、16 としてください。

設定例を次の表に示します。

往復遅延時間 (Round Trip Time) [ミリ秒]	正サイトと副サイトの ストレージシステム間 の回線速度 [MB/ミリ秒]	正サイトと副サイトの ストレージシステム間 の回線本数	形成コピー 速度	最大形成コピ ーボリューム 数	往復応答時間の 値 [ミリ秒]
0	0.1	4	4	64	160
30	0.1	4	4	64	220
100	0.1	4	4	64	360

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- C.1 このマニュアルでの表記
- C.2 このマニュアルで使用している略語
- C.3 KB（キロバイト）などの単位表記について

C.1 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
GAD	global-active device
HUS VM	Unified Storage VM
SI	ShadowImage
SVOS RF	Hitachi Storage Virtualization Operating System RF
TC	TrueCopy
UR	Universal Replicator
Thin Image (CAW/CoW)	Thin Image VSP One B20 には、プログラムプロダクト「Thin Image」は存在しませんが、相手装置側のペアボリュームがプログラムプロダクト「Thin Image」のボリュームと連携していることがあります。
USP V	Hitachi Universal Storage Platform V
USP VM	Hitachi Universal Storage Platform VM
Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform F350 • Virtual Storage Platform F370 • Virtual Storage Platform F700 • Virtual Storage Platform F900
Virtual Storage Platform F400, F600, F800	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform F400 • Virtual Storage Platform F600 • Virtual Storage Platform F800
Virtual Storage Platform G100, G200, G400, G600, G800	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform G100 • Virtual Storage Platform G200 • Virtual Storage Platform G400 • Virtual Storage Platform G600 • Virtual Storage Platform G800
Virtual Storage Platform G150, G350, G370, G700, G900	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform G150 • Virtual Storage Platform G350 • Virtual Storage Platform G370 • Virtual Storage Platform G700 • Virtual Storage Platform G900
VSP	Hitachi Virtual Storage Platform
VSP F400	Virtual Storage Platform F400
VSP F600	Virtual Storage Platform F600

表記	製品名
VSP F800	Virtual Storage Platform F800
VSP F350	Virtual Storage Platform F350
VSP F370	Virtual Storage Platform F370
VSP F700	Virtual Storage Platform F700
VSP F900	Virtual Storage Platform F900
VSP E390	Virtual Storage Platform E390
VSP E590	Virtual Storage Platform E590
VSP E790	Virtual Storage Platform E790
VSP E990	Virtual Storage Platform E990
VSP E1090	Virtual Storage Platform E1090
VSP E390H	Virtual Storage Platform E390H
VSP E590H	Virtual Storage Platform E590H
VSP E790H	Virtual Storage Platform E790H
VSP E1090H	Virtual Storage Platform E1090H
VSP E シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform E390 • Virtual Storage Platform E590 • Virtual Storage Platform E790 • Virtual Storage Platform E990 • Virtual Storage Platform E1090 • Virtual Storage Platform E390H • Virtual Storage Platform E590H • Virtual Storage Platform E790H • Virtual Storage Platform E1090H
VSP Fx00	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform F350 • Virtual Storage Platform F370 • Virtual Storage Platform F700 • Virtual Storage Platform F900 • Virtual Storage Platform F400 • Virtual Storage Platform F600 • Virtual Storage Platform F800
VSP F1500	Hitachi Virtual Storage Platform F1500
VSP G100	Virtual Storage Platform G100
VSP G200	Virtual Storage Platform G200
VSP G400	Virtual Storage Platform G400
VSP G600	Virtual Storage Platform G600
VSP G800	Virtual Storage Platform G800
VSP G150	Virtual Storage Platform G150
VSP G350	Virtual Storage Platform G350
VSP G370	Virtual Storage Platform G370

表記	製品名
VSP G700	Virtual Storage Platform G700
VSP G900	Virtual Storage Platform G900
VSP Gx00	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform G150 • Virtual Storage Platform G350 • Virtual Storage Platform G370 • Virtual Storage Platform G700 • Virtual Storage Platform G900 • Virtual Storage Platform G100 • Virtual Storage Platform G200 • Virtual Storage Platform G400 • Virtual Storage Platform G600 • Virtual Storage Platform G800
VSP G1000	Hitachi Virtual Storage Platform G1000
VSP G1500	Hitachi Virtual Storage Platform G1500
VSP One B23	Virtual Storage Platform One Block 23
VSP One B26	Virtual Storage Platform One Block 26
VSP One B28	Virtual Storage Platform One Block 28
VSP One B20	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual Storage Platform One Block 23 • Virtual Storage Platform One Block 26 • Virtual Storage Platform One Block 28

C.2 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
bps	Bit Per Second
CLI	Command Line Interface
CTG	Consistency Group
FC	Fibre Channel
Gbps	Gigabit per second
I/O	Input/Output
ID	Identifier
IMPL	Initial MicroProgram Load
IOPS	Input Output Per Second
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
LBA	Logical Block Address
LDEV	Logical DEvice
LU	Logical Unit

略語	フルスペル
LUN	Logical Unit Number
MB/s	MegaByte per second
MCU	Main Control Unit
ms	millisecond
OS	Operating System
RCU	Remote Control Unit
RIO MIH	Remote I/O Missing Interrupt Handler
SIM	Service Information Message
SNMP	Simple Network Management Protocol
VAAI	vStorage API for Array Integration
WWN	World Wide Name

C.3 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は1,024バイト、1MB（メガバイト）は1,024KB、1GB（ギガバイト）は1,024MB、1TB（テラバイト）は1,024GB、1PB（ペタバイト）は1,024TBです。

1block（ブロック）は512バイトです。

用語解説

(英字)

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

bps

(bits per second)

データ転送速度の標準規格です。

CHAP

(Challenge Handshake Authentication Protocol)

認証方式のひとつ。ネットワーク上でやり取りされる認証情報はハッシュ関数により暗号化されるため、安全性が高いです。

CHB

(Channel Board)

詳しくは「チャンネルボード」を参照してください。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CNA

(Converged Network Adapter)

HBA と NIC を統合したネットワークアダプタ。

CRC

(Cyclic Redundancy Check)

巡回冗長検査。コンピュータデータに対し、偶発的変化を検出するために設計された誤り訂正符号。

CSV

(Comma Separate Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの1つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))

主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)

任意のサイズが設定された可変ボリュームです。

DDP

(Dynamic Drive Protection)

パリティグループを構成する各ドライブの領域を複数の領域に分割して、各ドライブ内の分割された領域の1つを、スペア用の領域として使用します。これにより、リビルド I/O、または Correction I/O を分散できるため、リビルド時間が短縮できます。

DDP 用のパリティグループ

DDP 機能が有効なパリティグループのことです。

DKBN

(Disk Board NVMe)

NVMe ドライブとキャッシュメモリ間のデータ転送を制御するモジュールです。

DKC

(Disk Controller)

ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ (筐体) です。

DKU

各種ドライブを搭載するためのシャーシ (筐体) です。

DB(Drive Box)と同義語となります。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

ECC

(Error Check and Correct)

ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ENC

ドライブボックスに搭載され、コントローラシャーシまたは他のドライブボックスとのインターフェース機能を有します。

ESM

(Embedded Storage Manager)

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 20 における管理系ソフトウェアです。

ESMOS

(Embedded Storage Manager Operating System)

ESM を動作させるための OS や OSS を含んだファームウェアです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

Failover

故障しているものと機能的に同等のシステムコンポーネントへの自動的置換。

この **Failover** という用語は、ほとんどの場合、同じストレージデバイスおよびホストコンピュータに接続されているインテリジェントコントローラに適用されます。

コントローラのうちの 1 つが故障している場合、**Failover** が発生し、残っているコントローラがその I/O 負荷を引き継ぎます。

FC

(Fibre Channel)

ストレージシステム間のデータ転送速度を高速にするため、光ケーブルなどで接続できるようにするインターフェースの規格のことです。

FC-NVMe

Fibre Channel ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))

詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

GID

(Group ID)

ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

GUI

(Graphical User Interface)

コンピュータやソフトウェアの表示画面をウィンドウや枠で分け、情報や操作の対象をグラフィック要素を利用して構成するユーザインターフェース。マウスなどのポインティングデバイスで操作することを前提に設計されます。

HBA

(Host Bus Adapter)

詳しくは「ホストバスアダプタ」を参照してください。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、管理ツールの操作端末またはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator

属性が RCU Target のポートと接続するポートを持つ属性です。

iSNS

(Internet Storage Naming Service)

iSCSI デバイスで使われる、自動検出、管理および構成ツールです。

iSNS によって、イニシエータおよびターゲット IP アドレスの特定リストで個々のストレージシステムを手動で構成する必要がなくなります。代わりに、iSNS は、環境内のすべての iSCSI デバイスを自動的に検出、管理および構成します。

LACP

(Link Aggregation Control Protocol)

複数回線を 1 つの論理的な回線として扱うための制御プロトコル。

LAN ボード

コントローラシャーシに搭載され、ストレージシステムの管理、UPS とのインターフェース機能を有するモジュールです。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))

RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。

このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)

複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)

論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MP ユニット

データ入出力を処理するプロセッサを含んだユニットです。データ入出力に関連するリソース (LDEV、外部ボリューム、ジャーナル) ごとに特定の MP ユニートを割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ユニートを割り当てる方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ユニートを割り当てる方法があります。MP ユニットに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ユニートがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ユニートとして使用できます。

MU

(Mirror Unit)

1つのプライマリボリュームと1つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

Namespace

複数 LBA 範囲をまとめた、論理ボリュームの空間のことです。

Namespace Globally Unique Identifier

Namespace を識別するための、グローバルユニーク性を保証する 16Byte の識別情報です。SCSI LU での NAA Format6 で表現される、WWN に類似する情報です。

Namespace ID

NVM サブシステム上に作成された Namespace を、NVM サブシステムの中でユニークに識別するための識別番号です。

NGUID

(Namespace Globally Unique Identifier)

詳しくは、「Namespace Globally Unique Identifier」を参照してください。

NQN

(NVMe Qualified Name)

NVMe-oF 通信プロトコルで、NVMe ホストまたは NVM サブシステムを特定するためのグローバルユニークな識別子です。

NSID

(Namespace ID)

Namespace を特定するための、4Byte の識別情報です。

NVM

(Non-Volatile Memory)

不揮発性メモリです。

NVMe

(Non-Volatile Memory Express)

PCI Express を利用した SSD の接続インタフェース、通信プロトコルです。

NVMe over Fabrics

NVMe-oF 通信プロトコルによる通信を、様々な種類のネットワークファブリックに拡張する NVMe のプロトコルです。

NVMe/TCP

TCP/IP ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

NVMe コントローラ

NVMe ホストからのコマンド要求を処理する、物理的または論理的な制御デバイスです。

NVM サブシステム

NVM のデータストレージ機能を提供する制御システムです。

NVM サブシステムポート

ホストとコントローラが、NVMe I/O をするための Fabric に接続する通信ポートです。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で ESM/RAID Manager サーバの中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、コントローラボードやチャネルボード、ディスクボードなどのボードを指しています。

Point to Point

2 点を接続して通信するトポロジです。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決定するために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target

属性が Initiator のポートと接続するポートを持つ属性です。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

REST API

リクエストラインに **simple** を含まない REST API です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

SAN

(Storage-Area Network)

ストレージシステムとサーバ間を直接接続する専用の高速ネットワークです。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

SNMP

(Simple Network Management Protocol)

ネットワーク管理するために開発されたプロトコルの 1 つです。

SSL

(Secure Sockets Layer)

インターネット上でデータを安全に転送するためのプロトコルであり、Netscape Communications 社によって最初に開発されました。SSL が有効になっている 2 つのピア (装置) は、秘密鍵と公開鍵を利用して安全な通信セッションを確立します。どちらのピア (装置) も、ランダムに生成された対称キーを利用して、転送されたデータを暗号化します。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

Target

ホストと接続するポートを持つ属性です。

UPS

(Uninterruptible Power System)

ストレージシステムが停電や、瞬停のときでも停止しないようにするために搭載してある予備の電源のことです。

URL

(Uniform Resource Locator)

リソースの場所や種類の両方を記載しているインターネット上の住所を記述する標準方式です。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

VDEV

(Virtual Device)

パーティグループ内にある論理ボリュームのグループです。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VSP One Block Administrator

ストレージシステムの構成やリソースを操作するシンプルな GUI の管理ツールです。

VSP One Block Administrator の API

リクエストラインに simple を含む REST API です。
ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

Windows

Microsoft® Windows® Operating System

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内の、データとコマンドの転送経路です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること (または同等に見えるようにすること) です。一般的には、

過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

(カ行)

外部ストレージシステム

本ストレージシステムに接続されているストレージシステムです。

外部パス

本ストレージシステムと外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

外部ボリュームグループに作成した LDEV のことです。マッピングした外部ストレージシステムのボリュームを実際にホストや他プログラムプロダクトから使用するためには、外部ボリュームグループに LDEV を作成する必要があります。

外部ボリュームグループ

外部ストレージシステムのボリュームをマッピングしている、本ストレージシステム内の仮想的なボリュームです。
外部ボリュームグループはパリティ情報を含みませんが、管理上はパリティグループと同じように取り扱います。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。Syslog サーバへの転送設定をすると、監査ログは常時 Syslog サーバへ転送され、Syslog サーバから監査ログを取得・参照できます。

管理ツールの操作端末

ストレージシステムを操作するためのコンピュータです。

キャッシュ

チャンネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

クラスタ

ディスクセクターの集合体です。OS は各クラスタに対しユニークナンバーを割り当てし、それらがどのクラスタを使うかに応じて、ファイルの経過記録をとります。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

Out-of-band 方式で接続された RAID Manager、もしくは内蔵 CLI を用いて設定してください。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

(サ行)

サーバ証明書

サーバと鍵ペアを結び付けるものです。サーバ証明書によって、サーバは自分がサーバであることをクライアントに証明します。これによってサーバとクライアントは SSL を利用して通信できるようになります。サーバ証明書には、自己署名付きの証明書と署名付きの信頼できる証明書の 2 つの種類があります。

サブシステム NQN

NVM サブシステムに定義された NQN です。
NQN の詳細については、「NQN」を参照してください。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクトおよび Volume Migration で共有するリソースです。Volume Migration 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。Volume Migration では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

シェアドメモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。共用メモリとも呼びます。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報（ディレクトリ）などを記憶します。これらの情報を基

に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報もシェアドメモリで管理されており、コピーペアを作成する場合にシェアドメモリを利用します。

自己署名付きの証明書

自分自身で自分用の証明書を生成します。この場合、証明の対象は証明書の発行者と同じになります。ファイアウォールに守られた内部 LAN 上でクライアントとサーバ間の通信が行われている場合は、この証明書でも十分なセキュリティを確保できるかもしれません。

システムプールボリューム、システムプール VOL

プールを構成するプールボリュームのうち、1つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

冗長パス

チャネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

署名付きの信頼できる証明書

証明書発行要求を生成したあとで、信頼できる CA 局に送付して署名してもらいます。CA 局の例としては VeriSign 社があります。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

スナップショットグループ

Thin Image Advanced で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image Advanced では、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの更新後データを指します。Thin Image Advanced では、ペア分割状態のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを更新すると、更新される部分の更新後データだけが、スナップショットデータとしてプールに格納されます。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された2つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Thin Image Advanced では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータが格納されます。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、正サイトまたは副サイトのストレージシステムが、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

ソースボリューム

Volume Migration の用語で、別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

ゾーニング

ホストとリソース間トラフィックを論理的に分離します。ゾーンに分けることにより、処理は均等に分散されます。

(タ行)

ターゲットボリューム

Volume Migration の用語で、ボリュームの移動先となる領域を指します。

チャンネルボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。

重複排除用システムデータボリューム（データストア）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複データを格納するためのボリュームです。

重複排除用システムデータボリューム（フィンガープリント）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複排除データの制御情報を格納するためのボリュームです。

ディスクボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。

データ削減共有ボリューム

データ削減共有ボリュームは、Adaptive Data Reduction の容量削減機能を使用して作成する仮想ボリュームです。Thin Image Advanced ペアのボリュームとして使用できます。データ削減共有ボリュームは、Redirect-on-Write のスナップショット機能を管理するための制御データ（メタデータ）を持つボリュームです。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

ドライブボックス

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

(ナ行)

内部ボリューム

本ストレージシステムが管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1 つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の 1 つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

パリティドライブ

RAID6 を構成するときに、1 つの RAID グループの中で 2 台のドライブがパリティドライブとなり、残りのドライブがデータドライブとなります。パリティドライブには複数台のデータドライブのデータから計算されたデータが記憶されます。これにより 1 つの RAID グループ内で 2 台のドライブが故障した場合でも、パリティドライブから再計算することでデータを損なわずにストレージシステムを使用できます。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファームウェア

ストレージシステムで、ハードウェアの基本的な動作を制御しているプログラムです。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、および Thin Image Advanced がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning ではプールボリュームに通常のデータを格納し、Thin Image Advanced ではスナップショットデータをプールボリュームに格納します。

副 VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、ソフトウェアを格納している不揮発性のメモリです。

ペア

データ管理目的として互いに関連している 2 つのボリュームを指します（例、レプリケーション、マイグレーション）。ペアは通常、お客様の定義によりプライマリもしくはソースボリューム、およびセカンダリもしくはターゲットボリュームで構成されます。

ペア状態

ペアオペレーション前後にボリュームペアに割り当てられた内部状態。ペアオペレーションが実行されている、もしくは結果として障害となっているときにペア状態は変化します。ペア状態はコピーオペレーションを監視し、およびシステム障害を検出するために使われます。

ペアテーブル

ペアを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。1 ページは 42MB です。

ポートモード

ストレージシステムのチャネルボードのポート上で動作する、通信プロトコルを選択するモードです。ポートの動作モードとも言います。

ホスト-Namespace パス

日立ストレージシステムで、Namespace セキュリティを使用する際に、ホスト NQN ごとに各 Namespace へのアクセス可否を決定するための設定です。

Namespace パスとも呼びます。

ホスト NQN

NVMe ホストに定義された NQN です。
NQN の詳細については、「NQN」を参照してください。

ホストグループ

ストレージシステムと同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを LDEV に結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUN パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0 (ゼロ)

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストデバイス

ホストに提供されるボリュームです。HDEV (Host Device) とも呼びます。

ホストバスアダプタ

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16 桁の 16 進数による ID が付いています。ホストバスアダプタに付いている ID を WWN (Worldwide Name) と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム (通常は OS) を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

HUS VM などの異なる機種ストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

本ストレージシステムから外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

(ラ行)

ラック

電子機器をレールなどで棚状に搭載するフレームのことです。通常幅 19 インチで規定されるものが多く、それらを 19 型ラックと呼んでいます。搭載される機器の高さは EIA 規格で規定され、ボルトなどで機器を固定するためのネジ穴が設けられています。

リザーブボリューム

ShadowImage のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、本ストレージシステムの内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

リンクアグリゲーション

複数のポートを集約して、仮想的にひとつのポートとして使う技術です。
これによりデータリンクの帯域幅を広げるとともに、ポートの耐障害性を確保します。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。あるいは、エクスポートツール 2 で指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

管理ツールの操作端末を接続しているストレージシステムを指します。

索引

B

Block 30

C

COPY 29

D

DKC エミュレーションタイプ 60

G

GAD 状態 26

H

Hitachi Dynamic Link Manager 75

I

I/O モード 30
IMPL 30
INIT 29

L

LED 406
Local 30

M

Mirror(RL) 30

P

PAIR 29
PSUE 29
PSUS 29

Q

Quorum ディスクの状態 42
Quorum ディスク 35, 64, 85
Quorum ディスク閉塞 27

S

SMPL 29
SSB 410
SSUS 29
SSWS 29

え

エラーコード 410

お

往復応答時間 432

か

外部ストレージシステム 60
仮想 ID 25
仮想ストレージマシン 53, 61

き

キャッシュメモリ 68
協調サスペンド 44

く

クラスタソフトウェア 54
クロスパス構成 24

け

形成コピー 55
形成コピー応答時間 433

こ

コンシステンシーグループ 43

さ

サーバ I/O 32
サーバクラスタ構成 24
最大ペア数 92
差分コピー 55
差分データ 92

し

シェアドメモリ 61, 68
システムオプションモード 69
システム構成 23
システム詳細設定 73
障害の発生部位 233
初期 27
シングルサーバ構成 23

す

スイッチ 79
スワップサスペンド 214
スワップリシンク 215

せ

接続形態 78

た

タイムアウトエラー 406

ち

チャネルエクステンダ 80
中断 27

て

デルタリシンク 225
デルタリシンク失敗 227

と

トラブルシューティング 406

に

二重化 27
二重化中 27

ひ

非優先パス 75
ピントラック 422

ふ

ファイバチャネル 76
物理パス 60
ブロック 27

へ

ペア状態 28
ペア数 62

ほ

ホストモードオプション 51 78, 79
ホストモードオプション 78 75

ま

マルチパスソフトウェア 54

よ

要件 60

り

リモートパス障害時 IO 優先モード 49

